

令和4事業年度 業務実績報告書

第20期（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

令和5年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

目 次

令和4事業年度業務実績報告書

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	13
(1) 伝統芸能の公開	22
(2) 現代舞台芸術の公演	50
(3) 青少年等を対象とした公演	59
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	66
(5) 快適な観劇環境の形成	78
(6) 広報・営業活動の充実	90
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	107
(8) 日本博の運営・実施	110
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	116
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	119
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	132
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	139
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	145
(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	151
(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	158
(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	159
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	161
III 予算、収支計画及び資金計画	169
IV その他業務運営に関する重要事項	177

令和4事業年度評価報告書

はじめに

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
<1> 伝統芸能の公開	2
<2> 現代舞台芸術の公演	5
<3> 日本博の運営・実施	7
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	8
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	9
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	9
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	10
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	11
III 予算、収支計画及び資金計画	12
IV その他業務運営に関する重要事項	12
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿	14
独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則	15
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項	16

令和4事業年度業務実績報告書

第20期（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

令和5年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の 質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

1 文化芸術活動に対する援助	p.1
(1) 助成金の交付	p.4
(2) 助成に関する情報等の収集及び提供	p.11
(3) 基金の管理運用	p.12

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 資金運用収入予測を踏まえ、芸術文化振興基金及び同基金を原資とした助成事業の将来構想の検討

エ アーツカウンシルとしての機能強化及び地域版アーツカウンシル・文化庁等との連携推進

オ 助成事業によって得られた成果等の活用に関する検討

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用

(4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)

新型コロナウイルス感染症の拡大等により影響を受けた文化芸術団体等に対する支援

《年度計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査基準の策定及び事前公表
- ② 専門委員・専門調査員・PD・PO による助成の成果等に対する調査・評価・次年度のための審査への活用
- ③ 職員による会計調査、PD・PO による助成対象活動の公演等調査及び意見交換の実施
会計調査:90 件以上(団体数) 公演等調査:540 件以上(助成対象件数)
- ④ PD・PO の体制強化及び調査研究の実施
- ⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力
- ⑥ 手続の合理化のため、助成業務システムを活用し、令和 5 年度助成対象活動を募集

ウ 令和 5 年度芸術文化振興基金助成対象活動の募集

エ 文化庁連携による PD・PO を活用した審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用

- オ 助成事業成果等の振興会の他事業への活用
- (2) 助成に関する情報等の収集及び提供
 - ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供
 - イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・ホームページ等を通じた提供
 - ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター等配布
 - エ 助成金に関する応募相談の受付
相談件数:300 件以上(団体数)
- (3) 芸術文化振興基金の管理運用

《中期目標の指標・関連指標》

1-1 効果的な助成が行われたか。 (評議員会の評価を踏まえ判断)	
1-2 助成金の交付状況	P. 4～5 に掲載
1-3 公演等調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	731 件 (H25-29 実績平均 : 488.4 件)
1-4 会計調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	122 件 (H25-29 実績平均 : 96.4 件)
1-5 プログラムディレクター・プログラムオフィサーと芸術団体等との意見交換会及び応募相談会の実施件数(前中期目標期間実績以上)	意見交換会 : 152 件(H28-29 実績平均 : 136.5 件) 応募相談会 : 823 件(H28-29 実績平均 : 270.0 件)
1-6 文化芸術活動に対する援助について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
1-A 芸術文化振興基金の運用状況や資金の受入状況	P. 12 に掲載

自己評定	A
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計調査、公演等調査及び応募相談の件数について、数値目標を大きく上回り、全て達成率が120%以上となった。 ・毎年実施している芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成金交付事業に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術団体等を支援することを目的として令和2年5月に創設した文化芸術復興創造基金への寄附金を原資とし、若手映画監督を起用した短編劇映画の製作を助成する「若手映画監督支援」の募集案内を公表し、39件の応募があった。 ・民間資金によるオーケストラ支援事業の開始について振興会ホームページにて告知し、募集案内と問い合わせに対する回答をホームページに公開した。 ・令和5年2月6日に振興会に交付決定された令和4年度補正予算「統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業」について、27件の応募から、17件の採択を決定し令和5年3月31日に公表した。 ・文化庁で行っていた「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」「全国キャラバン」「学校巡回公演」が令和5年度から振興会に移管されることになり、「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の事前審査内容を運営委員会に諮るほか、令和5年度からの業務移管のための諸準備を行った。 ・より公平で透明性のある助成制度を目指し、令和6年度以降の募集案内策定につなげるため、抽出ツールを構築して交付要望書等のデータを蓄積し、データの量的・統計的な分析を行うとともに、「文化芸術活動におけるデジタル技術の活用による表現活動の先行事例調査」を進め、助成事業の実態把握、助成の効果検証を行った。
数値目標の達成状況実績/目標（達成率）	<p>会計調査の実施状況：122件/90件以上（135.6%） 公演等調査の実施状況：731件/540件以上（135.4%） 相談件数：823件/団体数300件以上（274.3%）</p>
主要な業務実績	<p>(1) 助成金の交付 基金による助成金：交付件数431件、助成金交付額750,503千円 補助金による助成金：交付件数466件、助成金交付額6,104,371千円</p> <p>(2) 助成に関する情報等の収集及び提供 HPアクセス件数：387,493件（うち芸術文化振興基金HP：368,503件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業HP：18,990件）</p> <p>(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用 基金運用益：955,801千円 芸術文化振興基金への寄附：31件601,204千円 （3年度実績19件600,582千円、622千円の増）</p>

(1) 助成金の交付

ア 助成金の交付

① 令和4年度助成金の交付実績

(a) 基金による助成

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付件数(件)	助成金交付額 (千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	553	172	412,500	158	381,380
	音楽	133	38	124,500	36	121,850
	舞踊	76	20	48,000	19	42,536
	演劇	344	114	240,000	103	216,994
	伝統芸能の公開活動	69	18	39,300	17	38,300
	美術の創造普及活動	39	7	9,500	7	9,500
	多分野共同等芸術創造活動	39	13	16,000	11	13,500
	小計	700	210	477,300	193	442,680
映像芸術 創造活動	国内映画祭等の活動	52	39	60,600	38	58,844
	国内映画祭等	38	31	56,700	30	54,944
	日本映画上映活動	14	8	3,900	8	3,900
	小計	52	39	60,600	38	58,844
地域文化 振興活動	地域文化施設公演・展示活動	264	104	174,500	99	167,000
	文化会館公演	121	56	77,500	53	73,000
	美術館等展示	143	48	97,000	46	94,000
	歴史的集落・町並み、 文化的景観保存活用活動	11	7	5,200	7	5,200
	民俗文化財の保存活用活動	28	14	10,300	11	8,600
	小計	303	125	190,000	117	180,800
文化 振興普及 団体活動	アマチュア等の文化団体活動	210	80	62,500	77	59,800
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承 等活動	11	7	9,500	6	8,379
	小計	221	87	72,000	83	68,179
合計		1,276	461	799,900	431	750,503

- ・ 助成金の効率的な執行のため、採択後の取下等を見込んであらかじめ繰上げ候補を決定していたが、その繰上げ内定に関する審議を行った(書面)。(映像芸術部会：4/20、文化財部会：6/22、地域文化活動部会：6/23)
- ・ 令和4年度繰り上げ候補に対する繰り上げ内定を決定。第一四半期に決定した繰り上げ内定と合わせ8/26に結果を公表した。

- ◇ 「現代舞台芸術創造普及活動」(演劇)3件
- ◇ 「伝統芸能の公開活動」2件
- ◇ 「多分野共同等芸術創造活動」1件
- ◇ 「国内映画祭等の活動」(映画祭)1件、(日本映画上映活動)1件
- ◇ 「地域文化施設公演・展示活動」(文化会館公演)2件、(美術館等展示)3件
- ◇ 「歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動」1件
- ◇ 「民俗文化財の保存活用活動」1件
- ◇ 「アマチュア等の文化団体活動」7件

(b) 補助金による助成

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付件数 (件)	助成金交付額 (千円)
舞台芸術 創造活動 活性化事業	音楽	88	81	1,792,407	76	1,780,944
	舞踊	59	30	617,535	30	572,764
	演劇	184	79	688,319	78	669,352
	伝統芸能	35	28	86,991	26	84,676
	大衆芸能	21	14	122,382	14	119,967
	小計	387	232	3,307,634	224	3,227,703

国際芸術交流 支援事業	海外公演	33	19	264,589	14	165,599
	国際共同制作公演(海外公演)	5	2	11,463	0	0
	国際共同制作公演(国内公演)	1	0	0	0	0
	国際フェスティバル	5	3	120,182	3	116,922
	小 計	44	24	396,234	17	282,521
劇場・音楽堂等 機能強化推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	16	16	910,399	16	898,381
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	231	150	1,107,225	150	1,000,562
	共同制作支援事業	1	1	39,676	1	39,494
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	45	20	237,636	20	223,957
	小 計	293	187	2,294,936	187	2,162,394
映画製作 への支援	劇映画	80	28	371,968	23	309,995
	記録映画	28	16	103,015	12	75,975
	アニメーション映画	12	6	51,370	3	45,783
	小 計	120	50	526,353	38	431,753
	合 計	849	493	6,525,157	466	6,104,371

- ・「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」について、令和4年度繰り上げ候補に対する繰り上げ内定及び令和4年度既内定団体に対する内定額の増額を決定。第一四半期に決定した繰り上げ内定と合わせ8/26に結果を公表した。
(繰り上げ内定)
◇ 「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」(公演事業)2件、(人材養成事業)2件、(普及啓発事業)2件
◇ 「劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業」1件
(内定額の増額)
◇ 「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」16件
- ・「国際芸術交流支援事業」の令和4年度第2回の募集分について、8/20運営委員会(書面審議)で承認され、9/30に結果を公表した。
◇ 「国際芸術交流支援事業」応募14件、採択8件
- ・「映画製作への支援」及び芸術文化振興基金による「国内映画祭等の活動」の令和4年度第2回の募集分について、9/16の運営委員会で承認され、9/30に結果を公表した。
◇ 「映画製作への支援」応募61件、採択30件
◇ 「国内映画祭等の活動」応募20件、採択13件
- ・令和5年度から振興会で実施する「統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)」の募集案内を2/8公表。交付要望書を受け付け、3/28運営委員会(書面審議)で承認され、3/31に結果を公表した。応募27件、採択17件。

(c) 寄附金等外部資金による助成

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術団体等を支援することを目的として令和2年5月に創設した文化芸術復興創造基金へ令和4年3月に映画関係団体からの寄附があった。団体と協議し、劇映画に若手映画監督が起用されにくい状況を鑑み、若手映画監督を起用した短編劇映画の製作を助成する「若手映画監督支援」の募集案内を公表し(1/23)、2/1~28に申請を受け付け、39件の応募があった。
- ・令和5年度より実施する民間資金によるオーケストラ支援事業の開始について振興会ホームページにて告知し、問い合わせを受け付けた(12/25)。募集案内とともに問い合わせに対する回答をホームページに公開した(2/26)。

■新型コロナウイルス感染症に関連した対応

- ・令和4年度舞台芸術創造活動活性化事業の内定団体のうち希望した団体に対し、6月から早期概算払いを開始した。
- ・国際芸術交流支援事業については、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で公演の予定が立たない団体の状況を考慮し、令和4年度活動募集を上半期と下半期に分け、下半期分の募集を5月に行った。文化芸術振興費補助金による映画製作への支援については、例年どおり第2回募集を5月に行った。

■その他

- ・平成31年度から係争中の助成金不交付取消請求事件については、令和3年6月21日に第一審において振興会側が敗訴し、令和4年3月3日に控訴審において振興会側が勝訴した。係争中の相手方は同年3月17日付で上告状兼上告受理申立書、5月13日に上告理由書及び上告受理申立て理由書を東京高裁に提出した(上告審開始)。8月1日、東京高裁はこれらを受審し、最高裁判所へ送達。以後最高裁で審理中である。

イ 助成金交付事務の効率化等

① 審査基準の策定及び事前公表

- ・ 応募受付(11/1～15)に先駆け、募集案内を振興会ホームページに掲載するとともに審査基準の公表を行った。

② 専門委員・専門調査員・PD・POによる助成の成果等に対する調査・評価・次年度のための審査への活用

■舞台芸術創造活動活性化事業

- ・ 本事業の事後評価については、元年度以降実施している方法により、5月～7月にかけて音楽はじめ5分野について、各専門委員会で書面評価・合議評価を行い、8月～9月にかけて、対面での出席人数削減のためにオンラインを積極的に活用した助成対象団体との意見交換を通じて、評価結果を伝達した。
- ・ 令和4年度事業分の全ての助成対象活動を対象に、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員により、公演等調査を行った。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により一部調査は中止を余儀なくされた。

《「舞台芸術創造活動活性化事業」事後評価の経過》

6月上旬～6月中旬	専門委員会(書面審議) 事後評価の方法及び評価基準等について審議・決定。 PD・POが評価コメント素案を作成。
6月下旬～7月中旬	各専門委員による評価コメントの素案等により書面審査を実施。
7月上旬～7月下旬	専門委員会 評価コメントの素案を基に合議により評価を実施。
8月4日	舞台芸術・美術等部会 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月16日	第60回運営委員会 事後評価の結果を報告。

■国際芸術交流支援事業

- ・ 本事業の事後評価については、元年度に部会で決定した方針に従って、日本国内で実施された活動(国際共同制作公演・国内公演、国際フェスティバル)に関して、公演調査報告書等に基づいて、舞台芸術創造活動活性化事業同様に各専門委員会において書面評価・合議評価を行い、助成対象団体との意見交換会を通じて評価結果を伝達した。
- ・ 令和4年度事業分の助成対象活動については、日本国内で実施する活動に限り、公演等調査を実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により一部調査は中止を余儀なくされた。

■劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- ・ 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(令和3年度採択の4団体)において「中間評価」、劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(平成30年度採択の12団体)において「最終年度評価」、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業(7団体)と共同制作支援事業(2団体)において「事後評価」を行った。評価は、専門委員、PD・POが公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行い作成した報告書、取得したエビデンス、劇場等から提出された実績報告書及び成果報告書に基づき行うこととし、その評価の方法及び評価基準については、7月の文化施設公演活動等専門委員会第一分科会において承認された。その後、7月～8月にかけて同第一分科会で書面審査、合議審査を行った。評価コメントを作成するとともに、「最終年度評価」と「事後評価」については採択審査時の評点を基礎として増減を行い評点の評価を行った。「中間評価」は、総合支援事業において交付決定を行った事業計画1年目の実施状況を点検・把握し、必要に応じて事業改善を促すとともに、目標及び指標の達成見込み、アウトカムの発現見込みの観点から、3年目以降の継続助成の可否を判断した。評価対象団体に対しては9月～10月にかけて評価結果の伝達・意見交換を行った。
- ・ 令和4年度事業分の助成対象活動については、専門委員、PD・POによる公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行った。活動調査について、劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業及び共同制作支援事業は全助成対象団体活動を調査対象とし、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業は抽出された5施設において実施した。また、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業(抽出した5施設)についてはPD・POによるヒアリング調査を行った。

《「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」事後評価の経過》

6月中旬～下旬	PD・PO及び事務方が評価コメント素案を作成。
7月5日	第3回専門委員会 評価の方法及び評価基準等について審議・決定。
7月8日～28日	各専門委員が評価コメント素案、評点により書面審査を実施。
8月9日～10日	第4回専門委員会 評価コメント素案、評点を基に合議により評価を実施。
8月31日	第3回地域文化活動部会 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月16日	第60回運営委員会

評価の結果を報告。

③ 職員による会計調査、PD・POによる助成対象活動の公演等調査及び意見交換の実施

■会計調査

- ・助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため基金部事務職員による会計調査を実施した(62件179活動)。
- ・文化芸術復興創造基金ご寄附による支援事業について、オンラインによる会計調査を実施した(60件)。

区 分		実績	不採択その他の活動の調査含む	年度計画	達成率
会計調査	団体数	122件	—	90件以上	135.6%
	助成対象活動数	239活動	—	—	—

■公演等調査

- ・助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施。「舞台芸術創造活動活性化事業」については3年度の全ての助成対象活動を対象として調査を実施し、「国際芸術交流支援事業」については、国内で開催される事業に限り、実施。
- ・「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、助成対象活動を視察して個々の活動状況を確認する「活動調査」と、劇場・音楽堂等の担当者へ聞き取りを行い、その実態と成果の確認を行う「ヒアリング調査」を実施。
- ・ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、公演自体が中止となったものがある。

区 分		実績	不採択その他の活動の調査含む	年度計画	達成率
公演等調査	助成対象件数	731件	—	540件以上	135.4%
	延べ調査回数	1227回	—	—	—
	(内訳)				
	舞台芸術創造活動活性化事業				
	助成対象件数	529件	535件		
	延べ調査回数	954回	—		
	劇場・音楽堂等機能強化推進事業				
	助成対象件数	61件	—		
	活動調査	103回	—		
	ヒアリング調査	5回	—		
	国際芸術交流支援事業				
	助成対象件数	4件	—		
	活動調査	23回	—		
	基金による助成				
助成対象件数	137件	1件			
延べ調査回数	142回	—			

■意見交換会

- ・舞台芸術創造活動活性化事業及び国際芸術交流支援事業について、8/4の舞台芸術・美術等部会で評価を決定し、8/16～9/29まで、意見交換会(事後評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。併せて演劇分野においてはハラスメントの実態、映像配信の実態について聞き取り、結果を取りまとめて報告を行った。

区 分		音楽	舞踊	演劇	伝統芸能	大衆芸能	計
意見交換	団体数	45件	25件	53件	18件	11件	152件
	助成対象活動数	125件	38件	93件	34件	18件	308件

- ・劇場・音楽堂等機能強化推進事業について、8/31の地域文化活動部会で評価を決定し、9/24～10/27まで、意見交換会(評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。

事業別	評価の種別	団体数	助成対象活動数(事業数)
劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(令和3年度採択)	中間評価	4	4(80)
劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(平成30年度採択)	最終年度評価	12	12(799*)
地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	事後評価	7	18(85)

共同制作支援事業	事後評価	2	2(2)
合 計		25	36(966)

*1 総合支援事業の事業数については採択期間4か年(30年度～33年度)の各団体の助成対象事業数の合計。

④ PD・POの体制強化及び調査研究

(a) PD・POの体制強化

- ・5年3月末日現在、PD・POの配置は以下のとおり。

分 野	PD	PO	計
音楽	1	7	8
舞踊	0	5 ^{※2}	5
演劇	1	6	7
伝統芸能・大衆芸能	1	5	6
調査研究	1	1	2
(劇場・音楽堂等担当 ^{※1})	(4)	(15)	(19)
合 計	4	24	28

※1 劇場・音楽堂等担当は、各分野担当と兼務

※2 舞踊プログラムオフィサーのうち1名をチーフプログラムオフィサーとしている。

(b) 調査研究

■運営費交付金による調査研究

- ・PD・POが行う公演調査におけるレポートや報告書について、分野間における均一な評価を行うため、様式の検討を行った。また、次年度以降に導入する事業評価を行うための評価項目等の検討を行った。
- ・業務委託で行った「文化芸術活動に係る評価手法に関する実態調査」をもとに、振興会が行う業務にとって有用な知見のみを取り上げ、実践的に整理を行い、報告書にまとめ、振興会ホームページにて公表した。なお、本報告書は、オープンエンドとし、今後得られた知見も随時追記することとした。
- ・より公平で透明性のある助成制度の設計に資するため、交付要望書等を「データ抽出ツール構築及び抽出補助業務」によって一覧化して量的・統計的な分析を行った。
- ・アーツカウンシル・ネットワークに所属する加盟団体・オブザーバーに対し、統一的な項目による年鑑作成に伴う、指導監修を行った。
- ・調査研究分野PDが講師として、文化庁とアーツカウンシルにおける勉強会を行い、振興会調査研究分野が遂行している業務の共有を行った。

■寄附金による調査研究

- ・振興会でやってきたアーツカウンシルに関する調査研究(「イングランド及びスコットランドにおける文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査」(平成30年度)、「オーストラリアにおける文化芸術活動に対する助成システムに関する実態調査」(令和2年度))に日本(振興会)の事例も加え、これまでの調査結果を整理してアーツカウンシル機能の比較検討を行った「アーツカウンシル調査報告～イングランド、スコットランド、オーストラリア、日本の事例から～」を振興会ホームページで公表した。
- ・「カナダにおける文化芸術活動に対する助成システム等に関する実態調査」について、調査結果を報告書にまとめた。
- ・「文化芸術活動にかかる評価手法に関する実態調査」について、調査結果を報告書にまとめ、振興会ホームページで公表した。
- ・「文化芸術活動におけるデジタル技術の活用による表現活動の先行事例調査」について、事例を選定し、当該事例の実施者にアンケートを行う等により情報を収集するとともに、取得したデータの整理を行った。
- ・より公平で透明性のある助成制度の設計に資するため、「データ抽出ツール構築及び抽出補助業務」によって構築した抽出ツールを用いて舞台芸術創造活動活性化事業における令和3年度助成対象活動の各種資料を抽出し、一覧化した。

⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力

- ・電子申請システムの導入に伴い、都道府県・政令指定都市による応募の取りまとめは行わず、団体から直接応募に変更したが、地域に密着し、かつ広く応募を求めたいため、都道府県・政令指定都市には、引き続き広報協力を依頼し、募集開始等に係る情報提供を行った。チラシ・パンフレット・ポスターを送付し、配架掲出を依頼するとともに、メールによる周知を行った。

⑥ 新たな助成業務システムの活用、令和5年度助成対象活動の募集

- ・助成金交付事務手続の合理化を図るため、2年度以降、新たな助成業務システムにおいて業務を行っている。
- ・芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による令和5年度助成対象活動の募集を前年同様電子申請方式で実施した(11/1～15)。

ウ 令和5年度芸術文化振興基金助成対象活動の募集

① 令和5年度助成対象活動の採択状況

(a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	460	199	378,000
	音楽	95	51	95,500
	舞踊	61	32	56,500
	演劇	304	116	226,000
	伝統芸能の公開活動	49	21	43,000
	美術の創造普及活動	30	11	13,500
	多分野共同等芸術創造活動	36	12	14,000
小計	575	243	448,500	
映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	30	22	33,700
	国内映画祭等	26	20	33,100
	日本映画上映活動	4	2	600
小計	30	22	33,700	
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	234	98	169,500
	文化会館公演	108	56	75,500
	美術館等展示	126	42	94,000
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	7	5	4,700
	民俗文化財の保存活用活動	18	14	12,400
小計	259	117	186,600	
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	189	68	60,100
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	10	4	5,000
	小計	199	72	65,100
合計	1,063	454	733,900	

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

(b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
舞台芸術等総合支援事業 (創造団体支援)	複数年計画支援	49	23	1,324,510
	公演事業支援 [一般枠]	402	178	1,568,193
	公演事業支援 [ステップアップ枠]	40	13	63,065
	小計	491	214	2,955,768
舞台芸術等総合支援事業 (劇場音楽堂等向け支援)	劇場・音楽堂等機能強化総合支援	21	12	626,529
	共同制作支援	1	1	36,779
	小計	22	13	663,308
舞台芸術等総合支援事業 (国際芸術交流支援)	海外公演	50	24	267,582
	国際共同制作公演(海外公演)	5	2	29,245
	国際共同制作公演(国内公演)	5	0	0
	国際フェスティバル	8	4	141,413
	小計	68	30	438,240
劇場・音楽堂等活性化・ ネットワーク強化事業	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	266	111	786,230
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	30	7	50,842
	小計	296	118	837,072
日本映画製作支援事業	劇映画	45	13	171,786
	記録映画	15	7	50,315
	アニメーション映画	3	1	1,070

	小 計	63	21	223,171
	合 計	940	396	5,117,559

※日本映画委制作支援事業には、第2回募集分は含まれていない。

② 令和5年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

運営委員会、4部会及び14専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

《審査の経過》

9月16日	第60回運営委員会 5年度芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成対象活動募集案内の内容等を了承。
11月1日～15日	5年度助成事業 応募受付期間
12月上旬～下旬	専門委員会 書面及び合議審査に先立ち、審査の方法等について審議・決定。
12月下旬～2月上旬	各専門委員による応募活動1件ごとの書面審査。
1月24日	第61回運営委員会 応募状況についての報告、助成金の分野別配分予算案について決定。
1月下旬～3月上旬	専門委員会 書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3月上旬～中旬	部会 助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3月13日	第61回運営委員会 助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

■運営委員会

- ・第60回：9/16、第61回：1/24、第62回：3/13

■舞台芸術・美術等部会(2回開催・1月書面開催、3月)

- ・音楽専門委員会：(2回開催・12月、2月)
- ・舞踊専門委員会：(2回開催・12月、2月)
- ・演劇専門委員会：(3回開催・12月、2月(第1分科会1回、第2分科会1回))
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会：(3回開催・12月、2月(伝統芸能分科会1回、大衆芸能分科会1回))
- ・美術専門委員会(2回開催・11月、2月)
- ・国際交流・多分野共同等専門委員会：(2回開催・12月、2月)

■映像芸術部会(2回開催・1月書面開催、3月)

- ・劇映画専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・記録映画専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・アニメーション映画専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・映画祭等専門委員会(2回開催・12月、2月)

■地域文化活動部会(2回開催・1月書面開催、3月)

- ・文化施設公演活動等専門委員会(3回開催・12月、2月(第1分科会1回、第2分科会1回))
- ・文化施設展示活動専門委員会(2回開催・11月、2月)
- ・文化団体活動専門委員会(2回開催・12月、2月)

■文化財部会(2回開催・1月書面開催、3月)

- ・文化財保存活用専門委員会(2回開催・12月、3月)

③ 令和4年度補正予算 補助金による助成金

- ・令和5年2月6日に振興会に交付決定された「令和4年度補正予算 統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業」については、応募のあった活動27件について、助成金の交付の適否を、芸術文化振興基金運営委員会に諮り、そのもとに置かれた部会において審査を行った。審査の結果、採択件数は17件、助成金交付予定額は96億6千万円とする旨の答申を受け決定し、3/31に振興会ホームページで採択先を公表した。

区分	応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
地域連携型	5	2	2,110,000
大規模公演型	22	15	7,550,000
合計	27	17	9,660,000

④ 令和5年度助成事業に関する文化庁からの事業移管

- 文化庁で行っていた「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」「全国キャラバン」「学校巡回公演」が令和5年度から振興会に移管されることになり、「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の事前審査内容を運営委員会に諮るほか、令和5年度からの業務移管のための諸準備を行った。

⑤ 令和5年度助成対象活動及び助成金交付予定額等の公表

- 金利低迷により、芸術文化振興基金の運用益収入の見込みが減少傾向にあることを踏まえ、より効果的・効率的な助成制度とするため、令和4年度分より助成金の定額化、助成対象経費の選択制を導入している。
- 5年度の基金及び補助金による助成対象活動及び助成金交付予定額等について、審査に当たった委員の氏名及び審査の方法等と併せ、ホームページ等において3/31付けで公表。

エ PD・PO を活用した審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用

■地域版アーツカウンシル等との連携推進

- 全国に所在するアーツカウンシル機能を有する組織の連携強化を図る「アーツカウンシル・ネットワーク」を開催した。

《開催実績》

回次	日程	会場
第1回	8/1	神奈川県民ホール大会議室(横浜市)
第2回	10/14	天神山文化プラザ第2会議室(岡山市) オンライン併用
第3回	12/9	名古屋コンベンションホール(名古屋市) オンライン併用

- (第2回)「令和5年度助成対象活動募集」のうち地域の文化振興等の活動について概要説明を行った。
- (第3回)アーツカウンシル・ネットワークを構成する団体の基礎情報調査について進捗の共有を行った。
- 多様化するアーツカウンシル機能を持つ団体の実態や活動をまとめた「令和4年度アーツカウンシル・ネットワーク加盟団体・オブザーバー年鑑」を作成、アーツカウンシル・ネットワークのホームページで公開した。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

- 官民の文化芸術活動への支援に関する情報を引き続き収集し、最新のデータに更新した。
- 令和4年度公益社団法人全国公立文化施設協会研究大会において、理事長が公益社団法人全国公立文化施設協会会長と基調対談を行い、振興会の助成事業等について情報提供を行った(6/9)。
- 公益社団法人日本劇団協議会の要請により、演劇分野PDが助成事業について講演を行った(9/22)。

イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、助成事業事例集の作成・ホームページ掲載

① ホームページ上の情報の充実

《アクセス件数》

区分	件数	前年度実績
芸術文化振興基金 HP	368,503 件	408,750 件
劇場音楽堂等機能強化推進事業 HP	18,990 件	16,779 件
合計	387,493 件	425,529 件

- 助成事業に応募した者に任意で協力を求めた「文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート」の集計結果を振興会ホームページに掲載。

② 助成事業事例集の作成・ホームページ掲載

- 令和3年度の助成事業を紹介する事例集をホームページに掲載した(10/7)。

ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等

① 募集情報のホームページへの掲載

- 振興会ホームページに令和5年度助成事業募集に関する特設サイトを開設した。募集案内を掲載するとともに審査基準の公表を実施した(9/30)。
- 今回の募集より要望団体向けに簡潔に説明した「助成金交付要望書オンライン提出の手引き」を作成して掲載した。

② ポスター配布等

- ・ 広報用ポスター(3,200枚) チラシ(18,000枚)、地域力×文化力パンフレット(53,000枚)を配布した(例年どおり、配布先に応じて必要数を印刷)。

エ 応募相談の受付

区分	実績	年度計画	達成率
応募相談	823件	300件以上(団体数)	274.3%

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が出ないよう、特定の場所に助成金交付希望者を集めて行う対面での応募説明会・応募相談会は実施を見合わせた。代わりにオンラインや電話・メールを利用した応募相談を積極的に行ったため、相談件数は増加した。

(3) 基金の管理運用

ア 基金の管理運用

運用益 955,801千円

- ・ 基金の管理運用については、安全性に留意するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。
- ・ 芸術文化振興基金運用計画に基づき、金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

イ 資金の受入

《寄附の受入》

区分	実績		前年度実績		対前年度増減
	件数	金額	件数	金額	金額
芸術文化振興基金	31件	601,204千円	19件	600,582千円	622千円
文化芸術復興創造基金	55件	1,343千円	115件	64,477千円	△ 63,044千円

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数達成率は96.9%。目標値597,891人に対して約19,000人届かなかった。夏頃に新型コロナウイルス感染症の当初想定を超える大規模な流行(第7波)が発生したことにより、団体観劇の取り止め、既存の観客層の外出自粛などの影響を受けたことが目標未達となった主な要因と考えられる。新型コロナウイルス感染症の流行により、来場することが困難な高齢者や地方、海外の方なども舞台芸術に親しむことができるように、公演記録映像等の舞台映像を配信し、視聴回数は108,597回であった。この視聴回数を自主公演の入場者数に加えると、約687,000人が伝統芸能公演について劇場での鑑賞又は配信での視聴を行ったこととなる。 ・新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染症対策を講じた上で、概ね計画どおり公演を実施することができた。 ・国立劇場及び国立演芸場では、9月以降の公演を「初代国立劇場さよなら公演」「初代国立演芸場さよなら公演」として、開場以来の集大成となる内容の上演を行った。 ・伝統芸能分野では、上演の途絶えていた演目の復活や新作の上演等により演目の拡充を図った。 ・新国立劇場では、国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・公演記録映像の活用等により舞台映像を配信し、より多くの方に舞台芸術に親しんでもらうことができた。 ・令和5年度からの「日本博2.0」への移行に伴い、年間を通してインバウンド需要に的確に応えるため、日本博事業のスキームを抜本的に見直し、これまでの文化プログラム(公演、展覧会、単発の催事など)の実施支援から、文化資源(劇場、美術館、定期的に開催される芸術祭など)の磨き上げを支援することに変更し、関係者への周知に努めた。令和5年度事業として、新たに「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」を立ち上げることができ、委託型37件、補助型11件を採択し、本事業を円滑に開始できた。 ・国際観光旅客税を財源とする日本博のプロモーション予算が大幅に減少したものの、限られた予算の中で、様々な媒体を活用し、現地誘客を促進するための効率的なプロモーションを実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	<p>公演数：200公演/200公演(100.0%) 入場者数：579,115人/597,891人(96.9%) (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合の達成率は97.1%) 公演回数、公演日数：《公演実績》表 参照</p>
主要な業務実績	<p>〈1〉 伝統芸能分野 〈2〉 現代舞台芸術分野 〈3〉 日本博の運営・実施 各表参照</p>
課題と対応	<p>〈1〉 伝統芸能分野 〈2〉 現代舞台芸術分野 〈3〉 日本博の運営・実施 各表参照</p>

〈1〉 伝統芸能分野

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能分野の入場者数達成率は 95.7%。目標値 416,991 人に対して約 18,000 人届かなかった。夏頃に新型コロナウイルス感染症の当初想定を超える大規模な流行(第7波)が発生したことにより、団体観劇の取り止め、既存の観客層の外出自粛などの影響を受けたことが目標未達となった主な要因と考えられる。 ・ 新型コロナウイルス感染症の流行により、来場することが困難な高齢者や地方、海外の方なども伝統芸能に親しむことができるように、公演記録映像等の舞台映像を配信し、視聴回数は 48,143 回であった。この視聴回数を自主公演の入場者数に加えると、約 447,000 人が伝統芸能公演について劇場での鑑賞又は配信での視聴を行ったこととなる。 ・ 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染症対策を講じた上で、計画どおり公演を実施することができた。 ・ 国立劇場及び国立演芸場では、9 月以降の公演を「初代国立劇場さよなら公演」「初代国立演芸場さよなら公演」として、開場以来の集大成となる内容の上演を行った。 ・ 歌舞伎公演では、名作義太夫狂言の通し上演や、落語とのコラボレーションなど、企画性の高い公演を実現し、観客や外部専門家から高い評価を得た。また、出演者が国立劇場公演に関連して受賞した。 ・ 文楽公演では、技芸継承に相応しい名作の上演を行うことで、長期的な視点で安定的な公演の継続を図った。 ・ 舞踊・邦楽等の公演では、9 月以降は「初代国立劇場さよなら公演」、年度前半はさよなら公演に向けた意欲的な企画を上演。ジャンルごとに集大成的な充実した公演を行った。 ・ 大衆芸能公演では、人気落語家の高座復帰や講談の師弟共演、3 年ぶりの鹿芝居の上演で注目された定席公演、昨年度より回数を増やした親子向け公演等の実施により、入場者数が昨年度より大幅に増加した。また演芸をより身近に体験できる親子向けのワークショップと関西の演芸を含む一般向け「演芸レクチャーデモンストレーション」を有料で開催し、どちらも好評を得た。 ・ 8 月に国立演芸場の Twitter アカウントを開設し、随時情報発信を行った。表示回数が 35,000 回を超える投稿もあり、演芸ファンへ広く国立演芸場の公演を周知した。 ・ 能楽堂では、連続性や関連性を持たせた月間特集の企画や平成 24 年から取り組んできた「再発見する」シリーズの継続など充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。 ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄県の本土復帰及び組踊の重要無形文化財指定 50 周年の記念事業を実施した。併せて、オーディオガイドの活用や映像配信、テレビ・ラジオ広報など様々な取組を推進した。 ・ 各分野において、上演の途絶えていた演目の復活や新作の上演等により演目の拡充を図った。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表1記載) 《公演実績》表 参照
主要な業務実績	<p>(1) 伝統芸能の公開 ア 主催公演の実施 ① 歌舞伎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「初代国立劇場さよなら公演」に相応しい演目の上演を行った。 ・ 物語の流れを分かりやすく整理した通し狂言の上演を行った(10月「義経千本桜」、1月「遠山桜天保日記」)。 ・ 史上初の歌舞伎と落語とのコラボ公演を実施した(11月「歌舞伎&落語 コラ

ボ忠臣蔵」)。

- ・解説付きの入門公演による新規客層の開拓を図った(3月「入門 源氏の旗揚げ」)。

②文楽

- ・「初代国立劇場さよなら公演」に相応しい演目の上演を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の中でも十分な観劇機会を創出できるよう、三部制での上演を年間通じて行った。
- ・5月に東京では35年ぶりとなる『競伊勢物語』を、9月には51年ぶりとなる『碁太平記白石噺』逆井村の段を、12月には30年ぶりとなる『本朝廿四孝』道三最期の段をそれぞれ上演し、レパートリーの拡大、また極力通し上演に近い構成で、観客に物語の流れを理解していただきやすい上演形態にした。
- ・「初代国立劇場さよなら公演」最後の2月公演ということもあり、往年の人気企画「近松名作集」を実施、コロナ禍以降最高の集客を実現できた。
- ・国立文楽劇場では、関西圏のコロナ感染状況を考慮して三部制の興行形態を維持しつつも、4月公演では「豊竹咲太夫文化功労者顕彰記念 文楽座命名150年」、夏休み文楽特別公演ではオンラインゲームとのコラボレーション、11月公演では「勸進帳割引」の実施、初春公演では「良弁僧正千二百五十年御遠忌」等、年間を通じて話題となる演目の上演を心掛けた。
- ・技芸継承に相応しい名作の上演を行うことで、長期的視点で文楽公演を安定して行ってゆけるよう配慮した。

③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

- ・「初代国立劇場さよなら公演」に相応しい演目の上演を行った。
- ・舞踊は歌舞伎舞踊や日本舞踊独自の上演形式の素踊り、上方で独自の美を育んできた座敷舞を、重鎮から若手まで日本舞踊界の第一線で活躍する舞踊家の出演により、高水準の舞台と技芸の伝承に資する成果を得ることができた。
- ・邦楽は特定の楽器に焦点をあて、その歴史から種類を演奏と解説を含めた入門者から愛好者向けのシリーズや、邦楽各ジャンルを横断的に構成したテーマ性の高い公演を実施した。
- ・雅楽は4年ぶりの出演となる楽部の舞楽で、洗練された「正統」を堪能いただく公演と、宮廷で生まれた芸能としての雅楽及び琉球の御座楽を紹介する、企画性の高い公演を実施した。
- ・声明は、第1回公演をはじめ多数出演している比叡山延暦寺による、舞台初披露の「山王礼拝講」を取り上げ、神仏習合の珍しい様子を舞台上で上演し、声明の幅広さを紹介することができた。
- ・民俗芸能は、6月にコロナ禍で延期となっていた愛知県の「花祭」、1月に青森県の「えんぶり」、山梨県の「天津司舞」、東京都の「江戸の里神楽」(いずれも国指定重要無形民俗文化財)などを上演し、各地域で伝承されている様々な芸能を紹介した。
- ・琉球芸能は、37年ぶりに国立劇場で琉球歌劇を上演した。
- ・特別企画公演では、鉄道開業150年にちなんだ企画として「鉄道唱歌」にまつわる芸能を特集する公演を実施し、外部企業からの広報協力を得た。

④大衆芸能

- ・9月以降の公演を「初代国立演芸場さよなら公演」として、開場以来の集大成となる内容の上演を行った。
- ・7月には「親子で楽しむ演芸会」の公演回数を昨年より増やして2日2回開催した。あわせて公演日両日とも開演前に親子の入場者を主な対象としてマジックのワークショップを初めて行い、好評を得た(参加者92人、アンケートの満足回答100%)。
- ・8月定席(中席)では、病気療養中の三遊亭円楽の高座復帰がマスコミの注目を集め、テレビ等で広く報道された。
- ・9月には普段寄席では観られない様々な演芸を上演する特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」の公演日程に合わせて、日本博事業として演芸をより身近に体験できる「演芸レクチャーデモンストラーション」を日本演芸家連合の協力を得て開催し、昨年感染症の影響で参加を控えた上方落

語、上方漫才を含め、昨年度より2分野増の2日間10分野で感染症対策対策に留意しつつ実施し、好評を得た(参加者147人、アンケートの満足回答93.3%)。

- 10月定席(上席)では、令和2年3月中席で予定していた襲名披露公演が感染症の影響で実現できなかった神田伯山をトリとし師匠の人間国宝神田松鯉と共演する番組を提供し、多数の観客に公演を楽しんでいただく大きな成果をあげることができた(入場率99.1%)。
- 2月定席(中席)では、感染症対策に留意して3年ぶりに鹿芝居(落語家[噺家]による芝居)を後半5日間上演し、連日大入りとなった。
- 8月に国立演芸場のTwitterアカウントを開設し、随時情報発信を行った。表示回数が35,000回を超える投稿もあり、演芸ファンへ広く国立演芸場の公演を周知した。

⑤能楽

- 充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。
- 6月特別公演〈祈りのかたち〉では、令和3年3月皇居外苑で上演予定も荒天で中止となった特別公演を一部再編成して上演することができた。中でも能「土蜘蛛」は新演出での初演であり、大きな成果をあげた。
- 7月特別企画公演〈能を再発見する〉では「賀茂物狂」の復曲初演を行った。通常上演されない前場を復活させるだけでなく、長らく上演の途絶えていた観世流での完全版上演で、歴史的にも意義のある催しとなった。
- 11月企画公演〈聖徳太子1400年遠忌によせて〉では聖徳太子ゆかりの能・狂言と絵解きを特集上演した。上演機会の稀な能2作品(「夢殿」「世阿弥自筆本による弱法師」と、現地以外では紹介されることの稀な絵解きを取り上げ、企画性の高い公演となった。
- 11月・12月定例公演〈演出の様々な形〉では同一曲を異なる流儀で上演、能・狂言の演出の多様な姿を紹介する好機会となった。また11月の「天鼓」は珍しい小書「楽器」での上演とし、レパートリーの拡充にもなった。

⑥組踊等沖縄伝統芸能

- 沖縄県の本土復帰50周年及び組踊の重要無形文化財指定50周年の記念事業として、琉球王朝時代の舞台を屋外に再現し組踊の祖である玉城朝薫の5つの代表作を上演した。
- 琉球舞踊家2人の人間国宝認定記念公演を実施し、国指定重要無形文化財である琉球舞踊を県内外にアピールした。

イ 演目の拡充

- 国立劇場の歌舞伎公演で過去に上演した通し狂言の台本・演出を見直し、大正期以来の復活場面や新たに創作した場面を盛り込んで再構成することで、レパートリーの定着・拡充を実現した。(1月「遠山桜天保日記」)
- 歌舞伎の人気演目上演の際にカットされがちな場面を取り上げ、昭和前期の俳優の資料(書き抜き)を基に整理した台本で上演し、レパートリーの定着・拡充を実現した。(3月「一條大蔵譚一曲舞」)
- 上演機会の少ない場面を上演し、レパートリーの定着、拡充を実現した。(5月文楽公演「競伊勢物語」、9月文楽公演「碁太平記白石噺」逆井村の段、12月文楽公演「本朝廿四孝」道三最期の段)
- 新作委嘱邦楽作品を初演した。(6月邦楽公演「虚階都市」)
- 伝承の途絶えていた曲を資料にもとづき復活上演した。(7月特別企画公演「ルールエー節」、「汽車の旅」)
- 文楽劇場の初春文楽公演では、第二部「義経千本桜」すしやの段において、初演以来使用されてこなかった台本を採用し、親弥左衛門の過去の悪事が息子のいがみの権太の悪行の原因となっているという関係を、観客が理解し易くした。
- 演芸場の2月特別企画公演「圓朝に挑む!」で、三遊亭圓馬が、江戸落語を集大成し近代落語の祖とされる三遊亭圓朝作の長編『後開榛名の梅が香』より、盗賊の安中草三郎が脱獄する件りを「安中草三～牢破り～」として長講で熱演し、好評を得た。
- 能楽堂では、「賀茂物狂」(7月特別企画公演)・「薄」(9月企画公演)と

いった復曲能、復曲狂言「空腹」(9月企画公演)や新作狂言「宗旦狐」(4月狂言の会)などを積極的に取り上げて、レパトリーの拡充を推進した。

- ・国立劇場おきなわでは、上演機会が少ない優れた演目(組踊「北山敵討」や史劇「玉川王子」)を上演した。
- ・令和3年度に実施した第2回新作組踊戯曲大賞の大賞受賞作品を上演し、新たな組踊の可能性を広げた。

(3) 青少年等を対象とした公演

- ・中高生を主な対象とした鑑賞教室、社会人を対象とした公演、親子を対象とした公演を各館で実施した。
- ・外国人を対象とした Discover シリーズを各館で実施した。
- ・演芸場では、7月には「親子で楽しむ演芸会」の公演回数を昨年より増やして2日2回開催した。あわせて公演日両日も開演前に親子の入場者を主な対象としてマジックのワークショップを行い、好評を得た(参加者92人、アンケートの満足回答100%)。

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

- ・12月 Discover BUNRAKU では日本文化に造詣の深い外国人(オーストラリア人)を解説者に起用、メディアにも取り上げられることで、在日外国人の日本文化との関わりを深める活動の活性化にもつなげた。
- ・邦楽公演において、各公演出演者と外部ゲストによる「特別座談会」を実施して、有料配信をした。
- ・「初代国立劇場さよなら公演」の実施に伴い、自治体や図書館・カルチャーセンター等の文化施設と連携し、講座やステージツアー、公演鑑賞等のイベントの主催又は協力を積極的に行った。
- ・夏休み文楽特別公演第一部親子劇場のチケット購入者を対象に、開場前の時間に「夏休み親子バックステージツアー」を実施した。併せて同公演の「解説 文楽ってなあに」の中で質問コーナーを設け、芸員との交流を図った。

(5) 快適な観劇環境の形成

- ・観客用設備の適切な維持管理・改善を実施。
- ・快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ(日本語・英語)をロビーに配架。
- ・安全診断を受けて、演芸場正面の入場階段やトイレ内に段差の注意喚起の白色テープを張り付けるとともに、非常口床面にスロープを設置した。
- ・外国人利用者への対応として、外国語によるリーフレット等の作成及び字幕表示等の多言語対応を実施。
- ・本館7月「親子で楽しむ歌舞伎教室」期間中、振興会初の試みとして、スマートフォンによるAR(拡張現実)技術を導入し、ロビー内でのスタンプラリーや解説で使用した。
- ・新型コロナウイルス感染症における政府の方針及び業界ガイドライン、振興会ガイドラインの対策緩和に向けた改訂に伴い、安心して快適な鑑賞に配慮しながら、鑑賞様式の正常化を図るため、感染症対策の段階的緩和と観客への徹底した周知を実施。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の緩和に伴い、今後のインバウンド需要に対応するため、歌舞伎・文楽公演における外国人向け割引販売や英語版音声ガイドを実施。
- ・文楽劇場の11月文楽公演及び初春文楽公演では、劇場2階ロビーに、上演演目に登場する文楽人形を展示しフォトスポットを設けた。

(6) 広報・営業活動の充実

- ・Twitter、Instagramに加え、TripAdvisorに写真を掲載するなど、SNSを利用した広報活動を実施した。
- ・8月に国立演芸場のTwitterアカウントを開設し、随時情報発信を行った。表示回数が35,000回を超える投稿もあり、演芸ファンへ広く国立演芸場の公演を周知した。
- ・劇場の地元や演目に所縁の地域の観光協会との提携によるチラシ・ポスターの掲示やSNSでの広報や、劇場近隣店舗や商業施設との協力によるコラボ

	<p>レーションキャンペーン、ホテル・旅行代理店との連携強化による公演の周知を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体観劇を促進するため、過去に利用した団体への公演情報提供や公演内容に応じた営業活動を実施。 ・地域、美術館・博物館等の文化施設や旅行代理店等との連携による講座等のイベントを通じて、公演の広報・営業活動を積極的に展開した。 ・定額で公演が見放題となる「共通パスポート」や演目の題材が共通する複数の分野での提携キャンペーンなど、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場の相互協力による広報・営業活動を積極的に実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の緩和に伴い、次世代の観客育成を図る「国立劇場キャンパスメンバーズ」会員校を対象にした対面形式の講座・イベントを再開した。 ・文楽公演において、技芸員のインタビュー映像や、公演記録映像を活用したダイジェスト版映像をホームページに公開。 ・能楽堂では、月間特集や公演所縁の地に因み、近隣の店舗や施設、大学等と協力して、ロビーでのギャラリートーク、物品販売、展示等を行い、会議室等でイベントを開催した。あわせて SNS を利用した広報活動を実施した。 ・文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施。 ・国立劇場おきなわでは、10 月研究公演「朝薫五番とからくり花火」の PR 映像を作成し、SNS 配信及び特設サイトに掲載し PR した。また、テレビ・ラジオ広報や県人会等への周知、横断幕の掲示等を行った。 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・DM・専門誌等で随時発信。 ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策について、事前に協議を行うなど利用者に協力を要請した。 ・サービス向上のため、利用者へのアンケートを実施。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、映像を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。

〈2〉 現代舞台芸術分野

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代舞台芸術分野の入場者数達成率は 100.3%(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)。 ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部日程を中止した演劇「アンチポデス」を除けば、計画どおり公演を実施した。 ・ 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染症対策を講じた上で公演を実施した。 ・ 国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・ 「新国デジタルシアター」において公演映像等の配信を推進した。 ・ 各分野の出演者、スタッフが新国立劇場公演に関連し受賞をした。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表2記載) 《公演実績》表 参照</p>
主要な業務実績	<p>(2) 現代舞台芸術の公演</p> <p>①オペラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11 公演 50 回のオペラ公演を実施した。 ・ 4 作品を新制作し、レパートリーを充実させた。 ・ ポーランド国立歌劇場との共同新制作により「ボリス・ゴドゥノフ」を、エクサンプロヴァンス音楽祭、ポーランド国立歌劇場との共同新制作により「ペレアスとメリザンド」を上演した。 ・ 新型コロナウイルス感染症による入国制限が緩和され、海外からの招聘キャストのほとんどが予定通り出演することができた。また、コロナ禍の中で出演機会が大幅に増加した日本人歌手も引き続き重要な役で出演し、国内の優れた芸術家の存在を発信した。 ・ 4 作品の新制作上演、大野和士芸術監督の音楽性、レパートリー作品の充実、新国立劇場合唱団の外部出演での活躍等が評価され、新国立劇場オペラ部門が 2022 年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞 オペラ・オーケストラ部門を受賞した。 <p>②バレエ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 公演 55 回のバレエ公演を実施し、バレエ公演全体で目標入場者数を達成した(達成率 114.5%)。 ・ 「くるみ割り人形」を、前年度に続いてお正月期間を含めて年末年始を通じて上演し、独立行政法人化以降のバレエ公演での過去最高の動員数を更新した。 ・ 「ジゼル」を新制作上演し、高い評価を得た。 ・ 「不思議の国のアリス」におけるオーストラリア・バレエとの共同制作及び「ニューイヤー・バレエ」における海外劇場からのソリスト招聘等により国際的な舞台制作、発信を行った。 ・ 令和 4 年度(第 73 回)芸術選奨において、新国立劇場バレエ団の福岡雄大が文部科学大臣賞を受賞した。 <p>③現代舞踊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 公演 10 回の現代舞踊公演を実施し、現代舞踊公演全体で目標入場者数を達成した(達成率 115.4%)。 <p>④演劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 公演 109 回の演劇公演を実施した。 ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、演劇「アンチポデス」の一部日程を中止した。 ・ 「貴婦人の来訪」の演出を手掛けた五戸真理枝が第 30 回読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・当初 2020 年の上演を予定し、新型コロナウイルス感染症の影響を受け 2021 年の上演を再計画したものの上演が叶わなかった海外招聘公演「ガラスの動物園」(フランス国立オデオン劇場)を、満を持して上演した。 ・英国ロイヤルコート劇場と協力し、若手劇作家が参加して 1 年間・3 段階にわたるワークショップを通じて新作戯曲を執筆・ブラッシュアップしていく「ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」の成果として「私の一ヶ月」を新国立劇場で上演し、また日本人劇作家 3 名の作品をロンドンのロイヤルコート劇場で英語リーディング公演として上演した。 ・公演に付随して実施する企画「ギャラリープロジェクト」を、全てオンライン配信で実施した。 <p>(3) 青少年等を対象とした公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に青少年を対象とした公演等を 3 公演実施。 <p>(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・共催などによる公演等を 2 公演実施。 ・全国各地の文化施設等における公演を 9 公演実施。 ・国際文化交流公演等を 4 公演実施。 ・「新国デジタルシアター」において公演映像等の配信を推進した。 <p>(5) 快適な観劇環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本政府観光局(JNTO)が主催する国際商談会「VISIT JAPAN トラベルマート 2022」に参加し、(9/22~24)計 17 の国と地域を対象に 33 件(オンライン 21 件/リアル 12 件)の商談を実施した。現地旅行会社に新国立劇場の存在をアピールし、認知度向上に寄与すると共に、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。 ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを実施(令和 4 年度障害者等による文化芸術活動推進事業)。 <p>(6) 広報・営業活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページと SNS(Facebook、Twitter、Instagram)を連動させ、映像も活用して積極的に情報発信に努めた。 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・上演機会の少ない公演の営業計画については、更なる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。

〈3〉日本博の運営・実施

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度からの「日本博2.0」への移行に伴い、年間を通してインバウンド需要に的確に応えるため、日本博事業のスキームを抜本的に見直し、これまでの文化プログラム（公演、展覧会、単発の催事など）の実施支援から、文化資源（劇場、美術館、定期的に開催される芸術祭など）の磨き上げを支援することに変更し、関係者への周知に努めた。令和5年度事業として、新たに「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」を立ち上げることができ、委託型37件、補助型11件を採択し、本事業を円滑に開始できた。 国際観光旅客税を財源とする日本博のプロモーション予算が大幅に減少したものの、SNSで日本博の各事業の開催情報等をタイムリーに発信するとともに、日本博公式HPでは季節ごとのおすすめやテーマに分けて複数の事業をパッケージで紹介、外国人向けのTokyo WeekenderやJapan Timesでの日本博事業紹介、主要駅での交通広告、インフルエンサーの活用、子供向け新聞での日本博紹介、オンライン広告など、限られた予算の中で、様々な媒体を活用し、現地誘客を促進するための効率的なプロモーションを実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	<ul style="list-style-type: none"> 国際観光旅客税を財源とする日本博のプロモーション予算が大幅に減少したものの、SNSで日本博の各事業の開催情報等をタイムリーに発信するとともに、日本博公式HPでは季節ごとのおすすめやテーマに分けて複数の事業をパッケージで紹介、外国人向けのTokyo WeekenderやJapan Timesでの日本博事業紹介、主要駅での交通広告、インフルエンサーの活用、子供向け新聞での日本博紹介、オンライン広告など、限られた予算の中で、様々な媒体を活用し、現地誘客を促進するための効率的なプロモーションを実施した。 バーチャル日本博において、国立新美術館の現代アートや京都国立博物館の茶の湯展と連動した企画の実施、バーチャル日本博内の回遊性を高めるバスツアー機能の導入など、バーチャル日本博の充実に取り組み、新しい鑑賞方法による日本の文化芸術のPRに取り組んだ。 令和4年度に実施した各取組と日本博公式HPのページビュー数の推移の関連性を分析したところ、オンライン広告を実施した月は、海外からのページビュー数が約10倍に増加、国内からのページビュー数は約3.5倍に増加した。また、子供向け新聞で日本博を紹介した月は、バーチャル日本博への訪問者数が約2倍に増加した。 令和5年度からの「日本博2.0」への移行に伴い、年間を通してインバウンド需要に的確に応えるため、日本博事業のスキームを抜本的に見直し、これまでの文化プログラム（公演、展覧会、単発の催事など）の実施支援から、文化資源（劇場、美術館、定期的に開催される芸術祭など）の磨き上げを支援することに変更し、関係者への周知に努めた。令和5年度事業として、新たに「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」を立ち上げることができ、委託型37件、補助型11件を採択し、本事業を円滑に開始できた。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> 日本博は、令和4年5月の内閣総理大臣主宰の日本博総合推進会議において、2025年大阪・関西万博に向けて「日本博2.0」として継続することが決定した。これまでの日本博の効果検証を行い、課題や成果をふまえながら、我が国の文化芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を引き続き運営し、企画立案・広報機能の充実に努める。

(1) 伝統芸能の公開	p.22
ア 主催公演の実施	p.23
① 歌舞伎	p.24
② 文楽	p.27
③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等	p.31
④ 大衆芸能	p.36
⑤ 能楽	p.42
⑥ 組踊等沖縄伝統芸能	p.45
イ 演目の拡充	p.48

2 - (1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて伝承のままの姿で伝統芸能の公開を行い、その適切な保存と振興を図る

- ア 歌舞伎公演：筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作等の上演、解説を付した公演等の実施
- イ 文楽公演：「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施
- ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演：質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性の高い公演等の実施
- エ 大衆芸能公演：寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施
- オ 能楽公演：伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施
- カ 組踊等沖縄伝統芸能公演：上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

- ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、別表 1 のとおり主催公演を実施、国立劇場・国立演芸場のさよなら公演を実施、日本博に関連した公演を企画
- イ 演目の拡充
 - ① 歌舞伎：復活等の上演に際して「国立劇場文芸研究会」において補綴、台本を作成
新作脚本募集について令和 5 年度に周知及び募集を行うための準備
 - ② 文楽：新作の上演に向けて上演台本作成作業を実施、上演が途絶えていた場面の復活上演を準備
 - ③ 邦楽：新作委嘱作品の上演
 - ④ 大衆芸能：上演機会の少ない優れた演目を上演
 - ⑤ 能楽：国立能楽堂制作による復曲作品の初演、他の能楽堂等で上演された新作及び復曲作品の再演
 - ⑥ 組踊等沖縄伝統芸能：沖縄県の本土復帰 50 周年及び組踊の重要無形文化財指定 50 周年の取組の一環として、朝薫五番と入り躍りを当時の演出様式に検証を加え実験的に上演
上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演
「創作舞踊大賞」として琉球舞踊の新作を公募し、選考・表彰の実施
効果的な映像活用や沖縄県等との連携(国民文化祭、世界のウチナーンチュ大会)

《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 伝統芸能の公開の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	172 公演 (H25-29 実績平均：183.8 公演)
2-6 伝統芸能の公開について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	

ア 主催公演の実施

《公演実績(伝統芸能分野総計)》

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
歌舞伎	6公演(計画:6公演) 本館大劇場	実績	186回	135日	150,313人	53.5%	281,202	88.0%
		計画	190回	133日	170,780人	59.6%	286,710	
文楽	10公演(計画:10公演) 本館小劇場、文楽劇場	実績	474回	176日	141,032人	46.9%	300,514	101.1%
		計画	413回	176日	139,480人	52.8%	264,105	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	21公演(計画:21公演) 本館大小劇場、文楽劇場	実績	26回	21日	13,264人	71.5%	18,546	96.7%
		計画	26回	21日	13,713人	73.2%	18,723	
舞踊	5公演(計画:5公演) 本館大小劇場、文楽劇場	実績	8回	5日	4,226人	74.4%	5,677	110.1%
		計画	8回	5日	3,840人	67.5%	5,688	
邦楽	6公演(計画:6公演) 本館小劇場、文楽劇場	実績	6回	6日	2,604人	70.3%	3,703	95.4%
		計画	6回	6日	2,730人	73.7%	3,703	
雅楽	2公演(計画:2公演) 本館大小劇場	実績	2回	2日	1,652人	75.1%	2,200	87.4%
		計画	2回	2日	1,890人	85.9%	2,200	
声明	1公演(計画:1公演) 本館大劇場	実績	1回	1日	1,211人	79.7%	1,520	96.9%
		計画	1回	1日	1,250人	77.6%	1,610	
民俗芸能	2公演(計画:2公演) 本館小劇場	実績	3回	2日	1,209人	68.3%	1,770	82.8%
		計画	3回	2日	1,460人	82.5%	1,770	
琉球芸能	1公演(計画:1公演) 本館小劇場	実績	2回	1日	765人	64.8%	1,180	79.7%
		計画	2回	1日	960人	81.4%	1,180	
特別企画	4公演(計画:4公演) 本館小劇場、文楽劇場	実績	4回	4日	1,597人	64.0%	2,496	100.9%
		計画	4回	4日	1,583人	61.5%	2,572	
大衆芸能	61公演(計画:61公演) 演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール	実績	289回	287日	45,630人	54.7%	83,487	100.0%
		計画	289回	287日	45,616人	54.6%	83,487	
能楽	49公演(計画:49公演) 能楽堂	実績	59回	54日	34,954人	94.5%	36,993	106.8%
		計画	59回	54日	32,720人	88.4%	36,993	
振興会【小計】	147公演 (計画:147公演)	実績	1,034回	673日	385,193人	53.4%	720,742	95.7%
		計画	977回	671日	402,309人	58.3%	690,018	
組踊等 沖縄伝統芸能	25公演(計画:25公演) 国立劇場おきなわ 大小劇場	実績	41回	38日	14,011人	63.1%	22,199	95.4%
		計画	41回	38日	14,682人	65.8%	22,311	
合計	172公演 (計画:172公演)	実績	1,075回	711日	399,204人	53.7%	742,941	95.7%
		計画	1,018回	709日	416,991人	58.5%	712,329	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※以下、計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

① 歌舞伎

《制作方針》

10月、11月、1月の歌舞伎公演は、初代国立劇場さよなら公演に相応しい充実した内容の公演を制作する。また、3月歌舞伎公演は、一般向けの入門公演として実施する。

6月・7月には青少年等を対象とした入門公演を実施する。6月は東京公演の後、静岡県、神奈川県において移動公演を実施する。7月は外国人向けの公演も実施する。

いずれの公演も、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し、上演時間が長時間に及ばないように配慮した上で実施する。

以上により、歌舞伎の保存・振興を図る。

○

10月は歌舞伎公演における初代国立劇場さよなら公演の第一弾として、義太夫狂言の三大名作の一つ『義経千本桜』を通し狂言の形態で、原作の中心的な場面である二段目(鳥居前・渡海屋・大物浦)、三段目(椎の木・小金吾討死・鮎屋)、四段目(道行初音旅・河連法眼館)を3つのプログラムに分けて一挙に上演する。河連法眼館の源義経を初役で勤める尾上菊五郎をはじめ記念公演に相応しい豪華な顔触れが揃う中で、尾上菊之助が知盛・権太・忠信の“三役完演”に満を持して臨む。

11月歌舞伎公演は、“歌舞伎&落語 コラボ忠臣蔵”と銘打ち、複数のジャンルの伝統芸能の保存・振興に取り組む国立劇場ならではの企画として、『仮名手本忠臣蔵』を共通テーマに歌舞伎と落語を関連付けた公演を制作する。落語家・春風亭小朝による忠臣蔵にちなんだ落語二席「殿中のござる」「中村仲蔵」を、太神楽を挟んで口演した後、30年ぶりに早野勘平を勤める中村芝翫、初役で斧定九郎を勤める中村歌六らの出演により、初代中村仲蔵の役作りの工夫が現在まで伝わる「忠臣蔵」五段目と六段目を上演することで、名作の多面的な魅力を浮き彫りにする。さらに、勤め帰りの客層が来場しやすい午後6時半開演の回を設けて“コラボ忠臣蔵☆エッセンス☆”と名付け、落語「中村仲蔵」と歌舞伎「忠臣蔵」五段目「二つ玉」及び六段目を休憩なしで続けて上演することで、より関連性の高い内容に凝縮しつつ終演時間も早めるなどの工夫を凝らし、幅広い客層に対して観劇の機会を提供することを目指す。

初春歌舞伎公演は、初代国立劇場さよなら公演の一環として、江戸町奉行・遠山金四郎の活躍を描いた(遠山政談物)の代表作『遠山桜天保日記』を通し狂言の形態で上演する。平成20年12月に国立劇場で尾上菊五郎劇団を中心とした座組で上演した時以来の再演となる今回は、尾上菊五郎の監修の下、竹柴其水の原作に立ち返って台本を見直し、初芝居に相応しい華やかで娯楽性豊かな作品作りを目指す。併せて、前回から配役を一新して若手世代の俳優を積極的に起用し、次世代への芸の継承を図る。

3月歌舞伎公演は、青少年向けの「歌舞伎鑑賞教室」で取り上げる機会のない名作を一般の客層向けに解説付きで提供する「歌舞伎名作入門」として、義太夫狂言の名作『鬼一法眼三略巻』の中から「一條大蔵譚」と「五條橋」を上演する。「一條大蔵譚」は、「奥殿」の前に上演機会が稀な「曲舞」を付けて上演し、主人公である一條大蔵卿の人物像や置かれている状況を浮き彫りにする。「曲舞」の上演に当たっては、初代中村吉右衛門の書き抜きや芸談などの資料を参考にして、一條大蔵卿を勤める中村又五郎の芸脈につながる播磨屋の芸の再現を試みる。また、『鬼一法眼三略巻』上演の前に、「入門 源氏の旗揚げ」と題する解説を設け、来場者が予備知識なしで気軽に名作を楽しめるよう工夫を凝らす。

○

歌舞伎を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図ることを目的として、主に歌舞伎初心者を対象とした入門公演「歌舞伎鑑賞教室」を実施する。名作の上演に先立ち、歌舞伎の魅力や様々な約束事、作品の見どころなどを分かりやすく紹介する「解説 歌舞伎のみかた」を合わせて上演する。

6月は、義太夫狂言の人気作『彦山権現誓助剣一毛谷村一』を、観客の作品理解の助けとなるよう「杉坂墓所」から丁寧に上演する。中村又五郎の毛谷村六助、片岡孝太郎の一味斎娘お園をはじめ、適材適所の配役で臨む。期間中には、日中に時間を取りづらい社会人向けの公演「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を実施する。さらに、東京都外での鑑賞機会を提供するため、静岡市の静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ、藤沢市の藤沢市民会館で移動公演を行う。

7月は、信州戸隠山の鬼女伝説を題材にした歌舞伎舞踊の人気曲『紅葉狩』を取り上げ、尾上松緑の平維茂、中村梅枝の更科姫実ハ戸隠山の鬼女ほかの配役で臨む。期間中には、日中に時間を取りづらい社会人向けの公演「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を実施するほか、各種学校の夏休み期間に当たる後半は、「親子で楽しむ歌舞伎教室」として、児童・生徒と保護者が一緒に鑑賞できる機会を提供する。さらに、外国人を対象とした入門公演「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」を実施する。

(a) 《公演実績》

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
10月歌舞伎公演 「通し狂言「義経千本桜」	本館 大劇場	10/1～10/26	実績	33回	26日	26,403人	53.0%	49,797	141.8%
			計画	24回	24日	18,620人	51.4%	36,216	
11月歌舞伎公演 「歌舞伎&落語 コラボ忠臣蔵」	本館 大劇場	11/2～11/25	実績	23回	22日	16,545人	47.7%	34,707	97.0%
			計画	22回	22日	17,060人	51.4%	33,198	
1月歌舞伎公演 「通し狂言「遠山桜天保日記」	本館 大劇場	1/3～1/27	実績	23回	23日	19,852人	56.8%	34,960	111.3%
			計画	23回	23日	17,840人	51.4%	34,707	
3月歌舞伎公演 「一条大蔵譚一曲舞・奥殿一」 「五條橋」	本館 大劇場	3/3～3/27	実績	25回	23日	8,493人	22.4%	38,000	33.4%
			計画	39回	23日	25,420人	43.2%	58,851	
歌舞伎公演【小計】	4公演	(計画:4公演)	実績	104回	94日	71,293人	45.3%	157,464	90.3%
			計画	108回	92日	78,940人	48.4%	162,972	
6月歌舞伎鑑賞教室 「彦山権現誓助剣一毛谷村一」	本館 大劇場	6/2～6/21	実績	36回	18日	32,568人	60.0%	54,324	87.5%
			計画	36回	18日	37,210人	68.5%	54,324	
7月歌舞伎鑑賞教室 「紅葉狩」	本館 大劇場	7/3～7/27	実績	46回	23日	46,452人	66.9%	69,414	85.0%
			計画	46回	23日	54,630人	78.7%	69,414	
歌舞伎鑑賞教室【小計】	2公演	(計画:2公演)	実績	82回	41日	79,020人	63.9%	123,738	86.0%
			計画	82回	41日	91,840人	74.2%	123,738	
合計	6公演	(計画:6公演)	実績	186回	135日	150,313人	53.5%	281,202	88.0%
			計画	190回	133日	170,780人	59.6%	286,710	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・歌舞伎公演専門委員会について、第1回は7/11に、第2回は3/22に開催した。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
6公演 144回	-	683人	683人	663人	-	97.1%

※ウェブまたは紙によるアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・10月は、新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされた令和2年3月国立小劇場での公演から約2年半の時を経て実現に漕ぎつけられた。尾上菊之助が初役のいがみの権太を含めて挑んだ主要三役が、いずれも充実した演技と劇評等で高く評価され、尾上菊五郎、中村吉右衛門双方の芸を継承し、次世代へつなぐ役割を果たしていくために意義深い機会となった。若手、ベテラン勢の好助演も評価され、中でも菊五郎が初役で河連法眼館の源義経を勤めたことが大きな話題となった。演出面では、各プログラムの開演前に菊之助のナレーションと錦絵等の投影による作品の事前紹介をつけ、歌舞伎を見慣れない新たな客層にとって古典作品への理解の手助けとなるよう工夫を凝らした。
- ・11月は、複数の伝統芸能の保存・振興に取り組む国立劇場ならではの企画として、歌舞伎と落語という異なるジャンルの芸能を、「忠臣蔵」という作品を通じて相互に関連付けた内容で上演した今回の試みに対して、劇評や専門委員より高い評価が寄せられた。30年ぶりに早野勘平を勤めた中村芝翫や、原郷右衛門との二役で本企画の歌舞伎と落語をつなぐ重要な位置づけとなる斧定九郎を初役で勤めた中村歌六らの熱演に交じり、おかる役の市川笑也やおかや役の中村梅花という国立劇場養成研修出身者が活躍したことも注目され、地道な養成事業の成果と評価された。
- ・1月は、尾上菊五郎を座頭とした一座により、筋の分かりやすい「通し狂言」の形態で娯楽性の高い作品を提供した。台本の補綴に当たっては、原作に立ち返って整理し、大正期以来となる場面を復活したほか、大詰に華やかな踊りの場面を創作した。配役を大幅に一新して若返りを図ることに成功し、中でも尾上菊五郎家、坂東楽善家、中村時蔵家にとっては三代揃っての出演となるなど、芸の継承のための貴重な機会とすることができた。また、新型コロナウイルス感染予防の観点から禁止してきた大向うを実験的に再開し、劇中での手拭いまきを復活するなど、観劇環境の正常化に向けての一步を踏み出すことができた。

- ・3月は、青少年向けの「歌舞伎鑑賞教室」で取り上げるにはやや難易度が高いと思われる演目を一般の観客に平易な解説付きで提供する「歌舞伎名作入門」を実施した。義太夫狂言の名作「鬼一法眼三略巻」の中から四段目「一條大蔵譚」の「曲舞」「奥殿」と、五段目「五條橋」という組み合わせで上演した。特に上演頻度が少ない「曲舞」の上演に当たっては、初代中村吉右衛門が残した書き抜きや芸談等の資料を手掛かりに台本を作成して臨んだ。芝居の上演前には、「入門 源氏の旗揚げ」と題した俳優による平易な事前解説を設け、予備知識なしでも気軽に名作に親しめるよう工夫を凝らした。

【特記事項】

- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演(10月歌舞伎公演)
- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭協賛公演(11月歌舞伎公演)
- ・令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト(7月 Discover KABUKI)
- ・日本博参画プロジェクト(全公演)
- ・10月1日は文化庁芸術祭オープニング公演として、秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下のご臨席を仰ぎ、Cプロを上演した(10月歌舞伎公演)。
- ・尾上菊之助が「義経千本桜」の新中納言知盛、いがみの権太、佐藤忠信実ハ源九郎狐ならびに令和4年3月国立劇場「近江源氏先陣館—盛綱陣屋—」の佐々木四郎兵衛盛綱ほかの演技により、令和4年度(第73回)芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)および第44回松尾芸能賞優秀賞を受賞した(10月歌舞伎公演)。
- ・太神楽の出演者に国立劇場養成研修修了者を起用し、舞台での口上で、自身が研修修了者であることと他のジャンルの養成研修について触れてもらい、養成研修事業のPRにつなげた(11月歌舞伎公演)。
- ・歌舞伎では平成26年11月以来の貸切公演を2件実施(10/13、11/17)。
- ・新型コロナウイルス感染症等の影響により、一部の日程で、出演者4名について、一部演出の変更、または代役により上演した(初春歌舞伎公演)。
- ・7月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI —外国人のための歌舞伎教室—」において、大使館招待を実施した。27の国と地域52名の大使館関係者が参加(うち大使は11か国)。

② 文 楽

《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場면을積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリーの拡充につながるよう、また観客に対しても文楽の作品の多様さを伝えられるように努める。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。



5月文楽公演は、昨年、文化功労者として顕彰された豊竹咲太夫の顕彰記念公演として、これまで咲太夫が数多くつとめ、好評を博してきた「河連法眼館の段」を軸とする『義経千本桜』の狐忠信が登場する場面を第一部に上演し、咲太夫の功績を称える公演とする。第二部は東京では35年ぶりとなる『競伊勢物語』を上演し、レパートリーの拡充に供する。第三部は知名度の高い世話物『桂川連理柵』を上演する。

9月文楽公演は、「初代国立劇場さよなら公演」の第一弾として、第一部と第二部にまたがる形で『碁太平記白石噺』を上演する。新型コロナウイルス感染拡大防止対策等のため、近年上演できていなかった“通し上演”を行う。特に第一部の「逆井村の段」は51年ぶりの上演となり、通し上演とともに稀曲の伝承という国立劇場の使命に基づくものとする。第二部では、新劇場建築に向けた前途を寿ぐ祝儀曲『寿柱立万歳』を上演する。第三部では、大曲『奥州安達原』を朱雀堤の段を含めた形で上演する。

12月文楽公演は、中堅、若手技芸員が中核を担う公演である。本年は初代国立劇場さよなら公演として、『本朝廿四孝』の二段目および四段目を半通しの形で上演する。これは限られた時間の中で国立劇場の文楽公演の目標である作品の通し上演にできるだけ近い形で行うことができる作品を積極的に取り上げるものである。特に四段目に30年ぶりの上演となる「道三最期の段」を出すことで、戦国大名たちの虚々実々の駆け引きで構成されるこの複雑な物語の全体像を明確に浮かび上がらせる。また配役面では、太夫、三味線には入門後数年の最若手にも一人で演奏する場を、人形には心境著しい若手に難役を割り当て、今後の技芸の向上につなげる。

2月文楽公演は“近松名作集”と題し、3演目とも近松門左衛門の代表的作品を上演する。国立劇場では昭和56年より平成11年までほぼ毎年2月公演に近松門左衛門の作品を特集した同名の企画を立てており、“初代国立劇場”における最後の2月公演にあたり、選りすぐりの秀作を上演し、積極的な誘客に取り組む。

12月文楽鑑賞教室は、学生等の青少年を主な観劇対象とする。三業の技芸員が文楽の仕組みについての解説を行い、短時間で文楽の特色を見せることができる名作「絵本太功記」を上演する。

12月「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」は、外国人向けプレゼンテーションを行い、日本の伝統的な文化・芸能の魅力を日本国内外に発信する。

解説では城郭や甲冑に造詣の深い英語のネイティブスピーカー(オーストラリア人)が在日・訪日外国人や外国語学校の生徒等に日本の伝統芸能・文楽を分かりやすく紹介し、外国人が日本文化への理解を深められる一助にもする。



文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症予防対策として当面の間は三部制公演とする。

令和3年11月、文化功労者として顕彰された豊竹咲太夫の顕彰記念公演として、第一部は『義経千本桜』を咲太夫の代表曲「河連法眼館」を中心に、狐忠信篇の構成で上演する。第二部は天王寺近辺の旧跡を題材に、玉手御前の継子への恋を描く『摂州合邦辻』を上演する。第三部は源平合戦の敗軍の侍・悪七兵衛景清が主君への忠節と娘への愛情で葛藤する『嬢景清八嶋日記』と、現世で結ばれなかった恋人同士が蝶の姿となって戯れる道行物の『契情倭莊子』を上演する。また、本年の初春公演に続き、文楽座と協力して文楽座命名150年の意義を周知する内容とする。

夏休み特別公演は、定着している第一部を親子劇場、第二部を名作劇場、第三部をサマーレイトショーと題した三部制で実施する。第一部は親子劇場として、未就学児や小学生の観客を育成する目的で、親子で鑑賞できる内容で構成する。今回は、桐竹勘十郎の作・演出で平成24年に当劇場で初演した「鈴の音」の再演と、当劇場開場後文楽のレパートリーとして定着した木下順二作の「瓜子姫とあまんじゃく」を上演し、「解説 文楽ってなあに」は新型コロナウイルスの感染予防を考慮した内容とする。第二部は名作劇場として、従来からの文楽ファンを対象に近松門左衛門作の心中物の最高傑作「心中天網島」を上演。第三部はサマーレイトショーと題し、開演時間を午後5時30分として、敵討ち物と宝剣の威徳による鬼退治の演目の組み合わせで、オンラインゲーム「刀剣乱舞」とコラボ企画を国立劇場大劇場7月歌舞伎鑑賞教室と連動し、新た

な観客層の開拓を目指す。

11月文楽公演は、人形浄瑠璃文楽の本拠地である国立文楽劇場における令和4年の掉尾を飾るもので、三部制を継続しながらも、令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演にふさわしい充実した内容とする。第一部と第二部は、従来からの文楽ファンの期待に応える演目を上演し、第三部では新たな観客層の開拓を図る。第一部は、近松門左衛門の最後の世話物であり、初演300年を迎える「心中宵庚申」を上演する。第二部では「一谷嫩軍記」の三段目に焦点を当て、上演頻度の高い熊谷桜の段、熊谷陣屋の段の前日譚に当たる弥陀六内の段、脇ヶ浜宝引の段を21年ぶりに上演する。第三部は貧しい夫婦の信仰心が起こす奇跡を簡潔に描く『壺坂観音霊験記』と『勸進帳』では花道を使用した文楽劇場ならではの演出で上演する。

初春文楽公演は、三部制とする。第一部は東大寺初代別当良弁僧正1250年御遠忌として、良弁の伝説を脚色した「良弁杉由来」を上演する。第二部では「義経千本桜」から三段目の「椎の木の段」、「小金吾討死の段」、「すしやの段」を上演した。「すしやの段」の上演は、10年ぶりの上演で、「椎の木の段」、「小金吾討死の段」から上演するのは14年ぶりであり、「すしやの段」までの導入部分の物語を理解し易くする。また、「すしやの段」の上演台本は、初演(1747年)以来ほとんど上演されてこなかった初演の台本を採用し、親弥左衛門の過去が息子のいがみの権太の放埒の原因になっていることが理解できる内容とする。第三部は「傾城恋飛脚」新口村の段、「壇浦兜軍記」阿古屋琴責の段の二本立てとする。「傾城恋飛脚」は300回忌を迎える近松門左衛門の「冥途の飛脚」の改作である。阿古屋琴責の段は重忠が三曲の演奏を阿古屋に求めた理由を説く部分を19年ぶりに上演する。

(a) 《公演実績》

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月文楽公演 「義経千本桜」/「競伊勢物語」/ 「桂川連理柵」	本館 小劇場	5/7～5/24	実績	51回	17日	15,190人	55.9%	27,183	106.4%
			計画	51回	17日	14,270人	52.5%	27,183	
9月文楽公演 「基太平記白石噺」/「寿柱立万歳」/ 「基太平記白石噺」/「奥州安達原」	本館 小劇場	9/3～9/20	実績	51回	17日	14,859人	54.7%	27,183	97.1%
			計画	34回	17日	15,300人	84.4%	18,122	
12月文楽公演 「本朝廿四孝」	本館 小劇場	12/6～12/19	実績	13回	13日	6,263人	90.4%	6,929	103.9%
			計画	13回	13日	6,030人	87.0%	6,929	
2月文楽公演 「心中天網島」/「国性爺合戦」/ 「女殺油地獄」	本館 小劇場	2/4～2/21	実績	51回	17日	19,086人	68.2%	27,999	95.3%
			計画	51回	17日	20,030人	73.7%	27,183	
文楽(本館)【小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	166回	64日	55,398人	62.0%	89,294	99.6%
			計画	149回	64日	55,630人	70.0%	79,417	
12月文楽鑑賞教室 「解説文楽の魅力」/「絵本太功記」	本館 小劇場	12/6～19	実績	25回	13日	9,685人	72.7%	13,325	81.7%
			計画	25回	13日	11,850人	88.9%	13,325	
文楽鑑賞教室(本館)【小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	25回	13日	9,685人	72.7%	13,325	81.7%
			計画	25回	13日	11,850人	88.9%	13,325	
本館【合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	191回	77日	65,083人	63.4%	102,619	96.4%
			計画	174回	77日	67,480人	72.8%	92,742	
4月文楽公演 「義経千本桜」/「摂州合邦辻」/ 「嬢景清八嶋日記」/「契情倭莊子」	文楽 劇場	4/2～4/24	実績	66回	22日	13,539人	28.6%	47,322	93.4%
			計画	66回	22日	14,500人	30.6%	47,322	
夏休み文楽特別公演 「鈴の音」/「解説文楽ってなあに？」/ 「瓜子姫とあまんじゃく」/ 「心中天網島」/「花上野誉碑」/「紅葉狩」	文楽 劇場	7/16～8/4	実績	57回	19日	14,428人	35.3%	40,869	96.2%
			計画	57回	19日	15,000人	36.7%	40,869	
11月文楽公演 「心中宵庚申」/「一谷嫩軍記」/ 「壺坂観音霊験記」/「勸進帳」	文楽 劇場	11/5～11/27	実績	66回	22日	15,724人	37.2%	42,306	112.3%
			計画	44回	22日	14,000人	44.4%	31,548	
初春文楽公演 「良弁杉由来」/「義経千本桜」/ 「傾城恋飛脚」/「壇浦兜軍記」	文楽 劇場	1/3～1/25	実績	66回	22日	16,701人	35.3%	47,322	115.2%
			計画	44回	22日	14,500人	46.0%	31,548	
文楽(文楽劇場)公演【小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	255回	85日	60,392人	34.0%	177,819	104.1%
			計画	211回	85日	58,000人	38.3%	151,287	

6月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」「解説文楽へようこそ」 「仮名手本忠臣蔵」	文楽劇場	6/2～16	実績	28回	14日	15,557人	77.5%	20,076	111.1%		
			計画	28回	14日	14,000人	69.7%	20,076			
文楽(文楽劇場)鑑賞教室【小計】			1公演	(計画:1公演)	実績	28回	14日	15,557人	77.5%	20,076	111.1%
					計画	28回	14日	14,000人	69.7%	20,076	
文楽劇場【合計】			5公演	(計画:5公演)	実績	283回	99日	75,949人	38.4%	197,895	105.5%
					計画	239回	99日	72,000人	42.0%	171,363	
総合計			10公演	(計画:10公演)	実績	474回	176日	141,032人	46.9%	300,514	101.1%
					計画	413回	176日	139,480人	52.8%	264,105	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・文楽公演専門委員会(本館)について、第1回を7/4に、第2回を2/28に開催した。
- ・文楽公演専門委員会(文楽劇場)について、第1回を书面開催、第2回を2/28に開催した。

(c) アンケート調査

区分	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
本館	5公演 191回	-	470人	470人	453人	-	96.4%
文楽劇場	5公演 7回	1,234人	976人	972人	914人	79.1%	94.0%
合計	10公演 198回	-	1,446人	1,442人	1,367人	-	94.8%

※本館はウェブアンケートを実施。

※本館12月「Discover BUNRAKU」については、無料配布プログラムにアンケート用紙を挟み込み、実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・文楽座、文楽協会と連携し、出演者及びスタッフを対象とした楽屋、舞台における徹底した感染症対策を講じ、規律ある公演を年間通じて持続することができ、感染症拡大が続く中、各公演で休演者は出つつも、公演中止もなく乗り切れた。
- ・公演内容を短くまとめて英文を付した映像を海外へ向けて無料配信した(本館9月文楽公演、文楽劇場6月Discover文楽公演)。
- ・本館では、三部制による公演が続く制限がある中で通し上演に近い形、また稀曲の上演を実現できた。
- ・全体的に集客に苦戦するなか、本館文楽公演(鑑賞教室含む)においては入場率が昨年度から改善、年度中でも公演を重ねるごとに上昇状況が認められた。
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演第三部において、新たな観客層の開拓を目的として、「紅葉狩」に関連してオンラインゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーションを実施した(国立劇場7月歌舞伎鑑賞教室公演とも連携)。刀剣男士の小鳥丸を文楽人形で再現・展示してSNS等で話題となり入場者数の増加に繋がった。
- ・文楽劇場11月文楽公演第三部の「勸進帳」において、文楽では珍しい花道を使用する演出の採用や中堅の技芸員を起用した配役及びこの演目のみを鑑賞する「勸進帳割引」により、入場者数の増加に繋げることができた。
- ・文楽劇場初春文楽公演第二部の「義経千本桜」すしやの段を上演するにあたり、伝承される複数の台本の内容を検討したうえで、初演(1747年)以降ほとんど上演されていない初演の詞章を採用し、いがみの権太の不良性が親弥左衛門の過去の悪事に起因することを明確にし、観客の作品理解をより深めてもらうことができた。
- ・文楽劇場初春文楽公演第三部の「壇浦兜軍記」では、重忠が阿古屋に三曲の演奏を求めたのか理由を説明する部分を19年ぶりに上演し、「琴責」の謂れが理解できる上演台本を採用したことで、技芸員の芸の伝承にも寄与した。また、幕見席の販売を再開し、観客のニーズに応える体制を整えた。

【特記事項】

- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場11月文楽公演)
- ・令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト(本館12月Discover BUNRAKU、文楽劇場6月Discover BUNRAKU)
- ・日本博参画プロジェクト(本館:5月文楽公演、9月文楽公演、12月文楽公演、2月文楽公演、文楽劇場:4月文楽公演、夏休み文楽特別公演、11月文楽公演、初春文楽公演)

- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LOD3)申請(本館9月文楽公演、文楽劇場夏休み文楽特別公演)
- ・コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業(ARTS for the future!2)申請(文楽劇場4月文楽公演)
- ・各公演とも、字幕表示装置により義太夫の詞章を表示した。
- ・本館5月文楽公演においては、大和にゆかりある「義経千本桜」、「競伊勢物語」上演にちなみ、ロビー内にパネル「大和路と文楽」を掲示し、さまざまな大和を舞台にした作品を紹介し、「奈良まほろば館」提供の観光チラシを設置して文楽鑑賞と大和路観光との普及に供した。
- ・本館9月文楽公演においては、「初代国立劇場さよなら公演」にちなみ、第一部の開演前に客席壁面に開場以来歴代の小劇場の緞帳の画像を映写し、劇場の歴史を振り返っていただく企画を行った。
- ・文楽劇場では、ストーリーミングサービスを用い、インターネット上で公演記録映像の有料映像配信を行った(4月文楽公演、夏休み文楽特別公演、11月文楽公演、初春文楽公演)。

③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

《制作方針》

本館の舞踊公演では、各公演の企画意図に即しつつ、現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を制作することを根幹とし、古典を軸に日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、流派にとらわれず国立劇場独自の企画を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図る。東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪とする。また、公演の意図や曲の性格に適した中堅や若手舞踊家の起用を積極的に行う。

本館の邦楽公演では、邦楽のジャンルの特性や各作品のバランスを考慮し、国立劇場ならではの高い水準の舞台を目指す。出演者には重要無形文化財保持者を中心に、公演の方針や作品の内容に応じて適宜すぐれた演奏家を起用する。

本館の雅楽公演では、日本古来の歌舞と中国や朝鮮から渡来した舞や器楽を源流にして平安時代の王朝文化の中で大成した雅楽について、代表的な古典曲、廃絶した雅楽曲の復元曲など、その多彩な魅力を伝える公演を企画する。

5月公演は、およそ4年ぶりとなる宮内庁式部職楽部の出演で、舞楽の代表的な舞振りである「平舞」と「走舞」より4曲を取り上げる。初上演や楽部の舞楽としてはおよそ半世紀ぶりとなる演目を含め、舞の人数や多彩な装束等の視覚情報と、楽器やリズム等の聴覚情報がそれぞれ異なる組み合わせとし、舞楽の多様な魅力をお楽しみいただく。

11月公演は、「宮廷芸能」としての雅楽に焦点を当てて紹介した。アジア各地の宮廷では、古くからあらゆる芸能が発展しており、日本には、京を中心に発展した雅楽と、琉球王朝の芸能がある。時代や風土は大きく異なるものの、同じ宮廷という土壌で発展した両芸能において、「即位」をテーマとし、関連した曲目を紹介する。京と琉球の宮廷文化や演奏機会等の解説や実演も交え、通常の雅楽公演とは異なるアプローチで、観客の理解を深めることを目指す。

本館の声明公演では、仏教儀式において僧侶が唱える声明について、国立劇場ではその豊かな音楽性に着目して、各宗本山で行われている代表的な法会の紹介、廃絶している法会の復活、日本の現代詩を声明によってうたう試みなど様々な取組を行う。

2月公演は、初代国立劇場さよなら公演にあたる声明公演の1回目となる。国立劇場第1回公演で出演した天台宗総本山比叡山延暦寺の出演で、『山王礼拝講』を取り上げる。『山王礼拝講』は、比叡山の麓にある日吉大社の神前において、比叡山の僧侶が『法華八講』を行う、現代では珍しい神仏習合の法要である。本山の限られた僧侶しか経験することのない貴重な声明を紹介するとともに、「八講節」と呼ばれる節回しによる問答と、天台宗の特徴がよく出る唄・散華といった華やかな声明、そして本法要に特有の所作の数々等により、緩急のある舞台をお楽しみいただく。

本館の民俗芸能公演では、全国各地で行われている民俗芸能の中から、伝承が確かで、しかも舞台での上演が可能な芸能を広く一般に紹介し、その理解を深める。

6月公演では、国指定無形民俗文化財の「花祭」を上演する。夜通し行われる祭礼の儀式や舞などを一通りご覧いただける構成とする。

1月公演では、日本の四季を背景に、各地で行われている民俗芸能を広く紹介する。

本館の琉球芸能公演では、琉球王府以来の芸能として伝承されている組踊と琉球舞踊を中心に、沖縄各地の民俗芸能等も視野に入れ、琉球芸能の多彩な魅力を示すことを図る。

3月公演では、明治以降、大衆に親しまれた沖縄芝居(琉球歌劇)を取り上げる。国立劇場では37年ぶりの上演となり、冒頭に解説を付け、観客の理解を促す。

本館の特別企画公演では、公演内容が複数のジャンルにまたがるもの、特定のジャンルに限定できないもの、また特に固有の芸能史的な価値に着目して企画する公演などを軸として、伝統芸能の魅力を幅広く楽しんでもらうことを目指す。

4月「明日をにやう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、気鋭の舞踊家・邦楽家を起用し、紹介することを目的としており、主役や難曲に挑むことで今後の飛躍を期待する構成とする。

7月「鉄道唱歌」では、鉄道や旅をキーワードに、従来の国立劇場での公演では取り上げられない近代の音楽や芸能を取り上げる。落語、義太夫節、俗曲、明治期以降の流行歌など、多彩な芸能が出演する特別企画公演らしい舞台を目指す。また、JR東日本の協力により積極的な広報活動にも取り組む。

○

文楽劇場10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」は、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家が一堂に会する恒例の舞踊公演である。上方四流(井上流、榎茂都流、山村流、吉村流)の家元、代表者クラスの競演を柱のひとつに、歌舞伎舞踊や素踊り、情緒豊かな座敷舞など様々な色合いの作品を上演し、舞踊の魅力に

迫る内容とする。

文楽劇場 8 月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」は、人形の演技に頼ることなく太夫・三味線の演奏のみで観客の想像力に働きかけ浄瑠璃の魅力を引き立て、改めて曲の内容の魅力に触れていただく公演である。今回は 4 月に昇格した 3 人の切語り・豊竹呂太夫、竹本鋳太夫、竹本千歳太夫が揃って出演する。「碁太平記白石噺」逆井村の段(竹本千歳太夫・豊澤富助)、「奥州安達原」袖萩祭文の段(豊竹呂太夫・鶴澤清介)、「源平布引滝」九郎助住家の段(竹本鋳太夫・鶴澤藤蔵)、と時代浄瑠璃 3 曲を競演する。

文楽劇場 9 月特別企画公演「法隆寺の聖霊会」は、聖徳太子 1400 年御遠忌記念として、舞楽付き大法要である「聖霊会」をはじめ取り上げ、名刹法隆寺に伝わる伝統的な法要の魅力と歴史的価値を紹介する。

文楽劇場 5 月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、躍進めざましい舞踊家、演奏家に脚光をあてて舞踊・邦楽界の将来を展望する。

(a)《公演実績》

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
7 月舞踊公演 「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館 小劇場	7/23	実績	2 回	1 日	888 人	85.1%	1,044	112.4%
			計画	2 回	1 日	790 人	75.7%	1,044	
9 月舞踊公演 「舞踊名作集 I」	本館 大劇場	9/23	実績	1 回	1 日	1,353 人	89.7%	1,509	125.3%
			計画	1 回	1 日	1,080 人	71.1%	1,520	
11 月舞踊公演 「舞の会－京阪の座敷舞－」	本館 小劇場	11/26	実績	2 回	1 日	1,071 人	90.8%	1,180	112.7%
			計画	2 回	1 日	950 人	80.5%	1,180	
3 月舞踊公演 「素踊りの世界」	本館 小劇場	3/18	実績	1 回	1 日	446 人	75.6%	590	117.4%
			計画	1 回	1 日	380 人	64.4%	590	
舞踊(本館)【小計】	4 公演 (計画:4 公演)		実績	6 回	4 日	3,758 人	86.9%	4,323	117.4%
			計画	6 回	4 日	3,200 人	73.8%	4,334	
10 月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/15	実績	2 回	1 日	468 人	34.6%	1,354	73.1%
			計画	2 回	1 日	640 人	47.3%	1,354	
舞踊(文楽劇場)【小計】	1 公演 (計画:1 公演)		実績	2 回	1 日	468 人	34.6%	1,354	73.1%
			計画	2 回	1 日	640 人	47.3%	1,354	
舞踊【合計】	5 公演 (計画:5 公演)		実績	8 回	5 日	4,226 人	74.4%	5,677	110.1%
			計画	8 回	5 日	3,840 人	67.5%	5,688	
6 月邦楽公演 「日本音楽の流れ V - 打楽器 -」	本館 小劇場	6/18	実績	1 回	1 日	463 人	78.5%	590	98.5%
			計画	1 回	1 日	470 人	79.7%	590	
10 月邦楽公演 「邦楽名曲選 I 飛鳥～平安」	本館 小劇場	10/8	実績	1 回	1 日	355 人	60.2%	590	91.0%
			計画	1 回	1 日	390 人	66.1%	590	
10 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	本館 小劇場	10/22	実績	1 回	1 日	528 人	89.5%	590	103.5%
			計画	1 回	1 日	510 人	86.4%	590	
1 月邦楽公演 「邦楽名曲選 II 鎌倉～安土桃山」	本館 小劇場	1/14	実績	1 回	1 日	416 人	70.5%	590	96.7%
			計画	1 回	1 日	430 人	72.9%	590	
1 月邦楽公演 「邦楽名曲選 III 江戸～明治」	本館 小劇場	1/28	実績	1 回	1 日	478 人	81.0%	590	99.6%
			計画	1 回	1 日	480 人	81.4%	590	
邦楽(本館)【小計】	5 公演 (計画:5 公演)		実績	5 回	5 日	2,240 人	75.9%	2,950	98.2%
			計画	5 回	5 日	2,280 人	77.3%	2,950	
8 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8/20	実績	1 回	1 日	364 人	48.3%	753	80.9%
			計画	1 回	1 日	450 人	59.8%	753	
邦楽(文楽劇場)【小計】	1 公演 (計画:1 公演)		実績	1 回	1 日	364 人	48.3%	753	80.9%
			計画	1 回	1 日	450 人	59.8%	753	
邦楽【合計】	6 公演 (計画:6 公演)		実績	6 回	6 日	2,604 人	70.3%	3,703	95.4%
			計画	6 回	6 日	2,730 人	73.7%	3,703	

5月雅楽公演 「舞楽」	本館 大劇場	5/28	実績	1回	1日	1,125人	69.9%	1,610	79.8%
			計画	1回	1日	1,410人	87.6%	1,610	
11月雅楽公演 「宮廷の響き 雅楽と琉球御座楽」	本館 小劇場	11/12	実績	1回	1日	527人	89.3%	590	109.8%
			計画	1回	1日	480人	81.4%	590	
雅楽【合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	1,652人	75.1%	2,200	87.4%
			計画	2回	2日	1,890人	85.9%	2,200	
2月声明公演 「比叡山延暦寺の神前法要」	本館 大劇場	2/25	実績	1回	1日	1,211人	79.7%	1,520	96.9%
			計画	1回	1日	1,250人	77.6%	1,610	
声明【合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	1,211人	79.7%	1,520	96.9%
			計画	1回	1日	1,250人	77.6%	1,610	
6月民俗芸能公演 「花祭 -奥三河の霜月神楽-」	本館 小劇場	6/11	実績	2回	1日	708人	60.0%	1,180	71.5%
			計画	2回	1日	990人	83.9%	1,180	
1月民俗芸能公演 「祭りの四季」	本館 小劇場	1/21	実績	1回	1日	501人	84.9%	590	106.6%
			計画	1回	1日	470人	79.7%	590	
民俗芸能【合計】 2公演 (計画:2公演)			実績	3回	2日	1,209人	68.3%	1,770	82.8%
			実績	3回	2日	1,460人	82.5%	1,770	
3月琉球芸能公演 琉球歌劇「葉師堂」	本館 小劇場	3/5	実績	2回	1日	765人	64.8%	1,180	79.7%
			計画	2回	1日	960人	81.4%	1,180	
琉球芸能【合計】 1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	765人	64.8%	1,180	79.7%
			実績	2回	1日	960人	81.4%	1,180	
4月舞踊・邦楽公演 「明日をにう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/23	実績	1回	1日	371人	62.9%	590	114.9%
			計画	1回	1日	323人	54.7%	590	
7月特別企画公演 「鉄道唱歌 ~明治の音楽と鉄道~」	本館 小劇場	7/9	実績	1回	1日	505人	85.6%	590	132.9%
			計画	1回	1日	380人	64.4%	590	
特別企画(本館)【小計】 2公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	876人	74.2%	1,180	124.6%
			計画	2回	2日	703人	59.6%	1,180	
9月特別企画公演 「法隆寺の聖霊会」	文楽 劇場	9/10	実績	1回	1日	446人	65.9%	677	74.3%
			計画	1回	1日	600人	79.7%	753	
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	文楽 劇場	5/14	実績	1回	1日	275人	43.0%	639	98.2%
			計画	1回	1日	280人	43.8%	639	
特別企画(文楽劇場)【小計】 2公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	721人	54.8%	1,316	81.9%
			計画	2回	2日	880人	63.2%	1,392	
特別企画【合計】 4公演 (計画:4公演)			実績	4回	4日	1,597人	64.0%	2,496	100.9%
			計画	4回	4日	1,583人	61.5%	2,572	
本館【合計】 17公演 (計画:17公演)			実績	21回	17日	11,711人	84.0%	13,943	99.7%
			計画	21回	17日	11,743人	83.6%	14,044	
文楽劇場【合計】 4公演 (計画:4公演)			実績	5回	4日	1,553人	45.4%	3,423	78.8%
			計画	5回	4日	1,970人	56.3%	3,499	
総合計 21公演 (計画:21公演)			実績	26回	21日	13,264人	71.5%	18,546	96.7%
			計画	26回	21日	13,713人	73.2%	18,723	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を本館各ジャンルで各2回開催。
 - ◇ 7/5、3/29 舞踊公演専門委員会
 - ◇ 6/24、3/24 邦楽公演専門委員会
 - ◇ 7/6、3/17 雅楽・声明公演専門委員会

◇ 7/4、3/30 民俗芸能公演専門委員会

- ・ 短期公演等専門委員会(文楽劇場)を第1回は書面開催、第2回は対面で開催(3/3)。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
11 公演 12 回	3,219 人	1,183 人	1,015 人	980 人	36.8%	96.6%

※舞踊1公演、邦楽2公演、雅楽2公演、声明1公演、民俗芸能1公演、特別企画1公演で紙によるアンケートを実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

【本館】

《舞踊》

- ・ 7月「花形・名作舞踊鑑賞会」では、日本舞踊界の今後をになう花形世代の舞踊家により古典の魅力を示せた。また、NHKによる収録・放送を通じて劇場の存在感と歌舞伎舞踊の面白さを広めることができた。
- ・ 9月「舞踊名作集Ⅰ」は、開場記念公演でも上演された「四季三葉草」と劇場主催の舞踊公演では29年ぶりの上演となった「黒塚」を中心に、名作の醍醐味を味わえるにふさわしい番組で、充実した舞台成果を得ることができた。
- ・ 11月「舞の会」は、11年ぶりに上方四流(井上・榎茂都・吉村・山村)の家元が揃い、また中堅・若手の積極的な起用も奏功し、座敷舞の真髄を示す舞台を制作できた。
- ・ 3月「素踊りの世界」は、古典と古典の技法に基づきながらも新鮮な創意が盛り込まれた新作を取り上げ、その対比を通じて素踊りの幅広い魅力を示すことができた。

《邦楽》

- ・ 6月「日本音楽の流れⅤ—打楽器—」では、雅楽から現代曲まで様々な日本の打楽器を紹介した。解説では希少な楽器も紹介し、日本で伝承されている音楽の多様性を示すとともに、委嘱新作では伝統音楽の可能性を拓く新作を上演した。
- ・ 10月「邦楽名曲選Ⅰ 飛鳥～平安」では、一中節・地歌箏曲・清元節・長唄といった幅広い芸能のそれぞれの魅力を存分に紹介した。
- ・ 10月「文楽素浄瑠璃の会」は、今年切語りとなった3名の太夫が本公演でも共演の多い三味線弾きと共演し、現在最高水準の演奏を堪能できる構成とした。
- ・ 1月「邦楽名曲選Ⅱ 鎌倉～安土桃山」では、荻江節・河東節・山田流箏曲・常磐津節・筑前琵琶・義太夫節それぞれを代表する名作を、各界第一線で活躍する実力者による演奏でお楽しみいただいた。
- ・ 1月「邦楽鑑賞会Ⅲ 江戸～明治」では、長唄・新内節・地歌・薩摩琵琶・端唄・箏曲という複数分野にわたり、重鎮中堅による名演奏で、邦楽の将来性を期待させる公演だった。

《雅楽》

- ・ 5月「舞楽」公演は、雅楽演奏者の中でも手本とされる、洗練された楽部の舞楽を4年ぶりに紹介することができた。
- ・ 11月公演は、国立劇場で雅楽と琉球の音楽を同時に紹介したこと、そして、御座楽を琉球の芸能史上重要な位置づけである「江戸上り」の構成に準拠した番組として上演したのは、初の試みであった。また御座楽と雅楽との対比を効果的に示せた。

《声明》

- ・ 2月声明は、天台宗総本山比叡山延暦寺の出演で、『山王礼拝講』を初上演した。神仏習合の珍しい様式を舞台上で上演し、声明の幅広さを紹介することができた。

《民俗芸能》

- ・ 6月民俗芸能公演「花祭」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2回中止となり3年越しに上演可能となった。実際の祭礼では夜通し行われる神楽であるが、舞台用に約4時間に凝縮して全体の流れを披露した。
- ・ 1月民俗芸能公演「祭りの四季」は、日本の文化に深い関わりを持つ四季を背景に、異なるジャンルの民俗芸能を組み合わせで紹介した。

《琉球芸能》

- ・ 3月琉球芸能公演は、37年ぶりに琉球歌劇を上演した。中堅・若手実力者のみによる琉球歌劇は、東京ではこれまでにない試みであった。

《特別企画》

- ・ 本館7月特別企画公演「鉄道唱歌」は、令和4年が鉄道開業150年の年であることから、旅や鉄道をキーワードに、ゆかりある演目を多数のジャンルの芸能から取り上げることで、近代における芸能史に光を当

てる画期的な取り組みであった。取り上げられることが少ない明治期の芸能を、とくにレコード以前の作品は実演される機会が少なかったこともあり、音源がないものが多かった。今回の公演では、鉄道開業から「鉄道唱歌」の誕生までがまさにその時期にあたることから、文献資料に基づいた復活演奏を試みるとともに、関連する古典曲とあわせて上演する取り組みを行った。これは、国立劇場のこれまでの営為の産物と言える成果であった。また、案内役に鉄道好きで知られる俳優六角精児氏と落語家古今亭駒治氏を起用することで、これまでの国立劇場の観客層以外にも劇場事業を訴求する契機になった。

【文楽劇場】

《舞踊》

- ・ 10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」は、新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため、昨年に引き続き各部演目を一番減らして上演したが、地元ではぐくまれた上方舞継承の観点から上方四流(井上流、榎茂都流、山村流、吉村流)の競演を実現し、歌舞伎舞踊、素踊り、座敷舞などバラエティに富んだ作品を取り上げ、凝縮した形で舞踊の魅力を掘り下げる企画内容とした。

《邦楽》

- ・ 8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、4月に切語りに昇格した3人の太夫とそれを支える三味線弾き3組を揃える公演とした。「碁太平記白石嘶」逆井村の段(竹本千歳太夫・豊澤富助)、「奥州安達原」袖萩祭文の段(豊竹呂太夫・鶴澤清介)、「源平布引滝」九郎助住家の段(竹本鋳太夫・鶴澤藤蔵)の3曲は時代浄瑠璃を披露し、文楽本公演での益々の活躍が期待される演奏となった。

《特別企画》

- ・ 特別企画公演は3年ぶりの開催となった。9月特別企画公演「法隆寺の聖霊会」は、聖徳太子1400年御遠忌の節目の年にあわせて舞楽付き大法要である「聖霊会」の舞台公開を実現した。10年に一度の大法要の次第に、毎年催される管絃法要を象徴する堂内の荘厳も組み合わせた特別版の舞台空間とし、絢爛豪華な大法要を行道から再現した。法要前には解説も付し、充実した内容で名刹法隆寺の声明を紹介した意義深い公演となった。
- ・ 5月特別企画公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は3年ぶりに有観客公演として開催でき、次代を担う実演家たちの奮起を促す好内容であった。

【特記事項】

- ・ 令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場：10月舞踊)
- ・ 令和4年度(第77回)文化庁芸術祭協賛公演(本館：10月邦楽(邦楽名曲選Ⅰ、素浄瑠璃)、11月雅楽、11月舞踊)
- ・ 日本博主催・共催型プロジェクト(本館：4月特別企画、5月雅楽、6月民俗芸能、6月邦楽、7月特別企画、7月舞踊、9月舞踊、10月邦楽(邦楽名曲選Ⅰ)、11月舞踊、11月雅楽、1月邦楽(邦楽名曲選Ⅱ、Ⅲ)、1月民俗芸能、2月声明、3月琉球芸能)
- ・ 日本博参画プロジェクト(本館：10月邦楽(素浄瑠璃)、3月舞踊)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・ 制作協力＝公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団(3月琉球芸能)
- ・ 上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。
- ・ 文楽劇場8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、ストーリーミングサービスを用い、公演記録映像の有料配信を行った。
- ・ 各公演の出演者と外部ゲストによる特別座談会を開催し、有料配信を行った(10月邦楽、1月邦楽)。

④ 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・講談・浪曲のほか、奇術・太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、従来からの寄席形式で構成する定席公演を中心に大衆芸能公演を実施する。

定席公演は、公益社団法人落語芸術協会及び一般社団法人落語協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、浪曲、奇術、太神楽曲芸、漫才、コント、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

若手新人公演は、各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

新春国立名人会は、落語をはじめ、大衆芸能各分野の重鎮、人気者が日替りで行われ、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。

国立名人会は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくりと味わえる公演を実施する。

特別企画公演は、現代落語の基礎を作った三遊亭圓朝作品に挑む会や花形演芸大賞受賞者の会、立川流落語会、五代目圓楽一門会等、普段は個別に活動する落語団体から落語界を代表する実力者・人気者を選りすぐった公演等、公演ごとに主題を設け、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。また、夏休み期間中には親子向けに、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能を楽しむための解説付き入門公演を実施する。今年度は公演開演前に親子の入場者を対象とした演芸ワークショップを併せて行う。



文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。

浪曲名人会は、関西を代表する浪曲師が顔を揃える恒例の公演。各出演者が十八番や名曲を披露し、浪曲の魅力をもっと堪能できる公演とする。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを向上させる」ことを目的に、4名の若手浪曲師が2曲ずつ口演する構成で、日頃の成果を披露し今後の飛躍に繋がる公演とする。

上方演芸特選会では、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく。

(a) 《公演実績》

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月上旬	演芸場	4/1~4/10	実績	10 回	10 日	829 人	27.6%	3,000	82.9%
			計画	10 回	10 日	1,000 人	33.3%	3,000	
4 月中席	演芸場	4/11~4/20/	実績	10 回	10 日	1,100 人	36.7%	3,000	61.1%
			計画	10 回	10 日	1,800 人	60.0%	3,000	
5 月中席	演芸場	5/11~5/20	実績	10 回	10 日	1,945 人	64.8%	3,000	97.3%
			計画	10 回	10 日	2,000 人	66.7%	3,000	
6 月上旬	演芸場	6/1~6/10	実績	10 回	10 日	869 人	29.0%	3,000	79.0%
			計画	10 回	10 日	1,100 人	36.7%	3,000	
6 月中席	演芸場	6/11~6/20	実績	10 回	10 日	1,703 人	56.8%	3,000	131.0%
			計画	10 回	10 日	1,300 人	43.3%	3,000	
7 月上旬	演芸場	7/2~7/10	実績	9 回	9 日	1,681 人	62.3%	2,700	84.1%

			計画	9回	9日	2,000人	74.1%	2,700	
7月中席	演芸場	7/11~7/20	実績	10回	10日	1,163人	38.8%	3,000	145.4%
			計画	10回	10日	800人	26.7%	3,000	
8月上席	演芸場	8/1~8/10	実績	10回	10日	804人	26.8%	3,000	73.1%
			計画	10回	10日	1,100人	36.7%	3,000	
8月中席	演芸場	8/11~8/20	実績	10回	10日	1,988人	66.3%	3,000	99.4%
			計画	10回	10日	2,000人	66.7%	3,000	
9月上席	演芸場	9/1~9/10	実績	10回	10日	610人	20.3%	3,000	122.0%
			計画	10回	10日	500人	16.7%	3,000	
9月中席	演芸場	9/11~9/20	実績	10回	10日	737人	24.6%	3,000	122.8%
			計画	10回	10日	600人	20.0%	3,000	
10月上席	演芸場	10/1~10/10	実績	10回	10日	2,972人	99.1%	3,000	148.6%
			計画	10回	10日	2,000人	66.7%	3,000	
10月中席	演芸場	10/11~10/20	実績	10回	10日	800人	26.7%	3,000	61.5%
			計画	10回	10日	1,300人	43.3%	3,000	
11月上席	演芸場	11/1~11/10	実績	10回	10日	2,468人	82.3%	3,000	123.4%
			計画	10回	10日	2,000人	66.7%	3,000	
11月中席	演芸場	11/11~11/20	実績	10回	10日	665人	22.2%	3,000	60.5%
			計画	10回	10日	1,100人	36.7%	3,000	
12月上席	演芸場	12/1~12/10	実績	10回	10日	653人	21.8%	3,000	130.6%
			計画	10回	10日	500人	16.7%	3,000	
12月中席	演芸場	12/11~12/20	実績	10回	10日	1,124人	37.5%	3,000	124.9%
			計画	10回	10日	900人	30.0%	3,000	
1月中席	演芸場	1/11~1/20	実績	10回	10日	1,572人	52.4%	3,000	78.6%
			計画	10回	10日	2,000人	66.7%	3,000	
2月上席	演芸場	2/1~2/10	実績	10回	10日	897人	29.9%	3,000	64.1%
			計画	10回	10日	1,400人	46.7%	3,000	
2月中席	演芸場	2/11~2/20	実績	10回	10日	1,943人	64.8%	3,000	97.2%
			計画	10回	10日	2,000人	66.7%	3,000	
3月上席	演芸場	3/1~3/10	実績	10回	10日	1,173人	39.1%	3,000	106.6%
			計画	10回	10日	1,100人	36.7%	3,000	
3月中席	演芸場	3/11~3/20	実績	10回	10日	2,393人	79.8%	3,000	159.5%
			計画	10回	10日	1,500人	50.0%	3,000	
定例公演【小計】 22公演 (計画:22公演)			実績	219回	219日	30,089人	45.8%	65,700	100.3%
			計画	219回	219日	30,000人	45.7%	65,700	
4月花形演芸会(第517回)	演芸場	4/23	実績	1回	1日	266人	88.7%	300	95.0%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
5月花形演芸会(第518回)	演芸場	5/21	実績	1回	1日	290人	96.7%	300	116.0%
			計画	1回	1日	250人	83.3%	300	
6月花形演芸会(第519回)	演芸場	6/25	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	101.4%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
7月花形演芸会(第520回)	演芸場	7/30	実績	1回	1日	284人	94.7%	300	98.6%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
8月花形演芸会(第521回)	演芸場	8/21	実績	1回	1日	291人	97.0%	300	103.9%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	

9 月花形演芸会(第 522 回)	演芸場	9/17	実績	1 回	1 日	237 人	79.0%	300	84.6%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
10 月花形演芸会(第 523 回)	演芸場	10/22	実績	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	108.0%
			計画	1 回	1 日	250 人	83.3%	300	
11 月花形演芸会(第 524 回)	演芸場	11/26	実績	1 回	1 日	290 人	96.7%	300	100.7%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
12 月花形演芸会(第 525 回)	演芸場	12/24	実績	1 回	1 日	293 人	97.7%	300	104.6%
			計画	1 回	1 日	280 人	93.3%	300	
1 月花形演芸会(第 526 回)	演芸場	1/21	実績	1 回	1 日	242 人	80.7%	300	89.6%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
2 月花形演芸会(第 515 回)	演芸場	2/23	実績	1 回	1 日	292 人	97.3%	300	108.1%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
3 月花形演芸会(第 528 回)	演芸場	3/4	実績	1 回	1 日	293 人	97.7%	300	101.7%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
花形演芸会【小計】 12 公演 (計画:12 公演)			実績	12 回	12 日	3,340 人	92.8%	3,600	100.8%
			計画	12 回	12 日	3,312 人	92.0%	3,600	
新春国立名人会	演芸場	1/2~1/7	実績	7 回	6 日	1,842 人	87.7%	2,100	92.1%
			計画	7 回	6 日	2,000 人	95.2%	2,100	
新春国立名人会【小計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	7 回	6 日	1,842 人	87.7%	2,100	92.1%
			計画	7 回	6 日	2,000 人	95.2%	2,100	
4 月国立名人会(第 457 回)	演芸場	4/24	実績	1 回	1 日	287 人	95.7%	300	99.7%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
5 月国立名人会(第 458 回)	演芸場	5/22	実績	1 回	1 日	256 人	85.3%	300	98.5%
			計画	1 回	1 日	260 人	86.7%	300	
6 月国立名人会(第 459 回)	演芸場	6/26	実績	1 回	1 日	293 人	97.7%	300	101.7%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
8 月国立名人会(第 460 回)	演芸場	8/13	実績	1 回	1 日	261 人	87.0%	300	90.6%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
9 月国立名人会(第 461 回)	演芸場	9/25	実績	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	100.0%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
10 月国立名人会(第 462 回)	演芸場	10/23	実績	1 回	1 日	298 人	99.3%	300	103.5%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
11 月国立名人会(第 463 回)	演芸場	11/11	実績	1 回	1 日	244 人	81.3%	300	84.7%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
12 月国立名人会(第 464 回)	演芸場	12/25	実績	1 回	1 日	292 人	97.3%	300	101.4%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
2 月国立名人会(第 465 回)	演芸場	2/26	実績	1 回	1 日	292 人	97.3%	300	108.1%
			計画	1 回	1 日	270 人	90.0%	300	
3 月国立名人会(第 466 回)	演芸場	3/21	実績	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	100.0%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
国立名人会【小計】 10 公演 (計画:10 公演)			実績	10 回	10 日	2,799 人	93.3%	3,000	98.8%
			計画	10 回	10 日	2,834 人	94.5%	3,000	
5 月特別企画公演 「立川流落語会」 落語立川流真打昇進披露公演	演芸場	5/27~5/29	実績	3 回	3 日	646 人	71.8%	900	80.8%
			計画	3 回	3 日	800 人	88.9%	900	
6 月特別企画公演	演芸場	6/10	実績	1 回	1 日	292 人	97.3%	300	101.4%

「花形演芸会スペシャル ～受賞者の会～」			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
7月特別企画公演 「親子で楽しむ演芸会」	演芸場	7/23～7/24	実績	2回	2日	551人	91.8%	600	95.7%
			計画	2回	2日	576人	96.0%	600	
9月特別企画公演 「演芸大にぎわい ～東から西から～」	演芸場	9/23～9/24	実績	2回	2日	372人	62.0%	600	82.7%
			計画	2回	2日	450人	75.0%	600	
10月特別企画公演 「五代目圓楽一門会」	演芸場	10/28～10/30	実績	3回	3日	684人	76.0%	900	97.7%
			計画	3回	3日	700人	77.8%	900	
11月特別企画公演 「正蔵 正蔵を語る」	演芸場	11/23	実績	1回	1日	290人	96.7%	300	100.7%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
12月特別企画公演 「年の瀬に新作を聴く会」	演芸場	12/22	実績	1回	1日	288人	96.0%	300	100.0%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
2月特別企画公演 「圓朝に挑む！」	演芸場	2/25	実績	1回	1日	292人	97.3%	300	104.3%
			計画	1回	1日	280人	93.3%	300	
特別企画【小計】	8公演	(計画:8公演)	実績	14回	14日	3,415人	81.3%	4,200	93.1%
			計画	14回	14日	3,670人	87.4%	4,200	
演芸場【合計】	53公演	(計画:53公演)	実績	262回	261日	41,485人	52.8%	78,600	99.2%
			計画	262回	261日	41,816人	53.2%	78,600	
浪曲名人会	文楽劇場	2/25	実績	1回	1日	596人	79.2%	753	99.3%
			計画	1回	1日	600人	79.7%	753	
浪曲名人会【小計】	1公演	(計画:1公演)	実績	1回	1日	596人	79.2%	753	99.3%
			計画	1回	1日	600人	79.7%	753	
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5/28	実績	2回	1日	253人	79.6%	318	126.5%
			計画	2回	1日	200人	62.9%	318	
浪曲錬声会【小計】	1公演	(計画:1公演)	実績	2回	1日	253人	79.6%	318	126.5%
			計画	2回	1日	200人	62.9%	318	
5月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/18～5/21	実績	4回	4日	492人	77.4%	636	98.4%
			計画	4回	4日	500人	78.6%	636	
7月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	7/20～7/23	実績	4回	4日	521人	81.9%	636	104.2%
			計画	4回	4日	500人	78.6%	636	
9月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9/21～9/24	実績	4回	4日	542人	85.2%	636	108.4%
			計画	4回	4日	500人	78.6%	636	
11月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11/16～11/19	実績	4回	4日	621人	97.6%	636	124.2%
			計画	4回	4日	500人	78.6%	636	
1月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1/18～1/21	実績	4回	4日	577人	90.7%	636	115.4%
			計画	4回	4日	500人	78.6%	636	
3月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	3/8～3/11	実績	4回	4日	543人	85.4%	636	108.6%
			計画	4回	4日	500人	78.6%	636	
上方演芸特選会【小計】	6公演	(計画:6公演)	実績	24回	24日	3,296人	86.4%	3,816	109.9%
			計画	24回	24日	3,000人	78.6%	3,816	
文楽劇場【合計】	8公演	(計画:8公演)	実績	27回	26日	4,145人	84.8%	4,887	109.1%
			計画	27回	26日	3,800人	77.8%	4,887	
総合計	61公演	(計画:61公演)	実績	289回	287日	45,630人	54.7%	83,487	100.0%
			計画	289回	287日	45,616人	54.6%	83,487	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・大衆芸能公演専門委員会について、第1回は6/20に、第2回は3/29に開催した。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7公演 7回	1,649人	938人	901人	865人	56.9%	96.0%

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・演芸場では、7月「親子で楽しむ演芸会」の公演回数を増やして2日2回開催した。あわせて公演日両日も開演前に親子の入場者を主な対象としてマジックのワークショップを初めて行い、好評を得た(有料500円、参加者92人。アンケートの満足回答100%)。
- ・8月には中席での病気療養中の三遊亭円楽の高座復帰がマスコミの注目を集め、テレビ等で広く報道された。
- ・9月には普段寄席では観られない様々な演芸を上演する特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」の公演日程に合わせて、日本博事業として演芸をより身近に体験できる「演芸レクチャーデモンストレーション」を日本演芸家連合の協力を得て開催し、昨年感染症の影響で参加を控えた関西の上方落語、上方漫才の含め、昨年度より2分野増の2日間10分野で感染症対策に留意しつつ実施し、147人の参加と93.3%の高い満足回答を得た。
- ・10月定席(上席)では、令和2年3月に予定していた襲名披露公演を感染症の影響で実現できなかった神田伯山をトリとし師匠の人間国宝神田松鯉と共演する番組を提供し、入場率99.1%となる多くの観客に公演を楽しんでいただく大きな成果をあげることができた。
- ・10月には特別企画公演「五代目圓楽一門会」で9月に逝去された六代目を偲ぶ会を開催した。一門による座談やロビーでのゆかりの品や舞台写真の展示などを行い、テレビ・新聞等の多数のマスコミ取材があった。
- ・11月には文化庁芸術祭主催公演として「国立名人会 上方落語を味わう夕べ」を開催した。コロナ禍において実施できなかった上方落語を特集した公演を4年ぶりに行い好評を得た。
- ・「若手新人公演」では、花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する15組のレギュラーを中心に公演を計画どおり実施し、花形演芸大賞・金賞・銀賞受賞者を選出して、6月特別企画公演「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」で贈賞式を行った。
- ・「国立名人会」「新春名人会」「特別企画公演」を計画どおり実施し、国立演芸場ならではの企画として行っている、「正蔵 正蔵を語る」、「年の瀬に新作を聴く会」、「圓朝に挑む！」では幅広い落語の魅力を観客にたっぷり楽しんでいただくことができた。
- ・公演来場者へのサービスの充実として、新型コロナウイルス感染症対策により劇場ロビー及び客席での飲食が禁止されている中、食事を希望する団体に対して大・小劇場レストラン利用の取り次ぎを行い、団体の利用促進に繋げた。(利用団体：9件1,346人)
- ・8月に国立演芸場のTwitterアカウントを開設し、随時情報発信を行った。表示回数が35,000回を超える投稿もあり、演芸ファンへ広く国立演芸場の公演を周知した。
- ・文楽劇場では、5月の「浪曲錬声会」で昨年度と同じ4名が新たな演目に取り組み、観客に着実な成長を印象付けた。
- ・関西浪曲界の第一人者を揃えた2月の「浪曲名人会」では、ベテランの十八番に加えて初出演の若手浪曲師によるリレー浪曲を上演した。取材会やSNSでの宣伝を行い、一般個人の売上げが大幅に伸びた。
- ・上方演芸特選会は、7月で第1回から20年目を迎えた。落語、漫才、浪曲、マジックなど多彩なプログラムを実施し、年間6公演を通して安定した集客を実現することができた。

【特記事項】

- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演(演芸場11月「国立名人会～上方落語を味わう夕べ」)
- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭協賛公演(演芸場10月・11月の7公演、文楽劇場11月上方演芸特選会)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場全公演)
- ・令和4年度花形演芸会レギュラー出演者(50音順)
入船亭小辰改め扇橋(落語)、鏡味仙成(曲芸)、桂華紋(上方落語)、桂福丸(上方落語)、神田伯山(講談)、古今亭志ん五(落語)、春風亭昇也(落語)、笑福亭喬介(上方落語)、瀧川鯉八(落語)、玉川大福(浪曲)、母心(漫才)、まんじゅう大帝国(漫才)、柳家崑三郎(落語)、柳家わさび(落語)、鈴々舎馬るこ(落語)
- ・令和4年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表した。

- ◇ 大賞：神田伯山(講談)
- ◇ 金賞：入船亭扇橋(落語)、柳家わさび(落語)、母心(漫才)
- ◇ 銀賞：春風亭柳枝(落語)、こばやしけん太(音まね)、真山隼人(浪曲)、柳家風柳(落語)
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、上演時間を短縮するなどの対応をして上演した。

⑤ 能 楽

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。夏季には「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」などを実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら新たな観客層を開拓する。さらに「特別企画公演」〈能を再発見する〉にて復曲「賀茂物狂」の初演を行う。

鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。今年度は、狂言「清水」、能「小鍛冶」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に解説を付ける。また前年度に引き続き、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を通常の能楽鑑賞教室から独立させて実施する。

(a) 《公演実績》

公演名	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集千利休生誕 500 年 狂言「通円」、能「八島 弓流・那須」	4/6	実績	1 回	1 日	617 人	98.4%	627	108.2%
月間特集千利休生誕 500 年 狂言「千鳥」、能「俊寛」	4/15	実績	1 回	1 日	608 人	97.0%	627	106.7%
狂言「秀句傘」、能「夕顔 山の端之出」	5/11	実績	1 回	1 日	558 人	89.0%	627	97.9%
狂言「右流左止」、能「須磨源氏 窈」	5/20	実績	1 回	1 日	486 人	77.5%	627	85.3%
狂言「鎌腹」、能「兼平」	6/8	実績	1 回	1 日	620 人	98.9%	627	108.8%
狂言「長光」、能「梅枝」	6/17	実績	1 回	1 日	509 人	81.2%	627	89.3%
月間特集狂乱の系譜 狂言「骨皮」、能「籠太鼓」	7/6	実績	1 回	1 日	603 人	96.2%	627	105.8%
月間特集狂乱の系譜 狂言「御冷」、能「芦刈」	7/20	実績	1 回	1 日	612 人	97.6%	627	107.4%
狂言「鶏泣」、能「自然居士」	9/7	実績	1 回	1 日	618 人	98.6%	627	108.4%
狂言「舎弟」、能「松虫」	9/16	実績	1 回	1 日	578 人	92.2%	627	101.4%
狂言「鎧腹巻」、能「雨月」	10/5	実績	1 回	1 日	621 人	99.0%	627	108.9%
狂言「鶏聲」、能「浮舟 彩色」	10/21	実績	1 回	1 日	611 人	97.4%	627	107.2%
狂言「悪太郎」、能「羽衣 盤渉」	11/9	実績	1 回	1 日	621 人	99.0%	627	108.9%
演出の様々な形 狂言「樋の酒」、能「天鼓 呼出・楽器」	11/18	実績	1 回	1 日	616 人	98.2%	627	108.1%
狂言「素袍落」、能「逆矛 替装束・白頭」	12/7	実績	1 回	1 日	609 人	97.1%	627	106.8%
演出の様々な形 狂言「樋の酒」、能「天鼓 盤渉」	12/16	実績	1 回	1 日	617 人	98.4%	627	108.2%
能「竹生島」、狂言「昆布柿」	1/7	実績	1 回	1 日	623 人	99.4%	627	109.3%
狂言「隠狸」、能「東北」	1/20	実績	1 回	1 日	617 人	98.4%	627	108.2%
月間特集近代絵画と能 狂言「子盗人」、能「瑠羽」	2/15	実績	1 回	1 日	623 人	99.4%	627	109.3%
狂言「左近三郎」、能「采女 美奈保之伝」	3/8	実績	1 回	1 日	621 人	99.0%	627	108.9%
狂言「孫聲」、能「盛久」	3/17	実績	1 回	1 日	611 人	97.4%	627	107.2%
定例公演【小計】 21 公演 (計画:21 公演)		実績	21 回	21 日	12,599 人	95.7%	13,167	105.3%
		計画	21 回	21 日	11,970 人	90.9%	13,167	
月間特集千利休生誕 500 年 解説、狂言「止動方角」、能「車僧」	4/9	実績	1 回	1 日	622 人	99.2%	627	103.7%
解説、狂言「富士松」、能「小袖曾我」	5/14	実績	1 回	1 日	590 人	94.1%	627	98.3%
解説、狂言「船渡聲」、能「養老」	6/11	実績	1 回	1 日	621 人	99.0%	627	103.5%

月間特集狂乱の系譜 解説、狂言「とちはくれ」、能「百万」	7/9	実績	1回	1日	621人	99.0%	627	103.5%	
解説、狂言「昆布売」、能「殺生石」	9/10	実績	1回	1日	620人	98.9%	627	103.3%	
解説、狂言「狐塚」、能「花筐」	10/8	実績	1回	1日	621人	99.0%	627	103.5%	
解説、狂言「附子」、能「大江山」	11/12	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	103.7%	
解説、狂言「内沙汰」、能「竹雪」	12/10	実績	1回	1日	614人	97.9%	627	102.3%	
解説、狂言「鞍」、能「船橋」	1/14	実績	1回	1日	619人	98.7%	627	103.2%	
月間特集近代絵画と能 解説、狂言「釣針」、能「枕慈童」	2/18	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	103.8%	
解説、狂言「磁石」、能「野守」	3/11	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	103.7%	
普及公演【小計】	11公演	(計画:11公演)	実績	11回	11日	6,795人	98.5%	6,897	103.0%
			計画	11回	11日	6,600人	95.7%	6,897	
月間特集千利休生誕 500年 【狂言の会】狂言「雁礫」、狂言「茶壺」、新作狂言「宗旦狐」	4/22	実績	1回	1日	609人	97.1%	627	105.0%	
【特別公演】 能「俊成忠度」、狂言「宗論」、能「綾鼓」	5/28	実績	1回	1日	618人	98.6%	627	106.6%	
【特別公演】祈りのかたち 一調「曙」、脇仕舞「羅生門」、舞囃子「東北」、 狂言「呼声」、能「土蜘蛛 入道之伝・白頭・眷属出之伝・ササガニ」	6/30	実績	1回	1日	621人	99.0%	627	107.1%	
月間特集狂乱の系譜 【特別企画公演】能を再発見する おはなし、復曲「賀茂物狂」	7/28~7/30	実績	2回	2日	1,195人	95.3%	1,254	103.0%	
【企画公演】夏スペシャル働く貴方の能楽公演 おはなし、狂言「入間川」、能「安達原 白頭・急進之出」	8/4	実績	1回	1日	615人	98.1%	627	106.0%	
【企画公演】夏スペシャル親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「伊呂波」、狂言「六地蔵」	8/6	実績	1回	1日	587人	93.6%	627	101.2%	
【企画公演】夏スペシャル素の魅力 独鼓「鶉之段」、仕舞「道明寺」、小舞「道明寺」、袴能 「融 酌之舞」	8/25	実績	1回	1日	617人	98.4%	627	106.4%	
【企画公演】夏スペシャル親子で楽しむ能の会 おはなし、能「舍利」	8/27	実績	1回	1日	600人	95.7%	627	103.4%	
【企画公演】復曲の会 復曲狂言「空腹」、復曲能「薄」	9/23	実績	1回	1日	596人	95.1%	627	102.8%	
【特別公演】 能「野宮」、狂言「謀生種」、能「飛雲」	10/29	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%	
【企画公演】聖徳太子 1400年遠忌によせて 聖徳太子絵伝絵解き、能「夢殿」	11/24	実績	1回	1日	616人	98.2%	627	106.2%	
【企画公演】聖徳太子 1400年遠忌によせて 狂言「太子手鉾」、復曲能世阿弥自筆本による「弱法師」	11/30	実績	1回	1日	617人	98.4%	627	106.4%	
【狂言の会】千利休生誕 500年 狂言「御茶の水」、狂言「禰宜山伏」、狂言「煎物」	12/23	実績	1回	1日	621人	99.0%	627	107.1%	
月間特集近代絵画と能 【企画公演】蠟燭の灯りによる 狂言「吹取」、能「鶉飼」	2/23	実績	1回	1日	619人	98.7%	627	106.7%	
【企画公演】うたと能楽 狂言「連歌盗人」、能「草紙洗小町」	3/25	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	107.2%	
企画公演【小計】	15公演	(計画:15公演)	実績	16回	16日	9,775人	97.4%	10,032	105.3%
			計画	16回	16日	9,280人	92.5%	10,032	
【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「清水」、能「小鍛冶」	6/20~6/24	実績	10回	5日	5,167人	82.4%	6,270	120.2%	
		計画	10回	5日	4,300人	68.6%	6,270		
【外国人のための能楽鑑賞教室】 解説、狂言「墨塗」、能「鍾馗」	10/14	実績	1回	1日	618人	98.6%	627	108.4%	
		計画	1回	1日	570人	90.9%	627		
鑑賞教室【小計】	2公演	(計画:2公演)	実績	11回	6日	5,785人	83.9%	6,897	118.8%
			計画	11回	6日	4,870人	70.6%	6,897	
合計	49公演	(計画:49公演)	実績	59回	54日	34,954人	94.5%	36,993	106.8%
			計画	59回	54日	32,720人	88.4%	36,993	

※劇場は全て能楽堂。

※目標入場者数

定例公演:1 回当たり 570 人(90.9%)
 普及公演:1 回当たり 600 人(95.7%)
 企画公演:1 回当たり 580 人(92.5%)

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を2回開催(2月10日、2回目は書面審議)。
- ・専門家の主な意見は下記のとおり。
 - ◇本年度最大のイベントというべき「復曲・賀茂物狂」。(中略)舞台そのものも密度が高く、観客が集中しているのが感じられた。
 - ◇千利休生誕五百年の企画で茶を関連する狂言三曲通じて、茶の文化の浸透や庶民が日ごろ味わっていた茶の姿を垣間見ることができた。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7公演 7回	4,035人	1,449人	1,449人	1,390人	35.9%	95.9%

※うち1回を「外国人のための能楽鑑賞教室」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。
- ・新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら安全に公演を継続することができた。
- ・4月〈月間特集 千利休生誕500年〉では、茶の湯や茶器などにちなんだ作品を上演した。狂言の会では上演の稀な新作狂言「宗旦狐」を取り上げた。
- ・6月特別公演〈祈りのかたち〉では、令和3年3月皇居外苑で上演予定も荒天で中止となった特別公演を一部再編成して上演することができた。中でも能「土蜘蛛」は新演出での初演であり、大きな成果をあげた。
- ・7月特別企画公演では、後場のみが上演されている「賀茂物狂」を前場も含めて復曲して初演した。平成24年から取り組んできた「再発見する」シリーズの一環としての上演。
- ・9月企画公演〈復曲の会〉では狂言「空腹」の復曲初演と、復曲能「薄」の国立能楽堂での初演をすることができた。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を6月の能楽鑑賞教室から独立させ10月に実施し、日本文化の発信に貢献した。
- ・11月企画公演〈聖徳太子1400年遠忌によせて〉では聖徳太子ゆかりの能・狂言と絵解きを特集上演した。上演機会の稀な能2作品(「夢殿」「世阿弥自筆本による 弱法師」と、現地以外では紹介されることの稀な絵解きを取り上げ、企画性の高い公演となった。
- ・11月・12月定例公演〈演出の様々な形〉では同一曲を異なる流儀で上演、能・狂言の演出の多様な姿を紹介する好機会となった。また11月の「天鼓」は珍しい小書「楽器」での上演とし、レパートリーの拡充にもなった。
- ・4月の〈月間特集・千利休生誕500年〉や2月の〈月間特集・絵画と能・狂言〉などでは、効果的に月間特集を組むことで公演に連続性や関連性を持たせ、観客の注目を集めることができた。
- ・能「天鼓 呼出・楽器」(11月定例公演)・能「逆矛 変装束・白頭」(12月定例公演)などの稀な小書による上演を行い、また「賀茂物狂」(7月特別企画公演)・「薄」(9月企画公演)といった復曲能、復曲狂言「空腹」(9月企画公演)や新作狂言「宗旦狐」(4月狂言の会)などを積極的に取り上げて、レパートリーの拡充を推進した。

【特記事項】

- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演(10月 Discover NOH & KYOGEN)
- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月実施の9公演)
- ・「日本博」参画プロジェクト(4月、6~3月実施の公演)
- ・6月30日特別公演は日本語及び英語でのダイジェスト映像を、また「Discover NOH & KYOGEN」を元に能楽のプロモーション映像を作成し、「国立オンライン劇場」で後日無料配信した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、2月企画公演〈蠟燭の灯りによる〉を除く公演で、日本語・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式、10月に実施した「Discover NOH & KYOGEN」では、字幕表示を6チャンネル方式(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語)により実施した。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。

組踊公演では、「花売の縁」など、長年親しまれてきた作品のみならず、上演機会の少ない仇討物の傑作「北山敵討」や「久志の若按司」、母子の愛を描いた「賢母三遷の巻」を取り上げる。

琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」、人間国宝に認定された2人の舞踊家を中心に構成する「琉球舞踊特選会」のほか、琉球舞踊界の次世代を担う中堅、若手の舞踊家に焦点をあて、それぞれが所属する流会派の持ち味をいかした演目で構成する「琉球舞踊鑑賞会」を上演し、琉球舞踊の魅力を発信する。若手の女性舞踊家、女性地謡のみで構成する「うりずんの舞」、第10回創作舞踊大賞の受賞作品とこれまで受け継がれてきた創作舞踊をあわせて上演する「創作舞踊の会」公演を実施する。

三線音楽公演では、琉球古典音楽に焦点を当てた「古典音楽の美」を上演する。また、琉球弧の島々に伝わる民謡の中から若手実力派の唄い手がそれぞれの「シマ唄」の世界を披露する「唄方～島々の誉れ歌・情け歌・哀れ歌～」を上演する。

沖縄芝居公演では、上演機会の少ない優れた演目として、史劇「玉川王子」を上演する。

民俗芸能公演は、南風原町で保存・継承されてきた数々の芸能から厳選し、「南風原の村遊び」を上演する。

企画公演では、本土の芸能として「千本ゑんま堂狂言」、世界のウチナーンチュ大会の開催時期に合わせ、沖縄芝居の名作から喜劇「トートーメー万歳」を、また、令和3年度第2回新作組踊戯曲大賞の大賞受賞作品「鶴亀の縁～扇のえにし～」を上演し、組踊の新たな魅力を発信する。このほか、アジア・太平洋地域の芸能として「インドネシア・ジャワ島の芸能」、毎年秋の定着「国立劇場寄席」を上演する。

研究公演では、日本本土復帰50周年記念、組踊国指定重要無形文化財50年記念公演として「朝薫五番とからくり花火」を上演する。隣接する組踊公園(屋外)に冊封使歓待に使用された御城舞台を再現し、玉城朝薫の代表作5つを上演する。また、あわせて通算4基目の復元となる「からくり花火」の実演を行う。

普及公演では、組踊の理解を深めるためスクリーンを活用しながら解説を交えて公演を実施する。夏休みの定番となっている親子のための組踊鑑賞教室では「万歳敵討」を、また、小学生から高校生及び学生、一般・団体等を対象とした、組踊鑑賞教室「二童敵討」を上演する。併せて、外国人向けの公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」を実施する。さらに、沖縄芝居鑑賞教室では、当劇場の舞台機構を駆使した「黒島王物語」を上演し、新たな観客層の拡充に努める。他に琉球楽器の歴史や実演など解説を交えながら紹介する「沖縄の音色～うちなー楽器ありんくりん～」を上演する。

(a) 《公演実績》

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
うりずんの舞	おきなわ小劇場	4/9～4/10	実績	2回	2日	331人	72.3%	458	110.3%
			計画	2回	2日	300人	65.2%	460	
組踊「賢母三遷の巻」	おきなわ大劇場	4/23	実績	1回	1日	254人	47.0%	540	81.7%
			計画	1回	1日	311人	57.9%	537	
唄方～島々の誉れ歌・情け歌・哀れ歌～	おきなわ大劇場	5/14	実績	1回	1日	524人	87.3%	600	159.8%
			計画	1回	1日	328人	54.9%	597	
宮城幸子・志田房子人間国宝認定記念「琉球舞踊特選会」	おきなわ大劇場	5/28	実績	1回	1日	568人	94.7%	600	125.9%
			計画	1回	1日	451人	75.0%	601	
組踊「花売の縁」	おきなわ大劇場	6/25	実績	1回	1日	392人	72.6%	540	126.0%
			計画	1回	1日	311人	57.9%	537	
琉球舞踊鑑賞会	おきなわ大劇場	7/9	実績	1回	1日	391人	65.2%	600	100.0%
			計画	1回	1日	391人	65.1%	601	
琉球舞踊「男性舞踊家の会」	おきなわ大劇場	9/24～9/25	実績	2回	2日	764人	63.7%	1,200	90.7%
			計画	2回	2日	842人	70.0%	1,202	
沖縄本島民俗芸能祭		12/11	実績	1回	1日	435人	92.0%	473	121.5%

	おきなわ大劇場		計画	1回	1日	358人	60.0%	597	
組踊「北山敵討」	おきなわ大劇場	12/17	実績	1回	1日	410人	76.5%	536	131.8%
			計画	1回	1日	311人	57.9%	537	
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	おきなわ大劇場	1/14～1/15	実績	2回	2日	772人	64.3%	1,200	98.7%
			計画	2回	2日	782人	65.1%	1,202	
古典音楽の美	おきなわ大劇場	2/18	実績	1回	1日	350人	58.3%	600	106.7%
			計画	1回	1日	328人	54.9%	597	
組踊「久志の若按司」	おきなわ大劇場	2/25	実績	1回	1日	328人	61.2%	536	105.5%
			計画	1回	1日	311人	57.9%	537	
創作舞踊の会	おきなわ大劇場	3/11	実績	1回	1日	352人	58.7%	600	90.0%
			計画	1回	1日	391人	65.1%	601	
史劇「玉川王子」	おきなわ大劇場	3/25～3/26	実績	2回	2日	630人	65.8%	957	107.1%
			計画	2回	2日	588人	62.6%	940	
定期公演【小計】	14公演	(計画:14公演)	実績	18回	18日	6,501人	68.9%	9,440	108.3%
			計画	18回	18日	6,003人	62.9%	9,546	
千本ゑんま堂狂言	おきなわ大劇場	6/12	実績	1回	1日	300人	50.0%	600	67.0%
			計画	1回	1日	448人	75.0%	597	
喜劇「トートーメー万歳」	おきなわ大劇場	10/29～10/30	実績	2回	2日	539人	44.5%	1,211	69.5%
			計画	2回	2日	776人	65.0%	1,194	
国立劇場寄席	おきなわ大劇場	11/12	実績	1回	1日	305人	50.8%	600	68.1%
			計画	1回	1日	448人	75.0%	597	
アジア・太平洋地域の芸能	おきなわ大劇場	11/6	実績	1回	1日	261人	45.1%	579	72.9%
			計画	1回	1日	358人	60.0%	597	
新作組踊	おきなわ大劇場	1/28	実績	1回	1日	437人	82.1%	532	125.2%
			計画	1回	1日	349人	65.0%	537	
企画公演【小計】	5公演	(計画:5公演)	実績	6回	6日	1,842人	52.3%	3,522	77.4%
			計画	6回	6日	2,379人	67.5%	3,522	
朝薫五番	屋外舞台、おきなわ大劇場	10/14	実績	3回	3日	1,490人	85.5%	1,742	123.2%
			計画	3回	3日	1,209人	75.0%	1,611	
研究公演【小計】	1公演	(計画:1公演)	実績	3回	3日	1,490人	85.5%	1,742	123.2%
			計画	3回	3日	1,209人	75.0%	1,611	
琉球舞踊鑑賞教室	おきなわ大劇場	7/23	実績	1回	1日	351人	72.5%	484	88.2%
			計画	1回	1日	398人	65.0%	612	
親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	おきなわ大劇場	8/6～8/7	実績	2回	2日	303人	27.5%	1,102	42.2%
			計画	2回	2日	718人	65.0%	1,104	
沖縄の音色～うちな一楽器ありんくりん～	おきなわ大劇場	8/20	実績	1回	1日	267人	44.5%	600	68.8%
			計画	1回	1日	388人	65.0%	597	
沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」	おきなわ大劇場	9/15～9/17	実績	3回	3日	816人	56.2%	1,452	83.7%
			計画	3回	3日	975人	67.0%	1,455	
組踊鑑賞教室「二重敵討」	おきなわ大劇場	11/16～11/19	実績	7回	4日	2,441人	63.3%	3,857	93.5%
			計画	7回	4日	2,612人	67.6%	3,864	
普及公演【小計】	5公演	(計画:5公演)	実績	14回	11日	4,178人	55.7%	7,495	82.1%
			計画	14回	11日	5,091人	66.7%	7,632	
合計	25公演	(計画:25公演)	実績	41回	38日	14,011人	63.1%	22,199	95.4%
			計画	41回	38日	14,682人	65.8%	22,311	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演事業委員会を8月と3月に2回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
24公演 36回	7,705人	5,196人	4,354人	4,213人	67.4%	96.8%

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・公演制作においては、出演者等関係者に対し新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したことにより、今年度に計画した全ての公演を上演することができた。
- ・研究公演では、日本本土復帰50周年及び組踊国指定重要無形文化財50年記念公演として劇場に隣接する組踊公園に冊封使を歓待した当時の御城舞台を復元し「朝薫五番とからくり花火」公演として3日間で5つの玉城朝薫作品と入子躍を上演した。また、復元した「からくり花火」(4基目)を実演した。組踊の発展に寄与する研究公演として意義深い研究公演となった。
- ・企画公演では、新型コロナウイルスの影響もあり、海外からの招聘が不可能なため、国内で活躍している実演家で企画し「アジア・太平洋地域の芸能」公演を実施した。
- ・令和3年度に実施した第2回新作組踊戯曲大賞の大賞受賞作品「鶴亀の縁〜扇のえにし〜」を上演した。
- ・琉球舞踊公演では、琉球舞踊家2人の人間国宝認定記念公演を実施し、国指定重要無形文化財である琉球舞踊を県内外にアピールした。また、第10回創作舞踊大賞の受賞4作品とこれまで受け継がれてきた創作舞踊を併せて上演する「創作舞踊の会」公演を実施した。
- ・組踊公演では、上演機会が少ない優れた演目として、「賢母三遷の巻」、「北山敵討」を上演した。
- ・普及公演では、「沖縄の音色〜うちな一楽器ありんくりん〜」公演を琉球楽器の歴史や実演など解説を交えながら実施した。公演終了後には、新型コロナウイルス感染対策を徹底した上で、ハワイエで出演者による楽器の演奏体験を実施した。
- ・日本博関連予算で、普及公演(2公演実施)、研究公演(1公演実施)において、多言語オーディオガイド、タブレットの貸し出しを行った。

【特記事項】

- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演(11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭協賛公演(10月研究公演「朝薫五番」、10月企画公演「トートーメー万歳」、11月企画公演「国立劇場寄席」、11月普及公演「二童敵討」)
- ・日本博主催・共催型プロジェクト(5月定期公演 琉球舞踊公演「琉球舞踊特選会」、6月定期公演 組踊「花売の縁」、7月普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」、8月普及公演「親子のための組踊鑑賞教室 万歳敵討」、8月普及公演「沖縄の音色〜うちな一楽器ありんくりん〜」、9月普及公演「沖縄芝居鑑賞教室 黒島王物語」、10月研究公演「朝薫五番とからくり花火」、11月普及公演「組踊鑑賞教室 二童敵討」、1月定期公演 琉球舞踊公演「琉球舞踊特選会」)
- ・24公演において、字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。(「国立劇場寄席」を除く)
- ・多言語音声ガイド(2言語：英語・日本語)機器の無料貸出(多言語での操作説明ができる人員も配置)(8月普及公演「親子のための組踊鑑賞教室 万歳敵討」、10月研究公演「朝薫五番とからくり花火」)
- ・多言語音声ガイド(4言語：英語・中国語・韓国語・日本語)機器、字幕タブレット(6言語：英語・中国語(簡体・繁体)・韓国語・スペイン語・ポルトガル語)の無料貸出(多言語での操作説明ができる人員も配置)や英語通訳のある外国人のための組踊ワークショップを実施した(11月普及公演「はじめての組踊〜Discover KUMIODORI〜「二童敵討」」、参加者18名、内外国人2名)。

イ 演目の拡充

① 歌舞伎

(a) 復活等上演時の「国立劇場文芸研究会」による補綴

- ・初春歌舞伎公演「遠山桜天保日記」では、大正9年4月明治座所演以来となる場面(花川戸須崎政五郎内稽古所の場)を復活するなど、原作に立ち返って台本を細部まで見直し、また大詰に華やかな踊りの場面(河原崎座初芝居の場)を新たに創作した。

(b) 新作歌舞伎脚本の周知・募集のための準備

- ・次年度の脚本募集開始に向け、告知展開のプランを検討し、広告媒体料金やインターネット検索実績等の調査を行った。

(c) 上演機会の少ない場面の上演

- ・3月歌舞伎公演で「一條大蔵譚」を上演するにあたり、上演機会の稀な「曲舞」を取り上げた。初代中村吉右衛門が残した書き抜きや、芸談等の資料を手掛かりに台本を作成し、播磨屋の芸の復元を目指した。

② 文楽

(a) 新作の上演に向けた上演台本作成作業

- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演では、平成24年に文楽劇場で初演した新作文楽「鈴の音」について、台本及び演出の再検討を行ったうえで再演し、配役も世代交代を図ってレパートリー化を進めた。

(b) 上演が途絶えていた場面の復活上演のための準備

- ・文楽劇場4月文楽公演第二部において「摂州合邦辻」万代池の段を17年ぶりに上演するにあたり、上演台本の整理を行った。
- ・「木下蔭狭間合戦」竹中砦の段(七之巻)の口の復曲を豊竹呂勢太夫と鶴澤藤蔵に依頼している。作業完了後、引き続き「熱田社の段」(六之巻)の復曲を予定している。
- ・平成15年に文楽劇場の邦楽公演で取り上げた「木下蔭狭間合戦」の未上演部分の復活が可能か否か上演資料の検討を文楽技芸員と行った。

(c) 上演機会の少ない場面の上演等

- ・本館9月文楽公演において「碁太平記白石嘶」逆井村の段を51年ぶりに上演した。
- ・文楽劇場初春文楽公演第二部「義経千本桜」すしやの段において、初演(1747年)以来ほとんど上演されてこなかった初演の台本を採用し、親弥左衛門の過去が息子のいがみの権太の放埒の原因になっていることが理解できる内容とした。

③ 邦楽

(a) 新作委嘱作品の上演

- ・本館6月邦楽公演において、打楽器を中心とした現代曲「虚階都市」を初演した。

(b) 上演が途絶えていた作品の復曲作業並びに復活上演

- ・7月特別企画公演において、音源が残っていなかった「ルールエー節」、「汽車の旅」を復活上演した。

④ 大衆芸能

(a) 上演機会の少ない優れた演目の上演

- ・2月特別企画公演「圓朝に挑む!」で、三遊亭圓馬が、江戸落語を集大成し近代落語の祖とされる三遊亭圓朝作の長編『後開榛名の梅が香』より、盗賊の安中草三郎が脱獄する件りを「安中草三～牢破り～」として長講で熟演し、好評を得た。

⑤ 能楽

(a) 国立能楽堂制作による復曲作品の初演

- ・7月特別企画公演 復曲「賀茂物狂」
- ・9月企画公演 復曲狂言「空腹」

(b) 他の能楽堂等で上演された新作及び復曲作品の再演

- ・4月狂言の会 新作狂言「宗旦狐」
- ・9月企画公演 復曲能「薄」
- ・11月企画公演 復曲能「世阿弥自筆本による 弱法師」

(c) 国立能楽堂制作による新演出の初演

- ・6月特別公演 「土蜘蛛」の小書「眷属出之伝」

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

(a) 当時の演出様式に検証を加えた実験的な上演(朝薫五番と入子踊り)

- ・ 10月研究公演 朝薫五番とからくり花火

(b) 上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

《上演機会が少ない優れた演目の上演》

- ・ 4月定期公演 組踊「賢母三遷の巻」
- ・ 9月普及公演 沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」
- ・ 10月企画公演喜劇「トートーメー万歳」
- ・ 12月組踊公演「北山敵討」
- ・ 3月沖縄芝居公演 史劇「玉川王子」

《新作の上演・再演》

- ・ 1月企画公演 鶴亀の縁～扇のえにし～

(c) 「創作舞踊大賞」の公募・選考・表彰

- ・ 沖縄伝統芸能の振興に資するため、当劇場から新たな「創作舞踊(琉球舞踊)」を創造・発信することを目的に「創作舞踊大賞」を実施した。

- ◇ 大賞 該当作品なし
- ◇ 奨励賞 「松喬の寿」嘉数幸雅
- ◇ 奨励賞 「愛し ヲナリ神」具志幸大
- ◇ 奨励賞 「神御衣あけ」高嶺美和子
- ◇ 佳作 「月の舟」真境名由佳子

(d) 効果的な映像活用や沖縄県等との連携(国民文化祭、世界のウチナーンチュ大会)

- ・ 美ら島おきなわ文化祭2022及び第7回世界のウチナーンチュ大会連携イベントとして、イベント期間中の事業については連携して告知を行った。
- ・ 美ら島おきなわ文化祭連携イベント(10月研究公演「朝薫五番とからくり花火」、10月企画公演 喜劇「トートーメー万歳」、11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」、11月企画公演「国立劇場寄席」、11月普及公演 組踊鑑賞教室「二童敵討」、11月普及公演 はじめての組踊～Discover KUMIODORI～「二童敵討」)
- ・ 世界のウチナーンチュ大会連携イベント(10月研究公演「朝薫五番とからくり花火」、10月企画公演 喜劇「トートーメー万歳」、11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」、11月普及公演 組踊鑑賞教室「二童敵討」、11月普及公演 はじめての組踊～Discover KUMIODORI～「二童敵討」)
- ・ その他、国立劇場おきなわの知名度向上のためのイメージ映像等を作成し、無料配信した。
 - ◇ 組踊・琉球舞踊の化粧【リュウカツチュウコラボ】
 - ◇ 組踊ゆかりの地を巡る in 勝連城跡【リュウカツチュウコラボ】

(2) 現代舞台芸術の公演	p.50
①オペラ	p.52
②バレエ	p.54
③現代舞踊	p.56
④演劇	p.57

2 - (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演、振興、普及

ア オペラ公演：名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品の上演、日本の作曲家の作品の上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、オペラの振興と普及

イ バレエ公演：スタンダードな作品を新国立劇場バレエ団を主体に上演、国内外の振付家による質の高い新国立劇場オリジナル作品の企画・上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、バレエの振興と普及

ウ 現代舞踊公演：特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品、国内外で高い評価を得ている作品等の上演、現代舞踊の振興と普及

エ 演劇公演：新作上演を企画・発信、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流、現代演劇の振興と普及

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施

《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 現代舞台芸術の公演の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	28 公演 (H25-29 実績平均：30.2 公演)
2-6 現代舞台芸術の公演について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	

《公演実績(現代舞台芸術分野総計)》(新型コロナウイルス感染症による公演中止を勘案)

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
オペラ	11公演(計画:11公演) オペラ劇場	実績	50回	50日	66,039人	76.8%	86,024	94.5%
		計画	50回	50日	69,900人	81.3%	86,024	
バレエ	7公演(計画:7公演) オペラ劇場	実績	56回	41日	80,255人	84.8%	94,592	114.5%
		計画	54回	41日	70,100人	76.9%	91,148	
現代舞踊	3公演(計画:3公演) 中劇場、小劇場	実績	10回	8日	5,426人	85.6%	6,342	115.4%
		計画	10回	8日	4,700人	77.2%	6,088	
演劇	7公演(計画:7公演) 中劇場、小劇場	実績	109回	98日	28,191人	58.0%	48,612	81.4%
		計画	109回	98日	34,644人	71.6%	48,414	
合計	28公演 (計画:28公演)	実績	225回	197日	179,911人	76.4%	235,570	100.3%
		計画	223回	197日	179,344人	77.4%	231,674	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注)

(注)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

《公演実績(現代舞台芸術分野総計)》(年度当初の公演計画)

分野名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
オペラ	11公演(計画:11公演) オペラ劇場	実績	50回	50日	66,039人	76.8%	86,024	94.5%
		計画	50回	50日	69,900人	81.3%	86,024	
バレエ	7公演(計画:7公演) オペラ劇場	実績	56回	41日	80,255人	84.8%	94,592	114.5%
		計画	54回	41日	70,100人	76.9%	91,148	
現代舞踊	3公演(計画:3公演) 中劇場、小劇場	実績	10回	8日	5,426人	85.6%	6,342	115.4%
		計画	10回	8日	4,700人	77.2%	6,088	
演劇	7公演(計画:7公演) 中劇場、小劇場	実績	109回	98日	28,191人	58.0%	48,612	77.9%
		計画	116回	105日	36,200人	71.4%	50,668	
合計	28公演 (計画:28公演)	実績	225回	197日	179,911人	76.4%	235,570	99.5%
		計画	230回	204日	180,900人	77.3%	233,928	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

① オペラ

《制作方針》

- 1、名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

(a) 《公演実績》

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「ばらの騎士」	オペラ 劇場	4/3～4/12	実績	4回	4日	5,241人	75.9%	6,904	98.9%
			計画	4回	4日	5,300人	76.8%	6,904	
「魔笛」	オペラ 劇場	4/16～4/24	実績	5回	5日	6,620人	76.7%	8,630	108.5%
			計画	5回	5日	6,100人	70.7%	8,630	
「オルフェオとエウリディーチェ」 (新制作)	オペラ 劇場	5/19～5/22	実績	3回	3日	4,361人	84.2%	5,178	99.1%
			計画	3回	3日	4,400人	85.0%	5,178	
「ペレアスとメリザンド」(新制作)	オペラ 劇場	7/2～7/17	実績	5回	5日	6,338人	73.4%	8,630	102.2%
			計画	5回	5日	6,200人	71.8%	8,630	
「ジュリオ・チェザレ」(新制作)	オペラ 劇場	10/2～10/10	実績	4回	4日	5,620人	81.4%	6,904	95.3%
			計画	4回	4日	5,900人	85.5%	6,904	
「ボリス・ゴドゥノフ」(新制作)	オペラ 劇場	11/15～11/26	実績	5回	5日	5,823人	67.5%	8,630	83.2%
			計画	5回	5日	7,000人	81.1%	8,630	
「ドン・ジョヴァンニ」	オペラ 劇場	12/6～12/13	実績	5回	5日	6,676人	77.4%	8,630	96.8%
			計画	5回	5日	6,900人	80.0%	8,630	
「タンホイザー」	オペラ 劇場	1/28～2/11	実績	5回	5日	7,199人	83.4%	8,630	96.0%
			計画	5回	5日	7,500人	86.9%	8,630	
「ファルスタッフ」	オペラ 劇場	2/10～2/18	実績	4回	4日	4,317人	62.5%	6,904	78.5%
			計画	4回	4日	5,500人	79.7%	6,904	
「ホフマン物語」	オペラ 劇場	3/15～3/21	実績	4回	4日	4,422人	64.0%	6,904	79.0%
			計画	4回	4日	5,600人	81.1%	6,904	
オペラ公演【小計】	10公演 (計画:10公演)		実績	44回	44日	56,617人	74.6%	75,944	93.7%
			計画	44回	44日	60,400人	79.5%	75,944	
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022 「蝶々夫人」	オペラ 劇場	7/8～7/16	実績	6回	6日	9,422人	93.5%	10,080	99.2%
			計画	6回	6日	9,500人	94.2%	10,080	
オペラ鑑賞教室【小計】	1公演 (計画:1公演)		実績	6回	6日	9,422人	93.5%	10,080	99.2%
			計画	6回	6日	9,500人	94.2%	10,080	
合計	11公演 (計画:11公演)		実績	50回	50日	66,039人	76.8%	86,024	94.5%
			計画	50回	50日	69,900人	81.3%	86,024	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
11公演 50回	-	-	8,014人	6,501人	-	81.1%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」では鑑賞校にアンケートを配布し、後日回収した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、財団独自に策定したガイドラインに基づく感染症対策を徹底して11公演50回のオペラ公演を実施することができた。
- ・実施した公演ではいずれも新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら高い水準で上演することができた。
- ・ロシア・オペラの金字塔「ボリス・ゴドゥノフ」、バロック・オペラシリーズとして「オルフェオとエウリディーチェ」、「ジュリオ・チェーザレ」を新制作上演し、新国立劇場に不足していた分野の充実に努めた他、フランス・オペラとして「ペレアスとメリザンド」を新制作上演した。「ボリス・ゴドゥノフ」はポーランド国立歌劇場、「ペレアスとメリザンド」はエクサンプロヴァンス音楽祭、ポーランド国立歌劇場との共同制作として実施し、劇場間の国際交流に努めた。
- ・日本博主催・共催型プロジェクト採択事業として高校生のためのオペラ鑑賞教室2022「蝶々夫人」を上演した。
- ・4作品の新制作上演、大野和士芸術監督の音楽性、レパートリー作品の充実、新国立劇場合唱団の外部出演での活躍等が評価され、新国立劇場オペラ部門が2022年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞 オペラ・オーケストラ部門を受賞した。
- ・新型コロナウイルス感染症による入国制限が緩和され、海外からの招聘キャストのほとんどが予定通り出演することができた。また、コロナ禍の中で出演機会が大幅に増加した日本人歌手も引き続き重要な役で出演し、国内の優れた芸術家の存在を発信した。
- ・「ペレアスとメリザンド」イニョルド(九嶋香奈枝)、「ジュリオ・チェーザレ」トロメーオ(藤木大地)、クーリオ(駒田敏章)、「ドン・ジョヴァンニ」マゼット(近藤圭)、「ファルスタッフ」フェントン(村上公太)など、年度を通じてオペラ研修所修了生を起用し、その高い実力を示すことができた。
- ・日本語字幕を表示に加え、令和元年度から実施している全てのオペラ公演での英語字幕の設置を引き続き実施した。併せて、公演プログラムには従来のあらすじとクレジットに加え、プロフィールや解説にも英文ページを増やし、外国人観客の公演環境整備を更に推進した。

【特記事項】

- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演(「ジュリオ・チェーザレ」)
- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭協賛公演(「ボリス・ゴドゥノフ」)
- ・文化庁委託事業「令和3年度戦略的芸術文化創造推進事業」(「ボリス・ゴドゥノフ」)
- ・「日本博」令和4年度主催・共催型プロジェクト(高校生のためのオペラ鑑賞教室2022「蝶々夫人」)
- ・Arts for the future!2(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)(「ばらの騎士」)
- ・全公演において、字幕による歌詞の日本語訳及び英語訳を表示した。
- ・Opera Visionにおいて「ボリス・ゴドゥノフ」(令和4年11月収録)を無料配信している(3/25~9/24)。
- ・NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」において「魔笛」(令和4年4月収録)が放送された(7/1、1/6(再放送))。
- ・NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」において「タンホイザー」(令和5年1月収録)が放送された(3/17)。

② バレエ

《制作方針》

- 1、スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

(a) 《公演実績》

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「シンデレラ」	オペラ 劇場	4/30～5/5	実績	6回	5日	9,714人	94.0%	10,332	113.0%
			計画	6回	5日	8,600人	83.2%	10,332	
「不思議の国のアリス」	オペラ 劇場	6/3～6/12	実績	10回	8日	15,844人	92.0%	17,220	121.9%
			計画	10回	8日	13,000人	75.5%	17,220	
「ジゼル」(新制作)	オペラ 劇場	10/21～10/30	実績	9回	7日	13,648人	88.1%	15,498	125.2%
			計画	9回	7日	10,900人	70.3%	15,498	
「くるみ割り人形」	オペラ 劇場	12/23～1/3	実績	13回	9日	20,835人	93.1%	22,386	125.5%
			計画	12回	9日	16,600人	80.3%	20,664	
「ニューイヤー・バレエ」	オペラ 劇場	1/13～1/15	実績	4回	3日	5,483人	79.6%	6,888	109.7%
			計画	4回	3日	5,000人	72.6%	6,888	
「コッペリア」	オペラ 劇場	2/23～2/26	実績	6回	4日	9,281人	89.8%	10,332	132.6%
			計画	5回	4日	7,000人	81.3%	8,610	
バレエ公演【小計】	6公演 (計画:6公演)		実績	48回	36日	74,805人	90.5%	82,656	122.4%
			計画	46回	36日	61,100人	77.1%	79,212	
こどものためのバレエ劇場 2022 「ペンギン・カフェ」	オペラ 劇場	7/27～7/31	実績	8回	5日	5,450人	45.7%	11,936	60.6%
			計画	8回	5日	9,000人	75.4%	11,936	
バレエ鑑賞教室【小計】	1公演 (計画:1公演)		実績	8回	5日	5,450人	45.7%	11,936	60.6%
			計画	8回	5日	9,000人	75.4%	11,936	
合計	7公演 (計画:7公演)		実績	56回	41日	80,255人	84.8%	94,592	114.5%
			計画	54回	41日	70,100人	76.9%	91,148	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7公演 56回	-	-	1,783人	1,719人	-	96.4%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 今年度の後半は、吉田都芸術監督の3期目のシーズンにあたり、新制作「ジゼル」や、2020年度に公演中止となった「不思議の国のアリス」(再演)の改めての上演をはじめとする公演の成功、バレエ団の実力向上を図ることができた。
- ・ 「ジゼル」の新制作をはじめとして7公演(本公演6公演、こどもバレエ1公演)を計画通り実施した。
- ・ ロマンティック・バレエの傑作「ジゼル」を新制作し、高い評価を得た。また、「シンデレラ」に加えて、2021年に新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり無観客ライブ配信を実施して大きな反響を得た「コッペリア」、2018年に初演し2020年に再演を予定していた「不思議の国のアリス」を改めて上演した。「くるみ割り人形」は2021年度に続いてお正月期間を含めて年末年始を通じて上演し、独立行政法人化以降のバレエ公演での過去最高の動員数を更新した。

- ・絶滅危惧種の動物等が搭乗するバレエ「ペンギン・カフェ」をこどものためのバレエ劇場として上演し、併せて国立科学博物館・多摩動物公園の協力を得て絶滅危惧種等について専門家によるトークショーや会場内での展示を行った。子どもたちに作品を楽しむだけでなくそこに込められたメッセージや社会とのつながりにも目を向けることを伝える企画で、外部専門家等からも高く評価された。
- ・新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまで遺憾無く実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団の層の厚さをアピールすることができ、観客から高い支持を得た。また、外部専門家等からも評価を受けた。
- ・SNS(Twitter、Instagram、Facebook)を活用し、リハーサル風景や公演の様子等を積極的に映像・写真で掲載したり、映像広告を出稿したりすることで、当該公演やバレエ団への興味喚起・認知度の向上に貢献した。
- ・令和4年度(第73回)芸術選奨において、新国立劇場バレエ団のプリンシパルダンサー福岡雄大が文部科学大臣賞を受賞した。

【特記事項】

- ・令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演(「ジゼル」)
- ・「白鳥の湖」がNHK BS4K「プレミアムシアター」で放送された(1/3)。

③ 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

(a) 《公演実績》

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
森山開次「新版・NINJA」	中劇場	6/25～6/26	実績	3回	2日	2,219人	84.2%	2,634	123.3%
			計画	3回	2日	1,800人	76.1%	2,364	
新国立劇場バレエ団「春の祭典」	中劇場	11/25～11/27	実績	3回	3日	2,126人	89.9%	2,364	118.1%
			計画	3回	3日	1,800人	76.1%	2,364	
新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future 2023」	小劇場	3/24～3/26	実績	4回	3日	1,081人	80.4%	1,344	98.3%
			計画	4回	3日	1,100人	80.9%	1,360	
合計	3公演 (計画:3公演)		実績	10回	8日	5,426人	85.6%	6,342	115.4%
			計画	10回	8日	4,700人	77.2%	6,088	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
3公演 10回	-	-	185人	165人	-	89.2%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 森山開次「新版・NINJA」、新国立劇場バレエ団「春の祭典」、新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future 2023」を計画通り実施した。
- ・ 新国立劇場バレエ団の「NBJ Choreographic Group」から生まれた作品を上演し、クラシックバレエとは異なる側面を観客に提示できたほか、国内の優れた創作グループの作品を広く紹介することができた。

【特記事項】

- ・ 令和4年度(第77回)文化庁芸術祭協賛公演(新国立劇場バレエ団「春の祭典」)
- ・ 日本博主催・共催型プロジェクト採択事業(新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future 2023」)

④ 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

(a) 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止を勘案)

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
シリーズ「声議論,正論,極論,批判,対話...の物語」 Vol.1「アンチボデス」 ※一部中止(4/3~13)	小劇場	4/3~4/24	実績	11回	10日	2,601人	69.5%	3,740	106.4%
			計画	11回	10日	2,444人	69.0%	3,542	
シリーズ「声議論,正論,極論,批判,対話...の物語」 Vol.2「ロビー・ヒーロー」	小劇場	5/1~5/22	実績	18回	17日	3,309人	57.1%	5,796	82.7%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
シリーズ「声議論,正論,極論,批判,対話...の物語」 Vol.3「貴婦人の来訪」	小劇場	6/1~6/19	実績	18回	17日	3,950人	68.2%	5,796	98.8%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
海外招聘公演「ガラスの動物園」	中劇場	9/28~10/2	実績	6回	5日	5,434人	89.8%	6,048	104.5%
			計画	6回	5日	5,200人	86.0%	6,048	
新国立劇場開場 25 周年記念公演 「レオポルトシュタット」	中劇場	10/14~10/31	実績	20回	16日	7,993人	51.1%	15,640	72.7%
			計画	20回	15日	11,000人	70.3%	15,640	
【未来につながるもの】新作 I 「私の一ヶ月」	小劇場	11/2~11/20	実績	18回	17日	2,266人	39.1%	5,796	56.7%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
【未来につながるもの】新作 II 「夜明けの寄り鯨」	小劇場	12/1~12/18	実績	18回	16日	2,638人	45.5%	5,796	66.0%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
合計	7公演 (計画:7公演)		実績	109回	98日	28,191人	58.0%	48,612	81.4%
			計画	109回	98日	34,644人	71.6%	48,414	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注)

(注)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
シリーズ「声議論,正論,極論,批判,対話...の物語」 Vol.1「アンチボデス」 ※一部中止(4/3~13)	小劇場	4/3~4/24	実績	11回	10日	2,601人	69.5%	3,740	65.0%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
シリーズ「声議論,正論,極論,批判,対話...の物語」 Vol.2「ロビー・ヒーロー」	小劇場	5/1~5/22	実績	18回	17日	3,309人	57.1%	5,796	82.7%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
シリーズ「声議論,正論,極論,批判,対話...の物語」 Vol.3「貴婦人の来訪」	小劇場	6/1~6/19	実績	18回	17日	3,950人	68.2%	5,796	98.8%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
海外招聘公演「ガラスの動物園」	中劇場	9/28~10/2	実績	6回	5日	5,434人	89.8%	6,048	104.5%
			計画	6回	5日	5,200人	86.0%	6,048	
新国立劇場開場 25 周年記念公演 「レオポルトシュタット」	中劇場	10/14~10/31	実績	20回	16日	7,993人	51.1%	15,640	72.7%
			計画	20回	15日	11,000人	70.3%	15,640	
【未来につながるもの】新作 I 「私の一ヶ月」	小劇場	11/2~11/20	実績	18回	17日	2,266人	39.1%	5,796	56.7%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
【未来につながるもの】新作 II 「夜明けの寄り鯨」	小劇場	12/1~12/18	実績	18回	16日	2,638人	45.5%	5,796	66.0%
			計画	18回	17日	4,000人	69.0%	5,796	
合計	7公演 (計画:7公演)		実績	109回	98日	28,191人	58.0%	48,612	77.9%
			計画	116回	105日	36,200人	71.4%	50,668	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7公演 109回	-	-	1,038人	923人	-	88.9%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、「アンチポデス」プレビュー公演2公演、本公演5公演の中止を除き、7演目109回公演を実施した。
- ・ 当初2020年の上演を予定し、新型コロナウイルス感染症の影響を受け2021年の上演を再計画したものの上演が叶わなかった海外招聘公演「ガラスの動物園」を、満を持して上演した。
- ・ 英国ロイヤルコート劇場と協力し、若手劇作家が参加して1年間・3段階にわたるワークショップを通じて新作戯曲を執筆・ブラッシュアップしていく「ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」の成果として、「私の一ヶ月」を上演した。
- ・ 「ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」の成果として、英国ロンドンにおいて「New Plays: Japan(新作: 日本)」と題して、小高知子作『真夜中とよぶにはまだはやい』(英題: Not Yet Midnight)、千葉沙織作『その先、鬼五郎溪谷につき、』(英題: Onigorou Valley)、松村翔子作『28時01分』(英題: 28 hours 01 minute)の3作品のリーディング公演をロイヤルコート劇場との共催で実施した。
- ・ 「ロビー・ヒーロー」「ガラスの動物園」「レオポルトシュタット」各公演に付随して、視覚・聴覚に障害のある方々への観劇サポート(文化庁委託事業「令和4年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)」)を実施した。特に「ガラスの動物園」上演(フランス語上演)にあたっては、全公演に日本語及び英語のバリアフリー字幕の表示を行った。
- ・ 「私の一ヶ月」「夜明けの寄り鯨」の一部公演において手持ち型ポータブル字幕機によって英語字幕を表示した。
- ・ 公演に付随して実施してきた企画「ギャラリープロジェクト」を、令和4年度においては全てオンライン配信にて実施し、来場者だけでなく劇場に足を運ばない層にも訴求する企画を実施した。
- ・ 「レオポルトシュタット」の衣裳を手掛けた前田文子が第30回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞を受賞した(「レオポルトシュタット」ほかの衣裳に対して)。
- ・ 「貴婦人の来訪」の演出を手掛けた五戸真理枝が第30回読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞した(「貴婦人の来訪」ほかの演出に対して)。

【特記事項】

- ・ 令和4年度(第77回)文化庁芸術祭協賛公演(「私の一ヶ月」)
- ・ 日本博主催・共催型プロジェクト(「私の一ヶ月」「夜明けの寄り鯨」)
- ・ 「タージマハルの衛兵」(2019年12月)が「プレミアムステージ」にて放送された(4/3)。

(3) 青少年等を対象とした公演

- (3) 青少年等を対象とした公演 ————— p.59
 - ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした
公演・入門企画(伝統芸能分野) ————— p.60
 - イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野) —p.63
 - ウ 外国人を対象とした公演・入門企画 ————— p.64

(4)伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の 実施に際しての留意事項等

- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等
 - 〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等 ————— p.66
 - 〈2〉 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等 —— p.74

2 - (3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、(1)の中で主に青少年を対象とした公演を実施するほか、社会人や親子を対象とする入門企画を実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、(2)の中で主に青少年を対象とした公演を実施
- ウ 2020年東京大会に向けた文化プログラム実施の中核的拠点として、外国人向けの公演や普及的な企画を充実

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表4のとおり実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する
- ウ 外国人を対象とした公演・入門企画を別表5のとおり実施

《中期目標の指標・関連指標》

<p>2-4 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数 (前中期目標期間実績の維持)</p>	<p>[伝統芸能分野] 青少年：112,522人 (H25-29実績平均：162,410.2人)</p> <p>社会人・親子等：38,933人 (H26-29実績平均：43,399.8人)</p> <p>[現代舞台芸術分野] 17,091人 (H25-29実績平均：25,986.8人)</p>
<p>2-5 外国人向け公演の入場者数 (前中期目標期間実績以上)</p>	<p>[伝統芸能分野] 2,635人 (H28-29実績平均：3,397.7人)</p>

ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は、義太夫狂言の名作『彦山権現誓助剣ー毛谷村ー』を、7月は、信州戸隠山の鬼女伝説を題材にした歌舞伎舞踊の人気曲『紅葉狩』を、親しみやすい内容の解説を付して上演することにより、歌舞伎の普及振興を図る。さらに3月は、「歌舞伎名作入門」と銘打ち、『鬼一法眼三略巻』から「一條大蔵譚(曲舞・奥殿)」「五條橋」を解説付きの一般向け入門公演として実施する。また、文楽鑑賞教室では、「絵本太功記」を上演し、実演を交えた解説を付け鑑賞の一助とする。なお、各教室において開演時間を遅く設定した社会人のための公演を上演するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を上演する。

演芸場では、毎年開催している7月「親子で楽しむ演芸会」の公演回数を増やして2日2回開催する。あわせて公演日両日とも開演前に親子の入場者を対象としてマジックのワークショップを行う。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、内容の分かりやすい狂言「清水」、能の人気曲「小鍛冶」に、学生が親しみを持てるよう解説を付ける。8月に「働く貴方の能楽公演」「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら、新たな観客層を開拓する。

文楽劇場では、青少年や観劇経験の少ない層に対して文楽鑑賞教室を実施する。「二人三番叟」を上演して文楽の舞台に触れた後、「文楽へようこそ」と題して人形遣いの実演解説を行う。最後に名作鑑賞として「仮名手本忠臣蔵」二つ玉の段、身売りの段、早野勘平腹切の段を上演し、文楽の普及振興を図る。また、夏休み文楽特別公演では三部制の第1部を「親子劇場」と題し、より低年齢層とその保護者に文楽に親しめるように、動物が活躍する「鈴の音」、「ぶんらくってなあに」と題した三人遣いの人形の遣い方の解説を行う。そして現代語による文楽「瓜子姫とあまんじゃく」を上演し、新たな観客層の開拓につとめる。

国立劇場おきなわでは、8月には親子、11月には一般及び主として中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。公演では、組踊の上演前に理解を深めるために、案内役がスクリーンを活用しながら組踊の解説を行う。また、9月には沖縄芝居の魅力を広めるため「沖縄芝居鑑賞教室」を上演する。

① 公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名		劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「彦山権現誓助剣ー毛谷村ー」	本館 大劇場	6/2~6/21	実績	36回	18日	32,568人	60.0%	54,324	87.5%
				計画	36回	18日	37,210人	68.5%	54,324	
	7月歌舞伎鑑賞教室 「紅葉狩」	本館 大劇場	7/3~7/27	実績	46回	23日	46,452人	66.9%	69,414	85.0%
				計画	46回	23日	54,630人	78.7%	69,414	
文楽	12月文楽鑑賞教室 「絵本太功記」	本館 小劇場	12/6~12/19	実績	25回	13日	9,685人	72.7%	13,325	81.7%
				計画	25回	13日	11,850人	88.9%	13,325	
	6月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」「解説 文楽へようこそ」「仮名手本忠臣蔵」	文楽劇場	6/2~6/16	実績	28回	14日	15,557人	77.5%	20,076	111.1%
				計画	28回	14日	14,000人	69.7%	20,076	
能楽	【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「清水」、能「小鍛冶」	能楽堂	6/20~6/24	実績	10回	5日	5,167人	82.4%	6,270	120.2%
				計画	10回	5日	4,300人	68.6%	6,270	
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室 「黒島王物語」	おきなわ 大劇場	9/15~9/17	実績	3回	3日	816人	56.2%	1,452	83.7%
				計画	3回	3日	975人	67.0%	1,455	
	組踊鑑賞教室 「二童敵討」	おきなわ 大劇場	11/16~11/18	実績	6回	3日	2,277人	68.9%	19,836	101.1%
				計画	6回	3日	2,253人	68.0%	19,872	
合計		7公演	(計画:7公演)	実績	154回	79日	112,522人	66.9%	168,167	89.9%
				計画	154回	79日	125,218人	74.5%	168,176	

(b) 社会人・親子等を対象とした公演・入門企画(再掲)

分野	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
----	-----	----	----	----	----	------	-----	-----

歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館 大劇場	6/10・17	2回	2日	1,252人	41.5%	3,018
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館 大劇場	7/8・20	2回	2日	1,368人	45.3%	3,018
	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	本館 大劇場	7/20～7/26	13回	7日	18,222人	92.9%	19,617
	3月歌舞伎公演	本館 大劇場	3/3～3/27	25回	23日	8,493人	22.4%	38,000
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館 小劇場	12/8・9	2回	2日	729人	68.4%	1,066
	6月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門」	文楽劇場	6/5	1回	1日	517人	72.1%	717
	夏休み文楽特別公演(第一部親子劇場)	文楽劇場	7/16～8/4	19回	19日	5,078人	37.3%	13,623
大衆芸能	7月特別企画「親子で楽しむ演芸会」	演芸場	7/23・24	2回	2日	551人	91.8%	600
能楽	夏スペシャル働く貴方の能楽公演 おはなし、狂言「入間川」、能「安達原 白頭・急進之出」	能楽堂	8/4	1回	1日	615人	98.1%	627
	夏スペシャル親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「伊呂波」、狂言「六地藏」	能楽堂	8/6	1回	1日	587人	93.6%	627
	夏スペシャル親子で楽しむ能の会 おはなし、能「舍利」	能楽堂	8/27	1回	1日	600人	95.7%	627
組踊等	琉球舞踊鑑賞教室	おきなわ 大劇場	7/23	1回	1日	351人	72.5%	484
	親子のための組踊鑑賞教室 「万歳敵討」	おきなわ 大劇場	8/6～8/7	2回	2日	303人	27.5%	1,102
	沖縄の音色 ～うちなー楽器ありんくりん～	おきなわ 大劇場	8/20	1回	1日	267人	44.5%	600
合計			14公演 (計画:13公演)	73回	65日	38,933人	46.5%	83,726

(c) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演(後掲)

区分	公演名	劇場	共催	日程	回数	入場者数	入場率
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 静岡公演	グランシップ 中ホール	(公財)静岡県文化財団	6/23	2回	1,472人	84.3%
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	藤沢市民会館 大ホール	かながわ伝統芸能祭実行委員会	6/25 ～6/26	2回	704人	34.5%

② アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
主に青少年を対象とした公演	6公演 72回	—	1,180人	1,101人	1,062人	—	96.5%
社会人・親子等を対象とした公演・入門企画	5公演 31回	—	647人	573人	558人	—	97.4%

※本館は一部公演でインターネットによるアンケートを実施。能楽堂は座席背面字幕ディスプレイによる選択式で実施。

③ 優れた業績・評価すべき点

- 歌舞伎では、6・7月に鑑賞教室を実施し、素朴な山村を舞台に心優しく武勇に秀でた主人公と仇討の宿命を背負った許嫁の女性の交流が描かれる「彦山権現誓助剣」(6月)と、女方の芸や立廻り、隈取、三方掛合の音楽など歌舞伎らしい特徴を多く備えた舞踊劇「紅葉狩」(7月)を取り上げ、作品の内容に則した分かりやすい事前解説を施すことで、若年層が歌舞伎の魅力に初めて触れる貴重な機会を提供することができた。
- 公演内容の理解を促進するため、歌舞伎音楽の詞章を字幕表示装置で舞台進行に合わせて表示した。また字幕は横書き英文字幕とし、外国人の観客に対して理解の一助となる工夫を継続して行った。
- 「親子で楽しむ歌舞伎教室」では、イラスト入りのパンフレットを作成し、無料配布した。
- また、青少年対象公演の次のステップとして、日頃歌舞伎になじみの薄い一般の歌舞伎初心者に向けた入門公演「歌舞伎名作入門」を3月に実施し、義太夫狂言の名作として知られる「鬼一法眼三略巻」の中から「一條大蔵譚」と「五條橋」を、作品内容に寄り添った平易な事前解説付きで上演し、好評を博した。
- 本館小劇場の文楽鑑賞教室では、昼の時間帯では学生向け21回、夜の時間帯にも文楽に興味をもつ層に観劇機会を設けるために3回の公演、外国人向けの公演を1回実施した。また、上演の構成は「解説 文楽の魅力」「絵本太功記」とした。初めて文楽に触れる青少年でも文楽特有の表現や演出を短い時間で楽しめる演目に解説を組み合わせることで、文楽の持つ魅力について広く提供できた。
- 演芸場で夏休み期間の土日2日間開催した「親子で楽しむ演芸会」では、落語を中心に、マジック、コント、動物ものまね、曲独楽など、子どもにも分かりやすい盛りだくさんの番組で、多くの親子に演芸の多

彩な魅力を存分に楽しんでもらうことができた。開演前に 2 日間開催したマジックのワークショップも大変好評だった(有料 500 円、参加者 92 人。アンケートの満足回答 100%)。

- 能楽鑑賞教室では、動きの多い、ポピュラーな作品を選曲することとし、今年度は「清水」と「小鍛冶」を上演した。能・狂言の上演前には出演者による解説を設け、鑑賞の導きとした。
- 「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では公演内容等の理解を促進するため、イラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、座席字幕表示装置に子供向けチャンネルを追加して 3 チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、好評であった。
- 社会人を主な対象とした「働く貴方の能楽公演」では、能・狂言は親しみやすい作品を選択し、その前に「おはなし」を設けることで能・狂言に親しみを持てるようにした。
- 文楽劇場の文楽鑑賞教室では、解説者の映像をスクリーンに拡大投影し、ステージから遠い席の観客にも解説の内容が見えるようにした。また、新しい試みとして、演目解説の際に、無料配布の公演解説書に掲載されているあらすじマンガをスクリーンに拡大投影しながら紹介し、視覚的にも、わかりやすく内容を伝えることができ好評であった。
- 文楽劇場の「夏休み文楽特別公演」では、第一部親子劇場の解説「文楽ってなあに」において、人形遣いによる実演付きの解説を行った後、質疑応答の時間を設けて、出演者と観客との相互コミュニケーションをはかることができた。
- 8 月、11 月の組踊鑑賞教室は、初めて組踊を鑑賞する方の理解を深めるために、組踊の歴史や約束事などを案内役 2 人による掛け合いやスクリーンを活用しながらわかりやすく丁寧な解説を行った。
- 7 月の琉球舞踊鑑賞教室と 8 月の親子のための組踊鑑賞教室では、親子料金を学童にも適用し、県内学童に周知し、9 月の沖縄芝居鑑賞教室及び 11 月の組踊鑑賞教室では、学校行事としての参加を促すため、公演の前年度から営業活動に取り組んだ。
- 県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、学校団体等の誘客に努めた。

イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

① 公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

区分	公演名	劇場	日程	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」	オペラ劇場	7/8～7/16	実績	6回	6日	9,422人	93.5%	10,080	99.2%
				計画	6回	6日	9,500人	94.2%	10,080	
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2022「ペンギン・カフェ」	オペラ劇場	7/27～7/31	実績	8回	5日	5,450人	45.7%	11,936	60.6%
				計画	8回	5日	9,000人	75.4%	11,936	
現代舞踊	森山開次「新版・NINJA」	中劇場	6/25～6/26	実績	3回	2日	2,219人	84.2%	2,634	123.3%
				計画	3回	2日	1,800人	76.1%	2,364	
合計 3公演 (計画:3公演)				実績	17回	13日	17,091人	69.3%	24,650	84.2%
				計画	17回	13日	20,300人	83.3%	24,380	

(b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演、主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演(後に再掲)

《全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演》

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	日程	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」	ロームシアター京都メインホール	京都市、ロームシアター京都((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)	10/25～27	2回	1,163人	37.3%

《主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演》

公演名	会場	主催・共催等	日程	回数
令和4年度 文化芸術による子供育成総合事業	東京都、千葉県、茨城県の小中学校	主催:文化庁	6月～12月	7回

② アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
主に青少年を対象とした公演	3公演 17回	—	—	7,182人	5,773人	—	80.4%

※ウェブアンケートを実施。

③ 優れた業績・評価すべき点

- こどものためのバレエ劇場 2022「ペンギン・カフェ」について、第一部では動物、環境問題の専門家として成島悦雄氏を招きトークショー形式で環境問題、動物の絶滅問題について解説し、第二部として「ペンギン・カフェ」の上演を行った。また、独立行政法人国立科学博物館・公益財団法人東京動物園協会多摩動物公園の協力を得てパンダの「カンカン」「ランラン」やトキの剥製の展示を行った。
- 森山開次「新版・NINJA」は2019年に小劇場で上演した作品を、中劇場に会場を移し、内容もブラッシュアップして上演した。埼玉県秩父市、富山県富山市でも公演を実施した。

ウ 外国人を対象とした公演・入門企画

《制作方針》

「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」をはじめ、能楽、組踊で、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声同時解説等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

本館文楽においては、日本語を母国語としない外国人にも理解しやすく鑑賞できる機会を作り、観劇人口の増加を図る。解説には、英語のネイティブスピーカー(オーストラリア人)で城郭・甲冑研究家である案内役が自身の異文化に傾倒した体験を生かし、在日・訪日外国人や外国語学校の生徒等に日本の伝統芸能・文楽を分かりやすく紹介する。

文楽劇場においては、解説にアメリカ生まれで大阪育ちのフリーアナウンサーを起用し、英語字幕の表示、別冊の無料解説書(英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)、英語イヤホンガイドの無料提供により、文楽の理解を深める一助とする。

能楽堂においては座席字幕表示装置を活用し、6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)での表示を行った。また、当日無料配布した解説書も同じく6言語表記として、理解促進に役立てた。

国立劇場おきなわにおいては、多言語対応として、日本語・英語・中国語・韓国語による音声ガイドと英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・スペイン語・ポルトガル語による字幕タブレットを無料提供し、鑑賞の手助けとする。

① 公演実績

分野	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「DiscoverKABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館 大劇場	7/27	2回	1日	1,080人	35.8%	3,018
文楽	12月文楽特別公演 「DiscoverBUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館 小劇場	12/12	1回	1日	508人	95.3%	533
	6月文楽鑑賞教室 「社会人・外国人のための文楽鑑賞教室」	文楽劇場	6/5	1回	1日	265人	37.0%	717
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「DiscoverNOH&KYOGEN」 解説、狂言「墨塗」、能「鍾馗」	能楽堂	10/14	1回	1日	618人	98.6%	627
組踊等	はじめての組踊～DiscoverKUMIODORI～ 組踊「二童敵討」	おきなわ 大劇場	11/19	1回	1日	164人	29.8%	551
合計		5公演 (計画:5公演)		6回	5日	2,635人	48.4%	5,446

② アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
外国人を対象とした公演	5公演 6回	2,282人	734人	647人	629人	32.2%	97.2%

③ 優れた業績・評価すべき点

- 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」、「Discover－外国人のための文楽鑑賞教室－」では、通常の公演で日本人観客向けに制作した事前解説につき、英語話者ナビゲーターを交えた特別バージョンにアレンジして提供した。
- また、舞台上部に英語字幕を掲出し、2言語(英語・日本語)の音声同時解説と7言語(日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)表記のパンフレットを無料で提供し、外国人観客の理解促進を図った。
- 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」では写真入りの初心者向けパンフレットを作成し、無料で配布した。
- 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」は6月の能楽鑑賞教室から独立させて10月に実施し、充実した番組によって外国人鑑賞者に能楽を強く印象付けた。座席字幕表示装置は6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)での表示を行った。また、当日無料配布した解説書も同じく6言語表記とし、理解促進に大いに役立った。
- 「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、劇場ロビーに英語通訳者を配置したほか、多言語音声ガイド(4言語:日本語・英語・中国語・韓国語)、字幕タブレット(6言語:英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・スペイン語・ポルトガル語)を導入した。

- ・また、公演前に英語通訳付きのワークショップを開催したほか、多言語版公演チラシの作成、県内学校の外国語指導助手(ALT)や県人会への周知等、誘客活動を実施した。
- ・国立劇場おきなわ運営財団ウェブチケット販売サービスの英語サイトや、英語版のチケット販売ウェブサイト(Confetti)を活用し、外国のお客様の利便性向上を図った。

【特記事項】

- ・「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」では、各国駐日大使を招待し、公演観劇後に、理事長挨拶、文化庁長官挨拶、ステージ見学を行った。27の国と地域 52名が参加(大使(同伴者含む)：11か国 22名、公使等(同伴者含む)：6か国 10名、大使館関係者：10か国 20名)。また、独立行政法人日本学生支援機構を通じて留学生をモニターとして招待した(36名)。
- ・「Discover NOH & KYOGEN」は映像を編集し「国立オンライン劇場」で後日無料配信した。

2-(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 新たな観客層の開拓、適切な鑑賞者数の目標設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等
 - ②全国各地の文化施設等における公演等
 - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- イ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①共催、受託などによる公演等を別表 6 のとおり実施
 - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 7 のとおり実施
 - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施
 - ④伝統芸能の振興等のため、青少年、外国人等を対象としたワークショップを各分野で開催
 - ⑤インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信等の実施

《中期目標の指標・関連指標》

2-A 全国各地の文化施設等における公演数(共催・受託公演や地方自治体等の協賛公演等の公演数)	[伝統芸能分野] 3 公演
	[現代舞台芸術分野] 9 公演

〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

① 外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。

② アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	6 公演	144 回	-	683 人	683 人	663 人	-	97.1%
文楽	10 公演	198 回	-	1,446 人	1,442 人	1,367 人	-	94.8%
舞踊・邦楽等	11 公演	12 回	3,219 人	1,183 人	1,015 人	980 人	36.8%	96.6%
大衆芸能	7 公演	7 回	1,649 人	938 人	901 人	865 人	56.9%	96.0%
能楽	7 公演	7 回	4,035 人	1,449 人	1,449 人	1,390 人	35.9%	95.9%
組踊等沖縄伝統芸能	24 公演	36 回	7,705 人	5,196 人	4,354 人	4,213 人	67.4%	96.8%
合計	65 公演	404 回	-	10,895 人	9,844 人	9,478 人	-	96.3%

※本館は一部ウェブでのアンケートを実施。能楽堂は座席背面字幕ディスプレイによる選択式で実施。

イ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

① 共催、受託などによる公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	連携協力先	日程	回数	入場者数	入場率
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 沖縄歌舞劇団美	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	6/3	1 回	229 人	89.8%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 舞謡実行委員会	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	7/15	1 回	155 人	60.8%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 大宜味一心クガニー芸能協会	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	7/22	1 回	147 人	57.6%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 (公財)沖縄県文化振興会	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	8/21	1 回	216 人	84.7%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 渡嘉敷本流守藝の會	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	10/28	1 回	100 人	39.2%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 玉城流喜納の會	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	11/4	1 回	211 人	82.7%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 男性舞踊家飛輪の會	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	11/18	1 回	198 人	77.6%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 玉城流七扇會	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	11/25	1 回	147 人	57.6%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 糸満市南山組踊保存會	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	12/2	1 回	138 人	54.1%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 玉城流てだ・いずみ會	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	12/16	1 回	217 人	85.1%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 劇団うない	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	1/20	1 回	142 人	55.7%
共催	沖縄県伝統芸能公演かりゆし芸能公演 沖縄芝居「演」	おきなわ 小劇場	(公財)沖縄県文化振興会	2/17	1 回	122 人	47.8%
共催	新春組踊大公演	おきなわ 大劇場	(一社)伝統組踊保存會	1/7~8	2 回	273 人	21.6%
共催	国立劇場おきなわ県外公演 春秋座特別公演「琉球舞踊と組踊」	京都芸術劇場 春秋座	京都芸術大学舞台芸術 研究センター	5/22	1 回	510 人	64.2%

(b) その他の公演、地方自治体等との後援・協力等

i. 令和4年度(第77回)文化庁芸術祭

区分	館名	公演名
主催公演	本館大劇場	10 月歌舞伎公演
	演芸場	11 月企画公演(国立名人会)
	能楽堂	10 月外国人のための能楽鑑賞教室
	文楽劇場	11 月文楽公演、10 月舞踊公演
	おきなわ	11 月企画公演(アジア・太平洋地域の芸能)
協賛公演	本館大劇場	11 月歌舞伎公演

本館小劇場	10月邦楽公演(邦楽名曲選、素浄瑠璃)、11月雅楽公演、11月舞踊公演
演芸場	10月・11月定席公演(4公演)、10月国立名人会、10月・11月特別企画公演(2公演)
能楽堂	10月・11月定例公演(4公演)、10月・11月普及公演、10月特別公演、11月企画公演(2公演)
文楽劇場	11月上方演芸特選会
おきなわ	10月研究公演、10月・11月企画公演、11月普及公演

・文化庁芸術祭オープニング(10月歌舞伎公演初日)に秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席。また、文化庁と連携し大使等招待者の接遇対応を行った(10/1)。

ii. 地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力

館名	公演名	区分	連携協力先
本館	歌舞伎鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	親子で楽しむ歌舞伎教室 (7月歌舞伎鑑賞教室期間中)	共催	東京都教育委員会
		後援	文化庁、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、小田原市教育委員会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
	社会人のための歌舞伎鑑賞教室	後援	一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所
	文楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	4月特別企画(舞踊・邦楽)、5月雅楽、6月民俗芸能、7月舞踊、9月舞踊、10月邦楽、11月雅楽、11月舞踊、1月邦楽(邦楽名曲選Ⅱ・Ⅲ)、1月民俗芸能、2月声明	主催	文化庁
	6月邦楽(日本音楽の流れ)	主催 協力	文化庁 宮本卯之助商店
	7月特別企画	主催 協力	文化庁 東日本旅客鉄道株式会社、三木楽器株式会社
3月琉球芸能	主催 協力	文化庁 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	
演芸場	9月特別企画公演 「演芸大にぎわい ～東から西から～」	制作 協力	一般社団法人日本演芸家連合
能楽堂	能楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
文楽劇場	全公演	共催	関西元気文化圏共催事業
	6月文楽鑑賞教室	後援	文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局
		協力	公益財団法人文楽協会
おきなわ	12月民俗芸能公演	後援	南風原町、南風原町教育委員会、南風原町商工会、一般社団法人南風原町観光協会

iii. 外部の公演等への後援・協力等

区分	公演名	劇場	主催等	日程
協力	伝統文化学習鑑賞会(歌舞伎学習鑑賞会)	本館大劇場 他	まちづくり文化ボランティアグループよこすか市民会議	7/16
協力	第33回高崎音楽祭「東野珠実 星籠抄 甕の古の響き」	高崎芸術劇場(群馬県)	高崎音楽祭委員会・高崎市	10/2
協力	特別講演「国立劇場のあゆみ」	読売新聞東京本社	読売・日本テレビ文化センター	10/8 他
協力	「初代国立劇場さよなら公演×日比谷レゾコ コラボ忠臣蔵 歌舞伎と寄席芸の世界」	千代田区立日比谷図書文化館	千代田区立日比谷図書文化館	11/4
制作 協力	祝祭大狂言会 2021【振替公演】(新作狂言「鮎」)	フェスティバルホール	フェスティバルホール、関西テレビ放送	4/10
制作 協力	第23回地域伝統芸能まつり(復曲能「名取ノ老女」)	NHK ホール	地域伝統芸能まつり実行委員会	2/19
協賛	2022年度小学生のための歌舞伎体験教室	本館小劇場 他	文化庁	7/23 ～28
協賛	第33回全国高等学校総合文化祭 優秀校東京公演	本館大劇場	文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟	8/27 ～28
協賛	令和4年度キッズ伝統芸能体験	本館大劇場 他	東京都、公益社団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	9/18 ～3/30
協賛	令和4年度キッズ伝統芸能体験開講式	国立能楽堂	東京都、公益社団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	9/18
協賛	第26回伝統歌舞伎保存会研修発表会	本館大劇場	一般社団法人伝統歌舞伎保存会	10/24
協賛	第27回伝統歌舞伎保存会研修発表会	本館大劇場	一般社団法人伝統歌舞伎保存会	11/23
協賛	第63回式能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	2/19
後援	新作能「新皇将門」前橋公演	昌賢学園まえばしホール	梅村能の会	10/28

② 全国各地の文化施設等における公演

区分	公演名	劇場	連携協力先	日程	回数	入場者数	入場率
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	グランシップ 中ホール	(公財)静岡県文化財団	6/23	2回	1,472人	84.3%
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	藤沢市民会館 大ホール	かながわ伝統芸能祭実行委員会	6/25 ～26	2回	704人	34.5%
共催	国立劇場おきなわ県外公演 春秋座特別公演「琉球舞踊と組踊」	京都芸術劇場 春秋座	京都芸術大学舞台芸術研究センター	5/22	1回	510人	64.2%

③ 国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

分野	公演名	劇場	日程	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」	本館 大劇場	7/27	2回	1,080人	35.8%
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」	本館 小劇場	12/12	1回	508人	95.3%
文楽	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU」	文楽劇場	6/5	1回	265人	37.0%
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 Discover Noh&Kyogen 解説、狂言「墨塗」、能「鍾馭」	能楽堂	10/14	1回	618人	98.6%
組踊等	アジア・太平洋地域の芸能	おきなわ 大劇場	11/6	1回	261人	45.1%
組踊等	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「二重敵討」	おきなわ 大劇場	11/19	1回	164人	29.8%

(b) 在日各国大使等の公演招待

- ・7月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎教室—」において、大使館招待を実施した。27の国と地域52名の大使館関係者が参加(うち大使は11か国)。

④ 青少年、外国人等を対象とするワークショップ

イベント名	日程	会場	料金	出演者等	参加者数
県外組踊ワークショップ京都	4/28	京都芸術大学内楽屋	500円	金城真次、上原崇弘、和田信一	44
組踊ワークショップ	6/25	国立劇場おきなわ 養成研修室	無料	比嘉大志、比嘉克之、仲嶺良盛	10
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「花売の縁」と琉球の歴史文化を学ぶ旅	6/25	仲島の大石(那覇市)、国立劇場おきなわ	—	嘉数仁然	中止
ワークショップ「マジックジェミーのマジックLesson」	7/23 ～24	伝統芸場情報館 レクチャー室	500円	マジックジェミー	92
7月歌舞伎鑑賞教室アフタートーク 「艶やかな女方の世界へようこそ」	7/21	伝統芸場情報館 レクチャー室	500円	中村京蔵	40
7月 DiscoverKABUKI における各国駐日大使等招待	7/27	本館大劇場	無料	各国駐日大使等、7月 DiscoverKABUKI 出演者、文化庁長官夫妻、文化庁職員、日本博関係者、振興会役職員	66
劇場バックステージツアー	7/30 ～31	国立劇場おきなわ	無料	棚原健太(30日)、徳田泰樹(31日)、伊藝武士、比嘉大志、高井賢太郎(ワークショップ講師)	93
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「万歳敵討」と琉球の歴史文化を学ぶ旅	8/6	首里城(那覇市)、国立劇場おきなわ	—	嘉数仁然	中止
第5回文楽特別講座 夏休み文楽特別公演アフタートーク&上映会	8/12	国立文楽劇場 小ホール	1,000円	鶴澤清介(人形浄瑠璃文楽座三味線弾き)、亀岡典子(産経新聞大阪文化部特別記者)	49
「沖縄の音色～うちなー楽器ありんくりん～」楽器体験	8/20	国立劇場おきなわ 大劇場ホワイエ	無料	仲村逸夫、横目大哉、平良大、棚原健太、池間北斗、町田倫士、林杏佳、具志幸大、入嵩西論、大城建太郎、森田夏子、又吉恭平、久志大樹	42
9月文楽公演プレトーク 「芸とところを語る～重陽の饗宴～」	9/9	伝統芸場情報館 レクチャー室	500円	吉田玉助・神田阿久鯉	47
演芸レクチャーデモンストレーション 「楽しもう演芸の世界」	9/23 ～24	伝統芸場情報館 レクチャー室	500円	金原亭馬生、澤雪江、パッチトウス、田ノ中星之助ほか	147
よみうりカルチャー大手町スクール主催 「国立劇場のあゆみ」	10/8	読売新聞東京本社 「新聞教室」	—	神山彰(明治大学名誉教授)	31
〇読売旅行 復帰50周年特別公演鑑賞と琉球からくり花火・琉球伝統文化・世界遺産にふれる3日間 〇あぜくら会会員対象 「沖縄本土復帰50周年」・「組踊」重要無形文化財指定50周年記念 国立劇場おきなわ「組踊」特別記念公演と琉球からくり花火3日間	10/14	国立劇場おきなわ 大稽古室	—	高井賢太郎、下地心一郎、金城亮太	45
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「孝行の巻」と琉球の歴史文化を学ぶ旅	10/15	赤犬子宮他、国立劇場おきなわ	—	嘉数仁然、伊藝武士、知花令磨、徳田泰樹	11

日比谷図書文化館主催・初代国立劇場さよなら公演×日比谷カレッジ「歌舞伎と寄席芸の世界」	11/4	日比谷図書文化館	—	今岡謙太郎(武蔵野美術大学教授)	120
玉川大学観光学部特別授業「歌舞伎ってなんだろう」	11/9	玉川大学	無料	家永千鶴子(同学部長)・渡邊哲之(国立劇場営業部)	48
届けます。体験教室(シテ方・狂言方体験)	11/15~16	名取市立下増田小学校・名取市立高館小学校・名取市立不二が丘小学校	無料	坂真太郎(シテ方観世流)、松山隆之(シテ方観世流)、奥津健太郎(狂言方和泉流)、野口隆行(狂言方和泉流)	208
組踊ワークショップ	11/19	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	上原崇弘、比嘉大志、金城亮太	18
組踊おでかけワークショップ	11/20	浦添市立港川小学校体育館	無料	金城真次、上原崇弘、棚原健太	150
鎌倉女子大学(キャンパスメンバーズ会員校)特別授業	12/5・12/7	鎌倉女子大学	無料	木村涼(岐阜女子大学特任准教授)	342
国立劇場オープンシアターロビー見学	12/11~12	本館大劇場	500円	—	1,191
国立劇場オープンシアターステージツアー	12/11~12	本館大劇場	1,000円	定員30人×8回、うち1回は英語ガイド	238
国立劇場オープンシアター平櫛田中=作『鏡獅子』レクチャー&デモンストレーション	12/11~12	本館大劇場	1,000円	平櫛弘子(小平市平櫛田中彫刻美術館館長)・杵屋巳太郎社中・田中傳左衛門社中ほか。定員80人×2回。	158
バックステージツアー	12/13	能楽堂	—	東京都教育委員会(東京都留学生東京体験スクール)	56
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「北山敵討」と琉球の歴史文化を学ぶ旅	12/17	佐敷グスク他、国立劇場おきなわ	—	嘉数仁然、比嘉大志、高井賢太郎、徳田泰樹	18
組踊おでかけワークショップ	12/20	浦添市立沢岬小学校体育館	無料	金城真次、島尻紀希、棚原健太	128
よみうりカルチャー大手町スクール主催「まるごと国立劇場ツアー」	2/3	本館大劇場	—	—	78
国立劇場ステージツアー(キャンパスメンバーズ)	2/3	本館大劇場	無料	—	74
2月文楽公演鑑賞キャンペーンレクチャーイベント「作者の氏神！近松門左衛門って何者？」	2/16	レクチャー室	無料	田草川みずき(千葉大学教授)	19
千代田区後援事業「さよなら初代国立劇場！千代田区在住・在勤者限定歌舞伎鑑賞」	3/4・18	レクチャー室・大劇場	—	半澤重信(建築家)ほか。在住・在勤者にはチケットを割引販売。	86
よみうりカルチャー大手町スクール主催「役者と制作者が語る国立劇場の歌舞伎」	3/21	レクチャー室	—	中村又五郎・大和田理事	42
国立劇場春のオープンシアターロビー見学	3/28・31	本館大劇場	500円	—	76

- ・7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」関連企画として、チケット購入者を対象に有料ワークショップ「マジックジェミーのマジックLesson」を公演前に開催。演芸の魅力を発信し、大衆芸能の観客の裾野拡大を図った。

⑤ 舞台映像の配信等

- ・より多くの人に鑑賞の機会を提供するため、舞台映像を配信した。
- ・文楽劇場の文楽公演では、引き続き、公演終了後に公演記録映像の有料配信を実施したが、今年度から本館の文楽公演の配信も開始した。文楽劇場、国立劇場ともに、特典として視聴者がダウンロードして利用できる床本集を提供した。
- ・映像作成に当たっては、コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LODlive)やARTS for the future!(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業・AFF)など外部資金も積極的に活用した。

《舞台映像の配信》

映像コンテンツ名	公演月・劇場	配信期間	視聴回数	備考
国立劇場令和4年7月歌舞伎鑑賞教室	7月国立劇場	9/26~R5/9/29	22,359	J-LODlive
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「京鹿子娘道成寺」を語る(再配信)		4/29~5/31	13	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「京鹿子娘道成寺」(再配信)		4/29~5/31	5	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門【お得な解説編+舞踊本編セット】「京鹿子娘道成寺」(再配信)		4/29~5/31	84	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「春興鏡獅子を語る」(再配信)		4/29~5/31	28	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「新歌舞伎十八番の内 春興鏡獅子」(再配信)		4/29~5/31	6	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門【お得な解説編+舞踊本編セット】「春興鏡獅子」(再配信)		4/29~5/31	66	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「鶯娘/うかれ坊主」		3/4~3/31	182	有料
国立劇場くろごちゃんねる 第7回 文楽公演「義経千本桜」	5月国立劇場	6/11~7/3	24	有料
国立劇場くろごちゃんねる 第7回 文楽公演「競伊勢物語」	5月国立劇場	6/11~7/3	33	有料

国立劇場くろごちゃんねる 第7回 文楽公演「桂川連理柵」	5月国立劇場	6/11～7/3	22	有料
国立劇場くろごちゃんねる 第12回 令和4年9月国立劇場文楽公演「基太平記白石噺」	9月国立劇場	10/8～10/23	25	有料
国立劇場くろごちゃんねる 第12回 令和4年9月国立劇場文楽公演「寿柱立万歳」 「基太平記白石噺」	9月国立劇場	10/15～10/30	20	有料
国立劇場くろごちゃんねる 第12回 令和4年9月国立劇場文楽公演「奥州安達原」	9月国立劇場	10/22～11/6	38	有料
国立劇場令和4年9月文楽公演「奥州安達原」	9月国立劇場	11/14～ R5/4/28	541	J-LODlive
国立劇場くろごちゃんねる 第15回 令和5年2月国立劇場文楽公演「心中天網島」	2月国立劇場	R5/3/4～3/26	29	有料
国立劇場くろごちゃんねる 第15回 令和5年2月国立劇場文楽公演「国性爺合戦」	2月国立劇場	R5/3/4～3/26	32	有料
国立劇場くろごちゃんねる 第15回 令和5年2月国立劇場文楽公演「女殺油地獄」	2月国立劇場	R5/3/4～3/26	59	有料
令和4年7月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」より「藤娘」	7月国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	578	日本博
Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance	7月国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	561	日本博
令和4年6月邦楽公演「日本音楽の流れV ―打楽器―」	6月国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	243	日本博
The History of Japanese Music V “Percussion”	6月国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	220	日本博
「音楽」教科書向け邦楽演奏映像「和楽器の魅力(1)―箏―」		R4/3/30～	2,718	日本博
「音楽」教科書向け邦楽演奏映像「和楽器の魅力(2)―三味線―」		R4/3/30～	2,222	日本博
「音楽」教科書向け邦楽演奏映像「和楽器の魅力(3)―太鼓―」		R4/3/30～	1,047	日本博
「音楽」教科書向け邦楽演奏映像「和楽器の魅力(4)―笛―」		R4/3/30～	2,147	無料
「音楽」教科書向け邦楽演奏映像「和楽器の魅力(5)―尺八―」		R4/3/30～	4,922	無料
令和4年11月雅楽公演「宮廷の響き―雅楽と琉球御座楽―」	11月国立劇場	R4/3/29～ R5/3/31	350	日本博
Sounds of the Court: Gagaku and Ryukyu Uzagaku	11月国立劇場	R4/3/29～ R5/3/31	230	日本博
令和4年6月民俗芸能公演「花祭」	6月国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	161	日本博
Hanamatsuri - Okumikawa no Shimotsuki Kagura -	6月国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	185	日本博
国立能楽堂令和4年6月特別公演「祈りのかたち」	6月国立能楽堂	9/1～R5/8/31	3,536	日本博
Noh & Kyogen National Noh Theatre “Representation of Prayer”	6月国立能楽堂	9/22～ R5/8/31	1,078	日本博
Noh & Kyogen National Noh Theatre “Discover NOH & KYOGEN” 国立能楽堂 能・狂言の魅力	10月国立能楽堂	3/1～R6/3/31	617	日本博
国立文楽劇場 令和4年4月文楽公演 第1部「義経千本桜」	4月国立文楽劇場	4/25～5/15	66	有料
国立文楽劇場 令和4年4月文楽公演 第2部「撰州合邦辻」	4月国立文楽劇場	4/25～5/15	40	有料
国立文楽劇場 令和4年4月文楽公演 第3部「嫌景清八嶋日記・契情倭莊子」	4月国立文楽劇場	4/25～5/15	51	有料
国立文楽劇場 令和4年文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKU	6月国立文楽劇場	8/4～9/26、 10/14～	1,650	日本博
国立文楽劇場 令和4年夏休み文楽特別公演 第1部「鈴の音・解説・瓜子姫とあまんじゃく」	7・8月国立文楽劇場	8/5～8/25	49	有料
国立文楽劇場 令和4年夏休み文楽特別公演 第2部「心中天網島」	7・8月国立文楽劇場	8/5～8/25	71	有料
国立文楽劇場 令和4年夏休み文楽特別公演 第3部「花上野誓碑・紅葉狩」	7・8月国立文楽劇場	8/5～8/25	61	有料
国立文楽劇場令和4年夏休み文楽特別公演「心中天網島」	7・8月国立文楽劇場	10/14～ R5/11/30	1,306	J-LODlive
国立文楽劇場 令和4年文楽素浄瑠璃の会「基太平記白石噺・奥州安達原・源平布引滝」	8月国立文楽劇場	8/27～9/16	26	有料
国立文楽劇場 令和4年11月文楽公演 第1部「心中宵庚申」	11月国立文楽劇場	11/28～12/18	36	有料
国立文楽劇場 令和4年11月文楽公演 第2部「一谷嫩軍記」	11月国立文楽劇場	11/28～12/18	45	有料
国立文楽劇場 令和4年11月文楽公演 第3部「壺坂観音霊験記」	11月国立文楽劇場	11/28～12/18	24	有料
国立文楽劇場 令和4年11月文楽公演 第3部「勸進帳」	11月国立文楽劇場	11/28～12/18	131	有料
国立文楽劇場 令和5年初春文楽公演 第1部「良弁杉由来」	1月国立文楽劇場	1/26～2/15	38	有料
国立文楽劇場 令和5年初春文楽公演 第2部「義経千本桜」	1月国立文楽劇場	1/26～2/15	35	有料
国立文楽劇場 令和5年初春文楽公演 第3部「傾城恋飛脚」	1月国立文楽劇場	1/26～2/15	28	有料
国立文楽劇場 令和5年初春文楽公演 第3部「壇浦兜軍記」	1月国立文楽劇場	1/26～2/15	105	有料
	合計	38件	48,143	

《公演関連映像の配信》

映像コンテンツ名	配信期間	視聴回数	備考
国立劇場10月邦楽公演 特別座談会「古川日出男×邦楽演奏家―日本の歌、語りをたずねて―」	9/13～10/15 12/26～2/14	23	有料

国立劇場 1 月邦楽公演 特別座談会「永井和子×邦楽演奏家—日本の歌、語りをたずねてⅡ—」	12/26～2/14	10	有料
国立劇場 1 月邦楽公演 特別座談会「松岡正剛×邦楽演奏家—日本の歌、語りをたずねてⅢ—」	1/6～2/14	34	有料
国立劇場おきなわ令和 3 年 7 月組踊公演「大川敵討」～糺しの場～（稽古風景や出演者へのインタビュー映像）	R3/6/15～	182	日本博
組踊ゆかりの地巡り～「万歳敵討」編～	R3/7/29～	527	日本博
組踊ゆかりの地巡り～銘苺子編～	R3/10/4～	654	日本博
組踊ゆかりの地巡り～執心鐘入編～×リュウカツチュウ【コラボ企画】	R3/10/25～	867	日本博
組踊「二童敵討」指導者インタビュー	R4/1/26～	485	日本博
【潜入】組踊？琉球舞踊？歌舞劇「首里城物語」の舞台裏をのぞき見【リュウカツチュウコラボ】	R4/3/7～	1,700	日本博
【後編】組踊・琉球舞踊の化粧【リュウカツチュウコラボ】	4/18～	2,033	
【唄方うたかた】次世代に繋ぐ、宮沢和史さん演出の公演。沖縄民謡の魅力・見どころ【リュウカツチュウコラボ】	5/7～	1,048	
【沖縄音楽】伝統楽器が大集結。レアな公演の稽古に潜入しました リュウカツチュウ	8/6～	2,639	
【沖縄芝居鑑賞教室】曙小学校インタビュー	4/15～12/31	663	
朝薫五番とからくり花火	8/26～	1,064	
【English】Chokun's five masterpieces and Ryukyu Fireworks	8/26～	381	
【二童敵討】組踊ゆかりの地を巡る in 勝連城跡 リュウカツチュウ	10/8～	902	
からくり花火「四輪車」 【期間限定公開】2023 年 1 月 22 日まで	10/18～1/22	665	
国立劇場おきなわ×ミス沖縄 ▶ 組踊ワークショップ体験！	R3/12/28～	200	
【ゆんたく劇場】ジョニー 宜野湾さんインタビュー	R4/1/24～	128	
【ゆんたく劇場】山城智二さんインタビュー	R4/2/3～	134	
【ゆんたく劇場】照屋林賢インタビュー	R4/3/9～	402	
【ゆんたく劇場】照屋林賢氏がプロデュース！ ティンクティンクさんインタビュー	R4/3/29～	229	
次期芸術監督 金城真次さんインタビュー	R4/2/8～	13,110	
沖縄のユネスコ無形文化遺産・組踊の世界	R4/2/1～	6,691	
インドの無形文化遺産・クーリヤッタムの世界	R4/2/8～	235	
インドネシアの無形文化遺産・ワヤン・ゴレックの世界	R4/2/4～	408	
タイの無形文化遺産・コーンの世界	R4/2/24～	218	
ベトナムの無形文化遺産・ニャーニャックの世界	R4/2/3～	642	
ニャーニャック「フー・ルック・ディック」	R4/3/9～	199	
マレーシアの無形文化遺産・マ・ヨンの世界	R4/2/7～	89	
クーリヤッタム「ヴィクラモールヴァシーヤ」“VIKRAMORVASHEEYAM”	6/2～	148	
マ・ヨン「スンバー・グル」/Mak Yong “Sembah Guru”	R4/3/31～	283	
ワヤン・ゴレック「ラデン・ジョハル」/Wayang golek “RADEN JOHAR”	R4/3/30～	245	
コーン「ラーマキエン物語」/Khon “The Ramakien Epic”	R4/3/30～	351	
【アーカイブ映像】無形文化遺産でつながるアジアの芸能座談会【日本語】	R4/3/18～	305	
【Archive video】Bringing Asia together through Intangible Cultural Heritage Round table talk【ENGLISH】	R4/3/18～	62	
国立劇場おきなわからのご案内(うちなーぐち)	R4/3/25～	1,241	
「国立劇場おきなわ」からのご案内	R4/3/25～	974	
【English Version】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	R3/7/27～	5,560	日本博
【簡体中文字幕版】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	R3/7/27～	374	日本博
【繁体中文字幕版】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	R3/7/27～	287	日本博
【한국어 자막 버전】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	R3/7/27～	590	日本博
【Español Versión】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	R3/10/21～	160	
【Português Versão】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	R3/10/12～	177	
合計	44 件	47,319	

⑥ その他の留意事項

(a) 地方公共団体、関係する独立行政法人等との連携協力

- ・ 独立行政法人国立青少年教育振興機構(以下、青少年機構)
 - ◇ 国立劇場再整備期間中の伝統芸能伝承者養成事業の研修実施会場として国立オリンピック記念青少年総合センターを使用するため、相互連携協定を締結した(4/21 締結式実施)。
 - ◇ 青少年機構が主催する「春のキッズフェスタ」に参加した(5/28)。
 - ◇ 青少年機構が文部科学省から委託されている「日独勤労青年交流事業」における施設訪問に協力した(11/24)。
- ・ 足立区

- ◇ 国立劇場再整備期間中の文楽公演の一部を区の施設である文化芸術劇場(シアター1010)において行うため、連携協力協定を締結した(6/25 締結式実施)。
- ・ 荒川区及び荒川区民会館指定管理者
 - ◇ 国立劇場再整備期間中の歌舞伎公演の一部を区の施設である荒川区民会館(サンパール荒川)において行うため、連携協力協定を締結した(10/19)。
- ・ 渋谷区
 - ◇ 国立劇場再整備期間中の及び演芸公演の一部を区の施設である渋谷区文化総合センター大和田伝承ホール及びさくらホールにおいて行うため、連携協力に関する覚書を締結した(12/28)。
- ・ 千代田区
 - ◇ 国立劇場再整備期間中の演芸公演の一部を区の施設である千代田区立内幸町ホールにおいて行うため、連携協力協定を締結した(1/30)。
- ・ 国立大学法人お茶の水女子大学と連携及び協力に関する包括協定を締結した(3/15)。
- ・ 国立劇場・国立演芸場にて、前年度に引き続き、地域連携及び学校教育活動への協力の一環として、千代田区立麴町中学校が実施した「ミライ探求フィールドワーク」の中学生訪問を受け入れ、国立劇場・国立演芸場の施設見学等を実施(11/18)。
- ・ 一般社団法人千代田区観光協会との協力により、国立劇場の歌舞伎・文楽公演につき、同協会へのチラシ掲出と同協会ホームページ(日本語・英語・中国語・韓国語対応)での情報掲載により、周知を図った。また、今年度から歌舞伎・文楽以外の短期公演等も取り上げ、同協会 Twitter での情報掲載を積極的に行った。
- ・ 本館の地元地域である東京都千代田区との連携を強化するため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で休止していた同区主催・区民限定特別割引「文化芸術鑑賞チケット販売」を今年度より復活するとともに(本館：6月歌舞伎教室・11月歌舞伎、演芸場：5月中席・11月上席)、同区後援事業として「さよなら国立劇場！千代田区在住・在勤者限定歌舞伎鑑賞」と題した講座及び歌舞伎鑑賞(3月歌舞伎)を実施した。
- ・ 新宿区落合第二中学校の7月定席(上席・中席)公演の団体観劇に関連して、学校行事「働く人の話を聞く会」(5/20)の講師として落語家の参加に協力した。
- ・ 文楽劇場では、大阪府市はもとより、Osaka Metro、JR西日本、大阪市立中央図書館といった多様な連携先との協力により広報活動を充実させた。
- ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。

(b) その他の連携協力

- ・ 麴町地区環境整備協議会に協力し、千代田区一斉清掃に参加した(本館 11/7)。
- ・ 国立劇場・国立演芸場近隣の店舗で両館のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられるキャンペーン「国立劇場ようこそ半蔵門」を継続して実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど 34 店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。また、同キャンペーンの特別企画として、公演の周知も兼ねて、招待券や国立劇場グッズが当たる抽選会も実施した(2~3月「春の大抽選会」)。
- ・ 東京都千代田区内の商業施設「日比谷 OKUROJI」との提携により、初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら公演とのタイアップキャンペーンとして、同公演期間中におけるチケット半券の提示による参加店舗でのサービス提供、和菓子店とのコラボレーションメニューの限定販売や招待券プレゼント付きアンケートを通じて公演の周知を図り、双方の集客を図る(10月~令和5年10月末)。
- ・ 初代国立劇場さよなら公演との連携による外部団体主催の特別講座に積極的に協力し、同公演の周知や集客につなげた(読売・日本テレビ文化センター:10月・3月歌舞伎、東京都千代田区立日比谷図書文化館:11月歌舞伎)。

〈2〉現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

① 外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

② アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	11 公演	50 回	-	-	8,014 人	6,501 人	-	81.1%
バレエ	7 公演	56 回	-	-	1,783 人	1,719 人	-	96.4%
現代舞踊	3 公演	10 回	-	-	185 人	165 人	-	89.2%
演劇	7 公演	109 回	-	-	1,038 人	923 人	-	88.9%
合計	28 公演	225 回	-	-	11,020 人	9,308 人	-	84.5%

- ・劇場内にウェブアンケート回答用ページにアクセスできる QR コードを掲示した他、希望者に同様の QR コードを印字した用紙をお渡しした。
- ・アンケートにご協力いただいたお客様の中から抽選で劇場グッズをプレゼントする取り組みを実施し、アンケート回答率の向上に努めた。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」に関しては、事前配布したアンケート用紙を後日学校単位で回収し、7,098 件の回答があった(回収率 78.2%)。
- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページに掲載した。

イ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

① 共催、受託などによる公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	連携協力先	日程	回数	入場者数	入場率
共催	オペラ「蝶々夫人」	オペラ劇場	公益財団法人日本オペラ振興会、公益財団法人東京二期会	9/8 ～9/11	4 回	4,394 人	61.3%
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」	ロームシアター京都メインホール	主催:京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場	10/25 ～10/27	2 回	1,163 人	37.3%

(b) その他の公演等

i. 令和 4 年度(第 77 回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	オペラ「ジュリオ・チェーザレ」 バレエ「ジゼル」 演劇「レオポルトシュタット」
協賛公演	オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」 現代舞踊「春の祭典」 演劇「私の一ヶ月」

ii. 大学との連携協力

- ・11 大学と連携・協力に関する協定を締結している。(東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学)
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、大学からのインターンシップ生の受入れを実施。

② 全国各地の文化施設等における公演

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	連携協力先	日程	回数	入場者数	入場率
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2022「蝶々夫人」	ロームシアター京都メインホール	京都市、ロームシアター京都((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場	10/25 ～10/27	2 回	1,163 人	37.3%
受託	現代舞踊「ふしぎの国のアリス」	いわき芸術文化交流館アリオス	主催:いわき芸術文化交流館アリオス	4/9	1 回	370 人	82.0%

受託	演劇 「ロビー・ヒーロー」	穂の国とよはし 芸術劇場 PLAT 主ホール	豊橋市、公益財団法人豊橋文化振 興財団	5/28 ～5/29	2回	599人	40.3%
受託	演劇 「ロビー・ヒーロー」	兵庫県立 芸術文化センター 阪急中ホール	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター	6/5	1回	331人	45.5%
受託	演劇 「ロビー・ヒーロー」	岡山市民 文化ホール	公益財団法人岡山文化芸術創造	6/11	1回	354人	68.3%
受託	バレエ 「不思議の国のアリス」	高崎芸術劇場 大劇場	公益財団法人高崎財団	6/18 ～6/19	2回	2,450人	73.4%
受託	現代舞踊 「新版・NINJA」	秩父宮記念 市民会館大ホール	主催：秩父市	7/3	1回	317人	69.4%
受託	現代舞踊 「新版・NINJA」	オーパード・ホール	(公財)富山市民文化事業団、富山市	7/9	1回	694人	61.0%
受託	朗読劇 「ひめゆり」	パルテノン多摩	パルテノン多摩共同事業体	9/3	1回	119人	46.9%

(b) その他の公演等

i. 新国立劇場合唱団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	日程	回数
こども音楽フェスティバル オープニング・ガラ・コンサート	サントリーホール	主催：(公財)ソニー音楽財団 (公財)サ ントリー芸術財団	5/4	1回
第27回宮崎国際音楽祭 ヴェルディ：「レクイエム」	メディキット県民文化センターアイザックス ターンホール	主催：宮崎県、(公財)宮崎県立芸術劇場	5/14	1回
令和4年度文化芸術による子供育成推 進事業	東京都・茨城・千葉 各県の小・中学校内体育館	主催：文化庁	6月～ 12月	1回
東京混声合唱団演奏会 合同演奏会	東京オペラシティコンサートホールタケミ ツメモリアル	主催：(一財)合唱音楽振興会	7/31	1回
東京二期会オペラ劇場公演 ブッチーニ：オペラ「蝶々夫人」	新国立劇場オペラパレス	主催：(公財)東京二期会	9/8 ～11	4回
東京都交響楽団定期演奏会 ヤナーチェク：「グラゴル・ミサ」	サントリーホール	主催：(公財)東京都交響楽団	9/9	1回
NHK交響楽団定期演奏会 ヴェルディ：「レクイエム」	NHKホール	主催：(公財)NHK交響楽団	9/10 ～11	2回
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2022 メインコンサート／メンデルスゾーン：「真 夏の夜の夢」	メインコンサート/東京芸術劇場(19日) ミニコンサート/グローバルリング・メトロポ リタンプラザ ワークショップ/東京芸術劇場ギャラリー	主催：[サラダ音楽祭]実行委員会(東京都 / (公財)東京都交響楽団 / (公財)東京都 歴史文化財団 東京芸術劇場 / 豊島区 / 三菱地所(株))	9/18 ～19	1回
読売日本交響楽団定期演奏会 シュニーター：「聖ヨハネの黙示録」	サントリーホール	主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、 読売テレビ、(公財)読売日本交響楽団	9/20	1回
Bunkamura シアター・オペラ・コンチェルタ ンテ 2022 ヴェルディ：「椿姫」	Bunkamura オーチャードホール	主催：東急文化村	10/7 ～10	2回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏 会 ヴェルディ：「ファルスタッフ」	サントリーホール(20日) 東京オペラシティコンサートホール(21日) Bunkamura オーチャードホール(23日)	主催：(公財)東京フィルハーモニー交響楽 団	10/20 ～23	3回
読売日本交響楽団演奏会 ベートーヴェン：交響曲第9番	東京芸術劇場(16～18日) サントリーホール(20日・21日) 大阪フェスティバルホール(22日) 横浜みなとみらいホール(25日)	主催：読売新聞社 / 日本テレビ放送網 / 読売テレビ /	12/16 ～25	7回
NHK交響楽団演奏会 ベートーヴェン：交響曲第9番	主催：(公財)NHK交響楽団	NHKホール(21日、22日、24日、25日) サントリーホール(27日)	12/21 ～27	5回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏 会 ベートーヴェン：交響曲第9番	主催：(公財)東京フィルハーモニー交響楽 団	東京オペラシティコンサートホール(22日) サントリーホール(23日) Bunkamura オーチャードホール(25日)	12/22 ～25	3回
第65回NHKニューイヤーオペラコンサ ート	主催：NHK/NHKプロモーション	NHKホール	1/3	1回
東京都交響楽団定期演奏会 マーラー：交響曲第2番	東京文化会館(15日) サントリーホール(16日)	主催：(公財)東京都交響楽団	3/15 ～16	2回

ii. 全国各地の文化施設等との連携強化

- ・札幌文化芸術劇場 hitaru、東京文化会館、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、富山市芸術文化ホール(オー
パード・ホール)、ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場、上田市交流文化芸術センター(サン
トミュージ)と連携・協力に関する協定を締結し、全国公演等を実施している。
- ・全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設から技術者の実習受入れ若し
くは地域の公立文化施設へ技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。

③国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

公演名	劇場	日程	回数	入場者数	入場率
オペラ「ペレアスとメリザンド」(新制作)	オペラ劇場	7/2～7/17	5回	6,338人	73.4%

オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」(新制作)	オペラ劇場	11/15～11/26	5回	5,823人	67.5%
バレエ「不思議の国のアリス」	オペラ劇場	6/3～6/12	10回	15,844人	92.0%
海外招聘公演 演劇「ガラスの動物園」	中劇場	9/28～10/2	6回	5,434人	89.8%

■オペラ「ペレアスとメリザンド」

- ・エクサン・プロヴァンス音楽祭、ポーランド国立歌劇場との共同制作により上演した。
- ・在日フランス大使館とアンスティチュ・フランセ日本の後援で、各種媒体での告知、SNSでの周知、フランスへの留学経験者やフランス大使館関係者への告知並びに販売促進協力を得た。

■演劇 海外招聘公演「ガラスの動物園」

- ・フランス国立劇場オデオン座の制作・新国立劇場の招聘により上演した。
- ・在日フランス大使館とアンスティチュ・フランセ日本の後援により、SNS等各種媒体での告知、フランスへの留学経験者やフランス大使館関係者への告知及び販売促進を行った。

■オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」

- ・ポーランド国立歌劇場との共同制作により上演した。
- ・これに伴い、ポーランド国立歌劇場総監督(前ポーランド文化大臣)、芸術管理部門責任者、マーケティング部副部長が来日した。

(b) 年度計画外の公演等

i. 海外劇場等との交流

分野	公演等名	開催場所	日程
海外配信	「World Opera Day」で、「オルフェオとエウリディーチェ」を無料配信		10/8～4/7
海外配信	「ワールド・バレエ・デー2022」でバレエ「ジゼル」のスタッフインタビューや舞台裏を配信		11/2～11/30
上映会	日中オペラ映像交換上映会	中国国家大劇院、新国立劇場	11月、1月
上映会	台中国立歌劇院でオペラ「チェネレントラ」上映	台中国家歌劇院(台湾)	1/25
プロダクション貸出	台中国立歌劇院でオペラ「魔笛」上演 ホワイエで新国立劇場をPR	台中国家歌劇院(台湾)	12/15～12/18
国際会議	釜山オペラ連盟主催のオンラインフォーラム(スピーチ実施)	オンライン	4/6
国際会議	アジア太平洋パフォーミングアーツセンター協会(AAPPAC)国際会議	エスプラネード劇場(シンガポール)	10/19～10/21
国際会議	オペラ・ヨーロッパ会議 舞台映像配信プラットフォーム「OPERA VISION」の現状や、配信に関わる権利処理や映像技術について意見交換		11/17～11/18
国際会議	北京フォーラム会議 「新たな視点－芸術的活力の喚起」をテーマとした会議。「開場 25周年 新国立劇場の次なる挑戦：最初の重要な一手「バレエ」をテーマに常務理事がスピーチ	中国国家大劇院	12/8～12/9

- ・毎年10/25に開催されている世界的オペライベントであるWorld Opera Dayに際して、2022年のテーマが「オルフェオ伝説」であることにちなみ、2022年5月に上演したオペラ「オルフェオとエウリディーチェ」の無料映像配信を行った(10/8～4/7)。
- ・日中国交正常化50周年認定事業として日中オペラ映像交換上映会を実施した。

■新国立劇場中劇場

- ◇ 中国国家大劇院「メリー・ウィドウ」(11/8)
- ◇ 中国国家大劇院「アイダ」(11/9)

■中国国家大劇院コンサートホール

- ◇ 新国立劇場「カルメン」(2021年7月)(11/21)

■中国国家大劇院多目的ホール

- ◇ 新国立劇場「チェネレントラ」(2021年11月公演)(1/16)
- ・新国立劇場が釜山オペラ連盟主催のオンラインフォーラムへ出席し、新国財団役員がスピーチを行った(4/6)。
- ・英国ロンドンのロイヤルコート劇場で、新国立劇場との協働による劇作家ワークショップの成果として日本人劇作家3人による新作戯曲の英語リーディング公演を実施した(1/26～28)。

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

- ・ソウル大学国家未来戦略院長、副院長、責任研究員(前EU大使)(11/29)
- ・韓国仁川芸術文化劇場12名(1/14)
- ・台湾の台中国家歌劇院総裁(2/11)
- ・スペインのテアトロ・レアル総裁(2/15)
- ・韓国文化芸術会館連合会から18機関19名の文化施設関係者(3/22)

- ・ 欧州連合国立文化機関から 14 か国 15 機関 19 名の国家機関関係者 (3/23)

iii. 在日各国大使館との連携協力

- ・ 在日各国大使鑑賞プログラム
 - ◇ バレエ「不思議の国のアリス」(6/3・参加実績：11 か国 23 名の大使及び外国文化機関代表)
 - ◇ オペラ「ファルスタッフ」(2/10・参加実績：10 か国 21 名の大使及び外国文化機関代表)
- ・ プログラム以外の主催公演には主要国大使を招待し、大使館関係者へのチケット購入を促した。
- ・ 在日各国大使館等の後援・協力により、公演の広報・営業を行った。

④ 舞台映像の配信等

- ・ より多くの人に鑑賞の機会を提供するため、舞台映像の配信を実施した。

《舞台映像の配信》

映像コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	視聴回数	備考
オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」	4月新国立劇場	10/8～4/7	45,777	
オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」	11月新国立劇場	3/25～9/24	13,519	
演劇研修所第16期生朗読劇「ひめゆり」※研修公演	7月新国立劇場	1/27～3/22	1,158	
合計		3件	60,454	

《公演関連映像の配信》

映像コンテンツ名	配信期間	視聴回数	備考
大野和士オペラ芸術監督による2022/2023シーズン紹介映像	5/27～	5,131	
2022/2023シーズン バレエ&ダンス ラインアップ紹介映像	5/30～	19,414	
合計		2件	24,545

⑤ その他の留意事項

(a) 舞台芸術グローバル拠点事業

- ・ 国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。
- ・ 海外劇場等との共同制作や国際的評価の高い海外アーティストの招聘等の交流を通じて、国際的な発信力の高い公演を上演した(オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」「ペレアスとメリザンド」、バレエ「不思議の国のアリス」「ニューイヤー・バレエ」)。
- ・ バレエ団ダンサーの報酬改定や医療サポート等、アーティストの活動環境整備を進めた。
- ・ 海外劇場等との交流や公演記録映像の活用による海外広報戦略等を通じて、国際的な情報発信の取組を推進した。
 - ◇ 中国国家大劇院とのオペラ映像交換上映会
 - ◇ 台中歌劇院におけるオペラ映像上映会及びオペラ「魔笛」プロダクションレンタルに際して行った現地でのPR活動

【広報・営業】

- ・ 2022年にパートナーシップ協定を締結したオペラ・ヨーロッパが運営するOperaVisionのプロジェクトパートナーとして、国際的な情報発信の取組を促進した。
- ・ 観光局が運営するインバウンド向けの情報発信サイト「Trip Advisor」に新国立劇場の情報を投稿した他、VisitJapanトラベル&MICEマート2023に参加し、インバウンドビジネス市場へのPRを行った。
- ・ ロイヤルコर्ट劇場でのリーディング公演実施にあたり、現地でのPRを行った。

【Opera Visionでの配信実績】

- ・ オルフェオとエウリディーチェ(2022年4月公演)：視聴回数45,777回
- ・ ボリス・ゴドゥノフ(2022年11月公演)：視聴回数13,519回

【養成研修事業】

- ・ 海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。

(5) 快適な観劇環境の形成

- (5) 快適な観劇環境の形成 ————— p.78
 - ア 快適で安全な観劇環境の提供、
高年齢者・障害者・外国人等への配慮、
サービスの充実 ————— p.79
 - イ 多様な購入方法の提供 ————— p.84
 - ウ 公演内容等の理解促進のための取組 ————— p.85
 - エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用 ————— p.88

(6) 広報・営業活動の充実

- (6) 広報・営業活動の充実 ————— p.90
 - ア 効果的な広報・営業活動の展開 ————— p.91
 - イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実 — p.105

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ————— p.107
 - ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与 ————— p.108
 - イ 各施設の利用促進を図るための取組 ————— p.108
 - ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力 — p.109

2 - (5) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上及び観客の満足度の向上

- ア 観客の要望等及び高齢者、障害者、外国人等の利用の機会が拡充される、快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説や字幕表示等のサービスの提供
鑑賞団体等に対する公演内容の説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえた売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけの実施
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説及び字幕表示の実施
鑑賞団体等に対する公演内容の事前説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用
ホームページ等で寄せられる意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果のサービス向上への活用

ア 快適で安全な観劇環境の提供、高齢者・障害者・外国人等への配慮、サービスの充実

① 観客の要望等を踏まえたサービスの充実

- ・引続き、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線 LAN サービス(無料 Wi-Fi)を実施。
- ・各館の初春公演では、ロビー・玄関の正月飾り等を実施。
- ・(本館・文楽劇場)株式会社ニトロプラスの協力のもと、同社の PC ブラウザ&スマホアプリゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」に登場するキャラクター「刀剣男士小烏丸」と、7月歌舞伎鑑賞教室(本館)及び夏休み文楽特別公演第三部(文楽劇場)で上演する「紅葉狩」のコラボレーションを実施した。振興会の Twitter への投稿で約 22,000 件の「いいね」を獲得するなど、SNS をはじめとするインターネットを中心に話題となり、伝統芸能になじみが少ない若年女性層の誘客につながった。
 - ◇「刀剣男士小烏丸」の切り出しパネルを作成し、両劇場のロビーにフォトスポットとして設置した。
 - ◇(本館)株式会社ニトロプラス所蔵の実際の刀剣「太刀 小烏丸写し」を劇場ロビーで展示した。
 - ◇(文楽劇場)文楽人形による「刀剣男士小烏丸」を、昨年度に作成した小狐丸の人形と併せて劇場ロビーで展示した。

(a) 本館

- ・大劇場壁面に季節ごとの造花等の装飾を実施し、季節を感じる雰囲気づくりを行った。
- ・劇場前庭と劇場脇通路に設置している懸垂幕を金と銀の地にさよなら記念ロゴマークを入れデザインにし、劇場の閉場に向けて華やかな雰囲気を演出した。
- ・5月雅楽公演より劇場ロビーに足踏み式スタンプ「フミポン」を設置し、10月より「初代国立劇場さよなら記念」のロゴマークと閉場までの日数を入れたスタンプにした。
- ・10月以降の歌舞伎公演期間中、大劇場ロビーに特設売店を設置し、上演演目に所縁の深い地域の物産展を実施するとともに、1月から「初代国立劇場さよなら記念グッズ」の販売も開始した。併せて、関係地域の観光チラシ等を掲出し、地域観光への寄与を図った。
- ・初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら公演と東京都千代田区商業施設「日比谷 OKUROJI」とのタイアップキャンペーンを10月より開始した(令和5年10月末まで)。参加店舗の「和菓子楚々」とのコラボレーション限定メニューを大劇場特設売店で販売(10月・3月歌舞伎「桜あん DANGO」のべ2,067本、初春歌舞伎「初春紅白 梅だんご」995本)
- ・新型コロナウイルス感染症における政府の方針及び業界ガイドライン、振興会ガイドラインの改訂に伴い、他劇場の状況を調査する等情報収集と検討のうえ、観客に安心して快適に観劇できるよう、通常の観劇環境に戻すべく、食事可能エリアを増やす等の感染症対策の緩和と観客への周知について、こまめに対応した。
- ・空気環境(二酸化炭素濃度等)の測定を開演中の客席で実施し、外気と大差ない良好な空気環境であることを確認し、数値をロビーに掲示した。
- ・最大20名同時に検温ができるサーマルカメラを6月歌舞伎鑑賞教室より劇場入口に設置した。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、劇場ロビーの正面ガラス扉等を開けて外気を取り込み、感染リスクを下げた。また、夏場の7~9月の公演期間中は冷風機を設置し、暑い外気を直接取り込まないよう工夫をした。
- ・観劇様式の正常化に向けて、新型コロナウイルス感染予防の観点から実施を見合わせてきた大向うを、専用エリアにて、劇場指定の関係者に限定して、初春歌舞伎から再開した。
- ・大・小劇場ロビーに無料で使用できる IC カード認証型ロッカーを設置した。
- ・観劇と併せて伝統文化(水引、香)を体験できるワークショップを実施した(7月歌舞伎鑑賞教室、11月歌舞伎、初春歌舞伎。参加者数：のべ123名)。

■6月・7月歌舞伎鑑賞教室

- ・「親子で楽しむ歌舞伎教室」「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」期間に合わせて、振興会では初めての試みとして、スマートフォンによる AR(拡張現実)技術を導入した。
 - ◇「『紅葉狩』ARスタンプラリー」をロビーで実施。達成者に「特製くろごちゃんフォトフレーム」を進呈(7/20~27、参加者数：のべ1,083名)。
 - ◇「親子で楽しむ歌舞伎教室」期間中に解説「歌舞伎のみかた」で AR 技術を活用したコンテンツを体験するコーナーを設けた(7/20、26)。
- ・新型コロナウイルス感染症対策及び熱中症対策として、学校団体の入場による混雑回避のため、状況に応じて開場時間を15分早め、開演45分前とした。
- ・学校団体の熱中症などに対応するため、ロビーの臨時医務室を1か所増設し、合計2か所設置した。

■11月歌舞伎

- ・2階食堂「十八番」における公演限定メニューを提供した(「忠臣蔵弁当」:551食、「仲蔵蕎麦」:219食)。
- ・公演解説書記事掲載とイヤホンガイド放送とのコラボレーション企画として、中村芝翫・春風亭小朝対談を実施した。

■初春歌舞伎

- ・新型コロナウイルス感染予防の観点から実施を見合わせてきた初春歌舞伎公演恒例の劇中での「手拭いまき」を、令和2年1月以来3年ぶりに復活した。
- ・来場者に初芝居の観劇気分を楽しんでもらうため、正月のイベント・飾り付け等を行い、正月らしい華やかな雰囲気を演出した。
 - ◇ 初日挨拶イベント(1/3 開演前 尾上菊五郎・中村時蔵・尾上松緑・尾上菊之助・振興会理事長)
 - ◇ 太神楽実演(1/3 開演前 太神楽曲芸協会)
 - ◇ 獅子舞実演(1/3 幕間、4~7 開演前 太神楽曲芸協会)
 - ◇ 箏演奏(1/3 開演前、4~7 幕間 鈴木泉芳・菊風ゆうこ・関雅美・井上雅香夕(日替わり))
- ・現在の国立劇場での建物では最後の初春公演を盛り上げるため、石川県小松市のマスコットキャラクター「カブッキー」とPR大使「こまつ姫御前」が来場。国立劇場のマスコットキャラクター「くろごちゃん」も登場(1/21・22)。

■3月歌舞伎

・

■9月文楽

- ・「初代国立劇場さよなら公演」にちなみ、第一部の開演前に客席壁面に開場以来歴代の小劇場の緞帳の画像を映写し、劇場の歴史を振り返っていただく企画を行った。

(b) 演芸場

- ・ロビー壁面及び劇場正面入口のデジタルサイネージに季節の草花を装飾し、季節を感じさせる雰囲気づくりを行った。
- ・幟を更新した(11月)。
- ・国立演芸場設立に尽力した三遊亭金翁の逝去(8/27)に伴い、三遊亭金翁を偲ぶ写真パネルをロビーに掲出した(9/23~10/23)。
- ・7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」にて、来場したお子様全員に演芸に因んだお土産(扇子)を配布した。
- ・10月特別企画公演「五代目圓楽一門会」に出演予定だった六代目三遊亭円楽の逝去(9/30)に伴い、ロビーにて六代目三遊亭円楽を偲ぶ展示を行った。また、開演前にロビーで六代目三遊亭円楽の口演音声を放送した(10/28)。

(c) 能楽堂

- ・8月企画公演《国立能楽堂夏スペシャル》「親子で楽しむ狂言の会」「親子で楽しむ能会」において、座席字幕表示装置の表示言語を通常の日本語と英語のチャンネルに加え、子供用の現代語訳チャンネルを導入し、3チャンネルで実施した。また、子供向けイラスト入りパンフレットと演目にちなんだぬりえプラバンを配布した。なお、楽器等の体験コーナーは実施を見合わせた。
- ・観客の利便性向上のため、カレンダーを能楽書林、檜書店、小林能装束、文化堂でも取り扱い、月刊国立能楽堂は能楽書林、檜書店、文化堂でも販売した(文化堂はネット販売も実施)。
- ・9月定例公演(16日)では、能「松虫」に因み、開演前玄関広間および終演後中庭にて「能「松虫」と秋に鳴く虫」と題して、一般財団法人進化生物学研究所非常勤研究員・昆虫館 Bar Species スピーシーズ店長大島千幸氏によるトークイベントを実施した。特に、終演後のトークイベントには、100名以上が参加し、虫の音とともに楽しみいただいた。
- ・9月企画公演では、演目や出演者の本拠地である京都にちなみ、「SASAYAIORI+新宿御苑」「森半 千駄ヶ谷店」による物販販売をロビーにて実施した。
- ・12月定例公演(16日)では、年末にちなみ、来場者へ2023年版国立能楽堂ポストカード型カレンダーの無料配布、ロビーにて、「LAITIER(レティエ)」、「森半 千駄ヶ谷店」による、特製菓子・お茶等、クリスマスギフトの販売を行った。
- ・3月普及公演では、演目ゆかりの地である奈良県観光局による観光PRとアンテナショップ「奈良まほろば館」による特産品や演目にちなんだお菓子の販売をロビーにて実施した。

(d) 文楽劇場

- ・観劇の雰囲気盛り上げ、公演演目の周知を図るため、正面玄関の柱に、公演に登場する文楽人形等の写真ポスターを巻きつけた装飾を施し、2階ロビーへの大階段の周辺にも大型懸垂幕ポスターを掲出した。
- ・文楽公演では上演演目にちなんだ観劇記念スタンプを作成し、ロビーに設置した。

■夏休み文楽特別公演

- ・「鈴の音」「瓜子姫とあまんじゃく」の上演にちなみ、登場するキャラクターをモチーフにした保冷剤を作成し、親子劇場にご来場のお子様全員にプレゼントした。
- ・第一部の入場券購入者を対象に、夏休み親子バックステージツアーを実施し、舞台裏及び第一部の舞台ができるまでを案内した(7/31～8/2、3日間計3回、参加者数：52人)。

■11月文楽公演

- ・観劇の雰囲気盛り上げるとともに公演の演目を告知するために、2階ロビーに上演演目「勸進帳」の弁慶の人形を展示した。

■初春文楽公演

- ・初春文楽公演での手拭い撒きは、新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため中止し、抽選で初春文楽公演オリジナル干支手ぬぐいプレゼントを実施した。また、同デザインの手拭いをお客様へ販売するなど、売店に文楽上演演目に因んだグッズ類を充実させ、観劇の雰囲気盛り上げるように努めた。
- ・観劇の雰囲気盛り上げるとともに公演の演目を告知するために、2階ロビーに上演演目「壇浦兜軍記」の阿古屋の人形を展示した。
- ・「良弁杉由来」及び「義経千本桜」が奈良県を舞台にした演目であることにちなみ、奈良県産業共励会・奈良県下市町観光協会と協力して集客を図るとともに、劇場ロビーでの特産品・関連グッズの販売を行った。併せて地域のマスコットキャラクターによる公演及び現地のPRを実施し観劇の雰囲気を盛り上げた。

■9月特別企画公演

- ・聖霊会で使い今回の舞台でも使用した「散華」（蓮の花びらの形をした紙）を来場者全員にプレゼントとして配布した。
- ・（一社）斑鳩町観光協会の協力により法隆寺 i センターが特別出店し、斑鳩町の特産品や聖徳太子関連グッズなどを販売し、公演の雰囲気を盛り上げた。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・所作や表情、美しい衣装をより近く感じてもらうなど、公演の楽しみ方を広げるため、オペラグラスの貸出を開始した。
- ・組踊の重要文化財指定50周年を記念し、朝薫五番の登場人物をモチーフにしたLINEスタンプの販売を行った。
- ・8月の普及公演「沖縄の音色～うちなー楽器ありんくりん～」において、終演後にホワイエで出演者による楽器の体験(事前申込制)や楽器・ニシキヘビの皮の展示を行った。
- ・10月研究公演「朝薫五番とからくり花火」において、LINEスタンプキャラクターのTシャツを販売した。また、(一財)沖縄美ら島財団との連携により、琉球菓子とお茶の販売・飲食ブースを設置した。
- ・12月定期公演「沖縄本島民俗芸能祭～南風原の村遊び～」において、ロビーで南風原町商工会及び観光協会主催による観光・物産展を開催した。
- ・1月定期公演「琉球舞踊特選会」では、来場者に劇場オリジナルグッズが当たる「お年玉抽選会」を実施し、初春公演の雰囲気を盛り上げた。

(f) 新国立劇場

- ・主催公演のプログラム販売においてクレジットカード、交通系電子マネー等の利用に対応した。
- ・各劇場のホワイエにおいて飲食可能エリアを設け、新型コロナウイルス感染症対策とお客様サービスの両立を図った。

② 観劇時のマナーに関する取組

- ・場内アナウンス、マナー啓発のチラシ・ポスターの掲出、座席字幕表示装置の活用、視覚的なサインを用いたプラカード等により観劇マナーの注意喚起を行った。
- ・注意喚起に当たっては、状況に応じて日本語の他に英語の表記・アナウンスを行った。

③ 高齢者・障害者等多様な観客への配慮、サービスの充実

- ・前年度に引き続き、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場・国立劇場おきなわ・新国立劇場の各公演において障害者割引を行った。

- ・障害者割引利用におけるチケット引取り時の確認について、障害者手帳以外に障害者手帳アプリ「ミライロ ID」の提示でも可能とした。
- ・座席字幕表示装置等を活用して字幕表示を実施した。
- ・劇場ホームページにバリアフリー情報を継続して掲載、観劇の方が事前に劇場内情報を手に入れやすいようにした。
- ・各館でロビー等に車椅子を常備し、また、車椅子での来場に対応した。
- ・チケット売場やロビー受付等に、筆談等及び補助犬入場に対応可である標示を継続して掲出した。

(a) 本館

- ・6月歌舞伎鑑賞教室で、聴覚障害者の観劇機会拡大のため、6/12・18の各ステージにおいて、無線ポータブル字幕機に上演台本を表示する観劇支援を、有料・各ステージ80台限定で実施した。振興会ホームページ及びTwitter並びにプレスリリースサービスを活用するほか、聴覚特別支援学校にDMを送付するなどして周知した(利用実績：83名)。
- ・6月・7月歌舞伎鑑賞教室で、特別支援学校の車椅子利用の学生計16名に対応するため、座席の一部を撤去した(6/22、7/12)。
- ・歌舞伎・文楽公演等において、人数制限を行い託児サービスを実施、観客の利便を図った。
- ・聴覚障害者の歌舞伎鑑賞において、台本の事前貸し出しを行った(10月、11月、3月歌舞伎公演で各1名、1月歌舞伎公演で2名)。

(b) 演芸場

- ・障害がある方の団体鑑賞に際し、駐車場から段差無く移動できるよう、非常口扉を開放し、スムーズな入退場ができるよう配慮した。
- ・演芸場正面の入場階段やトイレ内に段差があることを表示する注意喚起の白色テープを張り付けた。
- ・客席から屋外に通じる非常口床面にスロープを設置した。

(c) 新国立劇場

- ・文化庁委託事業「令和4年度障害者等による文化芸術活動推進事業」として、視覚・聴覚に障害を持つ観客への観劇サポートを実施した。また、当該公演の全国公演実施においても同様の取組を実施した。

【サポート内容】

- ◇ 視覚障害者向け：開演前舞台説明会、リアルタイム音声ガイド等
- ◇ 聴覚障害者向け：バリアフリー字幕の提供等

【対象公演】

- ◇ 「ロビー・ヒーロー」(視覚障害者向け：5/14・15、聴覚障害者向け：5/21。合計48名参加)
- ◇ 「ガラスの動物園」(視覚障害者向け：9/30・10/2、参加者数44名。聴覚障害者向け：全ステージ(舞台上方の大型LEDパネルにて日英バリアフリー字幕を表示)、参加者数7名。)
- ◇ 「レオポルトシュタット」(視覚障害者向け：10/29・30、参加者数17名。聴覚障害者向け：10/23、参加者数5名。)
- ・令和元年度から実施している観劇サポートについて、これまでの取組の総括をホームページに公開した。
- ・引き続き、高齢者割引(窓口・電話・WEB)を行った。
- ・オペラパレスにおける開演前、休憩後の英語アナウンスについてジェンダーニュートラルに配慮した。

④ 外国人利用者への配慮、サービスの充実

- ・外国人の理解促進を図るため、解説書のあらすじ、案内パンフレット等について英文による記載を行い、一部公演では無料配布した。
- ・座席字幕表示装置等を活用して英語字幕表示を実施した。
- ・英語による場内アナウンス・案内表示等により、外国人の観劇環境を充実した。
- ・来日を予定する外国人からの問い合わせが増加しており、これらに速やかに対応した。
- ・英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。

(a) 本館

- ・新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の緩和に伴うインバウンド需要に対応するため、歌舞伎・文楽公演における外国人及び同伴の日本人に対する特別割引「WELCOME! TICKET」を実施。これに合わせて、感染症の流行に伴って中止していた英語版音声ガイドの貸出(有料)を再開(初春・3月歌舞伎、2月文楽)。
- ・12/11・12実施の「国立劇場オープンシアター」では、リーフレットの英語併記、「ロビー見学」の音声ガイドアプリにおける英語版の作成、「ステージツアー」における英語ガイド専用回の設定を実施した。

(b) 能楽堂

- 能楽堂での「Discover NOH & KYOGEN」では、津田塾大学、株式会社伊藤園と連携し、「秋を楽しむ」日本茶テイastingイベントを開催した。

(c) 文楽劇場

- 「Discover BUNRAKU」及び鑑賞教室公演において、別冊の解説書(英語・中国語[簡体字・繁体字]・韓国語・フランス語・スペイン語)を無料で配布した。

(d) 国立劇場おきなわ

- 英語版のチケット販売 WEB サイト(Confetti)を活用し、外国人観客の利便性向上を図った。
- 外国人観客の案内や問合せに対応するため、多言語(英語・中国語など 15 言語)対応のタブレットによるオンライン通訳サービスを実施した。
- 研究公演「朝薫五番とからくり花火」において、英語の特設サイトを作成し、音声ガイド(日本語・英語)を無料で貸し出した。
- 親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」において、音声ガイド(日本語・英語)を無料で貸し出した。

(e) 新国立劇場

- 演劇「私の一ヶ月」「夜明けの寄り鯨」においてポータブル英語字幕機の貸出を行った。
- 全ての主催公演・研修所公演で、海外からチケットを購入できる英語版 Web ボックスオフィスのサービス等を引き続き提供した(オペラ劇場での公演は座席選択が可能)。
- 日本政府観光局(JNTO)が主催する国際商談会「VISIT JAPAN トラベルマート 2022」に参加し、(9/22~24)計 17 の国と地域を対象に 33 件(オンライン 21 件/リアル 12 件)の商談を実施した。現地旅行会社に新国立劇場の存在をアピールし、認知度向上に寄与すると共に、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。
- Trip Advisor にタイアップ記事を出稿し、海外からの観光客に向けたターゲット広告から同記事へ誘導、英語サイトへ繋げるにより来日時の魅力的な訪問先としての新国立劇場の存在及び公演をアピールした。

《Discover 公演 多言語化対応状況》

区分	解説書等	字幕	音声同時解説	アナウンス・案内業務
歌舞伎	7 言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・仏・西)	2 言語 (日・英)	2 言語 (日・英)	2 言語 (日・英)
文楽 (本館)	7 言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・仏・西)	2 言語 (日・英)	2 言語 (日・英)	2 言語 (日・英)
文楽 (文楽劇場)	7 言語(日・英・中(簡)・中(繁)・韓・仏・西) 入門パンフレット:5 言語(日・英・中(簡)・韓・仏)	1 言語(英)	1 言語(日)	アナウンス:2 言語(日・英) 案内業務:2 言語(日・英)
能楽	6 言語 (日・英・中(簡)・韓・仏・西)	6 言語 (日・英・中(簡)・韓・仏・西)	なし	2 言語 (日・英)
組踊	—	タブレット:6 言語 (英・中(簡)・中(繁)・韓・西・葡)	4 言語 (日・英・中・韓)	案内業務:2 言語(日・英)

■「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」(本館)

- 多くの外国人観客に対応するため、特別な体制を整えた。
- 英語による場内アナウンスを実施、英語対応スタッフを配置した。また、劇場入口において、多言語メガホンを使用し、英語による新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のメッセージを流した。
- 7 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)の歌舞伎又は文楽の概要説明・演目解説・あらすじを一冊にまとめたリーフレットを作成して無料で配布した。
- 外国人観客に対応するため、英語及び日本語による進行に応じた字幕表示・音声同時解説を行った。

■「Discover BUNRAKU—BUNRAKU for Beginners—」(文楽劇場)

- 「Discover BUNRAKU」公演用の英文チラシを作成した。
- 6 言語(英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)の演目解説・あらすじを一冊にまとめたリーフレットプログラムを作成して無料で配布した。
- 英語の字幕を表示した。
- 外国人観客からの問合せにスムーズに対応できるようロビーに英語通訳を 2 名配置した。

■「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH&KYOGEN」

- 6 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)の演目解説・あらすじを一冊にまとめたリーフレットを作成して無料で配布した。
- 座席字幕表示を 6 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)とした。

- ・日本文化に触れるきっかけづくりとして、津田塾大学、株式会社伊藤園とのコラボイベント、「秋を楽しむ」日本茶テイastingイベントを開催した。

■「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『二童敵討』」

- ・外国人観客からの問合せにスムーズに対応できるようロビー及び公演前に実施した組踊ワークショップに英語通訳をそれぞれ1名配置した。
- ・多言語音声ガイド(4言語:日本語・英語・中国語・韓国語)及び字幕タブレット(6言語:英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・スペイン語・ポルトガル語)を無料で貸し出した。

⑤ 災害等への対応

(a) 本館

- ・大劇場楽屋エリアでの出火を想定した自衛消防訓練を実施した(12/2)。

(b) 能楽堂

- ・自衛消防訓練を2回(9月・2月)実施し、職員、委託業者等、全職域が参加した。避難誘導等の実地訓練及び模擬消火器による消火訓練を行った。
- ・2月には自衛消防訓練に引き続き舞台安全会議を開催し、職員、委託業者等、全職域が参加して、原宿警察署署員による防災レクチャーを実施した。

(c) 文楽劇場

- ・文楽劇場にて職員、出演者及び委託業者が参加し避難誘導等の実施訓練を行った(6/14)。
- ・小ホールにて、職員及び委託業者社員が消防署提供のビデオを視聴し消防活動について学んだあと、避難経路の説明、3階からの火災を想定し、小ホールからの避難誘導訓練を行った。併せて水消火器を使用した実地訓練を行った(3/24)。
- ・文楽劇場及び小ホールにおいて、職員及び委託業者社員により、舞台安全対策会議及び現場でのシミュレーションを含む舞台安全講習会を実施した(3/15)。

(d) 国立劇場おきなわ

- ・警備職員、中央監視員による通報訓練及び水消火器を使用した消火訓練を実施した(6/7)。
- ・職員や委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を実施し、通報訓練及び避難や消火器の取扱い等について実地訓練を実施した(12/12)。
- ・職員や委託業者等、全職域が参加する津波避難訓練を実施した(11/8)。

(e) 新国立劇場

- ・職員を対象とした避難訓練を実施し、災害時の初動対応を確認した(11/21)。
- ・各公演前に、劇場案内スタッフを主体とした避難訓練を実施した。

イ 多様な購入方法の提供

i. 伝統芸能分野

- ・利用者の鑑賞ジャンルを拡大を企図し、あぜくら会員を対象に国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂の3月公演が定額で見放題となる共通パスポートを販売した(販売実績:47枚)。
- ・特定の年齢層による購入を促すため、国立劇場の3月歌舞伎公演においてクーポンを利用したウェブチケットの割引販売を導入した(販売実績:18枚)。
- ・国立劇場おきなわでは、セット券や通し券をウェブチケット販売サービスでも購入できるようにした。

《親子を対象とする公演の販売に関するデータ》

公演名	公演期間	購入方法	先行発売日	販売枚数	総入場者数
親子で楽しむ歌舞伎教室	7/20～26	インターネット	6/1	17,632枚	19,070人
		電話	6/2	1,263枚	
文楽親子劇場	7/16～8/4	インターネット	6/8	1,227枚	5,078人
		電話	6/8	1,759枚	
親子で楽しむ演芸会	7/23～24	インターネット	6/3	544枚	576人
		電話	6/4	21枚	
夏休み親子のための能の会	8/27	インターネット	6/3	519枚	600人
		電話	6/4	27枚	
夏休み親子のための狂言の会	8/6	インターネット	6/3	555枚	587人
		電話	6/4	34枚	

親子のための組踊鑑賞教室	8/6~7	インターネット、 電話	-	146 枚	303 人
--------------	-------	----------------	---	-------	-------

- ・チケットセンターホームページ内に親子企画を紹介する特設サイトを設置し、振興会トップページに目立つバナーを掲載して誘導した。
- ・親子を対象とする公演のインターネット販売では、文楽を除く各公演は、会員及び一般発売に先行して発売した。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・演劇公演において、劇団研究生向けの特別優待割引販売(ユース・アクターズ・プラン)を実施した。

ウ 公演内容等の理解促進のための取組

① 解説書等の作成

(a) 本館

- ・国立劇場大劇場及び小劇場において実施したすべての公演(養成研修発表会を除く。)において公演解説書を作成した。うち、初心者を対象にした公演などである、4月舞踊・邦楽公演、6月文楽若手会、7月舞踊公演、8月音の会は、無料配布とした。
- ・6・7月歌舞伎鑑賞教室及び12月文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本(初心者向けガイドブック)を無料配布した。
- ・6・7月「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」において、社会人を主とする来場者が演目の内容を一層理解できるように、ミニ台本を無料配布した。
- ・11月歌舞伎公演では、午後6時30分開演の部(コラボ忠臣蔵☆エッセンス☆)に限り、みどころ・あらすじ・出演者対談・記名原稿を掲載した限定特製の別冊プログラムを作成して販売した。
- ・歌舞伎公演解説書では、巻頭の演目概要解説やゆかりの地紀行など、写真や図版を多用したカラーページを設けて、視覚的にも理解促進が図れる記事を掲載した。
- ・歌舞伎と文楽のさよなら公演では、プログラムの表紙に高級感のある用紙を使用し、特別感を演出した。
- ・さよなら公演のプログラムでは、歌舞伎、文楽をはじめ各種短期公演において、それぞれの芸能分野の専門家による、これまでの主催公演を振り返る特集記事を掲載した。

(b) 演芸場

- ・出演者の顔写真を掲載した公演ガイドを毎月作成し無料配布。
- ・さよなら公演全体の広報と国立演芸場への興味関心の拡大に繋げるため、9月号より公演ガイドをリニューアルし、「さよなら公演特別企画」(国立演芸場ゆかりの方々のインタビュー・寄稿)の掲載を開始した。
 - ◇ 10月号：三遊亭金翁(日本演芸家連合名誉会長)
 - ◇ 11月号：三笑亭夢太朗(日本演芸家連合会長)
 - ◇ 12月号：太田博(大衆芸能ジャーナリスト 元大衆芸能公演専門委員)
 - ◇ 2月号：鏡味繁二郎(太神楽曲芸協会会長)
 - ◇ 3月号：橘右之吉(寄席文字書家)
- ・11月特別企画「正蔵 正蔵を語る」及び文化庁芸術祭主催「11月国立名人会」において別途解説パンフレットを作成し、いずれも無料配布した。

(c) 能楽堂

- ・公演内容に応じて特集を組み、カラー写真や図版を挿入するなど、工夫を凝らした解説書を毎月作成した。

(d) 文楽劇場

- ・各公演において解説書を作成(「上方演芸特選会」を除く)。うち、5月舞踊・邦楽公演、5月浪曲錬声会、6月文楽鑑賞教室、6月文楽若手会、10月及び3月若手素浄瑠璃の会、2月浪曲名人会は無料配布とし、広く公演内容を周知した。
- ・文楽公演で解説書の一部をカラー化し、写真や図版を多用して、視覚的に分かりやすい特集記事を掲載した。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・公演解説書ステージガイド(月刊)を作成。演目解説や出演者紹介の他、公演関係者インタビューや公演鑑賞レポート等を掲載した。

(f) 新国立劇場

- すべての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成した。うちバレエ・現代舞踊公演及び演劇公演の一部(「ガラスの動物園」)は無料配布とした。
- 公演プログラムに公演クレジットと英文によるあらすじ解説を掲載した。オペラ公演では 2019/2020 シーズンより継続して増頁にて全てのプログラムに英語による作品解説・出演者プロフィールを掲載した。また、現代舞踊及び演劇公演プログラムの一部でも英語による解説等を充実させた。
- 2022/2023 シーズンガイドを作成し、シーズンを通した演目の紹介、各種サービスの案内を行った。
- プログラム販売時のクレジットカード・交通系電子マネー等による支払いを引き続き実施した。観客の利便性向上に寄与するとともに、新型コロナウイルス感染症対策として接触機会の低減に繋げることができた。
- 新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を別途作成、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。

② 音声同時解説・字幕表示

(a) 音声同時解説サービスの実施

- 歌舞伎・文楽の全公演で、日本語による音声同時解説サービス(骨伝導イヤホンを含む)を実施。7月「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」と12月「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」では2言語(日本語・英語)解説を実施。
- 外国人及び同伴の日本人向け特別割引「WELCOME! TICKET」の実施に合わせて、英語による音声同時解説サービスを期間限定で実施(初春・3月歌舞伎、2月文楽)。
- 文楽劇場では文楽の全公演で、音声同時解説サービスを実施した(英語については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用者が激減しているため一時休止)。また、夏休み文楽特別公演文楽親子劇場では、18歳未満の子供について音声同時開設サービスの無料貸出を実施した。
- 8月普及公演 親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」では、2言語(英語・日本語)による音声ガイドを無料提供した。
- 11月普及公演 はじめての組踊～Discover KUMIODORI～では、4言語(日本語・英語・中国語・韓国語)による音声ガイドを無料提供した。
- 新国立劇場では、令和4年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として、演劇3演目(「ロビー・ヒーロー」「ガラスの動物園」「レオポルトシュタット」)の一部公演で、視覚に障害がある方向けにリアルタイム音声ガイドを提供した。

(b) 字幕表示の実施

分野	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演(鑑賞教室含む)	1公演	6月鑑賞教室、7月鑑賞教室
文楽公演(鑑賞教室含む)	10公演	全公演
舞踊・邦楽・雅楽・声明・特別企画・民俗芸能・琉球芸能公演	15公演	本館:7月舞踊公演、9月舞踊公演、11月舞踊公演、3月舞踊公演
		本館:6月邦楽公演、10月邦楽公演(日本音楽の流れ)、10月邦楽公演(素浄瑠璃)、1月邦楽公演(邦楽名曲選Ⅱ/Ⅲ)
		文楽劇場:8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」
		11月雅楽公演、2月声明公演
		4月特別企画公演(舞踊・邦楽)、7月特別企画公演
6月民俗芸能公演、3月琉球芸能公演		
能楽公演(鑑賞教室含む)	48公演	蠟燭能を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演(鑑賞教室含む)	24公演	24公演(「国立劇場寄席」及び「朝薫五番とからくり花火」屋外実施日を除く)
オペラ公演(鑑賞教室含む)	11公演	全公演
演劇公演	5公演	令和4年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として、演劇3演目、日本博主催・共催型プロジェクトの一環として2演目で字幕表示を行った。
研修公演	2公演	文楽劇場:6月文楽若手会、オペラ研修所試演会「領事」(日英)、オペラ研修所修了公演「コジ・ファン・トゥッテ」(日)

- 7月「Discover KABUKI」、12月「Discover BUNRAKU」で英語字幕を実施した。
- オペラ公演、オペラ研修所試演会、演劇「私の一ヶ月」「夜明けの寄り鯨」(一部公演日)、演劇研修所 朗読劇「ひめゆり」で英語字幕表示を実施した。

③ 公演内容の事前説明会等の実施

(a) 公演説明会等の実施

区分	公演説明会		施設見学		バックステージツアー	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数

本館	60件	2,164人	7件	112人	2件	112人
演芸場	2件	57人	0件	0人	0件	0人
能楽堂	19件	647人	3件	41人	13件	387人
文楽劇場	39件	810人	3件	102人	21件	52人
国立劇場おきなわ	6件	132人	5件	98人	1件	93人
新国立劇場	14件	25,562人	17件	196人	4件	234人
合計	140件	29,372人	35件	549人	41件	878人

■本館

- ・7月歌舞伎鑑賞教室の観劇団体であるアメリカ合衆国のWalt Whitman High Schoolの学生21名・教員5名を対象にしたステージツアーを、新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、出演者と観客を区分けしたことに伴い、出演者による観劇団体向けの解説を、WEB会議システムの利用により、出演者が別室から解説するリモート方式に変更していたが、9月文楽公演より、30分以内の所要時間、講師と観客との距離の十分な確保を条件に、対面によるレクチャーを再開し、団体観劇の促進を図った。
- ・「初代国立劇場さよなら公演」との提携企画として、読売・日本テレビ文化センター主催による全3回の連続講座を実施(第1回は劇場外での実施のため別途記載)。
 - ◇2/3 第2回「まるごと国立劇場ツアー」(参加人数:78名)
 - ◇3/21 第3回「役者と制作者が語る国立劇場の歌舞伎」(参加人数:42名)

登壇者＝中村又五郎・大和田文雄
- ・3月歌舞伎公演が「歌舞伎名作入門」と題した企画であることに鑑み、東京都千代田区の後援事業として、全2回の連続講座「さよなら初代国立劇場！千代田区在住・在勤者限定歌舞伎鑑賞」を主催(参加人数:86名)。
 - ◇3/4 第1回「建築家・半澤重信にきく「国立劇場開場前夜」
 - ◇3/18 第2回 開演前のポイント講座・歌舞伎鑑賞・ステージツアー

■演芸場

- ・出演者による観劇団体向けの解説を実施した。

■能楽堂

- ・観劇団体への公演説明会、バックステージツアーを実施した。

■国立文楽劇場

- ・出演者による観劇団体向けの解説を実施した。

■国立劇場おきなわ

- ・沖縄県教育庁生涯学習振興課の生涯学習振興センターと連携し、沖縄県民カレッジ主催講座として組踊「花売の縁」観劇の前に芸術監督による講義を行った(参加者30人)。
- ・7月琉球舞踊鑑賞教室、8月親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」のチケット購入者限定で参加できる劇場バックステージツアーを実施。
- ・10月研究公演「朝薫五番」や12月組踊公演「北山敵討」において、旅行会社と連携して組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを実施した。

■新国立劇場

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、バックステージツアーの実施は見送ったが、客席において舞台装置等の解説を行う「公演ガイドツアー」を試行的に実施した(「ボリス・ゴドゥノフ」「ファルスタッフ」)。
- ・新制作オペラの作品理解を深めるため、演出家等のスタッフによるオペラトークを、また、演劇公演への興味関心を喚起するため、演出家や主な出演者が制作過程の逸話等を紹介するシアタートークをそれぞれ実施。オンライン(YouTube)でもライブ配信やアーカイブ配信を行った。

《オペラトーク・シアタートーク等開催実績》

公演	内容	会場	日程	参加人数
アンチポデス	シアタートーク		4/11	中止
ロビー・ヒーロー	シアタートーク		5/12	240人
オルフェオとエウリディーチェ	特別配信版オペラトーク	YouTube	5/13～	4,774人
貴婦人の来訪	シアタートーク		6/7	180人
ペレアスとメリザンド	特別配信版オペラトーク	YouTube	6/22～	10,091人
ガラスの動物園	シアタートーク(9/29)		9/29	925人

ガラスの動物園	シアタートーク(9/30)		9/30	820人
ガラスの動物園	シアタートーク配信版	YouTube	11/11～	882人
レオポルトシュタット	シアタートーク		10/18	250人
レオポルトシュタット	シアタートーク		10/26	200人
私の一ヶ月	シアタートーク		11/8	200人
夜明けの寄り鯨	シアタートーク		12/7	190人
ボリス・ゴドゥノフ	オペラトーク		11/6	117人
ボリス・ゴドゥノフ	オペラトークアーカイブ配信	YouTube	11/6～	7,183人
ボリス・ゴドゥノフ	アフタートーク		11/15	350人
合計			14回	26,402人

- ・オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」の指揮を務めた鈴木優人が、自身のチェンバロ演奏を交えて作品の解説を行う「特別配信版オペラトーク」を実施した。
- ・オペラ「ペレアスとメリザンド」にて「特別配信版オペラトーク」を実施した。音楽評論の村山則子、映画史研究のジョージアス・ピノン、フランス文学の川竹英克を招き、指揮の大野和士が聞き役として作品内容を深く掘り下げ分析した。カバー歌手による歌唱も交え新制作オペラへの興味関心を喚起した。
- ・オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」指揮の大野和士、作家の佐藤優、ロシア文学者の亀山郁夫の鼎談によるオペラトークを実地及びライブ配信（後日アーカイブ配信）にて開催した。登場人物の内面に迫るコンセプトと作品の背景について解説し、本役歌手・カバー歌手による歌唱も交えた充実した内容で新制作オペラへの期待感醸成を図った。
- ・演劇公演で実施されてきた、各公演の制作担当プロデューサーが公演中の劇場にて舞台美術の説明や開幕に至るまでの足跡等を解説する公演ガイドツアーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から映像での発信に切り替え、従来抽選で一部の観客に公開していたものを幅広い層にリーチすることができた。（6演目、総再生数 6,587回）

(b) 劇場外での公演説明会等の実施

i. 伝統芸能分野

- ・「初代国立劇場さよなら公演」との提携企画として、読売・日本テレビ文化センター主催による全3回の連続講座の第1回「国立劇場のあゆみ」を読売新聞社大手町スクールで実施（10/8、講師：神山彰、参加者：31名）。また、東京都千代田区立日比谷図書文化館「日比谷カレッジ」主催による「コラボ忠臣蔵 歌舞伎と寄席芸の世界」を同館で実施（11/4、講師：今岡謙太郎、参加者：120名）。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・チケット購入団体に対して外部専門家及び職員によるオペラ・バレエ公演の事前レクチャーを実施した。令和3年度においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインでの実施となった。

エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用

① 意見・要望等への対応体制

(a) 振興会

- ・各館に寄せられた観客の意見・感想・要望及び観劇予定者からの質問等については、迅速な対応を図るとともに、対応状況については把握、職員や案内業務委託業者等と情報を共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。
- ・劇場ロビーに設置していたご意見箱は新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため一部撤去し、要望を受けた場合に筆記具を渡す等の対応をするほか、振興会ホームページに設置するご意見フォームを利用して意見が寄せられるよう、ご意見用QRコードを印刷した用紙を場内に配置している。

(b) 国立劇場おきなわ

- ・観客の意見・感想・要望については、関係部署間で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

(c) 新国立劇場

- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページに掲出した。
- ・アンケートは用紙の配布を行わず、ウェブで実施した。
- ・インターネット上でのご意見収集について、従来は専用フォームのみによる受付であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための公演中止、払い戻しなどに関する問合せニーズの増加に対応する

ため、新たなご意見受付チャンネルとして、ご意見受付用のメールアドレスを公開した。

- ・意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- ・主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者・観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

② 意見・要望等への対応

区分	劇場内ご意見箱		メールによるご意見	
	受付件数	回答件数	受付件数	回答件数
本館	2件	1件	230件	185件
演芸場	4件	2件		
能楽堂	0件	0件		
文楽劇場	0件	0件		
国立劇場おきなわ	0件	0件	0件	0件
新国立劇場			301件	113件
合計	6件	3件	531件	298件

《主な対応・改善例》

- ・新国立劇場では、いただいた意見・要望について下記のような対応を行った。
 - ◇ 頻繁に問われる情報について、ウェブサイトやSNSでの情報配信
 - ◇ 公演内容に関する問合せに対して適宜回答した。
 - ◇ 化粧室を臨時に変更する際、掲示を大きくし分かりやすいように改善した。
 - ◇ 英語での合唱団、バレエ団、研修所などのオーディションに関する問合せに対する適宜回答
 - ◇ 英語での「チケットを贈り物として使いたい」というご要望について、適宜案内を行い、来場者変更受付のフォームを設置して購入完了メールに挿入するという改善を行った。

2 - (6) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

幅広く多くの人々が鑑賞することを目標とする、一層効果的な広報・営業活動、

ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動

振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

イ シーズンシートの拡充、会員に向けた各種サービスの提供、外国人向けの広報・営業、潜在的なニーズの把握、関係機関との連携等、観客の需要を的確に捉えた営業活動の展開

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用し、広報活動を効果的に実施

② 振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

(a) ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等の分析

(b) SNS やメールマガジンによる公演等の情報の随時配信

(c) 外国語版のホームページ等の充実を図り、外国人に対する情報発信を効果的に実施、より効果的な情報発信を検討

(d) 国内外に向け振興会各種事業の情報発信及び周知を実施

③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行

・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行)

・月刊情報誌国立劇場おきなわステージガイド(毎月発行)

・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

④ シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンの企画・実施

⑤ 団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

⑥ 若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」を運営、サービスの提供、会員数の増加及びサービスの拡充に努める

⑦ 全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的にも実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

① あげくら会(本館・演芸場・能楽堂)

・会報「あげくら」(毎月発行)

・会員向けイベント(年4回程度)

② 国立文楽劇場友の会

・「国立文楽劇場友の会会報」(年6回発行)

・会員向けイベント(年4回程度)

③ 国立劇場おきなわ友の会

・「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)

・会員向けイベント(年3回程度)

④ クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)

・会報「ジ・アトレ」(毎月発行)

・会員向けイベント(年8回程度)

ア 効果的な広報・営業活動の展開

① 多様な媒体を活用した効果的な広報活動

- ・ポスター、チラシ、ホームページ、メール、SNS(Twitter、Instagram、Facebook、YouTube)、インターネット広告、会報誌・広報誌での広報、新聞・雑誌等への公演情報掲載等で公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)を実施。
- ・文化庁ホームページ内の令和4年度(第77回)文化庁芸術祭専用ページに6劇場全ての文化庁芸術祭主催公演、協賛公演の公演情報を掲載した。
- ・(本館・文楽劇場)株式会社ニトロプラスの協力のもと、同社のPCブラウザ&スマホアプリゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」に登場するキャラクター「刀剣男士小烏丸」と、7月歌舞伎鑑賞教室(本館)及び夏休み文楽特別公演第三部(文楽劇場)で上演する「紅葉狩」のコラボレーションを実施した。振興会のTwitterへの投稿で約22,000件の「いいね」を獲得するなど、SNSをはじめとするインターネットを中心に話題となり、伝統芸能になじみが少ない若年女性層の誘客につながった。
 - ◇ ゲームキャラクター、7月歌舞伎鑑賞教室出演者扮装写真及び文楽劇場夏休み文楽特別公演舞台写真の三者によるコラボポスターを作成し、劇場ロビー、団体営業先、出演者等に配布したほか、駅貼りによる周知を行った。
 - ◇ 鑑賞の手引きや「紅葉狩」の見どころなどの解説や情報を掲載した初心者向けコラボリーフレットを作成し、無料配布した。

(a) 本館

- ・令和4年国立劇場さくらまつり(国立劇場前庭)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催見送り。
- ・令和5年国立劇場さくらまつり(国立劇場前庭)を4年ぶりに実施(3/18~4/3)。期間中、錦絵パネルの設置、売店の出店、くろごちゃんの登場等を行う。総務企画部と営業部が連携して、期間中に春のオープンシアターを実施、また、千代田区観光協会主催のリアル謎解きゲームのスポットを設置し、地域との連携も図った。振興会ホームページにて国立劇場さくら情報(開花状況等)を公開した。
- ・振興会ホームページにて国立劇場さくら情報を公開した。
- ・5月、9月文楽公演の特設ウェブサイトを作成し、公演記録映像を活用した演目の紹介映像を掲載して訴求を図った。また、当該サイトに誘引するウェブ広告(DSP 広告)を展開した。
- ・一般社団法人千代田区観光協会との協力により、国立劇場の歌舞伎・文楽公演につき、同協会へのチラシ掲出と同協会ホームページ(日本語・英語・中国語・韓国語対応)での情報掲載により、周知を図った。また、今年度から歌舞伎・文楽以外の短期公演等も取り上げ、同協会 Twitter での情報掲載を積極的に行なった。
- ・国立劇場・国立演芸場近隣の店舗で両館のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられるキャンペーン「国立劇場ようこそ半蔵門」を継続して実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど34店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。また、同キャンペーンの特別企画として、公演の周知も兼ねて、招待券や国立劇場グッズが当たる抽選会も実施した(2~3月「春の大抽選会」)。
- ・東京都千代田区内の商業施設「日比谷 OKUROJI」との提携により、初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら公演とのタイアップキャンペーンとして、同公演期間中におけるチケット半券の提示による参加店舗でのサービス提供やコラボメニューの販売を通じて公演の周知を図り、双方の集客を図る(10月~令和5年10月末)。

■10月歌舞伎

- ・尾上菊之助による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社など22社が参加した(9/13)。
- ・芸術祭オープニングに係る秋篠宮皇嗣同妃両殿下と尾上菊之助らとの懇談後、尾上菊之助による囲み取材を行った(国立劇場大劇場ロビー)。新聞社など9社が参加した(10/1)。
- ・芸術祭オープニングに係る秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を賜り、終演後には尾上菊之助らと御懇談された。その後、尾上菊之助による囲み取材を行い(国立劇場大劇場ロビー)、新聞社など9社が参加した(10/1)。
- ・公演中止となった前回(令和2年3月)の収録映像を活用した映像を作成し、SNSでの宣伝に使用した。再生回数合計は、Twitter3,459回、Instagram15,193回、YouTube6,782回であった。

■11月歌舞伎

- ・中村芝翫・春風亭小朝による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社など22社が参加した(10/14)。

■初春歌舞伎

- ・尾上菊五郎・尾上松緑・尾上菊之助による取材会(記者会見)を行った(銀座東武ホテル)。新聞社等19社が参加した(12/13)。
- ・初日開演前の大劇場ロビーに出演俳優らが登場する挨拶イベントを行った。新聞社等9社が参加した(1/3)。

■3月歌舞伎

- ・中村又五郎、中村歌昇、中村種之助、中村魁春による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社等17社が参加した(2/8)。
- ・中村又五郎、中村歌昇、中村種之助、中村魁春のコメント映像を楽屋で収録し、Twitterへ投稿した。

■6月歌舞伎鑑賞教室

- ・中村又五郎、片岡孝太郎による取材会(記者会見)を行った(銀座東武ホテル)。新聞社等16社が参加した(4/25)。

■7月歌舞伎鑑賞教室

- ・尾上松緑、中村梅枝による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社等15社が参加した(5/23)。

(b) 演芸場

- ・8月に国立演芸場のTwitterアカウントを開設し、随時情報発信を行った。表示回数が3万5000回を超える投稿もあり、演芸ファンへ広く国立演芸場の公演を周知した。
- ・演芸場2階ロビーに「令和3年度国立演芸場花形演芸大賞受賞者」の看板を掲示し、来場者に各受賞者及び花形演芸大賞制度を周知した。
- ・チラシ・ポスター作成・配布、東京メトロ銀座線新橋駅・丸ノ内線池袋駅/東京駅/新宿三丁目駅/新宿駅・有楽町線池袋駅・半蔵門線三越前駅/永田町駅/半蔵門駅へのポスター掲出、雑誌等への公演情報掲載、取材対応等、振興会ホームページにトピックス情報を随時掲載。
- ・「東京かわら版」へ広告掲載。
- ・5月中席・7月上席・11月上席は真打昇進披露公演のため、他の席帯との共同制作チラシ・ポスターを作製した。
- ・8月中席で高座復帰した三遊亭円楽の囲み取材を8/11に実施。テレビ局7社(日本テレビ他)・新聞社(東京新聞他)11社による取材があった。8/11以降の放送・記事掲載は、テレビ17件(news every他)・新聞記事10件(東京新聞他)・ネットニュース11件(日テレ news 他)。また千穉楽の8/20、新聞4社(朝日新聞他)・雑誌社1社(週刊新潮)による取材があり、新聞記事3件(日刊スポーツ他)・ネットニュース3件・雑誌記事1件(週刊新潮)が掲載された。
- ・10月特別企画公演「五代目圓楽一門会」に出演予定だった六代目三遊亭円楽の逝去に伴い、10/28の公演終了後、舞台上で五代目圓楽一門会幹部等への囲み取材を行った。テレビ局、新聞社など16社が参加した。10/28以降の放送・記事掲載は、テレビ7件(news every 他)・新聞記事3件(日刊スポーツ他)・雑誌記事2件(東京かわら版他)・ネットニュース8件(日テレ news 他)。
- ・千代田区の「広報ちよだ」(令和3年1月5日発行号)の特集記事取材に協力するに際し、同紙に1月中席への勧誘コメントが掲載された。
- ・シアター情報誌「カンフェティ」に国立演芸場を紹介する記事広告を掲載し、併せて同ウェブマガジンへの掲出を行った。
- ・公演ガイドに「さよなら公演特別企画」(国立演芸場ゆかりの方々へのインタビュー・寄稿)の掲載を開始。さよなら公演全体の広報と国立演芸場への興味関心の拡大に繋げた。
 - ◇ 10月号：三遊亭金翁(日本演芸家連合名誉会長)
 - ◇ 11月号：三笑亭夢太郎(日本演芸家連合会長)
 - ◇ 12月号：太田博(大衆芸能ジャーナリスト 元大衆芸能公演専門委員)
 - ◇ 2月号：鏡味繁二郎(太神楽曲芸協会会長)
 - ◇ 3月号：橋右之吉(寄席文字書家)
- ・チラシ裏に新型コロナウイルス感染症対策に伴う「お客様へのお願い」と「国立演芸場の取り組み」を記載し、お客様が安心してご来場いただけるよう努めた。

(c) 能楽堂

- ・小田急まなたび(小田急ポイントカード会員組織)への委託販売を行った。委託販売にあたり、小田急電

鉄の延べ100駅に7月企画公演・8月企画公演のポスター広告を無料掲出した。

- ・あぜくら会報誌6月号にて7月特別企画公演に出演の観世清和のコメントを掲載し、公演の周知を行った。
- ・あぜくら会報誌11月号にて「月刊国立能楽堂」12月号に掲載する『演出の様々な形』の対談を一部掲載し、公演の周知を行った。
- ・チラシ・ポスターの作成・配布、令和4年3月まで東京メトロ北参道駅へのポスター掲出、4月よりJR千駄ヶ谷駅へのポスター掲出、新聞・雑誌等への公演情報掲載、取材対応等に加え、振興会ホームページにトピックス情報【千駄ヶ谷だより】を随時掲載した。
- ・主催公演開催時に、見所内座席字幕表示装置に公演情報等の映像を流して、公演周知に努めた。
- ・千駄ヶ谷鳩森おとなり映画祭に資料提供等で協力した(11/13)。また、津田塾大学千駄ヶ谷キャンパスの学園祭・津田ヶ谷祭に能面の展示等で協力した(11/20)。両日とも、国立能楽堂主催公演のチラシを配布するなど、営業活動を行った。
- ・「令和5年の国立能楽堂ポストカードカレンダー」を作成し、定例公演(12/16)及び狂言の会(12/23)の来場者にプレゼントする旨をホームページで告知し、集客に努めた。
- ・さいたま市文化振興事業団が主催する能楽関連公演(12/17・1/21)の会場ロビーにてパネル展示の協力をし、国立能楽堂主催公演のチラシを配布するなどの営業活動を行った。また千葉県文化振興財団が主催する能楽関連公演(1/8)や世田谷区の生涯学習組織である世田谷ひだまり文化研究会が主催する能楽関連公演(1/25)、地元千駄ヶ谷の有志団体である千駄ヶ谷鳩森風と土の会が主催する地域行事(2/8)において、国立能楽堂主催公演のチラシを配布するなどの営業活動を行った。
- ・公演内容に応じて、特別チラシ・ポスターを作成・配布した。
 - ◇6月「能楽鑑賞教室」(特別チラシ8,000枚)
 - ◇7月特別企画公演(特別ポスター30枚、特別チラシ8,000枚)
 - ◇8月親子で楽しむ狂言の会、能の会(特別チラシ6,000枚)
 - ◇10月外国人のための能楽鑑賞教室(外国語版チラシ(英語・中国語(簡)、韓国語、スペイン語、フランス語)9,000枚)
 - ◇11月・12月演出の様々な形(特別チラシ8,000枚)
- ・親子公演用のリーフレットを作成・配布した。
- ・月刊国立能楽堂10月号にて「外国人のための能楽鑑賞教室」の案内を掲載。
- ・10月外国人のための能楽鑑賞教室用のリーフレット(日本語・英語・中国語(簡)、韓国語、スペイン語、フランス語)を作成・配布した。

(d) 文楽劇場

- ・Osaka Metro、JR西日本、在阪私鉄各社の協力を得て、タイアップポスター、壁面広告、車内中吊り広告等の交通広告を利用して、一般の集客に努めた。
- ・公演情報等をTwitterで公開し、公演PRを行った。
- ・公演情報等を「公演関係トピックス」として振興会ホームページで公開し、公演PRを行った。
- ・JRみどりの窓口で文楽公演の入場券を販売し、車内中吊り広告の優遇掲出を行った。
- ・ラジオCMを実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、番組への芸員の出演等で公演PRに努め、情報の周知を図った。
- ・振興会ホームページの「文楽かんげき日誌」に著名人の観劇日誌を掲載。
- ・公演情報、出演者のインタビュー映像、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト映像を振興会ホームページに掲載、メールやSNSでの情報発信を行いウェブサイト上での情報提供に努めた。
- ・劇場利用客への効果的な広報、宣伝を実施するために、1階エントランスロビーの大画面テレビモニター及び2階ロビーの観客用舞台モニターで新型コロナウイルス対策映像、公演宣伝映像を上映した。
- ・新聞社等のニュースサイト、ポータルサイトなど関西圏の劇場等来訪者を対象にWEB広告を掲出した。

■4月文楽

- ・豊竹咲太夫文化功労者顕彰記念公演としての取材会を実施した(3/8)。
- ・取材会の映像を振興会ホームページで公開した(4/12)。
- ・本公演から切り取りに昇格した竹本千歳太夫のメッセージ映像を振興会ホームページで公開した(4/21)。
- ・FM COCOLO(関西圏をサービスエリアとする外国語放送局)「Breeze on Sunday」で鶴澤清介のインタビューが放送された(4/3・10)。

■5月舞踊・邦楽公演

- ・菊重絃生、菊武粧子による公演案内動画をホームページ及びTwitterで公開した。

■6月文楽鑑賞教室

- ・NHK ラジオ「関西ラジオワイド」に豊竹呂勢太夫が出演し、6月文楽鑑賞教室をPRした(5/27)。
- ・NHK 総合テレビ「ぐるっと関西おひるまえ」において、文楽劇場部長の出演及び吉田玉助のインタビュー放映により6月文楽鑑賞教室をPRした(6/3)。

■夏休み文楽特別

- ・「演目ダイジェスト」、「親子劇場紹介(桐竹勘十郎出演)」、「刀剣乱舞コラボ人形紹介(吉田玉助出演)」の映像を作成し、Twitter及びホームページで公開した。
- ・NHK 大阪放送局「ぐるっと関西おひるまえ」で、夏休み親子劇場を紹介した。
- ・大阪市と連携し大阪市内在学の公立学校の児童・生徒に対し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」(大阪市主催)を実施した。

■9月特別企画「法隆寺の精霊会」

- ・斑鳩町観光協会との協力により、法隆寺iセンターが特別出店。斑鳩町の特産品や聖徳太子関連グッズなどを販売し、公演の雰囲気盛り上げた。

■10月舞踊

- ・井上八千代、山村友五郎による公演案内映像をホームページ及びTwitterで公開した。

■11月文楽

- ・第一部「心中宵庚申」にゆかりの銀山寺で、成功祈願及び取材会を行った。
- ・公演記録映像を活用して、公演内容を紹介するダイジェスト映像を作成し、ホームページ及びTwitterで公開した。
- ・豊竹呂太夫、竹本織太夫による公演案内映像をTwitterで公開した。
- ・関西圏の劇場等来訪者を対象にWEB広告を掲出した。

■初春文楽

- ・初春公演の「にらみ鯛」吊り上げの公開取材などをセッティングし、マスコミに積極的に働きかけることで、マスコミ各社を通じて広く情報の提供を図った。
- ・第一部「良弁杉由来」にゆかりの東大寺で、成功祈願及び取材会を行った(12/16)。
- ・毎日放送ラジオ及びFM COCOLOにて、年末から年始にかけてCMを放送し、公演PRに努めた。
- ・FMあまがさきの番組内で公演PRを行った。
- ・桐竹勘十郎による公演案内映像をホームページ、Twitterで公開し、公演PRに努めた。

■2月浪曲名人会

- ・出演の京山幸枝若、松浦四郎若、京山幸太が出席し取材会を行い、公演情報の周知に努めた(1/19)。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・公演案内の送付
 - ◇ 県内の自治会等へ自主公演年間リーフレット及び公演案内を送付した。
 - ◇ 沖縄県職員専用サイトに公演情報を掲載した。
 - ◇ 県内自治会、児童館等へ公演案内を送付した(8月親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」、9月沖縄芝居公演「与那国シヨングナー」「黒島王物語」)。
 - ◇ 県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を2回実施し、追加でチラシを作成し、友の会会員へ送付した(9月普及公演 沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」)。
 - ◇ 沖縄県を通じ県内学童に公演周知を実施した(7月普及公演 琉球舞踊鑑賞教室及び8月普及公演 親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」)。
 - ◇ 沖縄県を通じ県内学校の外国語指導助手(ALT)による公演周知を実施した(11月普及公演 はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『二童敵討』)。
- ・イベントとの連携等
 - ◇ 一般社団法人りっか浦添が主催する浦添市への誘客イベント「りっか!浦添」に参加し、11月公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『二童敵討』」のPRを行った。
- ・TV・ラジオ等による広報
 - ◇ 研究公演「朝薫五番とからくり花火」について、ラジオカーやローカル情報番組(TV)「ひーぽー★ホップ」にてPRを行った。
 - ◇ 研究公演「朝薫五番とからくり花火」について、在沖米軍の基地内広報紙「OKINAWA LIVING」に広告を掲載した。
 - ◇ 研究公演「朝薫五番とからくり花火」について、広告用横断幕を作成して浦添市産業振興センター、セブンイレブン国立劇場おきなわ前店をはじめ11か所に掲示したほか、浦添市及び那覇市内セブ

ンイレブン 30 店舗にて広告用 POP を掲示した。

- ・国立劇場おきなわホームページ・SNS で公演案内を発信した。
- ・映像の配信等による広報
 - ◇ 4 月組踊公演「賢母三遷の巻」について、金城芸術監督による公演の見どころ紹介映像を国立劇場おきなわホームページ、SNS (Facebook、Instagram、LINE) に掲載した。
 - ◇ 5 月三線音楽公演「唄方」について、構成・演出の宮沢和史氏による公演紹介映像を SNS (Facebook、Instagram、LINE) に掲載した。
 - ◇ 6 月企画公演「千本ゑんま堂狂言」について、千本ゑんま堂狂言保存会が作成した映像を SNS (Facebook、Instagram) に掲載し、また国立劇場おきなわ劇場ロビーで放映した。
 - ◇ 10 月研究公演「朝薫五番とからくり花火」の PR 映像(日本語版、英語字幕付き版)を作成し、特設サイトにて PR した他、YouTube 等 SNS 広告、海外県人会、国内県人会、JICA 等への周知を行った。
- ・美ら島おきなわ文化祭 2022 及び第 7 回世界のウチナーンチュ大会連携イベントとして、イベント期間中の事業については連携して告知を行った。

(f) 新国立劇場

- ・新国立劇場ホームページ及び公式 SNS (Facebook、Twitter、YouTube、Instagram 等)での公演情報の発信、新聞・専門誌への掲載、チラシ・ポスターの作成、稽古場の様子や出演者のインタビューの映像配信により広報営業活動を行った。
- ・公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体の活用により、広報活動を効果的に実施した。
- ・SNS (Facebook、Twitter、Instagram) を効果的に活用し、稽古場風景や出演者のインタビュー等を映像で積極的に発信したり、公演直前や当日の残席状況を細やかに発信したりすることで、公演への期待感醸成とチケットの販売促進を図った。
- ・また、公演を取り扱う各種プレイガイドに働きかけることで、稽古場取材の斡旋や各社の SNS・メルマガ等を通した幅広い顧客への公演情報の周知を行うことができた。
- ・2022/2023 シーズンのオペラ公演について、大野芸術監督による解説映像を新国立劇場ホームページで公開した(5/27～7/29 からは英語字幕付き映像も配信)。
- ・オペラ、舞踊、演劇の各芸術監督による 2023/2024 シーズンラインアップ記者発表を行った(3/7)。
- ・オペラ部門では大野芸術監督が各種メディアに取り上げられた。
 - ◇ 大野和士芸術監督
 - 毎日新聞【私の記念碑】連載(7月～8月)
 - 東京新聞【私の東京物語】連載(11月) 他
- ・舞踊部門では、吉田芸術監督、バレエ団ダンサー等が各種メディアに取り上げられた。
 - ◇ 吉田都芸術監督
 - NHK アカデミア(8/30)
 - ラジオ「マイあさ!」サタデーエッセイ
 - ◇ バレエ団ダンサー
 - 日本テレビ「news every.」(11/16 木村優里)
 - 日本テレビ「news every. サタデー」(11/5 根岸祐衣)
 - テレビ朝日「二十歳の挑戦」(12/25 池田紗弥) 他
- ・演劇部門では、小川芸術監督が各種メディアに取り上げられた。
 - ◇ 小川絵梨子芸術監督
 - 読売新聞「小川絵梨子 独自色深化 新国立劇場・芸術監督 2 期目」(9/27)
 - 朝日新聞「レオポルトシュタット/芸術監督 2 期目」(10/13) 他
- ・World Ballet Day 2022 に新国立劇場が参加し、YouTube にてクラスレススンや「ジゼル」クリエイティブ・スタッフへのインタビュー映像ライブ配信を行った(11/2。11/30 まで見逃し配信)。
- ・演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施等、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を図った。
- ・バレエ「ジゼル」について、芸術監督、スタッフ、ダンサーが参加する記者会見を実施した。
- ・演劇「レオポルトシュタット」について、初日公演開幕前の囲み取材を実施した。
- ・バレエ「シェイクスピア・ダブルビル」の「マクベス」について、メディア向けに公開リハーサルを実施した(3/24)。
- ・こどものためのバレエ劇場 2022「ペンギン・カフェ」では、渋谷区教育委員会、東京都公立小学校長会、

東京私立初等学校協会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。

- ・首都圏を中心とする約 40 か所の劇場、観光施設などへ、月 1~2 回公演チラシを配布し掲示を依頼した。
- ・公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行ったほか、レパトリー公演のダイジェスト映像やスタッフ・キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。
- ・公演への期待感醸成のために駅ホームで「アイダ」の接近メロディ映像を撮影し、SNS で配信した。また、上演演目に合わせて京王線初台駅の列車接近メロディを変更した（バレエ「くるみ割り人形」より行進曲）。

(g) 映像配信

- ・振興会ホームページへのトピックス及びダイジェスト映像掲出、国立オンライン劇場への情報掲出、お知らせメールへの情報掲載、Twitter への投稿、振興会ニュースへの情報掲載により周知を行った。
- ・「新国デジタルシアター」を通じて、公演等の映像配信情報を一箇所に集約することにより、配信映像へ容易にアクセスできるようにした。
- ・「新国デジタルシアター」は英語版サイトも設置し、オペラ公演の配信においては英語字幕の表示も選択可能とした。

② 振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等の活用

(a) ホームページ

《アクセス件数》

区 分	件数	前年度実績
振興会 HP	3,256,736 件	2,929,699 件
おきなわ HP	810,674 件	606,515 件
新国立劇場 HP	7,630,778 件	7,393,467 件

i. 日本芸術文化振興会ホームページ

- ・未来へつなぐ国立劇場プロジェクトサイトで、さよなら公演の周知を行った。
- ・国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂・国立文楽劇場の親子企画をまとめた「2022 年夏休み親子企画」ホームページを公開した。(4/25)
- ・ホームページへの公演情報、出演者のインタビュー映像、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト映像を掲載、公演関係トピックスの更新、メールや SNS での情報発信を行いウェブサイト上での情報提供に努めた。
- ・演芸場定席公演初日の前日に、ホームページの公演情報で全ステージの休演・代演情報を提供。
- ・能楽堂では、令和 4 年 1 月に令和 4 年度の全主催公演のラインナップをホームページに掲載した。
- ・文楽劇場では、振興会ホームページの「文楽かんげき日誌」に著名人の観劇日誌を掲載した。

ii. 国立劇場おきなわホームページ

- ・各種事業に関する広報の充実に努め、情報の早期掲載及び内容の充実を図った。
- ・国立劇場おきなわ公式 Facebook、Twitter、Instagram、LINE を活用し、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能等に関する情報を提供した。
- ・10 月研究公演「朝薫五番とからくり花火」について、英語版サイトにも特設サイトを作成した。

iii. 新国立劇場ホームページ

- ・公演情報ページに、舞台写真や映像、インタビュー記事、読み物などを掲載し、観劇意欲の促進を図った。
- ・令和 4 年度においても新型コロナウイルス感染症の影響により、各公演について実施の可否や内容の変更について告知する必要が生じたため、各公演実施決定後、最新情報を逐次ウェブサイト上で発信するよう努めた。
- ・新型コロナウイルスの影響による公演中止、変更、公演実施、感染予防対策などを逐次ウェブサイト上で発信した。
- ・施設・サービスのご案内、ご支援のお願いページを改修し、ビジュアルを多用するとともに、情報が分かりやすいページを制作した。

(b) SNS やメールマガジンによる情報の随時発信

SNS/メールマガジン	更新頻度等
国立劇場、国立演芸場、国立文楽劇場 SNS (Twitter, Instagram, YouTube)	随時情報を配信。

インターネット発売情報メール	毎月3日に定期的に発信しているメールのほか、販売促進のための臨時メールを発信。
国立劇場おきなわ SNS (Facebook, Instagram, YouTube, Twitter, LINE)	随時公演やイベント情報を配信。
新国立劇場、研修所 SNS (Twitter, Facebook(日英), Instagram(日英), YouTube)	情報発信を継続実施。公演ごとに、舞台写真・映像、リハーサル風景、出演者のインタビュー等を随時発信。また、チケット発売日、当日の残席状況等を発信し、迅速な情報発信に努めた。
新国メンバーズ	販売促進のためのメール配信媒体を統合し、お客様の属性に合わせた情報発信を行っている。 (2021年7月～)
新国立劇場公式 LINE	特にU25/U39に特化した情報を発信する公式 LINE アカウント。

- ・国立劇場10月歌舞伎公演に際し、前回の収録映像を活用したティーザー映像を3編作成してSNSに投稿した。公演千種楽までの再生回数合計は、Twitter3,459回、Instagram15,193回、YouTube6,782回であった。
- ・国立劇場3月歌舞伎公演に際し、出演者自身の魅力や素顔を伝えて公演宣伝につなげるため、感染拡大防止に配慮しつつ、楽屋でメッセージを収録し、HP、SNSで公開した。

(c) 外国人に対する情報発信の効果的な実施、より効果的な情報発信を行うための検討

i. 伝統芸能分野

- ・長期的に外国人の観劇の増加を図るため、英文の公演スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京シティアターミナル・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前KITTE内観光案内所(日本郵便・JTB運営)、東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYA、都内主要ホテルに配布した。
- ・英文の歌舞伎イメージポスターを、成田空港内観光案内所、東京駅前TIC TOKYO、東京駅前KITTE内観光案内所及び東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYAにおいて掲示した。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・(おきなわ)第7回世界のウチナーンチュ大会連携イベントとして、イベント期間中の事業については連携して多言語(日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語)による告知を行った。
- ・(おきなわ)英語版のホームページの充実を図り、また、英語版PR映像を作成・配信した。
- ・(おきなわ)沖縄県を通じて県教育庁及び県内市町村(JATプログラム任用団体)へ、ALT(外国語指導助手)及びCIR(国際交流員)に対する公演の周知・誘客を図った。
- ・文楽劇場では、劇場近隣ホテルへ公演の案内を行った。

■Discover 公演の情報発信

- ・大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所にDMを送付した。
- ・1都3県にある大学の留学センター・日本語学校(143件)へ最新の公演情報に関するDMを送付し、観客の勧誘を行った。
- ・外国人支援団体77件に「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」鑑賞体験会の案内を送付(参加者数:5件8名)。
- ・文楽劇場での「Discover BUNRAKU」の開催にあたって、関西学院大学との連携により、国際交流を実施している兵庫県内の大学のネットワークを通じて公演情報を発信した。
- ・国立劇場おきなわホームページにおいて、公演情報を英語で紹介するページを新設し、あらすじ等を掲載し演目の内容を紹介した。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・パートナーシップ協定を締結しているオペラ・ヨーロッパが運営するOpera Visionのプロジェクトパートナーとして、「オルフェオとエウリディーチェ」「ボリス・ゴドゥノフ」の無料映像配信を行った。
- ・日本政府観光局(JNTO)が主催する国際商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート2022」(9/22~24)に参加し、計17の国と地域を対象に33件(オンライン21件/リアル12件)の商談を実施した。現地旅行会社に新国立劇場の存在をアピールし、認知度向上に寄与すると共に、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。
- ・2022/2023 シーズンラインアップを紹介するリーフレットを英語版で作成し、日本政府観光局(JNTO)の海外7事務所に発送したほか、インバウンド客への案内に供した。中国語(簡体字・繁体字)版も試行的に作成し、現地プロモーション等に活用した。
- ・ホームページ・SNS(Facebook, Instagram)の英語版にて、稽古風景の紹介や出演者インタビュー等について

て、投稿頻度を増やすなど英語でのきめ細やかな発信を行った。

- ・英語版のプレスリリースを作成し、世界各国のマスコミへの周知に努めた。

◇ 主な記事掲載例

- Opernwelt (独) 2022年11月号 大野監督インタビュー
- Opera Now (英) 2023年2月号 新国立劇場開場25周年特集
- Dance Europe (英) 2022年12、1月号 「ジゼル」公演評

- ・海外の舞台芸術専門雑誌に寄稿している国内在住の記者を公演に招待し、海外雑誌での記事掲載を得た。
- ・大使鑑賞プログラムを2月オペラ公演「ファルスタッフ」で実施したほか、主催公演で大使等を招待した。また、大使館のホームページやSNSでも周知するなど広報協力を得た。

③ 振興会各種事業に関する広報誌の発行

年度計画に従い、以下の広報誌を作成・発行した。

- ・「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行)
- ・国立劇場おきなわ情報誌「ステージガイド」(毎月発行)
- ・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

その他、下記の刊行物を作成・発行した。

- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(日英併記)」(8月発行)
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧 令和4年度(WEB版)」(1月発行)
- ・「国立演芸場公演ガイド」(月刊)
- ・「新国立劇場 令和3年度年報」(9月発行、2言語(日本語・英語)表記)

④ シーズンシートやセット券、各種キャンペーン等

i. 伝統芸能分野

- ・本館・演芸場・能楽堂の3月公演が定額で見放題となる「共通パスポート」をあぜくら会会員を対象に販売した(共通パスポート販売実績47枚。パスポート利用による入場券利用実績452枚)。

(本館・演芸場)

- ・「この冬は単町で伝統芸能を堪能！歌舞伎⇄寄席鑑賞キャンペーン」を実施。11月歌舞伎公演と12月演芸場定席公演の両方の来場者に記念品を進呈した(参加者数：250名)。ホームページでの告知のほか、国立演芸場・国立劇場大劇場各ロビーにおける小冊子「寄席演芸のご案内」の無料配布などにより周知を行った。12月中席参加者に実施したアンケートでは、59名(全回答者の73.8%)の方が「キャンペーンの告知を見て、追加のチケット購入を決めた」と回答しており、両ジャンルの観客層の拡大に繋がった。

(本館)

- ・9月文楽公演「碁太平記白石断」の通し上演にちなみ、同作品を上演する第一部・第二部の通し割引券を販売した(販売実績：774枚)。
- ・10月歌舞伎公演「義経千本桜」において、「3セット割引」券を企画した(販売実績：1,863枚)。

(演芸場)

- ・7月定席公演と8月定席公演を鑑賞したお客様にオリジナルグッズを贈呈する「夏の鑑賞キャンペーン」を実施(参加者数：453名)。
- ・9月特別企画公演「演芸大にぎわい」関連企画として実施した演芸レクチャーデモンストレーション「楽しもう！演芸の世界」の応募者(138名)に対し、上記公演チケット購入で粗品をプレゼントする販売促進キャンペーンを実施(販売実績：18枚)。
- ・定席公演を対象としたスタンプラリーを今年度も実施し、リピーターによる継続的な鑑賞が行われるよう努めた(定席公演1回の鑑賞でスタンプを1回押し、スタンプ5回で粗品進呈)。
- ・10月定席公演の新規来場者を主な対象として、チラシ・ポスターの新規作製、Twitterでの宣伝、景品の充実化等により、定席公演のスタンプラリーの周知を強化し、リピーター顧客の新規獲得を図った。
- ・新春国立名人会のチケット購入者を対象として、1月中席・2月上席のいずれかのチケットの購入で「スタンプラリー」のスタンプを2つ押印する「ダブルスタンプキャンペーン」を実施し、販売促進に繋がった。(参加実績：1月中席57名、2月上席55名)

(能楽堂)

- ・6月能楽鑑賞教室では21日午前、23日午前、24日午後において、国立能楽堂近辺に在住・在勤・在学者限定の割引を実施した。地元渋谷区に特化した広報・営業活動を行った(販売実績：92枚)。

(文楽劇場)

- ・4月文楽公演、6月文楽鑑賞教室では、団体以外の顧客、近隣の商店街などへ公演の周知を行い、特別価格キャンペーン実施し、広報・営業活動を行った(販売実績：4月文楽公演5枚、6月文楽鑑賞教室29枚)。
- ・11月文楽公演第三部で「勸進帳」特別割引販売を行った(販売実績：416枚)。
- ・初春文楽公演において、コロナ禍以前に行っていた幕見席の販売を再開した(販売実績：495枚)。

(おきなわ)

- ・販売促進のため、通し券を販売した(5・6・7・9・1月定期公演、10月研究公演。販売実績：810枚)。
- ・7月の琉球舞踊鑑賞教室及び8月親子のための組踊鑑賞教室について、親子料金を学童にも適用した(販売実績：59枚)。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・オペラ公演について、2022/2023 シーズンセット券を販売した。「フルシリーズ」のほか、3公演日から購入可能な「ヴァリエーション」を選択可能とし、また、座席ブロック選択を復活して、多種多様な購買層にアピールした。
- ・バレエ・現代舞踊公演については、前シーズンに引き続き、セット券の販売は行わず、クラブ・ジ・アトレ会員と賛助会員を対象とした「バレエ&ダンス 郵送申込シード権」による優先販売を行った。
- ・現代舞踊公演「新版・NINJA」とこどものためのバレエ劇場2022「ペンギン・カフェ」において、公演ジャンルを横断した「夏のこども劇場セット」を販売した。
- ・シリーズ「声」3作品通し券(演劇「アンチポデス」、演劇「ロビー・ヒーロー」、演劇「貴婦人の来訪」)及びシリーズ【未来につなぐもの】2作品通し券(演劇「私の一ヶ月」、演劇「夜明けの寄り鯨」)を引き続き販売した。またアトレ会員限定で「レオポルトシュタット」と「私の一ヶ月」「夜明けの寄り鯨」の3作品通し券も販売した。
- ・オペラ公演「ボリス・ゴドゥノフ」において、ゲネプロに招待し感想をSNSに投稿していただくキャンペーンを実施し、58名の来場と223件の投稿があった。
- ・経済産業省が実施した「イベント割」に参加し、割引販売を実施した(オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」、オペラ「ドン・ジョヴァンニ」、オペラ「タンホイザー」、バレエ「くるみ割り人形」、演劇「私の一ヶ月」、演劇「夜明けの寄り鯨」)。

⑤ 団体観劇促進のための営業活動、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(a) 団体観劇の促進

i. 伝統芸能分野

- ・令和5年度歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室(本館・文楽劇場)、能楽鑑賞教室の団体鑑賞申込み受付を開始した。

(本館)

- ・受注見込団体への個別訪問・ダイレクトメールの発送に加え、上演演目に関連した文化施設・食品関係団体や他社主催の文楽関連講座へのチラシ・ポスターの配架・配布を実施した。
- ・受注見込団体へのメール等による勧誘と、演目に由縁の深い自治体等でのチラシ・ポスターによる周知を通じて、観劇の勧誘を行った。
- ・過去10年間の本公演利用実績団体や新規見込み団体に対し、最新の公演情報DMを定期的に送付した(10回、のべ30,147通)。
- ・学校向けに鑑賞教室の団体利用案内等のDMを送付した。
 - ◇ 関東甲信越・東海・南東北各地方の中学校・高等学校、中国・四国地方の高等学校、首都圏の専門学校・公民館等(10/8：13,125件)
- ・学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行10月号」、季刊「パピルス2021年第3号」)に団体鑑賞の案内を掲載した。
- ・団体予約開始日に合わせて、団体鑑賞の申込方法をホームページ及びTwitterに掲載した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、出演者と観客を区分けしたことに伴い、出演者による観劇団体向けの解説を、WEB会議システムの利用により、出演者が別室から解説するリモート方式に変更してい

たが、9月文楽公演より、30分以内の所要時間、講師と観客との距離の十分な確保を条件に、対面によるレクチャーを再開し、団体観劇の促進を図った。

- ・外国人及び同伴の日本人を対象にした歌舞伎・文楽のチケット販売キャンペーン「WELCOME! KABUKI TICKET」「WELCOME! BUNRAKU TICKET」を実施した。外国人関連団体620件に案内を送付するとともに、ロングランプランニングを通じて個人向けにも販売した(販売実績:284枚)。

■11月歌舞伎公演

- ・グループ観劇の一層の集客を図るため、ホテルグランドアーク半蔵門との提携による「アフタヌーンティー付きプラン」やイヤホンガイド・「かぶきの本」付き「歌舞伎と落語を楽しむ入門プラン」等、特典付き観劇プランを実施した(販売実績:227枚)。
- ・観劇する学校団体に対して、生徒の理解がより深まるように事前学習用教材として歌舞伎入門映像「松本幸四郎の歌舞伎を知ろう」を販売した(販売実績:2校、1,925件)。

■初春歌舞伎公演

- ・初代国立劇場で見納めの初春公演を盛り上げる一環として、飲食付き「初代国立劇場新年会プラン」や「オリジナルカレンダー付プラン」、「全員に進軍!オリジナル手ぬぐい付プラン」、「オリジナル双六付プラン」等、グループ観劇向けプランを実施した(販売実績:208枚)。

■Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー

■Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー

- ・大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所にDMを送付した。
- ・法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供。福利厚生メニューの充実と福利厚生業務担当者の事務軽減を図ることができる「法人利用サービス企業様向け」と、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」の2種類のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った(加入実績:35団体)。

(演芸場)

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で団体鑑賞の受注が大きく減少する中、演芸場の感染症対策について丁寧に説明し、対策をしながら先方の要望に応えるよう努めた。結果、新規3件を含む計10日間の貸切公演受注に繋がった。(6月中席:4日、8月上席1日、12月中席1日、1月中席:3日、2月上席:1日)
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により訪問営業が制限された状況であったが、DM送付による営業や問い合わせがあった団体への電話による丁寧なフォローを行い、新規団体から29件1,789枚の受注を得た。
- ・年間を通して定席公演を開催している国立演芸場の特色を活かし、DM送付により学校団体への重点的な営業を行った。結果、新規団体9件1,439枚を含む10件2,039枚の学校団体からの受注に繋がった。
 - ◇ 関東1都6県の私立高等学校・中学校(7/27 748件、12/16 798件)
 - ◇ 東京都23区の公立高校・中学校(7/27 551件、12/19 547件)
 - ◇ 関東1都3県の看護専門学校(7/27 116件)
 - ◇ 関東1都3県の音響・アニメ声優専門学校(8/5 22件)
 - ◇ 1都3県の大学の落語研究会(7/29 33件)
 - ◇ 1都6県の専修学校、各種学校、大学(10/12 1,685件)
- ・年間を通して定席公演を開催している国立演芸場の特色を活かし、「引換券」利用団体へ重点的な営業を行った(個別訪問のほか、1都8県の勤労者福祉センター(7/9 76件)にDMを送付)。結果、新規6団体を含む計12団体と契約し、年間278枚の受注に繋がった。
- ・演芸場の公演周知と団体鑑賞の集客のため、既存団体のほか、公民館、呉服店、信用金庫、勤労者福祉事務所、落語研究サークル等に最新の公演情報と団体鑑賞案内のチラシ、「寄席・演芸のご案内」リーフレットを送付した(延べ4,335件)。
- ・7月上席公演の鑑賞団体に対して出演者による事前レクチャーを実施(7/2)。参加者数を増やすとともに、演芸への理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策により劇場ロビー及び客席での飲食を禁止している中、食事を希望する団体に対し、大・小劇場レストラン「十八番」利用の取り次ぎをして、団体集客を図った(利用実績:9件1,346名)。

(能楽堂)

- ・団体向け鑑賞プランとして能楽師等が開演前に演目の解説等を行う「能楽鑑賞レクチャー」を実施した(計19回、販売実績:720枚)。
- 4月国立能楽堂主催公演月間特集 千利休生誕500年
- ・国立能楽堂の近隣に所在する食料品店・飲食店と連携し、《月間特集 千利休生誕500年》にちなんだお茶や抹茶味のお菓子等のロビーでの物販イベント、店舗でのコラボメニュー提供があることをアピールして営業・宣伝活動を行った。
 - ・国立能楽堂4月公演と同じく千利休生誕500年を冠した「2022年春季企画展 千利休生誕500年 千利休をめぐる茶書の歴史 一築き上げられた茶聖像」(4/1~7/15)を開催中の齋田記念館(東京都世田谷区)と連携し、同館による映像を用いたギャラリートークを行うことや齋田記念館の常連向け割引販売を実施することを宣伝し、集客に努めた(4/15)。
 - ・津田塾大学、株式会社伊藤園とのコラボイベント「五感で春を感じる 新茶テイस्टینگ」開催し、団体集客を行った(4/23)。
- 6月能楽鑑賞教室
- ・特別チラシを作成し、首都圏の中学・高校・大学や観劇団体に送付した。
 - ・6/21・11時の部、6/23・11時の部、6/24・14時の部で、国立能楽堂近辺に在住・在勤・在学のご近所様を対象に特別割引を実施(販売実績92名)。
 - ・イラストレーターORIHARA氏による人気歌手のAdo氏を描いた特別寄稿イラストが無料パンフレットに掲載されていること、及び同イラストをバナーとして公演当日にフォトスポットを設置することを特にアピールして営業・宣伝活動を行った。
- 6月定例公演
- ・上演演目にちなみ、本館5月雅楽公演「舞楽」来場者への特別割引を実施した(販売実績:7枚)。
 - ・渋谷区の大学や、キャンパスメンバーズ加盟校に向けた、レクチャー付きの観劇を実施し、チラシ配布や、キャンパスメンバーズのメールマガジン等で宣伝活動を行った(6月定例公演28人)。
- 7月特別企画公演 能を再発見する
- ・復曲「賀茂物狂」は京都が舞台であることに因み、開演前、玄関広間にて、「老舗女将のよもやまばなし」と題して、京菓匠 笹屋伊織の十代目女将・田丸みゆきによるトークイベントを実施。ロビーにて、「SASAYAIORI+新宿御苑」「森半 千駄ヶ谷店」による物販販売を行った。
 - ・「京都ウィーク in 千駄ヶ谷」(7/21~8/3)と題して、近隣の店舗と協力し、京菓子や京都にまつわる食材を使ったメニューを提供、半券持参の方へエコバックプレゼントを行った。上記イベントについて特製チラシを作成し、国立能楽堂ホームページ・国立能楽堂ロビー及び近隣の店舗に設置し、積極的に広報・周知を行った。
- 8月企画公演 《国立能楽堂夏スペシャル》親子で楽しむ狂言の会・親子で楽しむ能の会
- ・親子特別チラシを、渋谷区内の小学校21校、中学校13校の学校長宛に送付した。
- 9月定例公演
- ・上演演目能「松虫」にちなみ公演当日開演前玄関広間及び終演後中庭にて「能「松虫」と秋に鳴く虫」と題して、(一財)進化生物学研究所非常勤研究員で昆虫館 Bar Species スピーシーズの大島千幸店長によるトークイベントを実施した。特に、終演後のトークイベントには、100名以上が参加し、虫の音とともに楽しみいただいた。
- 9月企画公演 復曲の会
- ・近隣の大学・神社・店舗等に特別割引チラシ「ご近所割チラシ」を設置・配布し集客に努めた(販売実績:84枚)。
- 10月外国人のための能楽鑑賞教室
- ・国立能楽堂近辺に在住・在勤・在学者限定の割引を実施した。地元渋谷区に特化した広報・営業活動を行った(販売実績:47枚)。
- 12月普及公演
- ・小田急まなたび(小田急ポイントカード会員組織)へのチケット委託販売を行い、小田急電鉄の70駅に12月普及公演・狂言の会のポスター広告を無料掲出し集客に努めた。
- 令和5年度能楽鑑賞教室
- ・過去3年間に観劇履歴のある学校・一般団体及び新規見込団体にチラシを送付した(639件)。
- 1月定例公演
- ・年初に因み、開演前、玄関広間にて、「教えて、平野禰宜! 神社とお正月にまつわるあれこれ」と題して、鳩森八幡神社より平野英二(禰宜)による、トークイベントを実施。

(文楽劇場)

- ・上演演目ゆかりの地の自治体、文化施設、観光協会等関係団体に対し、DM 発送等による団体勧誘及びチラシ・ポスターの配架・掲示依頼を行った。
- ・公演の公演内容の周知と団体客の集客のため、過去 5 年間の利用実績のある団体、ホテル等に対し公演情報を DM にて送付した。
- ・公演記録映像の一部を宣伝用映像として活用して、ホームページ、Twitter 及びメールマガジンによる配信案内を行った。
- ・団体客に対して、芸芸員による文楽人形等の実演解説の付帯サービスを提供し、団体集客の増加に努めるとともに、作品の理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・既存団体及び演目にゆかりのある地域等に対する DM、既存団体及び新規開拓のため自治労、協同組合やロータリークラブ等の関連団体への訪問による案内等、誘客活動に努めた。
- ・関西経済同友会・大阪商工会議所等の協力を得て、加盟企業に対し特別割引チラシを配布した。

■6 月文楽鑑賞教室

- ・近畿 2 府 4 県の大学、短期大学、高校、専門学校、中学校へ DM を発送し、先行予約を実施した。
- ・大阪市経済戦略局が鑑賞費用を負担する「青少年のための文楽鑑賞教室」について、覚書を取り交わし、大阪市立の中学校、小学校に公演周知を行った。

■夏休み文楽特別公演

- ・親子連れが多く集まる「第 12 回スルッと KANSAI 電車&バスまつり」(6/12、平城宮跡歴史公園)において、来場者全員に公演チラシを配布した。
- ・大阪市との連携によるチラシ配布による周知のほか、大阪市のホームページでも告知した。大阪府内、奈良市、生駒市、尼崎市、西宮市小中学校に対して親子劇場のチラシ(子供向け)を配布した。
- ・将来団体観劇を検討している学校へ、観劇下見招待を実施した。(羽曳野市立植生南小学校他 4 件)
- ・親子劇場向けに大阪中央図書館とタイアップして公演周知「図書館で観る文楽 2022 展」(7/7~8/4)を開催し、文楽公演入場料の割引(大阪市立図書館利用者に対してカード提示割引)を行った。
- ・Osaka Metro の協力を得て、1 日乗車券の提示による観劇チケットの割引を実施した。
- ・名作劇場の「心中天網島」、サマーレイトショー「花上野誉碑」のゆかりの地へポスター掲示、チラシ配架を行った。

■8 月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」

- ・邦楽楽器店等に対して勧誘を行った。

■9 月特別企画公演「法隆寺の精霊会」

- ・奈良市役所文化振興課、貸劇場で文楽劇場を利用している雅楽実演団体、大学の雅楽部等、全国寺社観光協会、兵庫県・京都府の博物館・美術館に対して公演を周知した。
- ・雅楽の団体勧誘チラシの配布を行った。

■10 月舞踊公演

- ・着物着付け教室などにポスター・チラシ配架を依頼した(4 件)。
- ・呉服店への観劇の勧誘を実施した(13 件)。

■11 月文楽公演

- ・OsakaMetro、大阪市経済戦略局、アーツサポート関西、尼崎市文化振興財団、京都府精華町役場、京都府立山城郷土資料館、浄土宗大阪教区教務所・大阪教区青年部(大覚寺)、大阪市立中央図書館、関西経済同友会、大阪商工会議所といった関西の地域団体や演目にゆかりの団体との協力により団体勧誘及び公演宣伝を行った。
- ・地域のイベントである「道頓堀川面舞台 2022」(11/12)に吉田一輔が、「黒門市場 200 周年記念セレモニー」(11/18)に桐竹勘十郎が出演して公演を PR し、観劇割引チラシを配布した。

■初春文楽公演

- ・第一部「良弁杉由来」にゆかりの東大寺で、成功祈願及び取材会を行った(12/16)。
- ・初春公演を PR するため、「にらみ鯛」の吊り上げを公開し、新聞、テレビで取り上げられた(12/25)。
- ・OsakaMetro、大阪市経済戦略局、アーツサポート関西、奈良県観光協会、奈良市役所、奈良国立博物館、奈良県外国人観光局交流館、大阪市立中央図書館、関西経済同友会、大阪商工会議所といった関西の地域団体や演目にゆかりの団体との協力により団体勧誘及び公演宣伝を行った。
- ・奈良県産業共励会・奈良県下市町観光協会と協力して集客を図るとともに、劇場ロビーでの物産販売とイメージキャラクター(ごんたくん)による観光 PR を行った。
- ・在日・外資系ホテルのコンシェルジュへ公演情報の周知、宿泊客への誘導、ポスター掲示、チラシの配架を依頼した(20 件)。

■令和5年度文楽鑑賞教室

- ・文楽鑑賞教室の周知と集客のため、学校団体等に令和5年度文楽鑑賞教室の案内を送付した(2,758件)。
- ・大阪市経済戦略局が鑑賞費用を負担する「青少年のための文楽鑑賞教室」について、大阪市立小中学校(414件)に対し事業を周知した。

(国立劇場おきなわ)

- ・団体誘客を目的に作成したリーフレット「団体観劇のご案内」を県内市町村役場や自治会、老人会等に送付した。
- ・学校・学童・商工会議等へ団体鑑賞について案内した。
- ・沖縄県の助成による30名以上の団体客に対する貸切バス費用助成事業を実施した。

■7月普及公演 琉球舞踊鑑賞教室、8月普及公演 親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」

- ・県内自治会、児童館等に公演案内と合わせて団体鑑賞の案内を送付した。
- ・沖縄県を通じて県内学童に公演案内を送付した。

■9月普及公演 沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」

- ・県内自治会、児童館等に公演案内と合わせて団体鑑賞の案内を送付した。
- ・県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を2回実施した。

■12月定期公演「沖縄本島民俗芸能祭～南風原の村遊び～」

- ・出演団体区長会において団体割引の説明を行った。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・団体鑑賞の取引実績のある団体取引先へ、ラインアップ発表後に演目の資料をDM送付し、団体営業活動の促進に資した(3/20発送、862件)。
- ・関東圏の各高等学校へ、2023年度高校生のためのオペラ鑑賞教室「ラ・ボエーム」の募集案内のDMを発送し、広く参加を募った(7/1発送、1,693件)。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室2022「蝶々夫人」に際して、鑑賞校へレクチャー教材(映像)を提供した。
- ・首都圏大学宛てに新国メンバーズ入会(U25)を促進するために入会案内チラシのDMを発送し、各大学での配布協力を依頼した(3/10発送、461件)。
- ・チケット購入団体により、コロナ感染対策を十分に行った上で新国立劇場館内スペースを利用して、オペラ「ばらの騎士」「魔笛」「ジュリオ・チェーザレ」「タンホイザー」「ファルスタッフ」の事前レクチャーを実施した。

(b) 旅行代理店・ホテル等との連携強化

i. 伝統芸能分野

- ・国立劇場・国立演芸場近隣の店舗で両館のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられるキャンペーン「国立劇場ようこそ半蔵門」を継続して実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど34店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。また、同キャンペーンの特別企画として、公演の周知も兼ねて、招待券や国立劇場グッズが当たる抽選会も実施した(2～3月「春の大抽選会」)。
- ・東京都千代田区内の商業施設「日比谷 OKUROJI」との提携により、初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら公演とのタイアップキャンペーンとして、同公演期間中におけるチケット半券の提示による参加店舗でのサービス提供やコラボメニューの販売を通じて公演の周知を図り、双方の集客を図る(10月～令和5年10月末)。

(本館)

- ・首都圏・南東北・甲信越・東海3県の旅行代理店に鑑賞教室の団体利用案内等のDMを送付した(1,130件)。
- ・1都3県のホテル・観光案内所(124件)へ公演情報を提供し、外国人等旅行者への公演周知を図った(12回、のべ1,367件)。
- ・株式会社読売旅行と提携し、解説付きの幕見鑑賞(10月歌舞伎)、食事付きの全幕鑑賞(10月・11月・初春・3月歌舞伎)、着物レンタル会社「VASARA」の協力による「着物de歌舞伎」(11月歌舞伎)等のプランで募集し、新規顧客の獲得に努めた(販売実績:124枚)。
- ・株式会社リクルート運営の旅行ウェブサイト「じゃらんnet」遊び・体験予約サービスでのチケット販売を実施(販売実績:306枚)。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の緩和に伴うインバウンド需要に向けた今後の対応ため、首

都圏のホテル・旅行代理店・観光案内所向けの「特別見学会」を実施(2/24：305件に案内、参加実績：10件25名)。

(演芸場)

- ・公演周知と団体観劇の集客のため、大手旅行代理店を含む既存団体(延べ1,136件)に向けて、最新の公演情報を送付し、旅行代理店より4件95枚の受注を得た。

(文楽劇場)

- ・近隣のホテルのコンシェルジュ、受付従業員向けに観劇を含む劇場見学会を実施し、チラシ・ポスターの配架・掲示の提携を行った(7件)。
- ・関連のホテル、全国寺社観光協会等にポスター掲示、チラシ配架、ホームページへの公演情報掲載を依頼した。
- ・ホテル・観光案内所へ公演情報を提供し、旅行者への公演周知を図った。
- ・文楽劇場友の会会報誌228号に東横イン大阪日本橋文楽劇場前店の広告を掲載し、文楽劇場友の会会員向けの割引プランを案内した。

(おきなわ)

- ・那覇市内ホテル6か所に直接出向き、コンシェルジュに対して営業を行った。
- ・9月普及公演 沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」について、沖縄県コンシェルジュ協会からコンシェルジュの研修の一環として鑑賞の予約があった(参加実績：5件5人)。
- ・ホテルモントレと連携し、希望する観光客に対して国立劇場おきなわの公演のチケットを割引販売することになった。
- ・旅行会社と連携して、公演鑑賞と合わせて開演前に組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを12月定期公演、10月研究公演で実施した(参加者：のべ74名)。
- ・沖縄修学旅行誘致を目的とした「令和4年度 沖縄修学旅行SDGs EXPO in 東京」(12/27開催、主催：沖縄県・(一財)沖縄観光コンベンションビューロー)において、旅行代理店等に国立劇場おきなわの修学旅行向けコンテンツを紹介した。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・日本政府観光局(JNTO)が開催する国際商談会「VISIT JAPAN トラベルマート 2021」にオンライン参加し、ウィズ・コロナの状況下における消費者動向やプロモーション等を学ぶことで、今後のインバウンドプロモーションの参考とした(3/1～3)。
- ・団体鑑賞のお問い合わせや取引実績がある旅行代理店を含め、全国旅行代理店へのDMを、2022/2023シーズン開幕直後と2023/2024シーズンラインアップ発表後に送付し団体観劇の促進を図った(10/21 発送950件、3/8 発送、909件)。

⑥ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」等

(a) 「国立劇場キャンパスメンバーズ」

会員数：32校

(3年度より継続加入：30校)

青山学院大学、大妻女子大学、お茶の水女子大学、学習院女子大学、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部、共立女子大学、学校法人国際共立学園、国土館大学、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、学校法人上智学院、昭和女子大学、白百合女子大学、清泉女子大学、国立大学法人総合研究大学院大学、玉川大学、中央大学、津田塾大学、東京アニメーションカレッジ専門学校、東京学芸大学、東京藝術大学、東京工芸大学、学校法人東京国際大学、獨協大学、二松学舎大学、日本大学、フェリス学院大学、法政大学、明治大学、明治学院大学、了徳寺大学

(4年度より新規加入：2校)

日本女子大学、武蔵野音楽大学

利用枚数：3,442枚

イベント：3回実施(参加者数：のべ92名)

◇ 国立能楽堂バックステージツアー付観劇～能舞台を歩いてみよう～(6/17)

◇ 国立劇場ステージツアー(2/3)

◇ レクチャーイベント「作者の氏神！近松門左衛門って何者？」(2/16)

- ・別途、キャンパスメンバーズ会員校の要望により、制度利用の促進を図るため、同校の特別授業として以下の講座を実施。

◇ 玉川大学観光学部「歌舞伎ってなんだろう？」(11/9)

◇ 鎌倉女子大学「歌舞伎入門講座」(12/5・7)

(b) 新国立劇場大学連携協力協定

協定締結校：11校

東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学

⑦ おすすめキャンペーン

- ・ 職員のコミュニティ等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施(728枚)。
- ・ 初代国立劇場さよなら公演の一層の集客を図り、振興会職員・OB・各部署関係組織によるグループ観劇向け「振興会関係者特別割引」(1等席限定30%割引)の実施(11件210枚)。

イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実

① あぜくら会(会員数:16,330人/対前年度△875人)

(a) 会報誌(計画:毎月発行)

「あぜくら」を毎月2日に発行した(計12回)。

(b) 会員向けイベント(計画:年4回程度)

イベント名	日程	会場	料金	出演者等	参加者数
特別インタビュー「国立劇場草創期⑥」雅楽と聲明		会報あぜくら4月号掲載	—	木戸文右衛門	—
特別インタビュー「国立劇場草創期⑦」民俗芸能		会報あぜくら5月号掲載	—	西角井正大	—
特別インタビュー「国立劇場草創期⑧」歌舞伎俳優養成		会報あぜくら6月号掲載	—	中村吉三郎	—
特別インタビュー「国立劇場草創期⑨」国立劇場の庭		会報あぜくら8月号掲載	—	内山泰幸	—
特別インタビュー「国立劇場草創期⑩」劇場建設		会報あぜくら9月号掲載	—	半澤重信	—
あぜくらの集い特別企画「公演記録映像でふりかえる名舞台」I	9/26	国立劇場	無料	(解説)織田紘二	87人
特別インタビュー「国立劇場草創期⑪」演芸場開場		会報あぜくら10月号掲載	—	三遊亭金翁	—
あぜくら特別取材「愛蔵版 歌舞伎名ざりふかるた」		会報あぜくら12月号掲載	—	前田直樹(大石天狗堂)	—

(c) 会員向けサービスの充実

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、休止していたイベントを9月より再開した。

② 国立文楽劇場友の会(会員数:7,794人/対前年度△73人)

(a) 会報誌(計画:年6回発行)

文楽本公演に合わせて「友の会会報」を年6回発行した。

(b) 会員向けイベント(計画:年4回程度)

イベント名	日程	会場	料金	出演者等	参加者数
国立文楽劇場観劇ラリー	4月～2月	—	無料	—	388人
国立文楽劇場友の会入会キャンペーン	1/14～3/18	—	—	—	111人
第127回「文楽のつどい」国立文楽劇場友の会パックスステージツアー	8/27	国立文楽劇場	無料	—	50人
第128回「文楽のつどい」国立文楽劇場小ホール 浪曲・座談会「勲進帳について」	10/27	国立文楽劇場小ホール	無料	真山隼人・沢村さくら・吉田玉助・(聞き手)くまざわあかね	130人
第129回「文楽のつどい」大阪歴史博物館にて、お話し・対談「文楽と発祥の町大阪」・常設展示の見学	12/22	大阪歴史博物館第1研修室	1,000円	澤井浩一(大阪歴史博物館学芸員)、竹本織太夫(文楽太夫)	53人
第130回「文楽のつどい」国立文楽劇場小ホール お話し・座談会「4月文楽公演について」	3/28	国立文楽劇場小ホール	無料	井上勝志・豊竹呂勢太夫・吉田一輔・(聞き手)広瀬依子	143人

(c) 会員向けサービスの充実

- ・ 一定数以上の公演のチケットを購入した会員へ記念品を贈呈する「文楽公演観劇ラリー」を実施。
- ・ 振興会ホームページ内に会員専用ページを作成し、各種情報や会報を掲載した。
- ・ 国立文楽劇場友の会入会時のサービスとして、新規入会者に公演プログラム引換券(1冊分)と文楽劇場オリジナルグッズ引換券をプレゼントした。
- ・ 1/14～3/18で国立文楽劇場友の会新規入会キャンペーンを実施し、上記サービスに加えてイヤホンガイド利用券とオリジナルグッズ(文楽人形のワッペン)をプレゼントした。

③ 国立劇場おきなわ友の会(会員数:1,353人/対前年度+8人)

(a) 会報誌(計画:年4回発行)

「国立劇場おきなわ友の会会報」を6、9、12、3月に発行した(計4回)。

(b) 会員向けイベント(計画:年3回程度)

イベント名	日程	会場	料金	出演者等	参加者数
国立劇場おきなわ友の会入会金0円キャンペーン	7月～11月	—	—	—	43人
国立劇場おきなわ自主組踊公演観劇ラリー	6月～2月	—	—	—	99人
国立劇場おきなわ友の会ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン	1月～3月	—	—	—	49人
国立劇場おきなわ友の会「ザ・談会 vol.3」	2/25	国立劇場おきなわ小劇場	無料	(出演)與那國太介、棚原健太、伊波留依、平敷勇也(聞き手)金城真次	48人

(c) 会員向けサービスの充実

- ・国立劇場おきなわ友の会新規会員の入会を促すことを目的として、7月から11月までに上演される対象公演のチケット購入者に限り、公演当日までの入会で入会金が0円になる「友の会入会金0円キャンペーン」を実施した。
- ・国立劇場おきなわ友の会新規会員の入会を促すことを目的として、令和5年1月から3月まで「友の会ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン」を実施している。会員からの紹介は入会金が0円、紹介者会員には半額割引券1枚進呈。

(d) アンケート調査等

- ・国立劇場おきなわでは、実演家ザ談会で実施。

④ 新国立劇場クラブ・ジ・アトレ (会員数:11,871人/対前年度+308人)

(a) 会報誌 (計画:毎月発行)

「ジ・アトレ」を毎月発行した(計12回)。

(b) 会員向けイベント (計画:年8回程度)

イベント名	日程	会場	料金	出演者等	参加者数
バレエ「シンデレラ」総舞台稽古見学会	4/29	オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	40人
オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」ゲネプロ見学会	5/17	オペラ劇場	無料	鈴木優人(指揮)、勅使川原三郎(演出)、歌手等	22人
バレエ「不思議の国のアリス」総舞台稽古見学会	6/2	オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	29人
オペラ「ペレアスとメリザンド」ゲネプロ見学会	6/28	オペラ劇場	無料	大野和士(指揮)、K.ミッチェル(演出)、歌手等	19人
オペラ「ジュリオ・チェザレ」ゲネプロ見学会	9/30	オペラ劇場	無料	リナルド・アレッサンドリーニ(指揮)、ロラン・ペリー(演出)	37人
バレエ「ジゼル」総舞台稽古見学会	10/20	オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	43人
オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」ゲネプロ見学会	11/13	オペラ劇場	無料	大野和士(指揮)、M・トレリンスキ(演出)、歌手等	46人
バレエ「くるみ割り人形」総舞台稽古見学会	12/22	オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	39人
バレエ「コッペリア」総舞台稽古見学会	2/22	オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	47人

(c) 会員向けサービスの充実

- ・会員への個札チケット販売について、会員先行販売期間まで10%割引としていたところ、2020/2021シーズンからは公演最終日まで適用とし、2022/2023シーズンでも継続している。
- ・シーズンセット券については、2022/2023シーズンは2022年3月よりオペラセット券のみを、10～18%の割引価格にて優先的に販売した。
- ・2023/2024シーズンについては、昨シーズンと同様3月よりオペラセット券のみ販売しているが、昨シーズン販売した「フルシリーズ」「ヴァリエーション」に加え、注目の4～5演目を集めた「ミニシリーズ」の販売を再開し、フルシリーズ購入会員向けに実施している「エクスチェンジサービス」を「ミニシリーズ」購入会員にも拡大した。また、全申込者に対して座席ブロック選択を復活させた。
- ・舞踊公演において、クラブ・ジ・アトレ会員および個人賛助会員を対象に、過去の購入実績に基づき優先的に購入できる「バレエ&ダンス 郵送申込シード権」を引き続き実施している。
- ・前年度に引き続き、会員サイト上で、会報誌を講読できるサービスを提供している。
- ・キャスト変更などの重要な情報決定が会報での告知タイミングと合わない場合は、主にチケットを購入済の会員に対し、別途ハガキやDM等で告知を行った。
- ・三井住友カードの協力を得て、バレエ「くるみ割り人形」公演開始からオペラセット券優先販売期間中にあたる12月～2月にかけて入会キャンペーンを実施し、会員募集に努めると同時に、3月までカード利用促進キャンペーンを行った。前年度に引き続き三井住友VISAカードのみならずクレジット機能のないハウスカードもキャンペーン対象としている。

(d) アンケート調査等

- ・今後の運営に活用するため、夏のポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

2 - (7) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 各種事業の日程をより効率的に設定するなど劇場施設の使用効率の向上
国民の鑑賞機会の増加を図る観点から、主催公演等の実施のほか、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供
利用者に対するアンケート調査等を活用したサービスの向上に努め、一層の利用促進を図る
- ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化、効果的な運営の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施
 - ①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
 - ②パンフレットやダイレクトメールによる広報
 - ③利用希望者に対する説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む
 - ④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
 - ⑤他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用
- ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に実施

ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与

劇場	主催公演・養成 研修等使用日数 (A)	貸劇場使用日数 (左記使用日との重複除く) (B)	稼働日数 (C)=(A)+(B)	使用可能日数 (D)	劇場稼働率 (C)/(D)	前年度 劇場稼働率
本館大劇場	182日	71日	253日	296日	85.5%	91.7%
本館小劇場	142日	125日	267日	308日	86.7%	76.3%
演芸場	280日	22日	302日	310日	97.4%	94.9%
能楽堂	123日	148日	271日	306日	88.6%	87.5%
文楽劇場	191日	58日	249日	303日	82.2%	86.6%
文楽劇場小ホール	124日	77日	201日	273日	73.6%	74.2%
国立劇場おきなわ大劇場	161日	48日	209日	308日	67.9%	61.8%
国立劇場おきなわ小劇場	22日	92日	114日	301日	37.9%	39.0%
伝統芸能分野 合計	1,225日	641日	1,866日	2,405日	77.6%	78.1%
新国立劇場オペラ劇場	264日	26日	290日	290日	100.0%	100.0%
新国立劇場中劇場	95日	227日	322日	322日	100.0%	95.6%
新国立劇場小劇場	156日	159日	315日	319日	98.7%	100.0%
現代舞台芸術分野 合計	515日	412日	927日	931日	99.6%	98.5%
総合計	1,740日	1,053日	2,793日	3,336日	83.7%	84.1%

※主催公演・養成研修等使用日数は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

※使用可能日数：365日－(休日＋保守日＋調整日)

※新型コロナウイルス感染症の影響による利用中止

国立劇場 大劇場：4件4日 小劇場：6件7日

国立演芸場：2件2日

国立能楽堂：影響なし

国立文楽劇場 文楽劇場：5件6日 小ホール：4件4日

国立劇場おきなわ：影響なし

新国立劇場：影響なし

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、劇場稼働率の算出において貸劇場使用日は0日として計上されるため、重複日分については、実際に貸与した日数が増加した場合でも劇場稼働率は上昇しない。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止による公演中止日は調整日とした。

イ 各施設の利用促進を図るための取組

① ホームページへの掲載

- ・ホームページに利用案内及び使用可能日を随時掲出するなど、広報の充実を図った。新国立劇場では、募集期間中はホームページのトップ画面にニュースを掲載し情報発信した。

② パンフレットやダイレクトメールによる広報

- ・劇場内(ロビー・楽屋等)、執務室等に施設利用に関する案内を設置した。過去の劇場利用者へ利用案内を予約申込書とともにDMで送付した(国立劇場：400件、国立演芸場：60件、能楽堂：84件、文楽劇場：230件、国立劇場おきなわ：710件)。
- ・(本館・演芸場)実演家団体の会報誌や専門誌に貸劇場利用に関する情報を掲載した。

③ 利用希望者に対する説明・見学等

- ・利用希望者には随時、申込手続きの説明や施設・設備の見学を行い、劇場利用者の増加に努めた。
- ・(本館・演芸場)新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、ガイドラインに基づき、利用者に予め文書等で協力を要請した。また、公演前の主催者との打合せにて開催内容に即した措置を講ずるための協議を行う対応をした。
- ・(おきなわ)劇場利用に関する新型コロナウイルス感染症対策について、内諾通知時に感染対策に関する案内を送付するとともに、ホームページの「よくある質問」にも掲載した。

④ 利用者に対するアンケート調査、調査結果を踏まえたサービスの充実

- ・各種事業の日程をより効率的に設定するなど、劇場使用効率の向上を図った。
- ・施設利用者に対してアンケートを実施した。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。
- ・(文楽劇場)貸与希望者の希望に沿うよう設備整備及び保守点検の設定を関係部署と調整を行った。
- ・(おきなわ)国立劇場おきなわ施設使用予約システム(通称：稽古室使い隊!)の運用による稽古室等の予約の24時間受付や、名簿の提出及び予約確認・変更等のLINEによる連絡など、利用者のサービス向上に資する取組を行った。また、使用料については、現金及び銀行振込の他、クレジットカード及びコン

ビニでの支払いにも対応した。稽古室については、利用者の利便性を図るため、夜間の時間帯も利用可能とした。

《アンケート結果》

劇場	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
本館・演芸場	160 件	38 件	38 件	31 件	23.8%	81.6%
能楽堂	43 件	12 件	12 件	12 件	27.9%	100.0%
文楽劇場	84 件	47 件	47 件	46 件	56.0%	97.9%
国立劇場おきなわ	84 件	22 件	22 件	21 件	26.2%	95.5%

ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力

- ・国立劇場 7 月歌舞伎鑑賞教室、国立文楽劇場夏休み特別公演に際し、共通演目（「紅葉狩」）を広報するため、演目に関するゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーションを実施し、ゲームの運営会社との三者で連携協力した共通ポスター・リーフレット作成、SNS 展開を行った。
- ・「この冬は隼町で伝統芸能を堪能！歌舞伎⇄寄席鑑賞キャンペーン」を実施。本館 11 月歌舞伎公演と 12 月演芸場定席公演の両方の来場者に記念品を贈呈した（参加者数：250 名）。ホームページでの告知のほか、国立劇場大劇場・国立演芸場各ロビーにおける小冊子「寄席演芸のご案内」の無料配布などにより周知を行った。12 月中席参加者に実施したアンケートでは、59 名（全回答者の 73.8%）が「キャンペーンの告知を見て、追加のチケット購入を決めた」と回答しており、両ジャンルの観客層の拡大に繋がった。
- ・利用者の鑑賞ジャンルの拡大を企図し、あぜくら会員を対象に国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂の 3 月公演が定額で見放題となる共通パスポートを販売した。
- ・初春歌舞伎公演の開演前・休憩中に太神楽の曲芸・獅子舞の実演を行うに当たり、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮した実施方法を出演者と国立劇場及び国立演芸場とで協議・共有して滞りなく実施した。各回で来場者から喝采を受けた（1/3～7）。

(8) 日本博の運営・実施

(8) 日本博の運営・実施 ————— p.110

2 - (8) 日本博の運営・実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する「日本博」について、縄文から現代までの美術・文化財の展覧会、伝統芸能、現代舞台等の舞台芸術公演、文化芸術祭等に関する企画・実施等とコロナ禍による新たな環境を見据え、多言語映像コンテンツの制作・発信にも力を入れた国内観光需要・インバウンド需要の喚起を目指し、戦略的なプロモーションに関する企画・実施等における、中心的な役割を担う事務局を運営

ア 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下で主催・共催事業を体系的に実施

- ① 「日本博」の中核となる主催・共催型プロジェクトについて、企画原案の提案を受け付ける。受け付けた企画原案については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の評価、及び文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。(別表 9※令和 4 年度実施分)
- ② 主催・共催型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等との契約・支払等に関する業務を行う。併せて、団体等との連絡・調整に関する業務も行う。
- ③ 主催・共催型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

イ 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下でイノベーション型プロジェクトを実施

- ① 「日本博」プロジェクトとして企画・実施する新規制・創造性が高い文化芸術プロジェクト等について補助事業の公募を受け付ける。受け付けた事業については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の審査、及び文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。
- ② イノベーション型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等への補助金交付に関する業務を行う。
- ③ イノベーション型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

ウ 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトに沿った内容であり、国内外に発信するものとしてふさわしい企画を参画プロジェクトとして認証

- ① 認証申請に関する相談への対応、申請者との調整を行う。参画プロジェクトへの認証申請は随時受け付ける。
- ② 参画プロジェクトの認証手続きを随時実施する。
- ③ 認証した参画プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

エ 「日本博」のプロジェクト全体について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施

- ① 「日本博」の戦略的なプロモーションに関する方針を検討し、策定する。
- ② 「日本博」のプロジェクト全体について、多様な媒体を活用し、映像コンテンツ等の発信を含め、国内外に向けた情報発信を効果的に行う。
- ③ 令和 3 年度に運用開始したデジタルコンテンツプラットフォーム(「バーチャル日本博」)の充実を図る
- ④ プロモーション業務の終了後、事業者等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

オ 「日本博」の開催に際し実施される、文化芸術活動及びそれらのプロモーション活動を通じた国家ブランディング・インバウンド拡充等、文化的・社会的・経済的効果等を効果検証の基本方針や指標等に沿って、定量的・定性的に測定、その結果を検証

ア 委託事業の実施

(1) 令和4年度主催・共催型プロジェクトの実施

- ・企画提案 57 件のうち 34 件を採択。
- ・振興会が関係する事業としては下記の 6 件を提案、採択。
 - ◇ 伝統芸能にみる「日本人と自然」
 - ◇ 伝統芸能発見！－Discover 伝統芸能－
 - ◇ 子供・若者向け文化芸術プロジェクト ～現代舞台芸術との出会い～
 - ◇ 日本人による質の高い創作作品の発信・展開プロジェクト ～日本の舞台芸術の現在と未来～
 - ◇ 沖縄県本土復帰 50 周年・「組踊」国指定重要無形文化財 50 周年記念 首里城「御城舞台」と琉球花火の復元
 - ◇ 琉球の美～沖縄伝統芸能の継承と発信～
- ・各事業の実施にあたっては、団体からの事前相談受付、実施にあたっての指導・助言、実地調査、プロモーションのための画像等の収集・権利処理、現地誘客のための SNS 等を通じた情報発信、団体との契約・精算、それに伴う連絡調整などを実施。

(2) 令和5年度最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業(委託型)の提案受付・採択状況

- ・「日本博 2.0」への移行に伴い、文化庁と協議のうえで、委託事業のスキームを抜本的に見直し、これまでの文化プログラム(公演、展覧会、単発の催事など)の実施支援を止め、年間を通してインバウンド需要に的確に応えるため文化資源(劇場、美術館、定期的に開催される芸術祭など)の磨き上げを支援。
- ・企画提案 75 件のうち 37 件を採択。
- ・振興会が関係する事業としては下記の 5 件を提案、採択。
 - ◇ 国立劇場の磨き上げによる満足度向上事業
 - ◇ 能・狂言観客拡充プロジェクト～千駄ヶ谷・国立能楽堂から世界へ～
 - ◇ 国立文楽劇場の磨き上げによる満足度向上事業
 - ◇ 新国立劇場の磨き上げによる満足度向上事業
 - ◇ 沖縄伝統芸能の発信～2025 年大阪・関西万博へ～

イ 間接補助事業の実施

(1) 令和4年度イノベーション型プロジェクト(間接補助事業)の実施

- ・応募 67 件のうち 38 件を採択。
- ・各事業の実施にあたっては、団体からの事前相談受付、実施にあたっての助言、実地調査、プロモーションのための画像等の収集・権利処理、現地誘客のための SNS 等を通じた情報発信、交付決定・額の確定、それに伴う団体との連絡調整などを実施。

(2) 令和5年度最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業(補助型)の提案受付・採択状況

- ・「日本博 2.0」への移行に伴い、文化庁と協議のうえで、補助事業のスキームを抜本的に見直し、これまでの文化プログラム(公演、展覧会、単発の催事など)の実施支援を止め、年間を通してインバウンド需要に的確に応えるため文化資源(劇場、美術館、定期的に開催される芸術祭など)の磨き上げを支援。
- ・応募 30 件のうち 11 件を採択。

ウ 参画プロジェクトの認証

- ・日本博ロゴマークの使用を希望する文化プログラムの申請を随時受け付け、月 1 回を基本に認証。
- ・令和4年度認証件数：194 件
- ・プロモーションのための画像等の収集・権利処理、現地誘客のための SNS 等を通じた情報発信、助言を実施。

エ 現地誘客のための戦略的プロモーションの実施

【日本博公式ホームページ】

- ・新たに日本地図表示やカレンダー表示から事業を検索できる機能を追加。
- ・日本博公式ホームページ閲覧数：787,841PV ※PV：ページビュー
- ・掲載事業：(日本語)933 件、(英語)818 件、(仏語)215 件、(韓国語)214 件、(繁体字中国語)214 件、(簡体字中国語)215 件
- ・デジタルギャラリー掲載映像・VR 数：486 本

【日本博公式ホームページに誘導するためのオンライン広告】

- ・海外向け(アメリカ、イギリス、オーストラリア、香港、台湾、アラブ首長国連邦、カタール)のオンライン広告(578万円)を10/13~1/9まで実施したところ、実施していない月に比べ、海外からのページビュー数が約10倍に増加。
- ・国内向けのオンライン広告を7/27~8/3(198万円)、8/19~9/4(198万円)、10/29~11/27(198万円)に実施したところ、実施していない月に比べて、国内からのページビュー数が約3.5倍に増加。

【バーチャル日本博】

日本博公式バーチャルプラットフォーム「バーチャル日本博」訪問者数：21,481人

展示数(≒空間内のサムネイル数)：(日本語)375展示、(英語)373展示

- ・バーチャル日本博に「まわるワニ」のモニュメントが登場(6/30)
6~7月に国立新美術館で開催された現代アート「ワニがまわる タムラサトル」展とのコラボ企画として、バーチャル日本博内の各所にまわるワニのモニュメントを設置。クリックすると同展展示作品の精巧な3DCGモデル(新規制作)が閲覧可能。併せて、バーチャル日本博内で同展の特集展示を実施した他、国立新美術館の展覧会会場ではバーチャル日本博のチラシ及び本企画のPRボードを設置し、相互周知を図った。
- ・バーチャル日本博に新機能「バスツアー」が登場(11/10)
バーチャル日本博内の回遊性を高めるため、「武士」「動物」などのテーマに沿ったコンテンツを順番に巡ることができるバスツアー機能を追加。ツアープランは初回として5種類を用意した。
- ・バーチャル日本博に「黄金の茶室」が登場(12/16)
令和4年秋に京都国立博物館で開催された「京に生きる文化 茶の湯」展とのコラボ企画として、バーチャル日本博内に黄金の茶室を設置。併せて、茶の湯関連プロジェクト等も紹介。

【YouTube 日本博チャンネル】

配信映像数：(日本語)：164本、(英語)：96本、(仏語)：21本、(韓国語)：20本、(中国語)：22本

【SNS フォロワー数】

日本博公式 SNS フォロワー数：Facebook：85,237、Instagram：12,627、Twitter(日本語)：5,479、Twitter(英語)：6,237

【メディアとのタイアップ】

- ・東京駅構内にある日本文化を発信するコンセプトカフェ「JAPAN RAIL CAFÉ 東京」にて日本博事業のポスター・チラシを掲出、配架(4/23~通年)。
- ・日本博を紹介する広告を新聞に掲載(産経新聞 4/28(大阪)、5/1(東京)、7/15(東京)、7/18(京都、滋賀、奈良、和歌山)、10/8(京都・滋賀・奈良・和歌山)、11/3(全国)、1/3(東京)、朝日新聞 8/16)。
- ・ツーリズム EXPO ジャパン 2022 の web 情報提供コーナーに日本博の情報を掲載(6/1~12/31)。
- ・外国人向けのオンラインメディア「Tokyo Weekender」に「おすすめのお出かけスポット」としてシーズン毎の日本博事業を紹介(6/20、7/29、9/2、10/7、11/8)。
- ・夏休みに開催される日本博事業を紹介するため、日本博サポーター谷原章介のコメントを付したプレスリリースを発信(日本語版 7/14、英語版 7/29)。
- ・JR 東日本の会員組織の会報「大人の休日倶楽部」に日本博サポーターである尾上菊之助のインタビュー記事を掲載し、日本博事業を紹介(9/25)。
- ・英字新聞「Japan Times」が発行するインバウンド向けの観光情報誌に日本博事業の特集記事を掲載した(9/30)。
- ・秋以降に開催される日本博事業を紹介するため、新宿駅・上野駅・京都駅・四条駅にて、デジタルサイネージ他各種交通広告を展開(10/3~11/6)。イノベーション型「やんばるアートフェスティバル」のポスターに起用された女優のんが自身の公式 Web サイト、LINE ブログ、SNS で交通広告について発信。
- ・日本博広報大使・黒柳徹子が東京国立博物館 150 周年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」を観覧(10/25)。秋に開催される日本博事業を紹介するため、黒柳大使の観覧の様子と併せてプレスリリースを発信(日本語版 11/1、英語版 11/14)。黒柳大使自身も YouTube「徹子の気まぐれ TV」で観覧の様子や日本博を紹介(11/19)。
- ・文化芸術への関心層が購読する雑誌に日本博の広告を掲載(和楽 11/1、芸術新潮 11/25、Pen 11/28)。
- ・JR 東日本 大人の休日倶楽部「旅マガジン」12月号(世界遺産特集ページ)に日本博とのタイアップ旅行商品を掲載。
- ・子供向けに日本博を紹介する記事広告を新聞に掲載(朝日小学生新聞 10/22、読売 KODOMO 新聞 11/3、サンケイリビング小学生新聞(冬号 11月))。
- ・朝日小学生新聞に掲載した日本博の特集記事を、LINE NEWS 公式アカウント「朝日こども新聞」にて配信(11/2)し、全国の小学校 5,000 校にポスター化したものを発送(11/9)。

- ・日本博の記事広告を掲載したサンケイリビング小学生新聞(冬号)を大阪府の公立小学校(995校)の4～6年の児童に配布(11/15～11/18)。
- ・主催・共催型「三陸国際芸術祭」と「企画展「国立公園—その自然には、物語がある」連携事業」とのコラボ企画として、三陸復興国立公園の民俗芸能の伝承者たちを特集した番組を、BSフジ(11/25、国内)、NHK WORLD-JAPAN/jibtv(12/16、世界160ヶ国)にて放送。

【JNTO との連携】

- ・JNTO と連携し、海外で開催された旅行見本市・商談会等にてキービジュアルチラシを配布(シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スペイン)。
- ・JNTO と連携し、JNTO の Facebook で日本博事業を紹介する投稿を実施。

【その他】

- ・日本の美と心に出会う旅におすすめの「日本博 2022 ガイドリーフレット」を作成し、JR 東日本「駅たびコンシェルジュ」等で配布。
- ・文化芸術に関心が高いフォロワーを多く有するインフルエンサー(Instagram、YouTube)を活用し、自身の SNS アカウントで日本博事業への参加体験を発信してもらった。
- ・毎月の振興会ニュースにて、開催間近の日本博事業を紹介。
- ・日本博の各事業のプレスリリースを文部科学省記者クラブに展開。
- ・「日本博 2.0」への移行に伴い、ロゴを更新したキービジュアルチラシ・ポスターを制作。
- ・公益財団法人静嘉堂との共催により、東京・丸の内に移転した静嘉堂文庫美術館内で「お雛さま—岩崎小彌太郎へようこそ」展の関連イベントとして「ミュージアム雅楽コンサート」を開催し、「日本博 2.0」についての周知を図った。

《日本博 振興会関連の映像配信》

映像コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	視聴回数
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「京鹿子娘道成寺」を語る(再配信)		R4/4/29～5/31	13
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「京鹿子娘道成寺」(再配信)		R4/4/29～5/31	5
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門【お得な解説編+舞踊本編セット】「京鹿子娘道成寺」(再配信)		R4/4/29～5/31	84
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「春興鏡獅子を語る」(再配信)		R4/4/29～5/31	28
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「新歌舞伎十八番の内 春興鏡獅子」(再配信)		R4/4/29～5/31	6
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門【お得な解説編+舞踊本編セット】「春興鏡獅子」(再配信)		R4/4/29～5/31	66
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「鷺娘／うかれ坊主」		R5/3/4～3/31	182
令和4年7月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」より『藤娘』	令和4年7月 国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	578
Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance	令和4年7月 国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	561
令和4年6月邦楽公演「日本音楽の流れⅤ—打楽器—」	令和4年6月 国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	243
The History of Japanese Music Ⅴ “Percussion”	令和4年6月 国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	220
「音楽」教科書向け邦楽演奏映像「和楽器の魅力(1)—箏—」		R4/3/30～	2,718
「音楽」教科書向け邦楽演奏映像「和楽器の魅力(2)—三味線—」		R4/3/30～	2,222
「音楽」教科書向け邦楽演奏映像「和楽器の魅力(3)—太鼓—」		R4/3/30～	1,047
令和4年11月雅楽公演「宮廷の響き—雅楽と琉球御座楽—」	令和4年11月 国立劇場	R4/3/29～ R5/3/31	350
Sounds of the Court: Gagaku and Ryukyu Uzagaku	令和4年11月 国立劇場	R4/3/29～ R5/3/31	230
令和4年6月民俗芸能公演「花祭」	令和4年6月 国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	161
Hanamatsuri - Okumikawa no Shimotsuki Kagura -	令和4年6月 国立劇場	R4/3/15～ R5/3/31	185
入門展「いざ、歌舞伎」#1【序幕／歌舞伎の化粧—もう一つの顔—】	令和4年6～10月 伝統芸能情報館	R4/8/9～	2,769
Introductory Exhibition “Now, let’s get to know Kabuki!” #1 Kabuki Makeup -Another Face-	令和4年6～10月 伝統芸能情報館	R4/9/28～	154
入門展「いざ、歌舞伎」#2【二幕目／見得と立廻り—絵のような美しさ—】	令和4年6～10月 伝統芸能情報館	R4/8/12～	1,218
Introductory Exhibition “Now, let’s get to know Kabuki!” #2 Mie Pose and Tachimawari Fight Movements -Aesthetically Pleasing Appeal-	令和4年6～10月 伝統芸能情報館	R4/9/28～	160
入門展「いざ、歌舞伎」#3【三幕目／女方—男が「女」を演じる—】	令和4年6～10月 伝統芸能情報館	R4/8/16～	862
Introductory Exhibition “Now, let’s get to know Kabuki!” #3 Onnagata Female Roles -Male Actors Perform ‘Female’ Roles-	令和4年6～10月 伝統芸能情報館	R4/9/28～	196
入門展「いざ、歌舞伎」#4【四幕目／時代と世話—それぞれのリアル—】	令和4年6～10月 伝統芸能情報館	R4/8/19～	705

Introductory Exhibition "Now, let's get to know Kabuki!" #4 Jidai-mono Historical Tales and Sewa-mono Contemporary Stories -Distinctive Realistic Features-	令和4年6~10月 伝統芸能情報館	R4/9/28~	92
入門展「いざ、歌舞伎」#5【大詰／世界と趣向—物語のつくりかた—】	令和4年6~10月 伝統芸能情報館	R4/8/23~	656
Introductory Exhibition "Now, let's get to know Kabuki!" #5 Sekai (World) Frame and Shuko (Plots) -How Stories Are Made-	令和4年6~10月 伝統芸能情報館	R4/9/28~	75
令和2年9月文楽公演 第四部(Discover BUNRAKU)	令和2年9月 国立劇場	R3/4/20~ R4/5/31	46
令和2年12月文楽公演(Discover BUNRAKU)	令和2年12月 国立劇場	R3/4/20~ R4/5/31	70
国立劇場令和3年11月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」より『八島』	令和3年11月 国立劇場	R4/3/24~ R5/3/31	920
11月雅楽公演【管絃 王朝の遊び】ダイジェスト版	令和2年11月 国立劇場	R3/5/24~ R4/5/31	1,437
国立能楽堂令和4年6月特別公演「祈りのかたち」	令和4年6月 国立能楽堂	R4/9/1~ R5/8/31	3,536
Noh & Kyogen National Noh Theatre "Representation of Prayer"	令和4年6月 国立能楽堂	R4/9/22~ R5/8/31	1,078
Noh & Kyogen National Noh Theatre "Discover NOH & KYOGEN" 国立能楽堂 能・狂言の魅力	令和4年10月 国立能楽堂	R5/3/1~ R6/3/31	617
国立能楽堂特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」	令和3年4月~6月 国立能楽堂	R3/8/17~	1,030
National Noh Theatre Special Exhibition 2021, Japanese People and Nature: Noh and Japanese Art	令和3年4月~6月 国立能楽堂	R3/9/1~	694
国立能楽堂企画公演「日本人と自然 春夏秋冬」復曲能「泰山木」	令和3年4月 国立能楽堂	R3/6/1~ R4/5/31	4,201
National Noh Theatre Special Programme Noh (Revival) Taisanmoku	令和3年4月 国立能楽堂	R3/6/16~ R4/5/31	774
国立能楽堂企画公演【女性能楽師による】	令和3年4月 国立能楽堂	R3/6/16~ R4/6/15	8,652
National Noh Theatre, Special Programme "Performed by Noh Actresses"	令和3年5月 国立能楽堂	R3/8/17~ R4/6/15	615
国立能楽堂5月普及公演	令和3年5月 国立能楽堂	R3/7/2~ R4/7/1	5,259
National Noh Theatre, Dissemination Performance in May	令和3年5月 国立能楽堂	R3/8/17~ R4/7/1	720
国立能楽堂狂言企画公演「日本人と自然 草木成仏」「梟」「蟬」「鮎」	令和3年5月 国立能楽堂	R3/7/16~ R4/7/15	4,832
National Noh Theatre, Special Programme of Kyogen (Humanity and Nature in Japan)	令和3年5月 国立能楽堂	R3/8/17~ R4/7/15	519
令和3年10月外国人のための能楽鑑賞教室《Discover NOH & KYOGEN》	令和3年10月 国立能楽堂	R3/12/24~ R4/12/23	1,508
国立文楽劇場 令和4年文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKU	令和4年6月 国立文楽劇場	R4/8/4~ 9/26、 R4/10/14~	1,650
日本の伝統芸能の殿堂・国立劇場が贈る"歌舞伎"の魅力		R3/5/24~	21,397
歌舞伎舞踊の心「京鹿子娘道成寺」		R3/5/24~	11,252
「日本博寄席 2020」関連映像コンテンツ「寄席へようこそ—太神楽編／落語編—」		R2/11/24~	3,609
Welcome to Yose -Daikagura/Rakugo-		R2/11/25~	728
日本博特別公演「日本の音と声と舞」ダイジェスト映像 Long ver.(5分)		R2/7/3~	2,062
日本博特別公演「日本の音と声と舞」ダイジェスト映像 Long ver.(3分)		R2/7/3~	523
Japan Cultural Expo Special Performance "Japanese Music, Song and Dance"		R2/10/21~	1,303
日本博特別公演「日本の音と声と舞」日本の音		R2/11/24~	765
Traditional Japanese Music		R2/11/24~	226
日本博特別公演「日本の音と声と舞」日本の声		R2/12/1~	327
Traditional Japanese Song		R2/12/1~	549
日本博特別公演「日本の音と声と舞」日本の舞		R2/12/8~	1,499
Traditional Japanese Performance(Dance)		R2/12/8~	95,892
日本博皇居外苑特別公演 ~祈りのかたち~ ダイジェスト映像 令和3年3月12日 皇居外苑 皇居前広場	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	R3/8/31~ R4/7/31	2,951
"Representation of Prayer" March 12, 2021	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	R3/8/31~ R4/7/31	304
日本博皇居外苑特別公演 ~祈りのかたち~ ダイジェスト映像 令和3年3月14日 皇居外苑 皇居前広場	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	R3/8/31~ R4/7/31	6,476
"Representation of Prayer" March 14, 2021	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	R3/8/31~ R4/7/31	247
日本博皇居外苑特別公演 ~祈りのかたち~ 浦浜念仏剣舞 特別映像		R3/8/31~ R4/7/31	734
"Representation of Prayer" Urahama Nenbutsu Kenbai		R3/8/31~ R4/7/31	102
「日本の伝統芸能」long ver.		R3/3/25~	8,778
Traditional Japanese Performing Arts_long ver.		R3/4/19~	1,231
「日本の伝統芸能」short ver.		R3/3/25~	661

Traditional Japanese Performing Arts_short ver.		R3/4/19～	488
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”歌舞伎編		R4/1/31～	4,223
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”文楽編		R4/2/2～	3,428
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”雅楽編		R4/2/16～	1,001
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”能楽編		R4/2/9～	1,835
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”組踊編		R4/2/9～	899
国立劇場おきなわ令和3年7月組踊公演「大川敵討」～糺しの場～（稽古風景や出演者へのインタビュー映像）		R3/6/15～ R4/12/31	182
組踊ゆかりの地巡り～「万歳敵討」編～		R3/7/29～	527
組踊ゆかりの地巡り～銘苺子編～		R3/10/4～	654
組踊ゆかりの地巡り～執心鐘入編～×リュウカツチュウ【コラボ企画】		R3/10/25～	867
組踊「二童敵討」指導者インタビュー		R4/1/26～ R4/12/31	485
【潜入】組踊？琉球舞踊？歌舞劇「首里城物語」の舞台裏をのぞき見【リュウカツチュウコラボ】		R4/3/7～	1,700
【English Version】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa		R3/7/27～	5,560
【简体中文字幕版】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa		R3/7/27～	374
【繁體中文字幕版】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa		R3/7/27～	287
【한국어 자막 버전】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa		R3/7/27～	590
※一部、公演事業及び調査研究事業との重複あり	合計	85件	238,660

オ 日本博の文化的・社会的・経済的効果等の検証

- ・調査業務の委託業者と契約を締結し、令和4年度事業の効果検証とともに、日本博立ち上げ以来の成果と課題の総括を委託。
- ・日本博事業への来場者を対象としたアンケートやインタビュー調査及び外国人ニーズを把握するためのアンケートを実施。
- ・前年度の日本博全体の経済波及効果の推計を実施。
- ・日本博事務局設置の効果・課題を検証するため、事務局職員に対するヒアリングを実施した。
- ・日本博事業の認知度等を調査することを目的に一般国民1万人に対するアンケートを実施した。
- ・日本博事業の実施団体及び事業従事者を対象としたアンケートを実施した。
- ・実施した各種調査の結果を基に日本博事業の効果について分析を行った。
- ・「経済波及効果の算出と活用方法」をテーマとしたシンポジウムを実施。シンポジウムの模様を録画配信するとともに、経済波及効果算出のためのツールの提供を行った。
- ・「日本博の成果を考える ～日本博2.0に向けて～」をテーマとしたシンポジウムを実施し、シンポジウムの模様を録画配信した。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

- (1) 伝統芸能の伝承者の養成 ————— p.119
 - ア 養成の計画的な実施 ————— p.121
 - イ 既成者研修の実施 ————— p.124
 - ウ 実施に当たっての留意事項 ————— p.125

- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 ————— p.132
 - ア 安定的、継続的な実演家の育成 ————— p.134
 - イ 実施に当たっての留意事項 ————— p.137

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能の各分野の養成事業を横断的に所管する機関として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」設置に向けた検討を行うだけにとどまらず、令和5年4月から運用する体制を整えた。 ・伝統芸能分野では、養成事業の外部資金獲得のため、当初計画にはなかったクラウドファンディングを初めて実施し、目標金額の4倍を超える1,400万円以上の寄附金を集めた。集まった寄附金を破損・老朽化した楽器や研修用具の更新、修理の財源に充てるとともに、事業実施に当たって民間のクラウドファンディングサービスを活用することにより、幅広い層に対し振興会の養成事業を周知することができた。 ・再整備期間中の養成研修の代替施設確保のため、独立行政法人国立青少年教育振興機構と相互連携協定を締結した。また、この協定に基づき、国立オリンピック記念青少年総合センターの施設利用に関する準備を進めるとともに、青少年が伝統芸能を体験できる機会の創出として、同機構が主催する若年層向けの体験イベント事業において伝統芸能体験プログラムを実施した。 ・「国立劇場の舞台技術」について、安全についての記述を大幅に拡充した改訂版を作成し、振興会ホームページで無料公開した。 ・現代舞台芸術分野については、計画どおり事業を実施した。 ・全日本空輸株式会社の協賛による「ANAスカラシップ」（オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等）を活用した海外研修は新型コロナ流行後で初めての実施となった。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>研修発表会の実施状況：19公演/19公演（100.0%） 既成者研修発表会の実施状況：11公演/11公演（100.0%）</p>
主要な業務実績	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 各表参照</p>
課題と対応	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 各表参照</p>

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の各分野の養成事業を横断的に所管する機関として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」設置に向けた検討を行い、令和5年4月から運用する体制を整えた。 ・ 養成事業の外部資金獲得のため、当初計画にはなかったクラウドファンディングを初めて実施し、目標金額の4倍を超える1,400万円以上の寄附金を集めた。集まった寄附金を破損・老朽化した楽器や研修用具の更新、修理の財源に充てるとともに、事業実施に当たって民間のクラウドファンディングサービスを活用することにより、幅広い層に対し振興会の養成事業を周知することができた。 ・ 再整備期間中の養成研修の代替施設確保のため、独立行政法人国立青少年教育振興機構と相互連携協定を締結した。また、この協定に基づき、国立オリンピック記念青少年総合センターの施設利用に関する準備を進めるとともに、青少年が伝統芸能を体験できる機会の創出として、同機構が主催する若年層向けの体験イベント事業において伝統芸能体験プログラムを実施した。 ・ 「国立劇場の舞台技術」について、安全についての記述を大幅に拡充した改訂版を作成し、振興会ホームページで無料公開した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>研修発表会の実施状況：8公演/8公演（100.0%） 既成者研修発表会の実施状況：11公演/11公演（100.0%）</p>
主要な業務実績	<p>ア 養成の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、計画どおり研修を実施。 <p>イ 既成者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既成者研修発表会は計画どおり実施。 ・ 能楽研究課程を引き続き開講(受講者43名、実施回数335回)。 <p>ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能伝承者養成事業を横断的に所管する組織として「国立劇場伝承者養成所」を設置するため、文化庁、講師、協力団体等と協議を行い、令和5年4月に発足することとなった。 ・ 令和5年度の研修生募集活動において「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」の名称を使用して募集活動を開始した。 ・ 外部資金の獲得及び養成事業の広報のため、クラウドファンディングによる伝承者養成事業への寄附募集「伝統芸能の明日をになう、国立劇場の研修生にご支援を！」を実施した。 ・ 再整備期間中の養成研修の代替施設確保のため、国立青少年教育振興機構と連携協力協定を締結し、同機構の国立オリンピック記念青少年総合センター研修棟の使用、青少年等を対象とした伝統芸能の普及活動の実施等について相互に確認した。 ・ 連携協力協定に基づき同機構主催の若年層に対するワークショップや国際交流事業に協力した。 ・ 当初計画では募集のみを行うこととしていた歌舞伎音楽(鳴物)18期生について、文部科学大臣会見や関係団体への周知等により、早期に募集を行い、2名が選考試験に合格した。前倒しで年度途中から開講した。 ・ 外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知した。 ・ 五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年応募者が減少傾向にある中、伝承者を安定的に確保するために、「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」を設置し募集広報を強化するとともに、研修生の精神的なケアや経済的支援について、引き続き必要な措置を講じる。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり研修及び研修公演を実施した。 ・全日本空輸株式会社の協賛による「ANAスカラシップ」(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。特に「ANAスカラシップ」による海外研修は新型コロナ流行後で初めての実施となった。 ・研修事業について、ホームページやSNS(Facebook, Twitter)を活用して継続的に情報を発信した。併せて、国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く周知できた。 ・オープンスクールや説明会をオンラインで開催し、研修内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。 ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。 ・舞台技術者等の研修については、連携大学からのインターンシップ受入れなど新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	研修発表会の実施状況：11公演/11公演 (100.0%)
主要な業務実績	<p>ア 安定的、継続的な実演家の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、計画どおり研修を実施し、オペラ研修生4名、バレエ研修生4名、演劇研修生10名が修了した。 ・研修公演を計画どおり実施した。 ・オペラ及びバレエ研修所における、全日本空輸株式会社の協賛による「ANAスカラシップ」での海外研修を新型コロナ流行後で初めて計画どおり実施できた。 ・演劇研修所において、全日本空輸株式会社の協賛による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」を実施。航空券のサポートを受け国内研修を行った。 ・研修事業委員会を開催。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、今後の方向性を検討した。 <p>イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNSを活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信した。 ・事業周知と将来の研修生確保のため、オープンスクールや説明会をオンラインで開催した。 ・提携大学と連携してインターンシップの受入れを行うなど新国立劇場の人材及び施設を活用した。
課題と対応	・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。

3 - (1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及を図るため、長期的な視点に立ち効果的かつ効率的に以下の養成・研修を実施

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 民間での養成が難しいため振興会として実施すべき分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直しを実施

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、次の養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ② 大衆芸能伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ③ 能楽伝承者養成(研修期間:基礎研修課程 3 年間、専門研修課程 3 年間)
- ④ 文楽伝承者養成(研修期間 2 年間)
- ⑤ 組踊伝承者養成(研修期間 3 年間)

ウ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会(歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・能楽・文楽・組踊)
- ② 能楽研究課程(1 年間)

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 各分野の充足状況及び年齢構成等を把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽

(歌舞伎俳優)

(a) 第26期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)

(b) 第27期生(研修期間2年、3名)の1年目の養成研修

(歌舞伎音楽)

(c) 竹本第25期生(研修期間2年、3名)の1年目の養成研修

(d) 長唄第9期生(研修期間3年、2名)の1年目の養成研修

② 大衆芸能

- (a) 太神楽第8期生(研修期間3年、3名)の1年目の養成研修
 - ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)
 - (a) 第10期生(2名)の6年目の養成研修(修了)
 - (b) 第11期生(3名)の3年目の養成研修
 - ④ 文楽(研修期間2年)
 - (a) 第30期生(2名)の2年目の養成研修(修了)
 - (b) 第31期生(3名)の1年目の養成研修
 - ⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)
 - (a) 第6期生(9名)の3年目の養成研修(修了)
 - ⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、研修発表会を別表10のとおり実施
 - ⑦ 下記の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討・募集
 - (a) 第28期歌舞伎俳優
 - (b) 第18期歌舞伎音楽(鳴物)
 - (c) 第12期能楽(ワキ・囃子・狂言)
 - (d) 第32期文楽
 - (e) 第7期組踊
- イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施
- ① 既成者研修発表会を別表10のとおり実施する。
 - ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進
- ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項
- ① 養成事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める
 - ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修修了者等によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
 - ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、パンフレットや研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
 - ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
 - ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場等の人材や施設を活用し、外部研修への協力等に努める
 - ⑥ 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽、大衆芸能、能楽、文楽の各養成事業を実施する機関として養成所の設置を検討

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	8公演 (H25-29 実績平均：8.0 公演)
3-2 既成者研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	11公演 (H25-29 実績平均：10.8 公演)
3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)	P. 125～131 に掲載
3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)	
3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)	P. 131 に掲載

ア 養成の計画的な実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、歌舞伎音楽(長唄)、大衆芸能(太神楽)研修においては、1年目に基礎研修、2年目には専門研修と並行して、実践の場において役立つ実技研修を実施する。

能楽(三役)研修は、ワキ方・囃子方・狂言方について、基礎研修課程3年、専門研修課程3年、計6年の研修を実施する。

文楽研修においては、太夫・三味線・人形の後継者を養成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修は、組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支える、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

① 養成研修実績

区分		研修期間	年度計画	研修実績	うち修了者	
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優	26期(2年次)	2年	1名	1名	
		27期(1年次)	2年	3名	1名	
	竹本	25期(1年次)	2年	3名	3名	
		鳴物	18期(1年次)	2年	-	2名
		長唄	9期(1年次)	3年	2名	2名
大衆芸能	太神楽	8期(1年次)	3年	3名	3名	
	寄席囃子	休止中				
能楽	10期(6年次)	専門研修課程3年	2名	2名	2名	
	11期(3年次)	基礎研修課程3年	3名	3名		
文楽	30期(2年次)	2年	2名	2名	2名	
	31期(1年次)	2年	3名	1名		
組踊	6期(3年次)	3年	9名	9名	9名	

・令和3年度の募集期間内に応募のなかった第18期歌舞伎音楽(鳴物)研修について、4月に募集期間の延長・再募集等を行った結果、3名の応募があり、選考試験の結果、2名が合格し、5月から研修を開始した。

・第27期歌舞伎俳優研修生のうち4月・8月に計2名が研修を辞退した。

・第31期文楽研修生のうち4月・9月に計2名が研修を辞退した。

② 主な授業等の概要

区分		回数	授業内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優(26期) 計434回	実技	361回 歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、黒御簾音楽、箏曲
		その他	73回 作法・講義、体操、公演・稽古見学、舞台実習、発表会ほか
	俳優(27期) 計544回	実技	464回 歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物
		その他	80回 作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
	竹本 計554回	実技	443回 義太夫、狂言
		その他	111回 作法・講義、五館合同特別講義、習字、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
	鳴物 計358回	実技	239回 鳴物、長唄、能楽
		その他	119回 作法・講義、五館合同特別講義、習字、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
	長唄 計436回	実技	332回 長唄、五線譜、鳴物
		その他	104回 作法・講義、五館合同特別講義、習字、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会、あげざらいほか
大衆芸能	太神楽 計498回	実技	401回 太神楽、長唄、囃子、住吉踊り
		その他	97回 作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
能楽 計1,488回		実技	1,288回 ワキ、シテ謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
		その他	200回 講義、和裁、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか
文楽	30期 計803回	実技	335回 義太夫、三味線、人形実技
		その他	468回 箏曲・胡弓、謡・狂言、日本舞踊、作法・講義、体操、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
文楽	31期 計493回	実技	228回 義太夫、三味線、人形実技
		その他	265回 箏曲・胡弓、謡・狂言、日本舞踊、作法・講義、体操、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか

組踊 計 529 回	実技	486 回	組踊実技、副実技(琉球舞踊等)、基礎実技
	その他	43 回	講義、鑑賞・見学研修等、発表会ほか

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ガイドライン等に従うほか、研修時間の短縮、月 1 回の PCR 検査などを行い計画どおりの研修を行った。
- ・各分野とも、振興会主催公演をはじめとする公演見学等を積極的に行い、研鑽を深めた。
- ・歌舞伎俳優研修生は、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」にて舞台実習を実施し、修了後の職場環境や舞台・楽屋における作法等を学ぶことができ、貴重な経験となった。
- ・歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、歌舞伎音楽(長唄)及び大衆芸能(太神楽)研修では、11/30 に両国・深川界限、3/22 に浅草・向島界限の史跡を巡る部外研修を実施した。事前に歴史文化に関する講義を受けた後、講師の案内により実際に史跡を訪れることで、現代の東京に残る江戸の面影を肌で感じ、歌舞伎や落語作品の理解を深めることができた。
- ・能楽(三役)研修生の第 10 期生は、国立能楽堂及び外部の能楽堂での楽屋実習・舞台実習を年間で笛方 35 回・小鼓方 17 回行い、着実に経験を積んでいる。
- ・能楽(三役)研修では、3/22 に靖国神社能楽堂など都内の能楽ゆかりの地を巡る部外研修を実施した。
- ・文楽研修では、大阪及び東京での研修を計画どおり実施した。
- ・文楽研修では、これまで 2 年に 1 度の募集であったところ、毎年の募集に切り替えたことにより、2 学年が並行して研修を行った。また第 30 期生と第 31 期生が互いに刺激を受け合い、より研鑽を深めることができた。
- ・文楽研修では、10/28 に滋賀県長浜市を訪ね、現地に伝わる人形浄瑠璃の劇場と、三味線の糸の製造会社を見学した。
- ・組踊研修では、コロナ禍前の通常研修時間数を実施することができた。
- ・研修途中での辞退を予防するため、研修生に対し臨床心理士によるメンタルヘルスカウンセリングを定期的実施し、研修生のメンタル不調の早期発見・早期対応を図った。

《外部専門家等の意見》

- ・養成事業委員会を開催した。主な意見は以下のとおり。
 - ◇ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、研修事業を実施継続していることが評価される。
 - ◇ 既成者発表会は、日ごろは演じることのできない大役に挑む若手たちの姿に着実に伝承と研鑽が進んでいると感じることができた。
 - ◇ 研修生の応募対象の年代だけでなく、将来的に研修生となる可能性のある若年層向けに楽しく伝統芸能を体験できるような機会を作りだしてほしい。
 - ◇ 「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」を設置することにより、振興会の養成事業の対外的なアピールも高まり、研修生を送り出す親族の信頼感も高まると思われる。
 - ◇ 3 年振りに開催した五館合同特別講義は、分野の異なる次世代の舞台を担う研修生が合同で研修し交流を深める貴重な機会となった。
 - ◇ 国立劇場の再整備期間中の養成所の移転先がオリンピックセンターに確定していることは、養成事業の継続性において安心材料であり、施設を活用した若年層向けの事業にも力を入れてほしい。
 - ◇ クラウドファンディングは研修実施のための貴重な資金を確保しただけでなく、養成事業の広報としても有効であったと思われ、今後の研修生応募に対する効果も期待できる。
- ・国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を開催した(3/22)。研修修了後の活動状況や研修生募集について意見交換がなされた。主な意見は以下のとおり。
 - ◇ 旅行とセットの公演のワークショップに「子の会」が講師として招かれている。取り組みとして面白い。
 - ◇ 次年度からの第 7 期生が決定して、その中には歌三線の芸歴が 3 年だけで受かっている人がいる。これからの成長がとても楽しみだ。

《適性審査の実施等》

区分	試験日	受験者数	合格者数	備考
歌舞伎俳優	9/22	1 名	1 名	
歌舞伎音楽(竹本)	9/16	3 名	2 名	1 名保留
	12/26	1 名	1 名	9/16 の適性審査で保留となった 1 名について追加審査を実施
歌舞伎音楽(鳴物)	10/25	2 名	2 名	

歌舞伎音楽(長唄)	9/26	2名	2名	
大衆芸能(太神楽)	9/28	3名	3名	
文楽	10/24	1名	1名	

③ 研修発表会の実施

(a) 発表会

区分	公演名	劇場	日程	回数	入場者数	入場率	入場料	内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第26期歌舞伎俳優 研修了発表会・第 27期歌舞伎俳優・第 25期歌舞伎音楽(竹 本)・第18期歌舞伎音 楽(鳴物)・第9期歌舞 伎音楽(長唄)・第8期 大衆芸能(太神楽)研 修発表会(合同)	本館 小劇場	3/15	1回	210人	40.2%	無料	歌舞伎俳優研修生:歌舞伎実技「鳴 神」、日本舞踊「雨の五郎」「玉屋」、 立廻り「歌舞伎の立廻り」、長唄「越後 獅子」「小鍛冶」 竹本研修生:義太夫「羽根の禿」 鳴物研修生:「鶴亀」 長唄研修生:長唄「供奴」「老松」 太神楽研修生:曲桴・五階茶碗
能楽	第28回青翔会	能楽堂	6/14	1回	456人	77.2%	正面 1,800円 脇正面 1,200円 中正面 900円	舞囃子「花月」(喜多流)、舞囃子「胡 蝶」(観世流)、舞囃子「巴」(金春流)、 狂言「茶壺」(和泉流)、能「春日龍神」 (宝生流) 指導者:金春安明・友枝昭世ほか 出演者:第10・11期研修生、第5・8・ 9期修了者、令和4年度研究生、研 修講師ほか
能楽	第29回青翔会	能楽堂	10/18	1回	413人	69.9%	正面 1,800円 脇正面 1,200円 中正面 900円	舞囃子「経政」(宝生流)、舞囃子「杜 若」(喜多流)、舞囃子「七騎落」(観世 流)、能「枕慈童」(金春安明) 指導者:観世清和・金春安明・中村邦 生ほか 出演者:第10・11期研修生、第5・6・ 9期修了者、令和4年度研究生、研 修講師ほか
能楽	第30回青翔会	能楽堂	3/14	1回	544人	92.0%	正面 1,800円 脇正面 1,200円 中正面 900円	舞囃子「高砂」(観世流)、舞囃子「田 村」(金春流)、舞囃子「半部」(宝生 流)、舞囃子「融」(喜多流)、狂言「鞆」 (大蔵流)、半能「石橋」(観世流) 指導者:観世清和・金春安明・友枝昭 世ほか 出演者:第10・11期研修生・第8・9 期修了者、令和4年度研究生、研修 講師ほか
能楽	第51回 東西合同研究発表会	能楽堂	8/30	1回	230人	38.9%	無料	能「竹生島」(喜多流)、狂言「土筆」(大 蔵流)、舞囃子「天鼓」(観世流)、舞囃 子「杜若」(金剛流)、狂言小舞「吉の 葉」「小原木」「宇治の晒」(大蔵流)、ワ キ語り「藤戸」(高安流)、舞囃子「須磨 源氏」(観世流)、舞囃子「松虫」(金剛 流)、舞囃子「竜田」(金春流)、能「田 村」(観世流)
文楽	第30期文楽研修 了発表会、 第31期文楽研修 発表会(合同)	文楽劇場 小ホール	1/27	1回	174人	24.3%	無料	「二人三番叟」、素浄瑠璃「一谷嫩軍 記」熊谷桜の段、素浄瑠璃「仮名手本 忠臣蔵」裏門の段
組踊	第6期組踊研修生第 5回研修発表会	おきなわ 大劇場	10/6	1回	398人	68.9%	無料	組踊「銘苺子」
組踊	第6期組踊研修了 発表会	おきなわ 大劇場	3/2	1回	462人	86.7%	無料	組踊「花売の縁」

- ・「第26期歌舞伎俳優研修了発表会/第27期歌舞伎俳優・第25期歌舞伎音楽(竹本)・第18期歌舞伎音楽(鳴物)・第9期歌舞伎音楽(長唄)・第8期大衆芸能(太神楽)研修発表会」は、クラウドファンディングの支援者へのお礼や今後の研修生募集につながるよう、父兄、関係者に加えてクラウドファンディング支援者及び一般の応募者を招待した。
- ・第26期・第27期歌舞伎俳優研修生は、前回の発表会で26期生の体調不良のため上演中止となった歌舞伎実技「鳴神」の上演のほか、立廻りと日本舞踊「雨の五郎」「玉屋」、長唄「越後獅子」「小鍛冶」を披露し、高く評価された。
- ・第25期歌舞伎音楽(竹本)研修生は、「羽根の禿」を披露し、研修の成果を示すことができた。

- ・第18期歌舞伎音楽(鳴物)研修生は、長唄「鶴亀」を披露し、研修の成果を示すことができた。
- ・第9期歌舞伎音楽(長唄)研修生は、長唄「供奴」で三味線の演奏を、「老松」で唄を披露し研修の成果を示すことができた。
- ・第8期大衆芸能(太神楽)研修生は、曲樟・五階茶碗を披露し、研修の成果を示すことができた。
- ・能楽(三役)研修生の第11期生は、今年度から青翔会に出演した。
- ・文楽研修では、研修発表会において30期生と31期生が日頃の研修の成果を披露した。また、発表会という大きな目標に向かって集中的に課題曲に取り組むことにより、成長の跡がうかがえた。
- ・組踊研修では、10月及び3月の発表会において、新型コロナウイルス感染症流行後では初めて一般のお客様にも入場していただいた。ただし、コロナ前には自由席だったところを、指定席とし、万一の感染クラスターが起こった際に備えた。第6期生にとっては座席数の制限を行わない客席にいつも以上の励みとなり、研修の成果を十分に発揮することができ、今後の成長を期待させた。

(b) その他の発表会等

区分	公演名	劇場	日程	内容
長唄	第9期長唄研修生 あげざらい	中稽古場	1/24	○研修生の編曲による合奏 「京都慕情」「ひらりと桜」 ○研修生全員による合奏 「さくらくずし」「うさぎうさぎ」 指導者：杵屋巳織 演奏者：第9期長唄研修生
能楽	令和4年度 第1回稽古会	能楽堂	4/25	舞囃子「松虫」(宝生流)、舞囃子「胡蝶」(観世流)、舞囃子「野守」(金春流)、袴能「飯」(喜多流) 指導者：観世清和・金春安明・友枝昭世ほか 出演者：第10・11期研修生、第8・9期修了者、令和4年度研究生、研修講師ほか
能楽	令和4年度 第2回稽古会(中止)	能楽堂	7/25	舞囃子「忠度」(喜多流)、舞囃子「西王母」(宝生流)、舞囃子「七騎落」(観世流)、袴能「枕慈童」(金春流)
能楽	令和4年度 第3回稽古会	能楽堂	1/16	舞囃子「高砂」(観世流)、狂言「昆布売」(大蔵流)、舞囃子「蘆刈」(喜多流)、舞囃子「龍田」(宝生流)、舞囃子「船弁慶 前」(金春流)、半能「石橋」(観世流) 指導者：金春安明・友枝昭世ほか 出演者：第10・11期研修生、第8・9期修了者、令和4年度研究生、研修講師ほか

④ 次年度の検討、募集

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
第28期歌舞伎俳優	2/22	5名	5名	5名	
第18期歌舞伎音楽(鳴物)	5/9	3名	2名	2名	5月から研修開始
第12期能楽	3/7	7名	5名	5名	1名辞退(3/19)
第32期文楽	3/1	0名	0名	0名	応募者0名のため募集期間を4/28まで延長
第7期組踊	11/12,13	15名	15名	9名	

イ 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了者の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

① 既成者研修発表会の実施

区分	公演名	会場	日程	回数	入場者数	入場率	入場料	内容
歌舞伎俳優 既成者	第28回稚魚の会・ 歌舞伎会合同公演	本館 小劇場	8/12 ～16	5回	1,500人	58.7%	4,700円 3,200円	「双蝶々曲輪日記」、「俄獅子」
歌舞伎俳優 既成者	第32回 上方歌舞伎会	文楽劇場	8/24 ～25	4回	1,539人	57.8%	4,700円 3,300円	「伊勢音頭恋寝刃」古市油屋店先の場、同奥庭の場、「乗合船恵方万歳」
歌舞伎音楽 既成者	第24回音の会	本館 小劇場	8/6 ～7	2回	338人	32.4%	3,000円 2,200円	鳴物・長唄「常盤の庭」、長唄「秋色種」、義太夫「蝶の道行」、長唄「筑摩川」、義太夫・舞踊「団子売」
能楽既成者	第31回能楽若手研 究会京都公演 —京都若手能—	京都 観世会館	6/25	1回	385人	85.2%	3,500円	舞囃子「養老」(金剛流)、能「巴」(金剛流)、狂言「寝音曲」(大蔵流)、舞囃子「野宮」(観世流)、舞囃子「松虫」(観世流)、能「邯鄲」(観世流) 指導者：片山九郎右衛門・金剛永謹・杉市和・河村大ほか 出演者：豊嶋幸洋、大江広祐、則久英志(第3期修了者)、加藤洋輝(第6期修了者)ほか

能楽既成者	第31回能楽若手研究会大阪公演 —大阪若手能—	大槻能楽堂	1/21	1回	360人	80.4%	3,500円	能「小袖曾我」(観世流)、狂言「佛師」(大蔵流)、能「邯鄲」(宝生流) 指導者:三島元太郎ほか 出演者:上野朝彦、辰巳大二郎、喜多雅人(第7期修了者)ほか
能楽既成者	第31回能楽若手研究会東京公演 —東京若手能—	国立能楽堂	2/25	1回	587人	93.6%	3,500円	能「杜若」(観世流)、狂言「因幡堂」(和泉流)、能「通小町」(宝生流) 指導者:なし 出演者:坂真太郎、澤田宏司、成田寛人(第5期修了者)、八反田智子(第5期修了者)、田邊恭資(第7期修了者)、内藤連(第8期修了者)ほか
文楽既成者	文楽若手会	文楽劇場	6/18 ~19	2回	920人	64.2%	2,700円	「絵本太功記」夕顔棚の段、尼ヶ崎の段、「摂州合邦辻」合邦住家の段、「二人禿」 出演:豊竹芳穂太夫、鶴澤清丈、吉田文哉ほか
文楽既成者	文楽若手会	本館小劇場	6/25 ~26	2回	1,025人	96.2%	3,000円	「絵本太功記」夕顔棚の段、尼ヶ崎の段、「摂州合邦辻」合邦住家の段、「二人禿」 出演:豊竹芳穂太夫、鶴澤清丈、桐竹紋臣ほか
文楽既成者	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場小ホール	10/27	1回	146人	91.8%	1,000円	「苺萱桑門筑紫轢」信州川中島合戦
文楽既成者	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場小ホール	3/3	1回	151人	95.0%	1,000円	「絵本太功記」妙心寺の段、「奥州安達原」袖袂祭文の段
組踊既成者	第12回若手伝承者公演	おきなわ大劇場	12/3	1回	235人	40.7%	2,000円	琉球舞踊「かぎやで風」「女こてい節」 「高平良万歳」、組踊「手水の縁」

- ・「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は、若い出演者による「双蝶々曲輪日記」「俄獅子」に名題下俳優が挑戦する等、観客に若い世代の日頃の修練の成果を十分に示すことができた。
- ・「音の会」は体調不良者が発生し長唄「秋色種」を中止したが、華やかな鳴物・長唄「常磐の庭」に始まり、長唄「筑摩川」、義太夫「蝶の道行」では修了直後の修了者も出演し、これからの歌舞伎音楽を担う若い演奏者の日ごろの修練の成果を示すことができた。義太夫・舞踊「団子売」は歌舞伎俳優研修の修了者が舞台に彩を添え、いずれも好評だった。
- ・「能楽若手研究会」は、京都・大阪・東京がそれぞれに番組制作や広報を担当し、個性の出た公演になった。特に京都、大阪は演者で若手能実行委員会を組織しているため、公演の運営を行うことで、舞台上以外の部分でも得るものが多かった。
- ・「文楽若手会」では、若手技芸員が名作の大役に挑み、それぞれに好成績を収めた。『絵本太功記』で武智光秀役を勤めた吉田玉翔は、その舞台での成果により大阪文化祭賞奨励賞を受賞した。
- ・「若手素浄瑠璃の会」では、いずれも若手技芸員が今後勤めるであろう大曲に挑戦することで、芸芸向上に貢献するだけでなく、伝統芸能伝承者としての自覚を促す有意義な機会となった。
- ・「若手伝承者公演」は、自主公演でも希な演目を選び、配役に関しても通常とは違う配役にあえて挑戦することによって演者自身への大きな成果となる公演となった。

② 能楽研究課程の開講

- ・能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生43名が受講した(実施回数:335回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、稽古会や青翔会の出演機会においては、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

① 修了者の活動状況等、養成事業の周知

(a) 各分野共通

- ・クラウドファンディングによる伝承者養成事業への寄附募集「伝統芸能の明日をにやう、国立劇場の研修生にご支援を！」を実施した。
 - ◇ 事業概要:民間会社のクラウドファンディングサービスを利用して、伝承者養成事業への寄付募集を実施
 - ◇ 寄附金の使途:研修に必要な備品・消耗品の購入、修繕及び研修発表会の公演費
 - ◇ 返礼品:研修生からの礼状・メッセージ映像、国立劇場オリジナルグッズ、研修発表会への招待
 - ◇ 募集期間:9/1~10/30
 - ◇ 寄附目標額:3,000千円

- ◇ 寄附実績：722 件、14,425 千円
- ◇ プロジェクトページの新着情報において備品、消耗品の購入及び道具の修繕等の寄附金の使途を報告
- ・「伝統芸能の明日をになう、国立劇場の研修生にご支援を！」クラウドファンディング事業で養成事業を周知した。
 - ◇ プロジェクトページにおいて竹本葵太夫、市川新十郎、竹市学、鶴澤清志郎からの応援メッセージを掲載
 - ◇ 読売新聞(10/2 竹本葵太夫インタビュー)
 - ◇ 美術展ナビ(10/8 中村好蝶、窪田優人インタビュー)
- ・6/14 第 28 回青翔会にて、養成事業に対する寄附を募集した(寄附額実績 88,921 円)。
- ・本館 11 月歌舞伎公演において、太神楽の出演者に国立劇場養成研修修了者を起用した。舞台での口上で、自身が研修修了者であることと他のジャンルの養成研修について触れてもらい、養成研修事業の PR につなげた。
- ・自民党文部科学部会・文化立国調査会主催文化講座にて、桐竹勘十郎が講演、桐竹勘次郎と第 26 期文楽研修修了者の桐竹勘昇が参加し、養成事業について紹介した(10/19)。
- ・独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施する文部科学省からの委託事業「日独勤労青年交流事業(オンライン)」における施設訪問(バーチャル)を受け入れ、「芸芸の継承」をテーマに伝統芸能伝承者養成事業を紹介し、太神楽の実演(出演：翁家和助・小花)や実演家へのインタビュー等に協力した(11/24、国立劇場研修室)。
- ・ホームページ、SNS 等による事業周知を行った。
 - ◇ 振興会ホームページ、国立劇場おきなわホームページ、SNS(Twitter、Instagram、Facebook、TikTok)に養成事業・研修発表会の情報や研修事業紹介映像を掲載
 - ◇ SNS については、今年度から本館・能楽堂・文楽劇場の養成研修を一体的に情報発信
- ・新聞雑誌への記事掲載、テレビ・ラジオでの放送による事業周知を行った。
 - ◇ 東京新聞で養成事業を紹介(10/14 田中傳左衛門インタビュー)
 - ◇ テレビ北海道「アヤシイ TV」で養成事業を紹介(5/14)
 - ◇ フジテレビ「明日の内村」で養成事業を紹介(5/23)
 - ◇ テレビ朝日「二十歳の挑戦」で養成事業を紹介(3/12)
- ・振興会ニュースやあぜくら会報等に養成事業の情報を掲載した。
 - ◇ 「研修だより」(養成事業の活動状況等)
 - ◇ 研修発表会に出演する研修修了者・研修生のインタビュー等を掲載して発表会公演を周知
- ・チラシ・ポスターの掲出等による事業周知を行った。
 - ◇ 独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する若年層を対象とする体験活動「第 9 回春のキッズフェスタ」において、養成事業を紹介するチラシ・パンフレットを会場に掲出・配架。
 - ◇ 研修事業を紹介するポスター・チラシ・パンフレットを劇場内に掲出・配架。
 - ◇ 劇場外での各種公演やイベント等でポスター・チラシ・パンフレット等を配布。
 - ◇ 国立文楽劇場及び国立劇場における文楽公演、文楽既成者研修発表会の際に劇場ロビーで、文楽研修紹介映像の上映。

(b) 歌舞伎俳優・音楽

■歌舞伎音楽既成者研修発表会「第 24 回音の会」、歌舞伎俳優既成者研修発表会「第 28 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の周知

- ・ホームページ、SNS 等による公演周知を行った。
 - ◇ 歌舞伎公式ホームページ「Kabuki on the web」
 - ◇ 「美術展ナビ」
 - ◇ 「第 24 回音の会」について、日本俳優協会・伝統歌舞伎保存会公式 YouTube チャンネル「歌舞伎ましよう」の協力により公演紹介映像「竹本葵太夫師、竹本真太夫、竹本和太夫、鶴澤卯太吉、鶴澤薫が〈第 24 回音の会〉をご紹介」が配信された。振興会は撮影協力、素材提供等を行った。
- ・東京新聞に記事が掲載された(7/15 坂東家之助、尾上松三インタビュー)。

■歌舞伎俳優既成者研修発表会「上方歌舞伎会」の周知

- ・振興会ホームページにおいて出演者 14 名のコメント(映像・写真・音声による)を掲載した。

(c) 文楽

- ・新聞雑誌への記事掲載、テレビ・ラジオでの放送による事業周知を行った。

◇ ラジオ大阪「寛太郎とたかおのツレビキ！」(鶴澤寛太郎出演番組)(10/27)

◇ 大阪府中央区のコミュニティFM局 YES-fm「maido station」に桐竹勘昇が出演し、文楽研修を周知(12/26)

◇ 新聞各紙で文楽研修事業を紹介(7紙)

- ・ 公益財団法人文楽協会によるミニ公演他外部の文楽公演において協力を依頼し、養成事業周知のチラシを配架した。

(d) 能楽

・ 能楽タイムズ 10月号(9/28)に第8期研修修了者3名の対談記事を掲載した。

・ 雑誌「なごみ」12月号(11/28)に第8期研修修了者の岡本はる奈のインタビュー記事が掲載された。

■ 能楽研修発表会「青翔会」の周知

・ 東京新聞「新お道具箱万華鏡」に公演情報が掲載された(9/9)。

■ 能楽既成者研修発表会「能楽若手研究会」の周知

< 京都公演 >

・ ホームページ、SNS等による公演周知を行った。

◇ 京都観世会館ホームページに公演情報を掲載

・ 京都観世会館会報誌「月刊『能』」5・6月号に公演情報を掲載した。

< 大阪公演 >

・ ホームページ、SNS等による公演周知を行った。

◇ 大阪若手能の Twitter・Instagram に実行委員会会議の様子や当日までのカウントダウン告知を投稿

・ 雑誌「観世」1・2月号に公演情報を掲載した。

・ チラシ・ポスターの掲出等による公演周知を行った。

◇ チラシ配架・ポスター掲出

➢ 大槻能楽堂公演にてチラシ挟み込み・配架・チケット販売ブース設置(1/13)

➢ 関西圏各能楽堂、大阪メトロの市政広報板・公共情報コーナー、大阪市主要郵便局7か所、大阪市内図書館・公共施設

◇ チラシ配布

➢ 大阪薪能にてチラシ挟み込み(8/11)

➢ 朝陽会館にて実演・チラシ配布

➢ 谷町四丁目郵便局にて窓口利用客にチラシ配布

< 東京公演 >

・ ホームページ、SNS等による公演周知を行った。

◇ 日本博の Twitter に公演情報告知

・ 雑誌「観世」1・2月号に公演情報を掲載した。

(e) 組踊

・ ホームページ、SNS等による事業周知を行った。

◇ 研修生発表会、既成者研修発表会や稽古の様態等を掲載

・ 新聞雑誌への記事掲載、テレビ・ラジオでの放送による事業周知を行った。

◇ 海外向け NHK WORLD-JAPAN 放送局が製作した沖縄復帰 50 周年特別番組「魅力に溢れる沖縄～日本への復帰から 50 年～」において、組踊研修の紹介として、講師へのインタビューや第 6 期組踊研修生の研修風景を放送(6/10)

◇ 沖縄タイムスに組踊研修の様子や 6 期研修生及び 5 期研修修了生のインタビュー記事を掲載(8/5)

◇ JTA 機内誌「Coralway」9～10月号に組踊研修の様子や研修制度についての特集を掲載

◇ 成人式式典において母校で琉球舞踊を披露する研修生が沖縄タイムスに掲載(1/10)

・ 国立劇場おきなわステージガイド 7 月号に特集「組踊研修」を掲載した。

■ 組踊既成者研修発表会「第 12 回若手伝承者公演」の周知

・ 公演案内が新聞記事(沖縄タイムス(11/25)、琉球新報(11/23))に掲載された。

② 全国の文化施設、学校等と協力した研修修了者によるワークショップ等

イベント名	日程	会場	出演者等	参加者数
第 9 回春のキッズフェスタ 「日本芸術文化振興会による伝統芸能体験」	5/28	国立オリンピック記念青少年総合センター	鏡味仙志郎、鏡味正二郎、翁家和助、鏡味味千代、春本小助、鏡味小時	48 人

令和4年度日独勤労青年オンライン交流事業	11/24	国立劇場 第一演芸研修室	翁家和助、翁家小花	8人
県外組踊ワークショップ京都(第一部)	4/28	京都芸術大学内楽屋	金城真次、上原崇弘	23人
県外組踊ワークショップ京都(第二部)	4/28	京都芸術大学内楽屋	金城真次、上原崇弘	21人
組踊ワークショップ	6/25	おきなわ 養成研修室	比嘉大志、比嘉克之、仲嶺良盛	10人
劇場バックステージツアー	7/30 ～31	国立劇場おきなわ	棚原健太(30日)、徳田泰樹(31日)、伊藝武士、比嘉大志、高井賢太郎(ワークショップ講師)	93人
「沖縄の音色～うちなー楽器ありんくりん～」 楽器体験	8/20	国立劇場おきなわ 大 劇場ホワイエ	仲村逸夫、棚原健太、池間北斗、町田倫士、入嵩西諭、大城建大郎、又吉恭平	42人
○読売旅行 復帰50周年特別公演鑑賞と琉球からくり花火・琉球 伝統文化・世界遺産にふれる3日間 ○あぜくら会会員限定 「沖縄本土復帰50周年」・「組踊」重要無形文化財 指定50周年記念 国立劇場おきなわ「組踊」特別記念公演と琉球から くり花火3日間	10/14	国立劇場おきなわ 大稽古室	高井賢太郎、下地心一郎、金城亮太	45人
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「孝行の巻」と琉球の 歴史文化を学ぶ旅	10/15	赤犬子宮他、 国立劇場おきなわ	伊藝武士、知花令磨、徳田泰樹	11人
組踊ワークショップ	11/19	国立劇場おきなわ 大稽古室	上原崇弘、比嘉大志、金城亮太	18人
組踊おでかけワークショップ	11/20	浦添市立 港川小学校体育館	金城真次、上原崇弘、棚原健太	150人
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「北山敵討」と琉球の 歴史文化を学ぶ旅	12/17	佐敷グスク他、 国立劇場おきなわ	嘉数仁然、比嘉大志、高井賢太郎、徳田泰樹	18人
組踊おでかけワークショップ	12/20	浦添市立 沢岬小学校体育館	金城真次、棚原健太	128人
国立劇場おきなわ友の会「ザ・談会 vol.3」	2/25	国立劇場おきなわ 小劇場	棚原健太、(聞き手)金城真次	48人

- ・独立行政法人国立青少年教育振興機構との相互連携協定に基づき、同機構が主催する若年層を対象とする体験活動「第9回春のキッズフェスタ」に協力するため、大衆芸能(太神楽)研修講師等の協力により太神楽の体験プログラム「日本芸術文化振興会による伝統芸能体験」を実施した。また、同機構による、日本とドイツの文化交流事業に大衆芸能(太神楽)研修講師の協力によりオンラインの実演鑑賞と交流会を実施した。

③ 応募者の確保

- ・養成事業の説明と実際の研修状況を見学してもらう研修見学会や個別相談を実施した。

イベント名	日程	会場	内容	参加者数
令和4年度第1回 歌舞伎俳優研修見学会	12/11	国立劇場 大稽古場	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	15人
令和4年度第2回 歌舞伎俳優研修見学会	1/15	国立劇場 大稽古場	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	14人
令和4年度第1回 能楽(三役)研修見学会	12/22	国立能楽堂 研修能舞台	研修制度についての説明、模範演技・演奏、研修風景見学、 研修体験、質疑応答	9人
令和4年度第2回 能楽(三役)研修見学会	1/27	国立能楽堂 研修能舞台	研修制度についての説明、模範演技・演奏、研修風景見学、 研修体験、質疑応答	9人
第32期文楽研修生募集 個別相談	通年	国立文楽劇場内 研修室、会議室	研修風景見学・体験、研修制度についての説明、質疑応答	1人
大阪府立東住吉高等学校特別授業	6/29	大阪府立 東住吉高等学校	独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義	37人
令和4年度第1回 文楽研修見学会	1/7	国立文楽劇場内 研修室、会議室	参加者0人のため中止	0人
令和4年度第2回 文楽研修見学会	1/21	国立文楽劇場内 研修室、会議室	研修風景見学・体験、研修制度についての説明、質疑応答	4人

■ 歌舞伎・大衆芸能・能楽・文楽共通

- ・ホームページ、SNS等に研修生募集情報や研修修了者のインタビュー等を掲載。
 - ◇ 振興会、国立劇場、国立能楽堂、国立文楽劇場ホームページに歌舞伎俳優・能楽(三役)・文楽研修生募集ホームページにリンクしたバナー広告を掲出
 - ◇ SNS(Twitter、Instagram、YouTube)に研修風景映像や研修紹介映像等を配信
 - ◇ インターネット広告(Google 広告、Twitter 広告)(11/19～2/28)
 - ◇ インターネット広告(YouTube 広告)(1/26～2/28)
 - ◇ 高校生向け進学情報サイトへの掲出(7/1～2/28)
 - ◇ 政府広報オンラインサイトへの掲出(10/14～3/31)
 - ◇ 総合教育政策局メールマガジン「マナビィ」に募集記事を掲載(10/8)
 - ◇ 初等中等教育局メールマガジンに募集記事を掲載(10/14)

- ◇ オーディションサイト「オーディションプラス」ホームページ・Twitter(12/15)
- ・ 新聞・雑誌への募集案内掲載、テレビ・ラジオでの放送による周知を行った。
 - ◇ 教育委員会月報 10月号
 - ◇ 政府広報ラジオ「青木源太・足立梨花 Sunday Collection」 (11/20)
 - ◇ NHK-FM 横浜放送局・NHK 沖縄放送局(12月～2月)
 - ◇ 大分合同新聞 (1/11)
- ・ チラシ・ポスターの掲出等による周知を行った。
 - ◇ 振興会各施設
 - ◇ 公益社団法人全日本郷土芸能協会会報誌 101号にチラシを同封 (10/25)
 - ◇ 「全国高校生伝統文化フェスティバル」(京都コンサートホール)のロビーにおいて歌舞伎俳優、能楽(三役)、文楽研修生募集ポスターを掲出し、出演者及び参加者に研修生募集チラシを配布(12/18)
- ・ DM 発送による歌舞伎俳優、能楽(三役)、文楽研修生の募集周知を行った。
 - ◇ 令和5年度の鑑賞教室公演案内のDM 発送に合わせて募集チラシを同封(10/12)。
 - ◇ 高文祭出場高校、芸術系大学・高等学校・専門学校、図書館、博物館、劇場、楽器店、日本太鼓財団、地方の地芝居団体、マスコミ(NHK・新聞社)等(11月、約2,500件)
- ・ 振興会で発行する公演プログラム等に募集記事・広告を掲載した。
 - ◇ 振興会ニュース
 - ◇ 国立劇場おきなわステージガイド
 - ◇ 自主公演の公演プログラム(月間能楽堂等)
 - ◇ 研修発表会の公演チラシ
- ・ 研修生募集映像を各館の主催公演期間中にロビーや座席字幕装置で放映した。
- ・ 学校、関係団体等への周知協力を依頼した。
 - ◇ 任期制退職予定自衛官を対象とした合同企業説明会に参加

■歌舞伎俳優(第28期)研修生募集

- ・ 振興会以外の劇場で実施される歌舞伎公演の公演プログラム等に募集記事・広告を掲載した。
 - ◇ 歌舞伎座 12月大歌舞伎「市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿襲名、八代目市川新之助初舞台」の公演プログラム
- ・ チラシ・ポスターの掲出等による周知を行った。
 - ◇ 歌舞伎座内に掲出・配架(10月～1月)
- ・ 学校、関係団体等への周知協力を依頼した。
 - ◇ 滋賀県及び岐阜県の地歌舞伎保存団体
 - ◇ 伝統芸能コースがある大阪府立東住吉高校での特別授業「独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義」で周知(6/29)

■歌舞伎音楽(第18期鳴物)研修生募集

- ・ 文部科学大臣会見において、研修生再募集について大臣から発言があった(4/15)。
- ・ 毎日新聞(4/25)及び読売新聞(5/16)に研修生再募集の記事が掲載された。
- ・ 公益財団法人日本太鼓財団各支部へ研修生再募集を告知した。

■能楽(三役)(第12期)研修生募集

- ・ ホームページ、SNS 等による募集の周知を行った。
 - ◇ ポータルサイト「The 能ドットコム」のイベント情報欄
 - ◇ 読売新聞紡ぐプロジェクトサイト(9/12)
 - ◇ the 能ドットコムのイベント情報・Twitter
 - ◇ 檜書店 WEB マガジン Noh プラスに、取材記事と募集広告掲載(12/15)
 - ◇ 三重県亀山市役所ホームページ(10/11)
- ・ 新聞・雑誌への募集案内掲載、テレビ・ラジオでの放送による周知を行った。
 - ◇ 日本の文化のそのあした(MC=シテ方金春流中村昌弘師)(狛江エフエム)
 - ◇ 読売新聞朝刊紡ぐ特別紙面(8/12)
 - ◇ 東京新聞「新お道具箱万華鏡」(9/9)
 - ◇ 雑誌「なごみ」12月号(修了者岡本はる奈の取材記事と募集広告)
- ・ チラシ・ポスターの掲出等による周知を行った。
 - ◇ 全国の能楽堂、大学の能楽サークル等関係団体に発送
 - ◇ 関東宝生流学生能楽連盟自演会(12/10)、関西宝生流学生能楽連盟自演会(12/18)
 - ◇ 能楽タイムズ 10月号に募集チラシを同封

◇ 駅貼り広告掲出(2/6~26。8 駅。各駅 2 週間)

- ・ 学校、関係団体等への周知協力を依頼した。
 - ◇ 都立総合芸術高校、VAW 栄光ハイスクール
 - ◇ 一般社団法人日本能楽会の全会員、公益社団法人能楽協会の全会員(京都・大阪支部を除く)
 - ◇ 能楽研究者・関係団体等

■ 文楽(第 32 期)研修生募集

- ・ 3/17 の応募締切までに応募がなかったため、募集期間を 4/28 まで延長した。
- ・ ホームページ、SNS 等による募集の周知を行った。
 - ◇ 文楽技芸員に対し、各自の SNS で文楽研修生募集の情報発信を依頼
 - ◇ 公益財団法人文楽協会のホームページに研修生募集のバナーを掲出
 - ◇ 配信サービス「PR TIMES」(12/13・2/21)
 - ◇ アートマネジメント情報サイト「ネット TAM」(1/4・2/21)
 - ◇ 制作情報サイト「舞台制作 PLUS」制作ニュース(3/14)
 - ◇ 劇団員募集サイト「劇団員になろうよ!」(3/13)
 - ◇ 共同通信、産経 WEST で募集案内掲載(3/15)
 - ◇ 乗馬クラブクレインのホームページ上に研修生募集のバナーを掲出
- ・ 新聞・雑誌への募集案内掲載、テレビ・ラジオでの放送による周知を行った。
 - ◇ ぐるっと関西(NHK 総合テレビ、6/3 放送)
 - ◇ ラジオ大阪「寛太郎とたかおのツレビキ!」(10/27)。
 - ◇ 大阪府中央区のコミュニティ FM 局 YES-fm「maido station」に桐竹勘昇が出演(12/26)。
 - ◇ FM 宝塚、FM ハイホー(奈良県のコミュニティ FM)(2 月)
 - ◇ 新聞各紙で募集を周知(13 紙)
 - ◇ 「懸賞なび」5 月号(3/22)
- ・ チラシ・ポスターの掲出等による周知を行った。
 - ◇ チラシ等を送付
 - 地方の人形浄瑠璃芝居団体(17 団体)、人形浄瑠璃のクラブがある学校(10 校)、大学のサークル(歌舞伎研究会、三曲研究会等)(11 校)、大阪府地域若者サポートステーション(3/20)
 - ◇ 公益社団法人全日本郷土芸能協会会報誌 101 号にチラシを同封(10/25)
 - ◇ 全国各地の文楽関連公演等でチラシ配架・配布(45 公演)
 - ◇ Osaka Metro の駅構内にポスター掲出(8/24~9/6、1/18~1/31)
 - ◇ 大阪市内の公衆浴場にポスター掲示及びチラシ配置(2/11)
- ・ 学校、関係団体等への周知協力を依頼した。
 - ◇ 伝統芸能コースがある大阪府立東住吉高校での特別授業「独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義」で周知(6/29)。また、芸能文化科の学長に周知協力を依頼(3/16)
 - ◇ 大阪市内の高等学校(1 月)、大阪学芸高等学校、大阪芸術大学(2/14)、宝塚北高等学校演劇科、大阪スクールオブミュージック高等専修学校(2/22)、映くやこの花高等学校(3/23)、龍谷大学(3/28)、京都大学(3/29)、奈良大学(3/30)
 - ◇ 長野県の人形浄瑠璃「今田人形座」(1/9)、神奈川県の人形浄瑠璃「相模人形芝居」の「前鳥座」「長谷座」「下中座」「林座」(1/11)
 - ◇ NHK エンタープライズ(2/22)

■ 組踊(第 7 期)研修生募集

- ・ 新聞・雑誌への募集案内掲載、テレビ・ラジオでの放送による周知を行った。
 - ◇ 琉球新報(7/20)、沖縄タイムス(8/5)
 - ◇ JTA 機内誌「Coralway」9~10 月号
- ・ チラシ・ポスターの掲出等による周知を行った。
 - ◇ 各学校・公共施設、古典芸能道場等

《養成事業の周知・研修生募集等に関する映像配信》

映像コンテンツ名	配信期間	視聴回数
歌舞伎研修風景映像	R3/11/1~8/12	436
【国立劇場養成所】歌舞伎俳優研修生募集の案内	11/2~	646
【研修生募集】文楽研修ご案内!	R2/12/17~	1,261
大衆芸能(太神楽)研修を覗いてみませんか?	R3/10/6~8/12	230

【研修生募集】能楽(三役)研修ご案内	7/22～	2,082
合計	5 件	4,655

④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- 五館合同特別講義、研修生交流会を12/13に開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。
- 組踊研修の第6期生が、五館合同特別講義に初参加した。講師として沖縄から歌三線人間国宝の先生を招き、普段聞けない体験談などを語っていただき、貴重な講話となった。また、交流会では組踊研修生が琉球舞踊2題を披露し、他館の研修生に沖縄伝統芸能を間近で見ってもらう貴重な経験となった。

講師	西江喜春(組踊音楽歌三線)	
講義内容	「良き舞台人になるために」	
会場	国立劇場伝統芸能情報館レクチャー室(講義) 大劇場3階臨時無料休憩所(交流会)	
参加者	歌舞伎俳優	1名
	歌舞伎音楽(竹本)	3名
	歌舞伎音楽(鳴物)	2名
	歌舞伎音楽(長唄)	2名
	大衆芸能(太神楽)	3名
	能楽	4名
	文楽	3名
	組踊	8名
	オペラ※	3名
	バレエ※	5名
	演劇※	12名
	合計	46名

※オペラ研修所、バレエ研修所、演劇研修所の研修生は講義のみ新国立劇場からリモートで参加

⑤ 国立劇場等の人材や施設の活用、外部研修への協力等

- 国立劇場本館において継承されてきた伝統芸能の上演に係る舞台技術を紹介するための小冊子「国立劇場の舞台技術—伝統芸能の上演のために—」について、第三者機関による劇場施設の安全診断結果を踏まえ、同機関の協力を得つつ、全国の会館等で伝統芸能の上演を安全に実施する際の手引きとして伝統芸能の舞台の安全な運用方法を広く周知するため、安全についての記述を大幅に拡充した改訂版を作成し、振興会ホームページで無料公開した。

⑥ 養成所設置の検討

- 伝統芸能の各分野の養成事業を横断的に所管する機関として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」設置に向けた検討を行い、令和5年4月から運用する体制を整えた。
- 伝統芸能の各分野の養成事業を一体的の実施する機関として養成所の設置に向けた検討を行った。
- 令和5年度の研修生募集活動において「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」という名称を使用して募集活動を開始した。

⑦ 国立劇場再整備期間中の業務実施に向けた検討準備等

- 再整備期間中の養成研修の代替施設確保のため、独立行政法人国立青少年教育振興機構と連携協力協定を締結し、同機構の国立オリンピック記念青少年総合センター研修棟の使用、青少年等を対象とした伝統芸能の普及活動の実施等について相互に確認した。

3 - (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とし、実践的・体系的なカリキュラムにより、次の研修を実施

① オペラ研修(研修期間3年間)

② バレエ研修(研修期間2年間)

③ 演劇研修(研修期間3年間)

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

① オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第23期生(4名)の3年目の研修(修了)

(b) 第24期生(5名)の2年目の研修

(c) 第25期生(5名)の1年目の研修

(d) 第26期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等を別表10のとおり実施

(f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月～10月と3月に海外研修を行う

② バレエ研修(研修期間2年)

(a) 第18期生(5名)の2年目の研修(修了)

(b) 第19期生(6名)の1年目の研修

(c) 第20期生(6名程度)の募集

- (d) パレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第13期生(3名)の2年目の研修
 - ・ 第14期生(3名)の1年目の研修
 - ・ 第15期生(若干名)の募集
- (e) 研修発表会等を別表10のとおり実施
- (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、11月に海外研修を行う

③ 演劇研修(研修期間3年)

- (a) 第16期生(10名)の3年目の研修(修了)
- (b) 第17期生(8名)の2年目の研修
- (c) 第18期生(12名)の1年目の研修
- (d) 第19期生(16名程度)の募集
- (e) 研修発表会等を別表10のとおり実施
- (f) 修了後の幅広い活躍を目標とし、5月～6月に国内研修を行う

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ① 研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、ホームページ等で事業の周知に努める
- ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、外部研修への協力等に努める

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	11公演 (H25-29 実績平均：9.8公演)
3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)	P. 137～138 に掲載
3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)	
3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)	P. 138 に掲載

ア 安定的、継続的な実演家の育成

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

① 研修実績

区分	研修期間	年度計画	研修実績	うち修了及び 受講終了者
オペラ	23期(3年次)	4名	4名	4名
	24期(2年次)	5名	5名	
	25期(1年次)	5名	5名	
バレエ	18期(2年次)	5名	4名	4名
	19期(1年次)	6名	6名	
バレエ 予科	13期(2年次)	3名	3名	3名
	14期(1年次)	3名	3名	
演劇	16期(3年次)	10名	10名	10名
	17期(2年次)	8名	7名	
	18期(1年次)	12名	12名	

- ・第18期バレエ研修生が9月付で1名退所となった。
- ・第17期演劇研修生が9月付で1名退所となった。

② 主な授業等の概要

区分	回数	授業内容	
オペラ	第23期 第24期 第25期	684回 714回 692回	オペラ実習、身体表現
	第23期 第24期 第25期	74回 188回 161回	特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語、イタリア語、ドイツ語)
	第23期 第24期 第25期	23回 22回 26回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
バレエ	第18期 第19期	389回 403回	クラシカル・バレエ、身体表現ほか
	第18期 第19期	48回 53回	講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語)
	第18期 第19期	45回 43回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
バレエ 予科	第13期 第14期	353回 403回	クラシカル・バレエ、身体表現ほか
	第13期 第14期	39回 39回	講義、語学(英語)ほか
	第13期 第14期	29回 34回	舞台実習、舞台鑑賞、特別講習
演劇	第16期 第17期 第18期	159回 338回 301回	演劇実習、演技/シーンスタディ、歌唱、ダンス、声とことば、所作、トレーニング、日本舞踊、三味線、狂言ほか
	第16期 第17期 第18期	6回 3回 40回	講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、戯曲をよむ、戯曲研究ほか
	第16期 第17期 第18期	77回 105回 103回	国内研修、観劇、見学、アウトリーチ、公演スタッフ研修ほか

- ・第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
- ・全日本空輸株式会社の協賛による以下の支援事業の認定を受け、「ANA スカラシップ」については 4/21 に新国立劇場オペラパレスホワイエにて認定証授与式を実施した。
 - ◇ ANA スカラシップ(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)
 - ◇ 新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所研修生のために国内研修に関わる航空券のサポート)
- ・令和 4 年度研修所入所式、修了式については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、登壇者、参加者の人数を限定し、来賓や関係者には、式の様子をインターネット配信する形で開催した。

《オペラ研修》

- ・メノッティ「領事」では作品に造詣の深い星出豊の指揮の下、上演機会の少ない英語オペラに挑戦した。
- ・「LE PROMESSE 2022～アリアコンサート」では、直前に行われた海外研修の成果も含め、各研修生が密度の濃いアリアの歌唱を披露した。
- ・2 月の修了公演「コジ・ファン・トゥッテ」ではトリプルキャストで公演を行った。試演会でお世話になった星出豊指揮の下、オーソドックスなアンサンブルオペラ作品を仕上げた。

《バレエ研修》

- ・感染症対策としての三密回避を重視し、昨年を引き続き、花伝舎のスタジオに加えて新宿村スタジオを可能な限り借用し、研修生クラス・予科生クラスを分けるなど、二手に分かれて少人数のクラスレッスンを行うなど幅広いレッスンを実施した。
- ・演劇基礎研修にて、昨年引き続き演劇研修生との合同授業を実施した。表現方法の異なる研修生同士が共同で一つの小作品を作る過程で、表現力の向上につながる強い刺激やヒントを感受する姿が見られた。
- ・「バレエ・オータムコンサート 2022」では、古典バレエのみならず、キャラクターダンスレッスンなど、研修所ならではの作品も披露した。
- ・修了公演「エトワールへの道程 2023」ではオーケストラ演奏で古典バレエの名作を上演し、古典バレエの技術と表現力、バレエ芸術の奥深さを改めて学ぶことができた。
- ・2021 年 10 月に逝去された牧阿佐美バレエ研修所長に代わり研修所長代行を務めていた小倉佐知子がバレエ研修所所長に就任した。

《演劇研修》

- ・令和元年度から開始した「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」にて、演劇研修所第 16 期生が朗読劇「ひめゆり」上演に際して国内研修を実施した(沖縄県、6/21～6/25)。
- ・朗読劇「ひめゆり」を新国立劇場公演のほか、多摩公演(パルテノン多摩)、沖縄公演(国立劇場おきなわ)も実施した。幅広い観客層の前での公演において、異なる環境下に瞬時に適応して最善の演技を披露する経験を積んだ。
- ・試演会「燃ゆる暗闇にて」に際し、インスティトゥット・セルバンテス文化部長の講義聴講のほか、ダイアログ・イン・ザ・ダークでの体験学習を行った。
- ・修了公演「ブルーストッキングの女たち」では大正時代を生きた実在の人物らを演じ、より具体性を持った人物造形、戯曲ひいては当時の時代背景との向き合い方を学び、研修生活の集大成にふさわしい濃度の高い公演を上演出来た。
- ・東京都立葛飾盲学校、東京都立世田谷総合高等学校へのアウトリーチを行い、研修事業の普及に努めた。
- ・日本の演劇界を牽引する演出家の下でシーンスタディを実施し、古今東西の戯曲に触れ、様々な演出家の要求に応えられる俳優としての素養を培った。

《海外研修》

- ・オペラ研修所 23 期生・24 期生について、ANA スカラシップの一環としてボローニャ、ミラノで各 2 週間の特別研修を実施した(23 期：9/22～10/24、24 期：9/29～10/31)。
- ・バレエ研修所 18 期生について、ANA スカラシップの一環としてカナダ国立バレエ学校での 3 週間の特別研修を実施した(11/12～12/6)。

《国際交流》

- ・「バレエ・アステラス 2022」では海外で活躍する若手日本人バレエダンサーを迎え、研修所研修生、新国立劇場バレエ団ダンサーも参加した。
- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。

区分	研修期間	講師
オペラ	10/11～25	ポール・フェリントン
オペラ	11/7～18	ルチアーナ・セツラ
オペラ	12/7～14	ポール・フェリントン、セルジオ・ベルトッキ
オペラ	3/6～17	セルジオ・ベルトッキ
バレエ	8/12～17	ニーナ・アナニアシヴィリ
バレエ	8/22～24	ヴァレリ・ヒリストフ
演劇	9/15～30	エマ・ボニッチ
演劇	10/6～1/26	木村早智

《受賞等》

- ・第91回日本音楽コンクール・声楽部門第2位(オペラ研修所第16期生種谷典子)、入選(オペラ研修所第22期生程音聡)、入選(オペラ研修所第20期生一條翠葉)
- ・新国立劇場オペラ研修所コレパティトゥアの大藤玲子講師が、第28回ニッセイ・バックステージ賞を受賞した。

③ 研修発表会等の実施

(a) 研修公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	入場者数	入場率
オペラ	試演会「領事」	中劇場	7/17～7/18	2回	941人	53.6%
オペラ	歌唱コンサート「LePromesse2022」	中劇場	12/3	1回	586人	74.4%
オペラ	修了公演「コジ・ファン・トゥッテ」	中劇場	2/17～2/19	3回	1,804人	68.5%
バレエ	「バレエ・アステラス 2022」	オペラ劇場	8/6～8/7	2回	2,349人	67.9%
バレエ	研修所公演「バレエ・オータムコンサート 2022」	中劇場	11/5～11/6	2回	1,408人	77.7%
バレエ	修了公演「エトワールへの道程 2023」	中劇場	3/11～3/12	2回	1,715人	98.8%
演劇	朗読劇「ひめゆり」	小劇場	8/11～8/14	4回	948人	92.2%
演劇	朗読劇「ひめゆり」	パルテノン多摩	9/3	1回	119人	46.9%
演劇	朗読劇「ひめゆり」	おきなわ小劇場	9/7	1回	101人	39.9%
演劇	第16期生試演会「燃ゆる暗闇にて」	小劇場	10/18～10/23	6回	1,212人	64.3%
演劇	ブルーストッキングの女たち	小劇場	2/25～3/2	6回	1,417人	90.5%

- ・オペラ研修所第23期生修了公演「コジ・ファン・トゥッテ」では主任講師栗國淳演出の舞台でそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮してレベルの高い公演ができた。
- ・バレエ研修公演「エトワールへの道程 2023」においては、古典バレエを中心に引き上げ、基本を忠実にかつ研修生がそれぞれの持ち味を活かした役を演じ、日々の研修の成果を発揮することができた。
- ・演劇研修所第16期生では、夏に朗読劇「ひめゆり」を上演。試演会「燃ゆる暗闇にて」、修了公演「ブルーストッキングの女たち」とも多くの観客に研修の成果を披露することができた。各公演の成果はマネジメント事務所からも高い評価を得て、修了後の進路選定に奏功した。

(b) その他出演

- ・オペラ、現代舞踊、演劇の主催公演に研修修了者が多数出演した。
- ・バレエ研修所における舞台実習として、研修生が主催公演に出演した。

<研修修了者・研修生の出演実績>

区分	公演	研修修了者・研修生
オペラ	「ばらの騎士」	与那城敬(第5期修了)
	「魔笛」	近藤圭(第9期修了)
	「ペレアスとメリザンド」	九嶋香奈枝(第4期修了)
	「ジュリオ・チェーザレ」	藤木大地(第5期修了)
		駒田敏章(第11期修了)
	「ボリス・ゴドゥノフ」	九嶋香奈枝(第4期修了)
		清水華澄(第4期修了)
		駒田敏章(第11期修了)
		濱松孝行(第20期修了)

	「ドン・ジョヴァンニ」	近藤圭(第9期修了)
	「タンホイザー」	青山 貴(第4期修了) 後藤春馬(第12期修了)
	「ファルスタッフ」	村上公太(第6期修了) 糸賀修平(第10期修了)
バレエ	「シンデレラ」	研修生
	「不思議の国のアリス」(高崎公演含む)	研修生
	「くるみ割り人形」	研修生
現代舞踊	「新版・NINJA」	中川奈奈(第18期生)
演劇	「アンチポデス」	草薙智文(第9期修了)
		チョウ・ヨンホ(第4期修了)
	「貴婦人の来訪」	高倉直人(第10期修了)
		福本鴻介(第12期修了)
	「レオポルトシュタット」	浅野令子(第1期修了)
		椎名一浩(第11期修了)
	「夜明けの寄り鯨」	森川由樹(第6期修了)
		岡崎さつき(第9期修了)
阿岐之将一(第10期修了)		

④ 次年度の検討、募集

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
オペラ	12/5～12/16	54名	53名	4名	願書受付 10/11～10/31
バレエ	11/28～12/11	54名	52名	6名	願書受付 9/26～10/14
バレエ予科	12/4～12/11	19名	18名	2名	願書受付 9/26～10/14
演劇	1/18～1/22	53名	44名	14名	願書受付 11/28～12/15

⑤ 外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・ 研修事業委員会を開催し、前年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った(12/22)。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わした。
- ・ 研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・ 各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。
- ・ バレエ研修生の選考に当たっては、外部の審査員(2名)を加えて実施した。

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

① ホームページ等での事業の周知

- ・ ホームページと各研修所の SNS (Facebook, Twitter 等) を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子等をきめ細やかに発信した。
- ・ オペラ研修所の修了生について、新国立劇場内外での出演情報や受賞情報をホームページに掲載することにより、研修所修了後の活躍についても幅広い広報を行った。
- ・ バレエ研修所・演劇研修所においても修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をホームページに掲載した。
- ・ 「ANA スカラシップ」の一環として、以下の広報活動を行った。
 - ◇ ANA 国内線機内にてオペラ・バレエ研修所と ANA スカラシップを紹介する映像を放映(10月、1月)
 - ◇ ANA グループ機内誌「翼の王国」に各研修所の紹介広告を掲載(オペラ 11月号、バレエ 9月号、演劇 2月号)
- ・ 演劇研修所の沖縄研修の様子が 6/24 に NHK 沖縄のニュース番組「おきなわ HOTeye」において紹介された。

② 学校等との連携による研修成果の活用、様々な文化普及活動への参画

イベント名	日程	会場	出演者・内容・備考等	参加者数
東京都立葛飾盲学校「お話し会」(演劇研修所)	11/15	東京都立葛飾盲学校及びオンライン	講師: 飯原道代ほか研修生 10名	24人
東京都立世田谷総合高等学校 アウトリーチ(演劇研修所)	3/17	東京都立世田谷総合高等学校	講師: 飯原道代ほか研修生 10名 保健講話「演劇手法を用いて生徒の心の開放と仲間づくり」	228人

③ 応募者の確保

イベント名	日程	会場	料金	内容	参加者数
演劇研修所オープンスクール	7/23	オンライン	1,000 円	クラスへの体験参加、研修所や選考試験についての説明、研修生との質疑応答	11 人
演劇研修所オープンスクール	8/27	オンライン	1,000 円	クラスへの体験参加、研修所や選考試験についての説明、研修生との質疑応答	11 人
演劇研修所オープンスクール	9/25	オンライン	1,000 円	クラスへの体験参加、研修所や選考試験についての説明、研修生との質疑応答	20 人
演劇研修所オープンスクール	10/29	オンライン	1,000 円	クラスへの体験参加、研修所や選考試験についての説明、研修生との質疑応答	20 人
演劇研修所オープンスクール	11/26	オンライン	1,000 円	クラスへの体験参加、研修所や選考試験についての説明、研修生との質疑応答	21 人
演劇研修所説明会	12/3	オンライン	無料	演劇研修所の概要(カリキュラム・研修内容)、選考試験の説明や研修生による質疑応答	40 人

- ・研修所の存在及び研修内容を広く周知し、将来的に優秀な研修生の確保に資することを目的として、演劇研修所のオープンスクールをオンラインで開催した。

④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・五館合同特別講義、研修生交流会を 12/13 に開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。

講師	西江喜春(組踊音楽歌三線)	
講義内容	「良き舞台人になるために」	
会場	国立劇場伝統芸能情報館レクチャー室(講義) 大劇場 3 階臨時無料休憩所(交流会)	
参加者	歌舞伎俳優	1 名
	歌舞伎音楽(竹本)	3 名
	歌舞伎音楽(鳴物)	2 名
	歌舞伎音楽(長唄)	2 名
	大衆芸能(太神楽)	3 名
	能楽	4 名
	文楽	3 名
	組踊	8 名
	オペラ※	3 名
	バレエ※	5 名
	演劇※	12 名
合計	46 名	

※オペラ研修所、バレエ研修所、演劇研修所の研修生は講義のみ新国立劇場からリモートで参加

⑤ 舞台技術者等に対する研修の実施、外部研修への協力

- ・大学からのインターンシップ等の受入れを行った。

学校名	日程	人数	内容
玉川大学	8 月	3 名	演劇公演における制作現場を体験
昭和音楽大学	7 月に 1 週間程度	1 名	舞台照明インターンシップの実習
昭和音楽大学	7 月・8 月に 4 日間	29 名	音楽マネジメント特殊講義受講生への講義を新国立劇場リハーサル室で実施
国立音楽大学	12/4 から 4 日間	11 名	インターンシップ

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施
並びに資料の収集及び活用 ————— p.145
 - └ ア 伝統芸能に関する調査研究 ————— p.145
 - └ イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用 ————— p.146
- (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、
普及活動の実施 ————— p.151
- (3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施
並びに資料の収集及び活用 ————— p.158
 - └ ア 主催公演の上演作品等についての資料調査 — p.158
 - └ イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用 — p.158
 - └ ウ 資料等の展示公開 ————— p.158
- (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、
普及活動の実施 ————— p.159

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

自己評定	A
<p>自己評定の根拠</p>	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化デジタルライブラリーのアクセス件数及び展示公開の来場者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。 国立劇場・国立文楽劇場の公演記録映像の有料映像配信のほか、伝統芸能講座の有料配信、展示紹介映像の無料配信等も行い、コンテンツの拡充を図り、資料を活用した財源の確保に努めた。 伝統芸能分野での東京・大阪での展示巡回について、調査研究成果や収蔵資料を広く周知することができると、外部専門家から高い評価を得た。 伝統芸能に関する調査研究について、成果物のWEB公開の拡充や展示図録の刊行等が研究者等外部専門家から高い評価を得た。 文化庁の「文化遺産オンライン」に国立能楽堂の収蔵資料を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開して一般の利用促進を図り、外部専門家から高い評価を得た。 新国立劇場では、「新国デジタルシアター」等による公演記録映像の配信や調査研究成果を活かしたオンラインでの講座などインターネットを活用して現代舞台芸術の普及に努めた。 現代舞台芸術では、海外の劇場等で新国立劇場の公演記録映像を上映・配信することで、海外広報戦略の強化を図った。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>文化デジタルライブラリーアクセス件数：1,389,147件/850,000件（163.4%） 展示公開の実施回数：17回/17回（100.0%） 展示公開の来場者数：134,386人/71,442人（188.1%）（新型コロナウイルス感染症の影響を除いた場合134,386人/69,242人（194.1%）） 講座等の実施回数：39回/50回（78.0%）（やむを得ない外部要因や新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合39回/36回（108.3%））</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>〈1〉 伝統芸能分野 〈2〉 現代舞台芸術分野 各表参照</p>
<p>課題と対応</p>	<p>〈1〉 伝統芸能分野 〈2〉 現代舞台芸術分野 各表参照</p>

〈1〉 伝統芸能分野

<p>自己評定</p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>自己評定の根拠</p>	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化デジタルライブラリーのアクセス件数及び展示公開の来場者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。 ・伝統芸能情報館(東京)での展示開催後、国立文楽劇場(大阪)に巡回する試みについて、調査研究成果や収蔵資料を広く周知することができると、外部専門家から高い評価を得た。 ・国立劇場・国立文楽劇場の公演記録映像のほかに伝統芸能講座の有料配信も行うなどコンテンツの拡充を図り、財源の確保に努めた。 ・上記有料配信のほかに公演記録映像や展示紹介映像の無料配信も行い、コンテンツの拡充を図った。 ・上演資料集について、歌舞伎・文楽の上演前にWEB版として文化デジタルライブラリーに公開することは、利便性が高いと外部専門家から高い評価を受けた。 ・今年度刊行された図録「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」「柴田是真と能楽」について、非常に充実した内容で、美術史の分野の研究者にとっても大変有益だったと外部専門家から高い評価を受けた。 ・文化庁の「文化遺産オンライン」に国立能楽堂の収蔵資料を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開して一般の利用促進を図り、外部専門家から高い評価を得た。 ・国立文楽劇場「文楽の歴史 II」において、前回の「文楽の歴史 I」で展示した稀観資料を映像で紹介したことで、連続した展示であることを来場者に印象付けることができた。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)</p>	<p>文化デジタルライブラリーアクセス件数：1,389,147件/850,000件 (163.4%) 展示公開の実施回数：17回/17回 (100.0%) 展示公開の来場者数：131,745人/66,942人 (196.8%) 講座等の実施回数：25回/23回 (108.7%) (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合25回/22回(113.6%))</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究を計画どおり実施し、展示図録を刊行した。また、「上演資料集」の作成、「絵入根本集」の翻刻、「歌舞伎の文献シリーズ」の復刻を行い、文化デジタルライブラリーにおいて成果を公開した。 ・ブロマイド資料などのデータベース化を行い、文化デジタルライブラリーへ登録し公開した。 ・伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施した。 ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各館の資料展示室・閲覧室を開室し、計画どおり展示公開や閲覧業務等を実施した。 ・能楽堂の展示公開では特別展と企画展で展示図録を刊行した。 ・文化庁の「文化遺産オンライン」に国立能楽堂の収蔵資料(面・装束等140点)を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開した。 <p>(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館で主催公演について、映像・写真等による記録を作成した。 ・各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供した。 ・国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場・新国立劇場で運用している図書システムに、令和4年度より国立劇場おきなわの図書システムを統合し、横断検索が可能となり、利用者の利便性の向上を図った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各館において公開講座を実施した。 ・《月間特集 狂乱の系譜》関連イベントとして復曲「賀茂物狂」特別公開講座を実施した。 ・当初1回の予定であった特別展関連講座(有料)は2回実施した。 ・東京能楽囃子科協議会との共催により、囃子方能楽師の実演を交えた能楽囃子講座を実施した(2回、有料)。 ・文楽劇場では、従来の鑑賞前講座に加えて、公演映像鑑賞と文楽技芸員(作曲家)を交えたアフタートークによる講座も新たに開催した。 ・令和4年度より、国立劇場の文楽公演について、公演直後の公演記録映像有料配信を新たに開始した。文楽劇場の文楽公演についても引き続き有料配信を実施した。 ・舞踊、雅楽、民俗芸能、太鼓など歌舞伎、文楽以外の公演記録映像も配信し、公演記録映像等の配信に当たっては、必要な著作権等の処理・契約を行った。 ・舞台の公演記録映像だけでなく、伝統芸能講座の有料配信、展示紹介映像の無料配信等も行い、コンテンツの充実を図った。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文楽劇場での公演記録映像視聴のために構築した部内(VTR 室)限定の視聴システムは本年度も継続して実施。貸出時の感染リスクを低減させるだけでなく、複数端末による同時視聴を可能とする本方式は、公演準備に関わる職員及び公演関係者の利便性を高めている。

〈2〉 現代舞台芸術分野

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示公開の来場者数について、達成率は58.7%である。新型コロナウイルス感染症の流行が沈静化し、ビデオシアター・ビデオブースを再開することを見込んだ上で目標値を設定したが、実際には、第7波、第8波の流行により再開が叶わず、来場者数の目標を達成することができなかった。当初計画では、過去の実績等からビデオシアター・ビデオブースの利用を目的として2,200人が来場することを想定していたため、感染症の影響を除いた場合、114.8%の達成率となり、目標を達成したと見なせる。 ・ 講座等の実施回数について、新型コロナウイルス感染症の影響によりビデオシアターを閉鎖したため、情報センター上映会を実施できなかった。また、招聘公演である演劇公演「ガラスの動物園」において舞台装置に関連した講座（ギャラリープロジェクト）を予定していたが、舞台装置がフランスでのストライキ等の影響によって滞り、予定より大幅に遅れて到着した。そのため、講座を1回実施することができなかった。これらのやむを得ない外的要因や感染症の影響を除いた場合、100.0%の達成率となり、目標を達成したと見なせる。 ・ 「新国デジタルシアター」等でのインターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。 ・ 海外の劇場等で公演記録映像を上映・配信することで、海外広報戦略の強化を図った。 ・ 調査研究を計画どおり実施し、その成果については、オンラインも活用しながら講座・プログラムへの掲載など活用を図った。 ・ ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で情報センターを開室した。 ・ 新国立劇場内や外部施設において展示公開を実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>展示公開の来場者数：2,641人/4,500人（58.7%）（新型コロナウイルス感染症の影響を除いた場合2,641人/2,300人（114.8%））</p> <p>講座等の実施回数：14回/27回（51.9%）（やむを得ない外部要因や新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合14回/14回（100.0%））</p>
主要な業務実績	<p>(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主催公演の演目内容を調査研究した成果を講座として開催した。開催に当たってはオンラインも活用して多くの方に参加する機会を提供した。 ・ 国内劇場の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムに掲載した。 ・ 劇場内のオープンスペースを有効活用して舞台装置模型や衣裳を展示する「初台アート・ロフト」を実施した。 ・ 都内観光施設を活用したアウトリーチによる展示イベントを引き続き開催。 <p>(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主催公演の公演記録データベース作成を引き続き実施した。 ・ 「新国デジタルシアター」等で公演記録映像等をインターネット配信した。 ・ 海外の劇場等での公演映像上映会にて、新国立劇場の公演記録映像が上映された。特に、中国国家大劇院とは日中国交正常化50周年事業の一環として「日中オペラ映像交換上映会」として実施した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台美術センター資料館については、施設に対する活用方法に係るニーズが変化したことから、第5期中期計画期間に展示施設としての機能から衣裳等の保管機能へ移行することを目指し、具体的な作業を進める。 ・ 現代舞台芸術の公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、コロナ禍の期間に実施した配信企画の実績を踏まえ、「新国デジタルシアター」通じた公演映像の配信（有料配信を含む）を基軸に、権利処理や活用の方法について更なる検討を続けたい。

4 - (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能の公開の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う
関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、日本各地に伝わる能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について、調査研究を実施
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究するとともに、復刻・刊行等を実施
- ④ 作成する刊行物の提供方法等については引き続き検討し、一層の効果的な活用を図る

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
- ② 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、文化デジタルライブラリー等により公開

収集した資料等を活用した展示を企画し、各展示施設等において公開

公開に際しては、関係機関等と連携した取組、多言語化等利便性の向上及び広報活動の強化に努める

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用を図る

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究
その成果については次のとおり刊行等を実施
研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十七巻(令和5年度刊行予定)の刊行準備
 - (b) 特別展「柴田是真と能楽 江戸庶民の視座」図録(能楽堂)
 - (c) 「義太夫年表」昭和篇第七巻(令和5年度刊行予定)の刊行準備

③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施

その成果については効果的な活用を図るため、次のとおり文化デジタルライブラリーで公開

- (a) 国立劇場上演資料集(歌舞伎・文楽公演)web版の作成
- (b) 「絵入根本集」2・3の刊行(電子図書)
- (c) 「歌舞伎の文献シリーズ」の復刻(電子図書)

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理

公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施

図書については開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

振興会と国立劇場おきなわの図書システムを統合することで、利用者の利便性の向上とシステムに係る経費削減を図る

博物資料等については適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用に努める

② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり実施

(a) 図書、錦絵、プロマイド、公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑)のデータベース化

(b) デジタルコンテンツの充実

i. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの製作(令和5年度公開予定)

ii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数:850,000件

(c) 収集した資料等の展示公開(別表11)

実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る

(d) 展示図録の刊行

i. 特別展「柴田是真と能楽 江戸庶民の視座」図録(能楽堂・再掲)

ii. 企画展「秋の風 能楽と日本美術」図録(能楽堂)

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに伝統芸能の研究等に活用

イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

① 伝統芸能に関する公開講座等を別表12のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実に努める

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実に努める

《中期目標の指標・関連指標》

4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)	131,745 人 (H25-29 実績平均 : 220,130.0 人)
4-2 文化デジタルライブラリーアクセス件数 (前中期目標期間実績以上)	1,389,147 件 (H25-29 実績平均 : 820,713.0 件)
4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)	P.151 に掲載

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究

① 上演資料集

区分	演目名	刊行数
歌舞伎	国立劇場上演資料集<670>第 101 回歌舞伎鑑賞教室公演「彦山権現誓助剣」	6 冊
	国立劇場上演資料集(671)第 102 回歌舞伎鑑賞教室公演「紅葉狩」	
	国立劇場上演資料集(673)第 328 回歌舞伎公演「義経千本桜」	
	国立劇場上演資料集(674)第 329 回歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」	
	国立劇場上演資料集(677)第 330 回歌舞伎公演「遠山桜天保日記」	
国立劇場上演資料集<679>第 331 回歌舞伎公演「鬼一法眼三略巻」		
文楽	国立劇場上演資料集<669>第 220 回文楽公演「義経千本桜」「競伊勢物語」「桂川連理柵」	5 冊
	国立劇場上演資料集<672>第 221 回文楽公演「基太平記白石嘶」「寿柱立万歳」「奥州安達原」	
	国立劇場上演資料集(675)第 54 回文楽鑑賞教室「絵本太功記」	
	国立劇場上演資料集(676)第 222 回文楽公演「本朝廿四孝」	
	国立劇場上演資料集<678>第 223 回文楽公演「心中天網島」「国性爺合戦」「女殺油地獄」	
合計		11 冊

- ・ 組踊の上演資料集については、従前に作成したものから新たに追加できる内容が少ないため、令和4年度においては、調査研究の成果をより反映できる芸能資料集「冠船踊の音楽1」を作成することとした。これは研究公演「朝薫五番とからくり花火」で試行された音楽に関する調査研究の成果をまとめたものである。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

<調査事業委員からの意見>

- ・ 上演資料集のWEB版は、どこでもすぐに見ることができ利便性が増した。

② 興行、上演に関する記録の調査研究、刊行

■ 刊行実績

- ・ 「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」図録
- ・ 特別展「柴田是真と能楽 江戸庶民の視座」図録
- ・ 企画展「秋の風 能楽と日本美術」図録
- ・ 芸能資料集「冠船踊の音楽1」
- ・ 「首里城の舞台と踊衣裳」

《アンケート結果》

冊子名	回答数	満足数	満足回答率
「国立劇場所蔵 上方浮世絵展図録」	90	89	98.9%

※満足回答率は無回答を除く回答総数

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

<調査事業委員からの意見>

- ・ 図録「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」「柴田是真と能楽」は、非常に充実した内容で、美術史の研究者にとっても大変有益だった。
- ・ 「柴田是真と能楽」に関しては、初公開の作品が多く掲載されている。図録が一つのきっかけになって多くの方が能楽堂の展示室を訪れたと聞いている。デジタルデータは有益なところもあれば信頼性が足りない面もある。紙図録の刊行はぜひ続けていただきたいと思う。
- ・ 展示という形式で資料を公開し、調査成果を図録として刊行することは非常に重要な事業である。

③ 古文献等の調査研究、刊行

- ・ 下記の文献を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。
 - ◇ 絵入根本集2「●礎花大樹(めいしよずえはなのこのした)」前編の翻刻・公開 ※●は土偏に舊
 - ◇ 絵入根本集3「●礎花大樹」後編の翻刻・公開 ※●は土偏に舊
 - ◇ 歌舞伎の文献シリーズ「俳優世々の接木(やくしゃよよのつぎき)」の復刻・公開

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

<調査事業委員からの意見>

- ・ 絵入根本集のように、文化デジタルライブラリーでのデジタル公開の方法は、紙媒体での刊行よりも製作コストや時間を削減して実施できる。デジタルを活用しながら、資料の収集と公開や調査研究事業を今後も継続して充実させてほしい。

④ 調査研究の成果の活用

- 研究成果の幅広い活用を図るため、上演資料集(上演年表等)のWEB版として、初演から現在に至る上演記録や参考資料等の情報を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。また、ホームページの各公演情報からリンクすることで、一層の利用の促進を図った。
- 文化庁の「文化遺産オンライン」に国立能楽堂の収蔵資料(面・装束等 140 点)を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開した。解説には近年の特別展・企画展・収蔵資料展で得られた最新の調査研究の成果を反映して記述した。

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・プロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

能楽堂では、主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、一般及び関係者の文楽に対する理解促進につながる文楽関連の芸能図書や博物資料等を中心に収集を行う。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

① 図書・資料の収集整理、公開、活用

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開			
	図書	資料	閲覧室利用者数*	開室日数	写真複製使用	博物資料閲覧
伝統芸能情報館	2,390 冊	1,871 点	2,010 人	251 日	353 件	12 件
能楽堂	732 冊	1,157 点	2,760 人	252 日	70 件	3 件
文楽劇場	305 冊	230 点	553 人	240 日	39 件	0 件
国立劇場おきなわ	385 冊	161 点	1,340 人	252 日	28 件	0 件

※国立劇場おきなわはレファレンスルームの利用者数。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ガイドライン・実施要領等に基づき感染症対策を実施した上で図書閲覧室・視聴室を開室した。

《アンケート結果》

冊子名	回答数	満足数	満足回答率
伝統芸能情報館図書閲覧室(2/7～3/27)	37 人	36 人	97.3%
国立劇場おきなわレファレンス室(4/1～3/31)	11 人	11 人	100.0%

(b) 伝統芸能に関する図書・資料等の博物館施設等への貸与等

区分	展示名	会場	主催等	活用内容	日程
情報館	「近松判二-奇才の浄瑠璃作者」	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	錦絵貸出	4/26～8/7
情報館	特別展「装いの力-異性装の日本史」	渋谷区立松濤美術館	渋谷区立松濤美術館	錦絵貸出	9/3～10/30
情報館	入門展示「文楽へようこそ」	国立文楽劇場	振興会	錦絵・図書貸出	7/16～9/25
情報館	企画展示「文字で見る文楽の世界」	国立文楽劇場	振興会	浄瑠璃本版木貸出	10/15～11/27
情報館	特別展「柴田是真と能楽 江戸庶民の視座」	国立能楽堂	振興会	浴衣地・摺物貸出	10/29～12/23
情報館	「曾我廼家五郎-「喜劇」の誕生」	国立文楽劇場	振興会	博物資料貸出	1/3～3/12
能楽堂	企画展「伊勢物語とかきつばた」	刈谷市歴史博物館	刈谷市歴史博物館	絵画貸出 絵画貸出	4/23～6/5
能楽堂	特別展「北斎 百鬼見参」	すみだ北斎美術館	すみだ北斎美術館	能面・能装束・絵画貸出	6/21～8/28
能楽堂	「井上涼展 キラキラ☆ゴールデンびじゅチュ館」	MOA 美術館	MOA 美術館	能面・能装束貸出	7/22～8/28
能楽堂	「装いの力-異性装の日本史」	渋谷区立松濤美術館	渋谷区立松濤美術館	能面・能装束・小道具・絵画貸出	9/3～10/30
能楽堂	企画展「加賀宝生のすべて-能面と能装束-」	石川県立美術館	石川県立美術館	能装束貸出	9/17～10/23

能楽堂	特別展「西行一語り継がれる漂泊の歌詠み」	五島美術館	五島美術館	絵画貸出	10/22～12/4
文楽劇場	「中将姫と當麻曼荼羅一祈りが紡ぐ物語」	奈良国立博物館	奈良国立博物館	文楽人形貸出	7/16～8/28
文楽劇場	「図書館で“観る”文楽 2022」展	大阪市中央図書館	大阪市中央図書館	文楽かしら製作工程 文楽解説パネル	7/8～8/3
文楽劇場	文楽地方公演	ひらしん平塚文化芸術ホール	文楽協会	文楽解説パネル	10/25
文楽劇場	文楽地方公演	藤沢市民会館	文楽協会	文楽解説パネル	3/21
国立劇場おきなわ	県外公演「琉球舞踊と組踊 春秋座特別公演」関連展示	京都芸術劇場春秋座	学校法人瓜生山学園	紅型衣裳 3 点、小道具 3 点	5/22

(c) 関係機関等との連携による活用

- 国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場・新国立劇場で運用している図書システムに、国立劇場おきなわの図書システムを統合し、利用者の利便性の向上とシステムに係る経費削減を図った(3/1 より統合運用開始)。
- EPAD2022 実行委員会主催「舞台デジタル・アーカイブ連携会議」に参加し、デジタル・アーカイブの現状と課題について意見交換を行った。
- 文化庁の文化遺産オンラインに国立能楽堂の収蔵資料(面・装束等 140 点)を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開し、一般の利用促進を図った。

② 資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実、展示公開

(a) データベース化

区分	実施点数	詳細
図書	3,744 件	「国立劇場蔵書検索」での検索を可能にするため、図書の書誌データを図書管理システムのデータベースに登録、公開した。
資料	368 点	プロマイド 354 点、上演資料集 WEB 版 11 点、電子図書 3 点。 プロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優)354 点を文化デジタルライブラリーに登録。また、上演資料集 WEB 版及び電子図書を公開。
上演情報	149 公演	歌舞伎 8 公演、文楽 17 公演、舞踊・邦楽 13 公演、雅楽・声明 3 公演、民俗芸能 1 公演、特別企画 0 公演、大衆芸能 52 公演、能・狂言 55 公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録。
公演記録写真	46,875 点	国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で撮影した各ジャンルの公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録。
扮装図鑑	0 公演	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、接触回避のため扮装写真撮影を休止中

(b) デジタルコンテンツの充実

《文化デジタルライブラリーアクセス件数》

実績	年度計画	達成率
1,389,147 件	850,000 件	163.4%

- 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「声明」の製作を進めた(令和 5 年度公開予定)。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

<調査事業委員からの意見>

- デジタル媒体での公開により、製作コストや時間を削減して事業を実施できる。今後もデジタル技術を活用しながら、事業を充実させてほしい。
- 能楽堂の所蔵資料を「文化遺産オンライン」を経由して「ジャパンサーチ」でも公開したことは非常に画期的だと思う。

(c) 資料の展示公開

《展示公開実績》

会場	展示名称	日程	日数(日)	来場者数(人)		達成率
				実績	年度計画	
伝統芸能情報館 資料展示室	「新収蔵資料展」	4/1～5/24	54	3,992	1,836	217.4%
	入門展「いざ、歌舞伎」	6/2～10/26	146	19,965	4,998	399.5%
	「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」	11/2～3/31	139	16,300	4,794	340.0%
	小 計	3 回	339	40,257	11,628	346.2%
演芸場 資料展示室	演芸資料展「明治大正 追憶の寄席」	4/1～7/24	94	7,946	4,512	176.1%
	企画展「曾我廼家五郎—「喜劇」の誕生」	8/1～11/23	94	7,658	4,512	169.7%
	「浪曲展—国立劇場所蔵資料にみる」	12/1～3/21	84	8,085	4,032	200.5%

	小 計	3 回	272	23,689	13,056	181.4%
能楽堂 資料展示室	入門展「能楽入門」	4/22～7/9	68	5,870	3,808	154.1%
	企画展「秋の風 能楽と日本美術」	8/25～10/21	50	6,208	2,800	221.7%
	特別展「柴田是真と能楽 江戸庶民の視座」	10/29～12/23	48	6,494	2,688	241.6%
	小 計	3 回	166	18,572	9,296	199.8%
文楽劇場 資料展示室	常設展示「文楽入門」	4/2～5/22	51	6,657	4,386	151.8%
	入門展示「文楽へようこそ」	6/2～9/25	103	13,486	8,858	152.2%
	企画展示「文字で見る文楽の世界」	10/15～11/27	44	7,629	3,784	201.6%
	企画展示「文楽の花鳥風月」 同時開催「曾我廼家五郎—「喜劇」の誕生」	1/3～3/12	69	9,757	5,934	164.4%
	小 計	4 回	267	37,529	22,962	163.4%
国立劇場 おきなわ 資料展示室	第 1 回企画展「朝薫五番」	4/9～6/19	72	2,365	2,642	89.5%
	第 2 回企画展「首里城と芸能 踊衣装を考える」	7/9～9/19	73	2,627	2,686	97.8%
	第 3 回企画展「首里城と芸能 御冠船ど～い!!」	10/8～12/18	79	3,592	2,281	157.5%
	第 4 回企画展「愛さ、沖縄芝居」	1/14～3/19	72	3,114	2,391	130.2%
	小 計	4 回	296	11,698	10,000	117.0%
伝統芸能分野 合計		17 回	1,340	131,745	66,942	196.8%

i. 伝統芸能情報館・演芸場

- ・ 入門展「いざ、歌舞伎」は、「歌舞伎の化粧」「見得と立廻り」「女方」「時代と世話」「世界と趣向」という5つの切り口から、歌舞伎の基本的な約束事やその味わい方を紹介した。
- ・ 「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」は、国立劇場所蔵の錦絵のうち、上方の絵師、版元の手になるものから名品100作品を選定し、解説とともに江戸とは異なる作品の魅力を紹介した。また、本展開催の成果を展示図録として刊行し記録に残した。

ii. 演芸場

- ・ 演芸資料展「明治大正 追憶の寄席」は、特に明治・大正時代の「寄席」に焦点を当て、夏目漱石や森鷗外をはじめとした近代文学作品にも盛んに登場する関東大震災以前の寄席の黄金時代を、錦絵や番付、寄席ビラといった国立劇場所蔵資料を通して紹介した。
- ・ 企画展「曾我廼家五郎—「喜劇」の誕生」は、上方喜劇の礎を築いた曾我廼家五郎の旧蔵資料を中心に展覧し、五郎劇とその周辺や後継の喜劇を紹介した。
- ・ 「浪曲展—国立劇場所蔵資料にみる」は、国立劇場所蔵資料と公演記録映像を通して、浪曲という芸能の歴史的な流れと広がり、時代を追いながら体系的に紹介した。

iii. 能楽堂

- ・ 看板、展示キャプションを日本語・英語で表記した。
- ・ 出品目録・解説(日本語版・英語版)を無料配布した。
- ・ 入門展「能楽入門」は、日本博参画プロジェクトであることから、総合テーマ「日本人と自然」にあわせ、能・狂言装束や扇の意匠が、自然のものを多く選び、展示した。
- ・ 4月企画公演《月間特集 千利休生誕500年》公演日に「瓢箪花入」(千利休在判)をロビーにて展示し、好評を得た。
- ・ 企画展「秋の風 能楽と日本美術」は令和2年度から行ってきた日本博の総合テーマ「日本人と自然」に沿った「能楽と日本美術」に関する展示の3回目として企画した。主催公演と連動し、9月に上演される能(松虫)・復曲能(薄)にあわせ、秋をモチーフとした能装束・楽器、絵画・美術工芸品を取り上げて展示した。能(松虫)の公演にあわせて名管「松虫」を展示し、話題を呼んだ。また復曲能(薄)の公演にあわせて、千葉市美術館所蔵の鈴木其一筆「芒野図屏風」を展示し、国立能楽堂公演プログラム9月号に、千葉市美術館館長・山梨絵美子による「芒野図屏風」に関する記事を掲載した。展示図録も刊行した。
- ・ 復曲能(薄)の公演当日に、読売新聞美術展ナビの取材を受けて記事が掲載された(9/28)。鈴木其一筆「芒野図屏風」を前にした復曲能(薄)のシテ・金剛永謙師と千葉市美術館長・山梨絵美子氏の写真とともにコメントが掲載され、「芒野図屏風」を目当てに多くの来場者が訪れた。
- ・ 特別展「柴田是真と能楽 江戸庶民の視座」は、能を見ることができない身分だった庶民の是真が、どのようにして能楽に接して写生し、それを作品化したか、また江戸庶民にどのような影響を与えたか、

という視点から、半数近くを未調査の資料を用いて展示を行った。芸能史の定説では、庶民は町入能と勧進能以外に能を見る機会はなかったとされてきたが、柴田是真が弘化勧進能のほか、観世大夫邸・宝生大夫邸での稽古能において楽屋にまで出入して写生していたことや、観世宗家代理の立場にあった観世鉄之丞と親しい関係にあったことが判明した。そのほか実作品と写生との関係、廃絶した驚流狂言の写生など、数多くの新知見が得られた。展示図録を刊行し、研究の成果は監修の黒川廣子と宮本圭造による論考として掲載した。また能楽作品以外の作品についても絵画・漆工・デザインなど幅広く展示し、観覧者が日本美術史上でも特異なこの作家の全体像を掴みやすくした。

- ・読売新聞「美術展ナビ」に【レビュー】「柴田是真と能楽 江戸庶民の視座」の記事が掲載された。

iv. 文楽劇場

- ・常設展示「文楽入門」は、太夫・三味線・人形の三業についての基本的な資料により文楽を解説紹介する「文楽入門」と、文楽座命名150年にちなんだ企画コーナー「文楽座の歴史Ⅱ」とで構成した。松島文楽座開場前後から植村家の経営時代を取り上げた「文楽座の歴史Ⅰ」（令和4年1月～3月）に続いて、「文楽座の歴史Ⅱ」では松竹合名会社(後の松竹株式会社)に経営が譲渡された明治42年以降の文楽座関連資料を紹介した。また、ゆかりの品(初代文楽軒の肖像画等)を紹介したパンフレットも継続して来場者に配布した。併せて、「文楽座の歴史Ⅰ」で展示した稀観資料を映像で紹介したことで、連続した展示であることを来場者に印象付けることができた。
- ・入門展示「文楽へようこそ」では、前期(6/2～7/3)は文楽鑑賞教室観劇のために来場する観客層(生徒、学生)を対象とし、鑑賞教室の演目「仮名手本忠臣蔵」中心とした資料を紹介し、後期(7/16～9/25)は夏休み文楽特別公演で上演の「鈴の音」「瓜子姫とあまんじゃく」「心中天網島」「花上野誉碑」「紅葉狩」に関連した資料を展示した。
- ・企画展示「文字で見る文楽の世界」は、人形浄瑠璃文楽を文字情報という側面から紹介した。浄瑠璃本等のキャプションには翻字を掲載し、一部を虫食いクイズとして参加型展示の要素を加えた。展示室内のモニター映像はクイズの正解に導くものとした。ホームページには解答編を公開し、展示室内でもQRコードを掲出して解答編へのアクセスを誘導した。
- ・映像映像企画展示「文楽の花鳥風月」は、日本の花鳥風月をテーマに、文楽の世界に表現された美しい景色や風物から日本人の美意識と自然観を再確認し、文楽への理解を深める展示とした。また、国立演芸場で好評を得た「曾我廼家五郎 ―「喜劇」の誕生」を同時開催し、大阪の大衆芸能愛好者の関心にも応える展示とした。

v. 国立劇場おきなわ

- ・沖縄県の本土復帰50周年を記念し、組踊の原点に立ち返った企画展「朝薫五番」を開催した。朝薫五番にまつわる古文書、名優たちによる本土復帰前後の貴重な舞台写真、当劇場が所蔵する衣裳や小道具、各作品ゆかりの地についての解説等を展示することにより朝薫五番を見つめ直した。また、昭和42年・昭和47年に収録された朝薫五番の全演目を、展示室内にて週替わりで放映した。
- ・第2回企画展「踊衣裳を考える」では、美しさだけでなく、役柄や身分を表す重要な役割を担っている踊衣裳に焦点をあて、製作技術の進歩や時代による移り変わりなど、冠船踊の際に使用された芸能衣裳の記録を中心に展示をおこなった。
- ・第3回企画展「首里城と芸能 御冠船ど〜い!!」では、沖縄の本土復帰50周年及び組踊の重要無形文化財指定50周年を記念し、琉球芸能の原点である「御冠船踊」を概観する展示を行った。
- ・第4回企画展「愛さ(かなさ)、沖縄芝居」では、3月に開催される沖縄芝居公演に合わせて、県民の娯楽として長年愛されてきた「沖縄芝居」の世界について紹介する展示をおこなった。

■展示公開に関する広報等

- ・振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、Twitter等SNS、メールマガジンにて開催案内や会期中の紹介等広報を行った。
- ・国立能楽堂では、特別展及び企画展のポスター・チラシを作成し、全国の美術館・博物館に送付した。

《展示等に関する映像配信》

映像コンテンツ名	配信期間	視聴回数	備考
江戸の役者に会いにいこう	R2/7/31～	285	
歌川豊国 一歌川派の役者絵一	R2/7/31～	683	
入門展「いざ、歌舞伎」#1【序幕／歌舞伎の化粧—もう一つの顔—】	8/9～	2,769	日本博
Introductory Exhibition "Now, let's get to know Kabuki!" #1 Kabuki Makeup -Another Face-	9/28～	154	日本博
入門展「いざ、歌舞伎」#2【二幕目／見得と立廻り—絵のような美しさ—】	8/12～	1,218	日本博
Introductory Exhibition "Now, let's get to know Kabuki!" #2 Mie Pose and Tachimawari Fight Movements -Aesthetically Pleasing Appeal-	9/28～	160	日本博

入門展「いざ、歌舞伎」#3【三幕目／女方—男が「女」を演じる—】	8/16～	862	日本博
Introductory Exhibition "Now, let's get to know Kabuki!" #3 Onnagata Female Roles -Male Actors Perform 'Female' Roles-	9/28～	196	日本博
入門展「いざ、歌舞伎」#4【四幕目／時代と世話—それぞれのリアル—】	8/19～	705	日本博
Introductory Exhibition "Now, let's get to know Kabuki!" #4 Jidai-mono Historical Tales and Sewa-mono Contemporary Stories -Distinctive Realistic Features-	9/28～	92	日本博
入門展「いざ、歌舞伎」#5【大話／世界と趣向—物語のつくりかた—】	8/23～	656	日本博
Introductory Exhibition "Now, let's get to know Kabuki!" #5 Sekai (World) Frame and Shuko (Plots) -How Stories Are Made-	9/28～	75	日本博
国立能楽堂特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」	R3/8/17～	1,030	日本博
National Noh Theatre Special Exhibition 2021, Japanese People and Nature: Noh and Japanese Art	R3/9/1～	694	日本博
※一部、日本博事業と重複あり	合計	14 件	9,579

- ・ 入門展「いざ、歌舞伎」では、展示の見どころを5つのテーマで紹介する映像を日本語版と英語版の両方で制作し、日本博のYouTubeチャンネルより無料配信した。

《アンケート結果》

区分	会場	回収数	満足数	満足回答率
「新収蔵資料展」	伝統芸能情報館	59 人	54 人	91.5%
入門展「いざ、歌舞伎」	伝統芸能情報館	127 人	112 人	88.2%
演芸資料展「」	演芸場	43 人	43 人	100.0%
企画展「曾我廼家五郎—「喜劇」の誕生」	演芸場	23 人	22 人	95.7%
国立文楽劇場企画展示「文字で見る文楽の世界」	文楽劇場	37 人	36 人	97.3%
国立劇場おきなわ全展示期間中	国立劇場おきなわ	87 人	67 人	77.0%

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

<調査事業委員からの意見>

- ・ 「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」及び企画展「曾我廼家五郎—「喜劇」の誕生」のように、東京で開催したものを大阪に巡回するというのはこれまであまりない、良い試みだと思う。文楽劇場でも良い展示を行っているの、相互に実施できたら良い。
- ・ 能楽堂特別展の柴田是真については、今回の展示を見て初めて知ったのだが、図録でじっくり見てこんなにすごい人物がいたのかと驚いた。今後は予算の関係で難しくなると思うが、これまで国立能楽堂では地方の能楽に関するものを掘り起こして、こういう資料が今も残っていると、この大名家がこんなものを持っているというのを、シリーズで展示していたのが非常に充実していて有益だった。こうした事業は隔年でもいいので、継続して調査、展示をしていただければと思う。
- ・ 入門的な企画は能楽初心者の方が楽しめる内容になると思う。例えば、客席からではわからない装束の美しさについて、展示室で目の前で見ると、絹織物の美しさや刺繍の豪華さというものを立体的に見ることができ、初心者にとっては得難い経験だと思う。入門展や所蔵品展なども非常に良い企画なのでこれからも充実させて毎年実施してもらいたい。
- ・ 能楽堂は現在の方針を継続してほしいと思う。予算削減で厳しいなかではあるが、展示という形式で公開して見ていただくこと、またそれをまとめて図録として残すことは非常に重要である。手に取って見るという文化は大事なものである、デジタルに移行できるものは移行しながら、総合的に検討してほしい。
- ・ 国立文楽劇場企画展示「文字で見る文楽の世界」では映像が秀逸だった。<文字で見る>と言うとおり、文字を語りがたどる見せ方がよかった。写真パネルを並べることができるのは文楽劇場ならではのと思った。

<文楽公演専門委員からの意見>

- ・ 「文楽入門」の企画コーナー「文楽座の150年Ⅱ」で前回の展示「文楽座の150年Ⅰ」の映像が場内モニターで流れていたが、字幕付きの映像で改めて観ると実によく分かった。
- ・ 「文楽へようこそ」は、製作工程半ばの首を始め、手、足、裸人形等、人形の構造に踏み込んだ展示内容で面白い。美しい衣裳も、あらためてそれぞれを分けて見ることができるのは貴重な機会である。
- ・ 「文楽へようこそ」の企画コーナーは当該公演にちなんだ展示で、前半はこの展示を観れば「仮名手本忠臣蔵」全体が分かるという、コンパクトながら行き届いた展示。後半は狐や遠見の馬、鳥などが並ぶ見て楽しい展示で、鳥や鶏を食い入るように見つめて動かない小学生男子の姿があった。こういう子どもがいるだけでも今回の展示は十分価値があったと思う。
- ・ 「文字で見る文楽の世界」は展示キャプションにクイズを盛り込んだりしながら、丸本・床本を取り上

げた意欲は高く評価したい。もう一步踏み込んで、くずし字の仮名や頻出漢字の対照表を展示室で配付し、文字を追えるような配慮があれば観覧者の理解・興味の糸口を掴めるのではないか。

- ・「文楽の花鳥風月」は小規模ながら気の利いた展示である。一方『曾我廼家五郎』は国立演芸場で好評を博した展示の引越して、今回追加された資料もあり非常に充実した内容で見応えがあった。

(d) 展示図録の刊行

- ・「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」開催に際し、展示図録を刊行して本展監修者の北川博子による基調論文と全作品の解説を所収し、最新の調査研究の成果を記録に残した。
- ・特別展「柴田是真と能楽 江戸庶民の視座」図録(能楽堂・再掲)
監修の黒川廣子(東京藝術大学大学美術館長・教授)と宮本圭造(野上記念法政大学能楽研究所教授)の論考を掲載した。初公開となる能楽写生帖は資料の性質上公開できる部分が限られるため、図録に多くの図版を掲載した。写生帖以外も新発見・初公開の資料が半数を超え、研究者や美術史界の注目を集め、高い評価を得た。
- ・企画展「秋の風 能楽と日本美術」図録(能楽堂・再掲)
日本博の総合テーマ「日本人と自然」をサブタイトルとした能楽堂図録のシリーズ 3 冊目だが、有名な作品とともに、初公開の資料も数多く掲載して研究者や美術史界の注目を集めた。

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

- ・公演内容に応じて、扮装図鑑・下座の附帳等の写真による記録を作成した。
- ・出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。

《作成実績》

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 59 公演、扮装図鑑 6 公演、文楽人形等 0 公演(撮影中止)
能楽堂	映像・音声・写真 49 公演
文楽劇場	映像・音声 13 公演、写真 15 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 25 公演、小道具写真 2 公演

《活用実績》

区分	視聴			複製	
	一般	関係者(出演者等)	合計	関係者(出演者等)	
本館	527 件 1,003 時間	228 件 307 時間	755 件 1,310 時間	231 件	546 時間
能楽堂	1,151 件 1,917 時間	604 件 779 時間	1,755 件 2,696 時間	179 件	226 時間
文楽劇場	89 件 119 時間	617 件 684 時間	706 件 802 時間	167 件	479 時間
国立劇場おきなわ	175 件 229 時間	719 件 777 時間	894 件 1,006 時間	51 件	64 時間

※時間は項目ごとに切上げ又は切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

イ 普及活動

① 伝統芸能に関する公開講座等

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
伝統芸能情報館	伝統芸能講座	4 回	4 回	100.0%
	公演記録映像 アーカイブ有料配信	5 回	4 回	125.0%
能楽堂	能楽特別講座	5 回	3 回	166.7%
文楽劇場	公演記録映像 アーカイブ有料配信	4 回	4 回	100.0%
	文楽特別講座	3 回	4 回	75.0%
国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会・ 沖縄伝統芸能公開講座	4 回	4 回	100.0%
伝統芸能分野 合計		25 回	23 回	108.7%

※文楽劇場の文楽特別講座は講師の新型コロナ感染のため中止。この中止を勘案した場合、文楽特別講座の達成率は 100.0%、伝統芸能分野合計の達成率は 113.6%。

- ・ 伝統芸能講座の受講希望者への参加機会の拡充及び所蔵する資料の有効活用を図るため、講座の映像配信を行った。

《講座の映像配信実績》

コンテンツ名	配信期間	視聴回数	備考
国立劇場くろごちゃんねる 第5回 伝統芸能講座「国立劇場所蔵資料からみる講談の歴史」	R4/3/10～4/10	19	有料
伝統芸能講座「国立劇場所蔵 芝居版画の世界」	6/21～	740	
国立劇場くろごちゃんねる 第11回 第84回伝統芸能講座「喜劇の伝統—曾我廼家喜劇から松竹新喜劇、そして未来へ」	9/30～10/31	20	有料
国立劇場くろごちゃんねる 第14回 第85回伝統芸能講座「玉川奈々福+木ノ下裕一セレクト 国立演芸場の浪曲の名演を観る！」	3/1～3/31	44	有料
合計	4件	823	

(a) 伝統芸能情報館

- ・ 伝統芸能講座は、令和3年度は定員を56名に制限していたところ、新型コロナウイルス感染予防対策を継続しながら、令和4年度より定員を100名に改めて開催した。
- ・ 第83回伝統芸能講座「はじめての歌舞伎」は、伝統芸能情報館で開催の入門展「いざ、歌舞伎」の関連講座として、展示監修者の矢内賢二(明治大学教授)を講師に迎え、入門者向けに歌舞伎の魅力や楽しみ方を紹介した。
- ・ 第84回伝統芸能講座「喜劇の伝統—曾我廼家喜劇から松竹新喜劇、そして未来へ」は、演芸場資料展示室で開催の企画展「曾我廼家五郎—「喜劇」の誕生」の関連講座として、松竹新喜劇の曾我廼家寛太郎と展示監修者の日比野啓(成蹊大学教授)を講師に迎え、百年に渡る上方喜劇の歴史を辿った。また、講座映像の有料配信を行った。
- ・ 第85回伝統芸能講座「玉川奈々福+木ノ下裕一セレクト 国立演芸場の浪曲の名演を観る！」は、演芸場資料展示室で開催の「浪曲展—国立劇場所蔵資料にみる」の関連講座として、浪曲師の玉川奈々福氏と木ノ下歌舞伎主宰の木ノ下裕一氏を講師に迎え、国立演芸場の公演記録映像を紹介しながら浪曲の魅力を紹介した。
- ・ 第86回伝統芸能講座「国立劇場所蔵上方浮世絵の特色とその魅力」は伝統芸能情報館で開催の「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」の関連講座として、展示監修者の北川博子氏を講師に迎え、国立劇場所蔵上方浮世絵コレクションの特徴と魅力を紹介した。

(b) 能楽堂

- ・ 《月間特集 狂乱の系譜》関連イベントとして復曲「賀茂物狂」特別公開講座(7/4)を実施。天野文雄(京都芸術大学舞台芸術研究センター特別教授)、観世清和(二十六世観世宗家)、田中安比呂(賀茂別雷神社宮司)、横山太郎(立教大学教授)を講師として、能舞台上で開催した。基調講演のほか、仕舞、座談会も交え好評を得た。
- ・ 当初1回の予定であった特別展関連講座(有料)は2回実施することとし、監修者ごとに特別展の内容を詳細に解説する講座となった。
- ・ 特別展関連講座「柴田是真と能楽」は第1回を宮本圭造による「是真の能狂言画とその時代」(11/2)を、第2回を黒川廣子による「写生帖に見る是真の眼」(12/9)でそれぞれ開催した。
- ・ 山中玲子・高桑いづみを講師とする第4回と第5回の能楽囃子講座を実施した(5/31と12/12、有料)。東京能楽囃子科協議会との共催により、囃子方能楽師の実演を交えた講座とした。
- ・ すべての講座で配布資料やスライド、映像、音源を用いて解説した。

(c) 文楽劇場

- ・ 第5回文楽特別講座(8/12)は、夏休み文楽特別公演第一部に上演した「鈴の音」を題材に今回の「鈴の音」の公演記録映像を上映した後、同作品の作曲者である鶴澤清介によるアフタートークを行った(聞き手：亀岡典子・産経新聞大阪文化特別記者)。
- ・ 第6回文楽特別講座(10/27)は、文楽公演鑑賞前講座として11月文楽公演「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段に出演する竹本鍛太夫、竹澤宗助による同演目の聞きどころや演奏技術などを解説した(聞き手：久堀裕朗・大阪公立大学大学院文学研究科教授)。
- ・ 第7回文楽特別講座(1/7)は、初春文楽公演第二部「義経千本桜」すしやの段に出演の豊竹呂太夫と鶴澤清介を講師に迎え、太夫、三味線それぞれ同演目の聞きどころや演奏技術などを解説した(聞き手：荻田清・梅花女子大学名誉教授)。
- ・ 第8回文楽特別講座(1/26)は講師が新型コロナ感染のため中止となった。

(d) 国立劇場おきなわ

- ・昨年度にコロナウイルス感染症の拡大防止のため延期となった公演記録鑑賞と講座「近現代の女性舞踊家」(6/15)を開催した。併せて、近現代に活躍した女性舞踊家の映像作品を鑑賞した。
- ・小学3～6年生を対象に、踊り、お芝居、歌などについて楽しく学ぶ「こどもサマースクール」(8/14)を開催した。公募で選ばれた子供たちが5日間のレッスンを受け、舞台に出演した。
- ・公演記録鑑賞と講座「首里城と芸能 踊衣裳を考える」では、琉球芸能の踊衣裳をテーマに講義と併せて、昭和初期の貴重な映像や、技法について紹介した映像の鑑賞も行った。
- ・公演記録鑑賞と講座「沖縄芝居を知るー乙姫劇団ー」では、沖縄芝居の黄金時代を築き上げた乙姫劇団についての講義と乙姫劇団「月城物語」の映像鑑賞を行った。また、元劇団員を招いて鼎談をおこなった。

■講座に関する広報等

- ・公演解説書、振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、Twitter等SNS、メールマガジン、チラシにて開催案内、募集状況、実施報告等広報を行った。

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等

講座・展示名	日程	会場	公演名	参加者数
企画展「秋の風 能楽と日本美術」	8/25～ 10/21	能楽堂資料展示室	【企画公演】復曲の会 復曲狂言「空腹」、復曲能「薄」	6,208
復曲「賀茂物狂」特別公開講座	7/4	能楽堂	月間特集 狂乱の系譜 【特別企画公演】能を再発見する おはなし、復曲「賀茂物狂」	334
入門展示「文楽へようこそ」	6/2～ 9/25	文楽劇場資料展示室	6月文楽鑑賞教室 夏休み文楽特別公演	13,486
第5回文楽特別講座(夏休み文楽特別公演 アフタートークと上映会)	8/12	文楽劇場小ホール	夏休み文楽特別公演	49
第6回文楽特別講座(11月文楽公演鑑賞前講座)	10/27	文楽劇場小ホール	11月文楽公演	51
第7回文楽特別講座(初春文楽公演鑑賞前講座)	1/7	文楽劇場小ホール	初春文楽公演	127
第8回文楽特別講座(初春文楽公演 アフタートークと上映会)	1/26	文楽劇場小ホール	初春文楽公演	中止

③ 公演記録映像の有効活用

- ・振興会ホームページ内の「国立オンライン劇場」において、公演記録映像を活用した映像を無料配信した。また、英語版ホームページ内の「National Theatre Online」において、J-LODlive等にて海外向けに作成された公演記録映像のダイジェスト版を無料配信した。
- ・「文楽プレミアムシアター」として、過去に収録した国立文楽劇場及び国立劇場の文楽公演の記録映像から選りすぐりの作品を有料で配信し、特典として視聴者がダウンロードして利用できる床本集を提供した。当年度より配信プラットフォームをイープラスからミレールに契約を変更した。
- ・夏休み文楽特別公演のアフタートークである文楽特別講座で同公演の第一部親子劇場のうち「鈴の音」を上映した。
- ・映像の一部を宣伝用として活用して、振興会ホームページ及びTwitterによる配信案内を行った。
- ・文楽劇場では企画展示「文字で見る文楽の世界」において、展示した浄瑠璃本等の一部をクイズにして正解を映像で示す際に、公演記録映像を併せて上映した。
- ・文楽劇場では企画展示「文楽の花鳥風月」において、展示のテーマ「花」「鳥」「月」「雨・雪」「文様」にふさわしい公演記録映像を上映した。

《公演記録映像アーカイブ有料配信》

区分	映像コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	視聴回数
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第13回 座敷舞 山村友五郎編	昭和56年12月国立劇場 平成12年11月国立劇場 平成16年11月国立劇場 平成28年11月国立劇場	1/21～ 2/19	12
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第9回 舞楽	昭和42年10月国立劇場	9/10～ 9/25	32
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第10回 雅楽公演「五常楽一具」「長保楽」	昭和43年10月国立劇場	11/5～ 11/20	23
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第10回 雅楽公演「蘇莫者」「太平楽一具」	昭和43年10月国立劇場	11/19～ 12/4	26
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第6回 民俗芸能公演「ふるさとの人形芝居 諸国人形めぐり 一遣い方のさまざまー」	令和元年9月国立文楽劇場	4/9～ 5/1	16
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第8回 日本の太鼓 林英哲編	平成9年9月国立劇場 平成19年9月国立劇場	7/9～ 7/31	11
文楽劇場 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立文楽劇場 第5回文楽プレミアムシアター 「平家女護島 鬼界が島の段」	昭和61年10月国立文楽劇場	6/1～ 6/21	45

文楽劇場 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立文楽劇場 第6回文楽プレミアムシアター「桂川連理柵 六角堂の段・帯屋の段」	昭和51年3月国立劇場	10/1～10/21	52
文楽劇場 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立文楽劇場 第7回文楽プレミアムシアター「本朝廿四孝 十種香の段・奥庭狐火の段」	昭和63年4月国立文楽劇場	12/1～12/21	106
文楽劇場 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立文楽劇場 第8回文楽プレミアムシアター「冥途の飛脚 淡路町の段・封印切の段」	昭和61年10月国立文楽劇場	3/1～3/21	50
			合計	373
			10件	

《その他公演記録映像を活用した無料配信》

映像コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	視聴回数	備考
令和3年初春歌舞伎公演	令和3年1月 国立劇場	R3/4/27～ R4/5/31	1,385	J-LODlive
令和3年3月歌舞伎公演	令和3年3月 国立劇場	R3/4/27～ R4/5/31	732	J-LODlive
国立劇場令和3年11月歌舞伎公演「一谷嫩軍記」	令和3年11月 国立劇場	R4/1/31～ R5/2/28	1,303	J-LODlive
国立劇場令和4年初春歌舞伎公演「南総里見八犬伝」	令和4年1月 国立劇場	R4/2/21～ R5/2/28	4,479	J-LODlive
国立劇場令和2年2月文楽公演第1部「菅原伝授手習鑑」	令和2年2月 国立劇場	R3/11/5～ R4/11/4	296	J-LODlive
国立劇場令和2年2月文楽公演第2部「傾城反魂香」	令和2年2月 国立劇場	R3/11/5～ R4/11/4	216	J-LODlive
国立劇場令和2年2月文楽公演第3部「鳴響安宅新聞」	令和2年2月 国立劇場	R3/11/5～ R4/11/4	518	J-LODlive
令和2年9月文楽公演 第四部(Discover BUNRAKU)	令和2年9月 国立劇場	R3/4/20～ R4/5/31	46	日本博
令和2年12月文楽公演(Discover BUNRAKU)	令和2年12月 国立劇場	R3/4/20～ R4/5/31	70	日本博
令和3年2月文楽公演 第一部「五条橋」「伽羅先代萩」	令和3年2月 国立劇場	R3/4/20～ R4/5/31	36	J-LODlive
令和3年2月文楽公演 第二部「曲輪文章」「菅原伝授手習鑑」	令和3年2月 国立劇場	R3/4/20～ R4/5/31	35	J-LODlive
令和3年2月文楽公演 第三部「冥途の飛脚」	令和3年2月 国立劇場	R3/4/20～ R4/5/31	66	J-LODlive
国立劇場令和3年9月文楽公演第1部「双蝶々曲輪日記」	令和3年9月 国立劇場	R3/11/30～ R4/11/30	268	J-LODlive
国立劇場令和3年9月文楽公演第2部「卅三間堂棟由来」	令和3年9月 国立劇場	R3/11/30～ R4/11/30	222	J-LODlive
国立劇場令和3年9月文楽公演第3部「伊賀越道中双六」	令和3年9月 国立劇場	R3/11/30～ R4/11/30	246	J-LODlive
国立劇場令和3年12月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」	令和3年12月 国立劇場	R4/2/8～ R5/2/28	955	J-LODlive
国立劇場令和3年12月文楽鑑賞教室「新版歌祭文」	令和3年12月 国立劇場	R4/2/8～ R5/2/28	485	J-LODlive
国立劇場令和3年8月舞踊公演「日本舞踊のススメ」	令和3年8月 国立劇場	R4/2/18～ R5/3/31	1,069	J-LODlive
国立劇場令和3年11月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」より「八島」	令和3年11月 国立劇場	R4/3/24～ R5/3/31	920	日本博
国立劇場令和3年7月邦楽公演「日本音楽のススメ」	令和3年7月 国立劇場	R4/3/9～ R5/3/31	798	
令和2年11月雅楽公演「管絃 王朝の遊び」	令和2年11月 国立劇場	R3/4/20～ R4/5/31	232	J-LODlive
11月雅楽公演【管絃 王朝の遊び】ダイジェスト版	令和2年11月 国立劇場	R3/5/24～ R4/5/31	1,437	日本博
国立劇場令和3年5月特別企画公演「二つの小宇宙—めぐりあう今—」	令和3年5月 国立劇場	R3/12/24～ R6/12/23	329	
Two Microcosms —A Moment of Encounter—	令和3年5月 国立劇場	R3/12/24～ R6/12/23	98	J-LODlive
国立劇場令和3年8月特別企画公演「日本の太鼓」	令和3年8月 国立劇場	R4/2/25～ R5/3/31	1,015	
国立能楽堂企画公演「日本人と自然 春夏秋冬」復曲能「泰山木」	令和3年4月 国立能楽堂	R3/6/1～ R4/5/31	4,201	日本博
National Noh Theatre Special Programme Noh (Revival) Taisanmoku	令和3年4月 国立能楽堂	R3/6/16～ R4/5/31	774	日本博
国立能楽堂企画公演【女性能楽師による】	令和3年4月 国立能楽堂	R3/6/16～ R4/6/15	8,652	日本博
National Noh Theatre, Special Programme “Performed by Noh Actresses”	令和3年5月 国立能楽堂	R3/8/17～ R4/6/15	615	日本博
国立能楽堂5月普及公演	令和3年5月 国立能楽堂	R3/7/2～ R4/7/1	5,259	日本博
National Noh Theatre, Dissemination Performance in May	令和3年5月 国立能楽堂	R3/8/17～ R4/7/1	720	日本博
国立能楽堂狂言企画公演「日本人と自然 草木成仏」「臍」「蟬」「鮎」	令和3年5月 国立能楽堂	R3/7/16～ R4/7/15	4,832	日本博
National Noh Theatre, Special Programme of Kyogen (Humanity and Nature in Japan)	令和3年5月 国立能楽堂	R3/8/17～ R4/7/15	519	日本博
令和3年10月外国人のための能楽鑑賞教室《Discover NOH&KYOGEN》	令和3年10月	R3/12/24～	1,508	日本博

	国立能楽堂	R4/12/23		
April Bunraku Performance Part 1 National Bunraku Theatre	令和3年4月 国立文楽劇場	R3/7/16～ R4/8/31	1,182	J-LODlive
April Bunraku Performance Part 2 National Bunraku Theatre	令和3年4月 国立文楽劇場	R3/7/16～ R4/8/31	1,688	J-LODlive
April Bunraku Performance Part 3 National Bunraku Theatre	令和3年4月 国立文楽劇場	R3/7/16～ R4/8/31	849	J-LODlive
A Gathering in Appreciation of Dance and Music National Bunraku Theatre	令和3年5月 国立文楽劇場	R3/7/16～ R4/8/31	71	J-LODlive
組踊「二童敵討」ダイジェスト版(2分版)		R4/1/12～	502	※
組踊「二童敵討」ダイジェスト版(15分版)		R4/1/12～	6,373	※
組踊「二童敵討」(英語字幕版)フルバージョン		R4/2/1～	4,108	※
※令和2年度沖縄県文化観光戦略推進事業制作	合計	41件	59,109	

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・パブリックドメインの映像を外部連携公開するなど、映像コンテンツは国内外への波及効果が期待できるので今後試みてほしい。

④組踊等沖縄伝統芸能の普及活動の充実

- ・学校に実演家が赴いて、学生に琉球芸能の魅力を伝えるおでかけワークショップを引き続き実施した。

4 - (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演作品等についての資料調査を実施

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する

他の劇場施設等への貸与を実施

ウ 収集した資料等を新国立劇場その他の施設において展示し、インターネット等を有効利用して公開

エ 舞台美術センター資料館については、現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方を現行中期目標期間中に検討

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施

① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用、調査結果を活用して講演会等を実施

② 他劇場等の情報を収集して公演の充実等に活用、公演プログラム等において公開

③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存、他の劇場施設等への貸与

④ 外部の研究機関等と連携して現代舞台芸術に関する調査研究を行い、その成果を展示等で紹介

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供する他の劇場施設等への貸与を実施

① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を実施

③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を実施

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 11 のとおり実施

舞台美術センター資料館については新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、来館受入れを行うことが困難な状況になったことと、施設に対する活用方法に係るニーズが変化したことから、令和 2 年 2 月以降資料館としては閉鎖しており、今後は外部施設を活用したアウトリーチによる展示に特化するとともに、衣裳等の保管機能を強化することし、地元地域への説明を行いながら機能の移行を進める

ホームページで公開している「主催公演記録データベース」の充実に努める

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、現代舞台芸術の研究等に活用

イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

① 現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 12 のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実に努める

- ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開
- ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《中期目標の指標・関連指標》

4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)	2,641 人 (H25-29 実績平均：801.4 人)
4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)	P. 159 に掲載

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

① 現代舞台芸術に関する調査研究・調査結果を活用した講演会等の実施

- ・小川絵梨子演劇芸術監督及び演劇研究会委員による「演劇研究会」を定期的に開催し、その成果として演劇制作の現場や舞台の周辺など様々な切り口で掘り下げる「ギャラリープロジェクト」を開催した。
- ・令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「おうちでバックステージツアー」「トークセッション」「中高生のためのどっぷり演劇 2Days オンライン」をオンラインで実施した。
- ・演劇公演において、公演終了後に演出家・出演者が登壇し演出の狙いや制作過程等について語り合う「シアタートーク」を開催した。
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として下記公演プログラムに掲載した。
オペラ：10冊、演劇：6冊

② 他劇場等の情報収集・活用

- ・「演劇研究会」により国内の劇場(三鷹市芸術文化センター、THEATRE E9 KYOTO、犀の角、扇谷記念スタジオ・シアターZOO)を調査研究し、成果を演劇公演プログラム(4冊)に掲載した。
- ・国内外の劇場について、劇場のホームページや年報等の情報を基に資料収集・調査を実施した。

③ 公演記録の整理・保存・他劇場等への貸与

- ・主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料の整理・保存を行った。
- ・主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録し、公開した。
- ・主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進めた。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した(5件)。

イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用

① 情報センターの利用促進

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開					
	図書	資料	利用者数	開室日	ビデオブース利用	タブレット利用	ビデオシアター利用	図書貸出
情報センター閲覧室	741冊	55点	2,641人	230日	364人	569人	—	219件

- ・情報センター内ビデオシアターについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため年度を通して閉鎖とし、公演記録映像の閲覧についてはタブレット機器の貸出によって実施した。
- ・舞台美術センター資料棟を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館とした。
- ・上演する公演に合わせて、関連書籍、過去の公演プログラム等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。
- ・閲覧室に「調査研究関連コーナー」を設置(年間14コーナー)、情報センターが収蔵する資料から舞台芸術に関する調査、研究報告書をピックアップして開架し、ホームページでも紹介した。

(b) 現代舞台芸術に関する図書・資料等の他の劇場施設等への貸与等

区分	展示名	会場	主催等	活用内容	日程
オペラ	「オペラの扉 2022 KNOCKING ON THE DOOR OPERA EXHIBITION～ブッチーニのヒロインたち。」	ロームシアター京都及び特設WEBサイト	公益財団法人ロームミュージックファンデーション、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団	舞台装置模型・衣裳貸出	9/13～12/4
オペラ バレエ	新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ～Opera & Ballet Stage Set & Design Exhibition 2023～	東京スカイツリーソラマチ	主催：新国立劇場	公演記録写真・舞台装置模型・衣裳	2/4～5

- ・多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリーソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界 ～Opera & Ballet Stage Set & Design Exhibition～」を開催し、公演記録写真、舞台装置模型及び衣裳を展示した。併せてミニ・コンサートも実施し、劇場の紹介と舞台芸術の普及に努めた。解説を日英2言語で記載した。

② 図書資料管理システム(図書等の情報)・所蔵品管理システム(寄贈資料・公演関連資料)のデータベース化

- ・単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収蔵情報をホームページで公開した。
- ・公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をホームページで公開した。

ウ 資料等の展示公開

展示室	企画内容	日程	日数(日)	来場者数(人)		達成率
				実績	年度計画	
新国立劇場内	公演関係展示(劇場ホワイエ)	随時	13	—		
	公演関連展示(情報センター)	随時	230	2,641	4,500	58.7%
	公演関連展示(劇場内公開空地)	随時	364	—		

- ・情報センターでの公開展示については、新型コロナウイルス感染症の流行が沈静化し、ビデオシアター・ビデオブースを再開することを見込んだ上で目標値を設定した。しかし、実際には、第7波、第8波の流行により再開が叶わず、来場者数の目標を達成することができなかった。
- ・当初計画では、過去の実績や情報センター上映会での見込来場者数からビデオシアター・ビデオブースの利用を目的として2,200人が来場することを想定していたため、感染症の影響を除いた場合、114.8%の達成率となる。
- ・「初台アート・ロフト」について、2022年1月から引き続いて「生命の木展」、11月より「想像力と技—素材と型—展」と題して展示内容の更新を行った。また、公演の上演期間にあわせた展示替えも随時行い、来場される方への興味関心に合わせた展示を実施した。
- ・引き続き4年度においても、新型コロナウイルス感染症対策のため、「初台アート・ロフト」該当エリアへの立ち入りを制限する必要があったが、公演来場者の目に留まるエリアに展示の一部を移すなどして企画の維持に努めた。参考値として展示エリアの一部である劇場ロビーを通過した人数(=オペラ・中劇場の入場者数)に情報センター来場者数を加えた数を示す。
 ◇ 合計：337,711人(主催公演：164,006人、研修公演：8,803人、貸劇場：162,261人、情報センター来場者数：2,641人)
- ・舞台美術センター資料館(銚子市)については、衣裳等の保管機能を強化することとし、今後、地元地域への説明を行いながら機能の移行を進める。

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

区分	実績
記録件数・内容	映像・音声・写真 28 公演
公開件数(記録写真)	28 公演
公開件数(記録映像)	0 件

- ・記録写真をホームページの「舞台写真・公演記録」ページで、記録映像を情報センターで公開した。

イ 普及活動

① 現代舞台芸術に関する公開講座等

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
新国立劇場内	現代舞台芸術講座	14 回	15 回	93.3%
新国立劇場 情報センター	現代舞台芸術鑑賞会 (情報センター上映会)	0 回	12 回	—
現代舞台芸術分野 合計		14 回	27 回	51.9%

※現代舞台芸術講座は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため全てオンラインにて実施。

※情報センター上映会は、会場である情報センターのビデオシアターを新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止しているため実施を見送った。

- ・招聘公演である演劇公演「ガラスの動物園」において舞台装置に関連した講座(ギャラリープロジェクト)を予定していたが、舞台装置がフランスでのストライキ等の影響によって滞り、予定より大幅に遅れて到着した。そのため、講座を1回実施することができなかったため、目標値を達成することができなかった。これは外的要因によるやむを得ない中止であり、この中止と感染症の影響(情報センター上映会の中止)を除いた場合、100.0%の達成率となる。

i. 現代舞台芸術講座(ギャラリープロジェクト他)

- ・現代舞台芸術講座としてギャラリープロジェクトをオンライン(YouTube)で開催した。

《ギャラリープロジェクト開催実績》

イベント名	日程	視聴回数
動画でバックステージツアー ～ジュリオ・チェザレ～	10/4～	2,174

オンラインバックステージツアー ～ジゼル～	11/2～	15,844
演劇のおしごと Vol.13 「特殊小道具」とは？	4/15～5/31	551
おうちでバックステージツアー ～アンチポデス 編～	4/22～5/31	667
演劇のおしごと Vol.14 4人の芸術監督が集まって話し合ってみた ～芸術監督ってどんな仕事？～	5/16～7/31	2,453
おうちでバックステージツアー ～ロビー・ヒーロー 編～	5/16～6/30	1,299
おうちでバックステージツアー ～貴婦人の来訪 編～	6/14～7/31	1,398
演劇漸 Vol.7 「シリーズ声」を語る3人の演出家	6/17～7/31	586
演劇漸 Vol.8 イヴォ・ヴァン・ホーヴェの世界(1～4)	9/28～10/31	1,557
おうちでバックステージツアー ～レオポルトシュタット 編～	10/27～11/30	2,323
演劇漸 Vol.9 シリーズ「未来につながるもの」作家×演出家対談Ⅰ	11/19～12/31	399
おうちでバックステージツアー ～私の一ヶ月 編～	11/22～12/31	432
演劇漸 Vol.10 シリーズ「未来につながるもの」作家×演出家対談Ⅱ	12/15～1/31	191
おうちでバックステージツアー ～夜明けの寄り鯨 編～	12/15～1/31	468
合計	14回	30,342

ii. 公演記録映像上映会

- ・例年月例で実施していた情報センターでの上映会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会場であるビデオシアターを休止しているため、実施を見送った。

②公演記録映像等の有効活用

- ・新国立劇場主催公演等の映像配信について情報を集約し発信する「新国デジタルシアター」にて公演記録映像等をインターネット配信した。
- ・Opera Visionにおいて「オルフェオとエウリディーチェ」（令和4年5月収録、配信期間10/8～4/7）及び「ボリス・ゴドゥノフ」（令和4年11月収録、配信期間3/25～9/24）を無料配信した。
- ・「白鳥の湖」がNHK BS4K「プレミアムシアター」で放送された(1/3)。
- ・「タージマハルの衛兵」（2019年12月）が「プレミアムステージ」にて放送された(4/3)。
- ・オペラ及び舞踊芸術監督による2022/2023シーズン紹介映像や各公演の宣伝映像等に公演記録映像を使用。インターネット配信や劇場ホワイエ等で上映し、周知に努めた。

《公演記録映像を活用した映像配信》

映像コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	視聴回数
オペラ「魔笛」	2018年10月新国立劇場	9/16～11/16	7,010
オペラ「ドン・バスクワレ」	2019年11月新国立劇場	7/8～9/8	3,195
オペラ「チェネントラ」	2021年10月新国立劇場	12/2～2/2	4,772
演劇「反応工程」	2021年7月新国立劇場	7/1～9/1	5,956
演劇「あーぶくたった、にいたった」	2021年12月新国立劇場	5/20～6/20	4,005
合計		5件	24,938

■公演記録映像の活用による海外広報戦略強化

- ・海外での公演映像上映会により、顧客層の掘り起こしを実施した。
- ・新国立劇場での海外歌劇場の公演映像上映会により、劇場間交流の活性化に努めた。
主催：新国立劇場 後援：中華人民共和国駐日本国大使館
- ・中国国家大劇院での上映、中国国家大劇院の映像の新国立劇場での上映は日中国交正常化50周年事業「中国国家大劇院との日中オペラ映像交換上映会」として実施した。

上映会名	会場	日程	回数	参加者数
新国立劇場オペラ「カルメン」(2021年7月公演)	中国国家大劇院	11/8	1回	176名
新国立劇場オペラ「チェネントラ」(2021年10月公演)	中国国家大劇院	1/16	1回	316名
台中国家歌劇院「春節上映会」 新国立劇場オペラ「チェネントラ」(2021年10月公演)	台中国家歌劇院	1/25	1回	199名
中国国家大劇院オペレッタ「メリー・ウイドウ」	新国立劇場中劇場	11/8	1回	324名
中国国家大劇院オペラ「アイーダ」	新国立劇場中劇場	11/9	1回	302名

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために とるべき措置

1 業務運営の効率化

1 業務運営の効率化	p.161
(1) 組織体制の整備・強化	p.164
(2) 給与水準の適正化	p.166
(3) 契約の適正化	p.166
(4) 共同調達等の取組の推進	p.166
(5) 情報システムの活用	p.168
(6) 予算執行の効率化	p.168

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業の改善を図る

1 業務運営の効率化に関する取組

平成29年度予算を基準として中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上の効率化を図る。ただし、特殊要因経費はその対象としない

また、人件費については3項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない

2 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、業務・組織体制について検討を行い、必要な措置を講ずる

3 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

4 契約の適正化

契約については、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進する。毎年度「調達等合理化計画」を策定し、点検、見直しを実施

5 共同調達等の取組の推進

(1) 共同調達

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、他法人や周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画に具体的な対象品目を定めた上で進める

(2) 省エネルギー、リサイクルの推進

省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等を推進し、使用資源の縮減を図り、環境に配慮した業務運営に努める

6 情報システムの活用

効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

7 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

《年度計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる

(1) 組織体制の整備・強化

「日本博」については、我が国の文化芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を引き続き運営し、企画立案・広報機能の充実に努める

歌舞伎俳優・歌舞伎音楽、大衆芸能、能楽、文楽の各養成事業を効率的・効果的に推進するため、業務を横断的に所管する組織の在り方を検討

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする

また、その取組状況をホームページで公表

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

法人間又は周辺他機関と連携し、次の品目について共同調達を推進
この他の品目の共同調達の実施については費用対効果に配慮しつつ検討

- ① コピー用紙
- ② トイレ用ペーパー及びペーパータオル

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO2)の排出削減を推進
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進

(5) 情報システムの活用

- ア 業務システムの安定稼働を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う
- イ ワークフローシステム等の電子決裁を推進し、各業務の効率化を図る
- ウ 仮想デスクトップシステムを活用し、テレワーク等新たな働き方に対応し、効率的な業務運営を支援

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

自己評価	B
自己評価の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各項目につき、計画どおり必要な措置を講じた。 ・電気・ガス料金の著しい高騰を受けて、観劇環境や業務に支障のない範囲で、例年以上に厳しい省エネルギー推進の取組を実施した。 ・ワークフローシステムによる電子決裁の導入や在宅勤務の実施などにより、コピー用紙の使用枚数が大幅に減少し、コピー用紙購入枚数が約32万枚減少した。 ・国立劇場の再整備に向けて、組織体制の検討や情報システム等の整備を行った。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	「業務運営の効率化に関する取組」参照
主要な業務実績	<p>(1) 組織体制の整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場閉場後の業務に応じた組織体制について検討を開始した。 ・伝統芸能の各分野の養成事業を一体的の実施する機関として養成所の設置に向けた検討を行った。 <p>(2) 給与水準の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。 <p>(3) 契約の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の「調達等合理化計画」を策定し、調達等の合理化に取り組んだ。 <p>(4) 共同調達等の取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙の調達については、振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターの4者により共同調達を実施した。 ・トイレットペーパー及びペーパータオルの調達については、公益財団法人新国立劇場運営財団と共同調達を実施した。 ・光熱水量の節減については、電気・ガス料金の著しい高騰を受けて、観劇環境や業務に支障のない範囲で、例年以上に厳しい省エネルギー推進の取組を実施した。 ・廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底した。 ・ワークフローシステムによる電子決裁を導入したことや在宅勤務の実施などにより、コピー用紙の使用が大幅に減少し、コピー用紙の購入費を約50万円削減することができた。 <p>(5) 情報システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書管理システムを更新し、国立劇場おきなわの図書資料を統合し、振興会全体の図書館業務の効率化と利便性の強化を推進した。 ・クラウドPBX及びスマートフォンの導入を行い、利用環境の安定化と国立劇場再整備に伴う事務所移転に向けた対応を行った。 <p>(6) 予算執行の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。

1 業務運営の効率化

【業務運営の効率化に関する取組】

一般管理費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：平成 29 年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

事業費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：前年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

《一般管理費》(単位：百万円、%)

区分	金額
平成 29 年度予算(A)	444
令和 4 年度予算(B)	384
増減比率	△13%

令和 4 年度予算額は、消費税影響額 7 百万円を除けば 377 百万円で、△15%となっている。

《事業費》(単位：百万円、%)

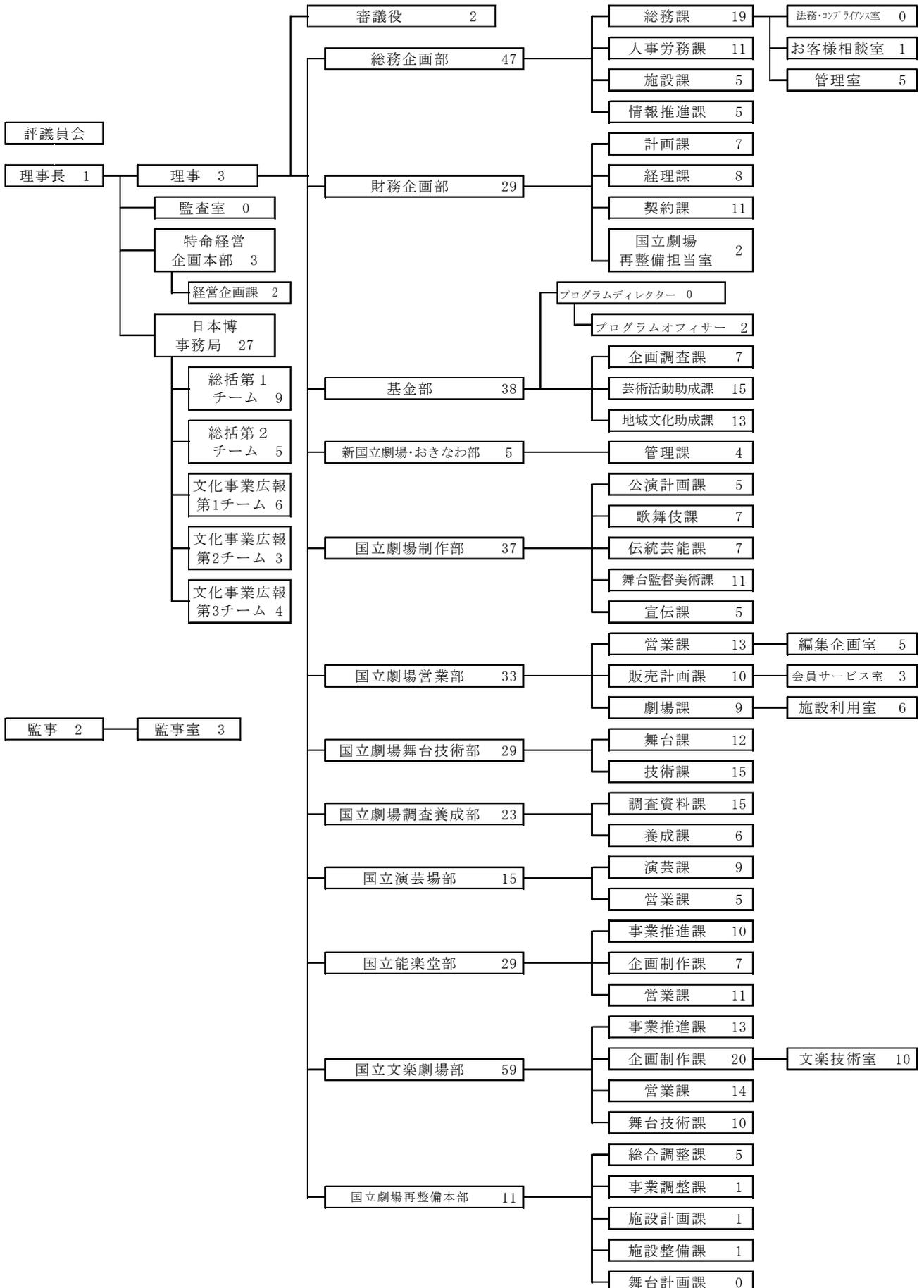
区分	金額
令和 3 年度予算(A)	6,642
令和 4 年度予算(B)	6,576
増減比率	△1%

(1) 組織体制の整備・強化

- ・ 国立劇場閉場後の業務に応じた組織体制について検討を開始した。
- ・ 伝統芸能の各分野の養成事業を一体的の実施する機関として養成所の設置に向けた検討を行った。
- ・ 令和 5 年度の研修生募集活動において「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」という名称を使用して募集活動を開始した。
- ・ 総務企画部総務課に法務・コンプライアンス室を設置した。
- ・ 財務企画部を設置した。

《組織図》

※ 数字は役員及び常勤職員数(令和5年3月31日現在)



(2) 給与水準の適正化

ア 对国家公務員指数への適正な水準の維持

- ・ラスパイレス指数[※]は、108.8（地域・学歴勘案＝95.0）であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。

また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.3（地域・学歴勘案＝100.9）であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

※ラスパイレス指数＝国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 76.4%

(国からの財政支出額 19,518 百万円／支出予算の総額 25,552 百万円(令和3年度予算))

イ 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(令和3年度ベース)。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

- ・公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、令和4年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、少額随意契約を除く随意契約を締結することとなる案件について、財務企画部長及び契約担当部署が調達原課の報告に対し点検を行い、随意契約に関する内部統制の確立に努めた。
- ・「調達等合理化計画」に基づき、適正な調達手続きの周知、理解を徹底し、不祥事の発生の未然防止を図るため、経理関係業務研修会を書面開催した。

イ 契約監視委員会における契約の点検

- ・第27回契約監視委員会(6/23)
議事：令和3年度契約に関する点検・見直し(審議)、令和4年度調達等合理化計画の策定について(審議)、連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和3年度分)について(報告)、令和3年度調達等合理化計画の自己評価の実施(報告)
- ・第28回契約監視委員会(12/6)
議事：連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和4年度分)について(審議)、令和4年度調達等合理化計画における進捗状況について(報告)
- ・外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」(第27回、第28回)において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・第27回契約監視委員会を開催し、競争性のある契約(一般競争・企画競争)及び競争性のない随意契約について、契約変更の妥当性や予定価格の算定方法の適正性等を点検審議した(6/23)。
- ・第28回契約監視委員会を開催し、連続一者応札・応募等事案について点検を行い、競争性の確保等を審議した(12/6)。

《改善内容》

- ・「令和4～6年度決算における退職給付債務等の計算委託」(仕様を見直し、1年間の契約から3年間の複数年契約として一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)
- ・「令和5年度公演記録映像収録等業務(本館・演芸場)」(仕様を見直し「公演記録映像収録設備保守管理業務」と一括の契約として一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)

ウ 電子入札の実施

- ・入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

① コピー用紙

- ・振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センター

との間の共同調達に関する協定に基づき、コピー用紙の共同調達を実施。

② トイレトペーパー及びペーパータオル

- ・ 振興会と公益財団法人新国立劇場運営財団との間の共同調達に関する協定に基づき、トイレトペーパー及びペーパータオルの共同調達を実施。

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

① 地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進

- ・ 令和4年12月に新国立劇場の「地球温暖化対策計画書」を提出。隼町地区については原油換算エネルギー使用量が3か年連続して1,500k1未満となり、指定地球温暖化対策事業所の対象外となった。
- ・ 地球温暖化対策を推進するために、自らの温室効果ガス排出量の把握に努め、東京都の削減目標に従って計画的削減に努めた。

② 光熱水量の節減

- ・ 電気・ガスについては、世界情勢の影響等により料金が著しく高騰した。各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で、例年以上に厳しい省エネルギー推進の取組によって費用の削減を図った結果、電気・ガスの使用量が減少し、前年度比で電気は2%、ガスは10%削減することができた。
 - ◇ 劇場の常夜灯や自主公演上演中のロビー照明などを観劇環境に支障のない範囲で消灯・減灯した。
 - ◇ 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。また、在室していない時間帯など不要な照明を消灯した。
 - ◇ 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制(夏季ピーク時の制限、設定温度の制限)を実施した。
 - ◇ 定時退勤日を設定し、超過勤務による電気・ガスの使用を抑制した。
 - ◇ 一部の部署においては、一斉在宅勤務を実施し、電気・ガスの使用を抑制した。
- ・ しかし、使用量の削減以上に料金が高騰したため、電気・ガス料金の合計は、前年度比で1.3億円以上増加した。

《使用量》

事項	区分	使用量	対前年度増減率
電気	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	4,741,696 kwh	△ 0.2%
	能楽堂	778,646 kwh	△ 4.9%
	文楽劇場	1,125,410 kwh	△ 5.6%
	合計	6,645,752 kwh	△ 1.7%
ガス	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	161,583 m ³	△ 9.5%
	能楽堂	77,650 m ³	△ 9.5%
	文楽劇場	83,580 m ³	△ 11.6%
	合計	322,813 m ³	△ 10.0%
水道	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	30,081 m ³	+9.9%
	能楽堂	7,688 m ³	+8.0%
	文楽劇場	7,893 m ³	△ 4.8%
	合計	45,662 m ³	+6.7%

《料金》

事項	区分	料金	対前年度増減額	対前年度増減率
電気	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	180,040 千円	+100,806 千円	+127.2%
	能楽堂	32,180 千円	+16,153 千円	+100.8%
	文楽劇場	27,727 千円	+5,796 千円	+26.4%
	合計	239,947 千円	+122,755 千円	+104.7%
ガス	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	22,210 千円	+5,122 千円	+30.0%
	能楽堂	10,637 千円	+3,521 千円	+49.5%
	文楽劇場	10,991 千円	+4,159 千円	+60.9%
	合計	43,838 千円	+12,802 千円	+41.2%
電気・ガス合計	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	202,249 千円	+105,928 千円	+110.0%
	能楽堂	42,817 千円	+19,674 千円	+85.0%

	文楽劇場	38,718 千円	+9,955 千円	+34.6%
	合 計	283,784 千円	+135,557 千円	+91.5%

③ 廃棄物の減量化

- ・ 処理量削減の取組により、全体としては処理量を削減できたが、前年度は緊急事態宣言により4～5月に公演等を中止したため処理量が少なく、隼町地区の処理量は前年度と比較すると増加した。

事 項	区 分	処理量	対前年度増減率
一般廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	35,720 kg	+41.7%
	能楽堂	3,904 kg	△ 23.5%
	文楽劇場	9,686 kg	+6.7%
	合 計	49,310 kg	+25.2%
再利用廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	34,300 kg	+1.7%
	能楽堂	4,505 kg	△ 27.8%
	文楽劇場	9,640 kg	△ 17.9%
	合 計	48,445 kg	△ 6.3%
産業廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	2,809 kg	+37.5%
	能楽堂	539 kg	△ 30.6%
	文楽劇場	4,040 kg	△ 23.6%
	合 計	7,388 kg	△ 8.9%

④ ペーパーレス化

- ・ ワークフローシステムによる電子決裁を導入したことや在宅勤務の実施などによりコピー枚数使用量が大きく減少した。その結果、コピー用紙購入枚数が約32万枚(△17.2%)減少した。

事 項	区 分	枚数	対前年度増減率
コピー用紙 使用量	本館・演芸場	1,045,699 枚	+9.2%
	事務棟	1,986,563 枚	△ 16.8%
	伝統芸能情報館	461,369 枚	△ 29.6%
	能楽堂	393,811 枚	+24.0%
	文楽劇場	342,217 枚	+42.9%
	合 計	4,229,659 枚	△ 7.2%
	うち管理部門	1,298,805 枚	△ 13.2%
コピー用紙 購入枚数	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	2,698,000 枚	△ 19.5%
	能楽堂	359,000 枚	△ 9.3%
	文楽劇場	305,500 枚	△ 3.2%
	合 計	3,362,500 枚	△ 17.2%

⑤ グリーン購入法に基づく調達

- ・ 事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

(5) 情報システムの活用

- ・ 図書管理システムを更新し、国立劇場おきなわの図書資料を統合することにより、振興会全体の図書資料等の目録情報の管理と運用を一元化し、効率化と利便性の強化を推進した。
- ・ 公演情報と収蔵資料等のアーカイブ及び舞台芸術教材の配信に係る文化デジタルライブラリーシステムの更新に向けて、令和5年11月稼働を予定として作業を進めた。
- ・ クラウドPBX及びスマートフォンの導入を行い、利用環境の安定化と国立劇場再整備に伴う事務所移転への対応を行った。
- ・ 各施設のネットワーク設備の中心として施設毎に設置している建屋基幹スイッチの更新及び二重化を行い、ネットワークの可用性を高めた。
- ・ 政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準が令和3年度に改定されたことに基づき、振興会情報セキュリティポリシーを改定し、実施手順の更新に向けた作業を進めた。

(6) 予算執行の効率化

- ・ 各課室の予算執行見込について把握し、不用・不足を調整する等、効率的な予算執行に努めた。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画	p.169
1 予算	p.171
2 収支計画	p.172
3 資金計画	p.173
4 保有資産の処分	p.174

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

《中期計画の概要》

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

収入面に関しては実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画による運営を図る

管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める

1 予算(中期計画の予算) 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」(平成26年9月2日付け総管査第263号総務省行政管理局通知)に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円。

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合である。

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

すでに廃止を決定した目黒職員宿舎、船橋第三職員宿舎、習志野職員宿舎について、独立行政法人通則法第46条の2の規定に基づき、中期目標期間中に当該不要財産を国庫納付する。

Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない。

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる。

1 助成事業の充実

2 公演事業の充実

3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実

4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実

5 研修器具、芸能資料等の購入・修理

6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《年度計画の概要》

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

1 予算 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

収入面については、寄附金・補助金等の外部資金を積極的に獲得

4 保有資産の処分

保有資産については保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては不要財産として国庫納付等を行う

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な業務運営を見込んだ予算の策定を行った。法人全体で予算執行の抑制に努めたが、水道光熱費、特に電気料金高騰の影響が大きく、結果として支出が増加した。 ・公演事業において、新型コロナウイルス感染症の大規模な流行（第7波）の影響もあり、劇場入場料収入が年度計画予算に対して減少した。一方で、公演費等の節減により支出額を抑制し、収支差の改善に努めた。 ・運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。 ・各館の公演等事業への寄附金を得るため、引き続き、「国立劇場基金(くろごちゃんファンド)」への寄附を募った。 ・クラウドファンディングによる伝承者養成事業への寄附募集「伝統芸能の明日をになう、国立劇場の研修生にご支援を！」を実施し、新たな財源の確保に努めた。 ・収入の減に対応するため、補助金等外部資金の積極的な獲得を行った。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	<p>1 予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響から回復しておらず、劇場入場料収入が年度計画予算に対して減少する中、積極的に外部資金を獲得することで、事業に対する影響を軽減することができた。 <p>2 収支計画</p> <p>3 資金計画</p> <p>4 保有資産の処分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目黒職員宿舎を令和5年1月に国庫納付した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・入場料収入や施設使用料収入について、国民の鑑賞機会の確保等に留意しつつ、公演収支の分析や料金の見直し等により安定的な自己収入の確保に向けた検討を行うとともに、様々な外部資金の獲得に向けた取組を進める。

《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。

※ 以下、計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

1 予算

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
収 入			
運営費交付金	11,516	11,516	0
雑収入	508	512	4
文化芸術振興費補助金	16,696	7,334	△9,361
施設整備費補助金	255	858	603
コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金	—	84	84
基金運用収入	905	956	51
有価証券売却収入	—	2,772	2,772
寄附金収入	300	230	△70
その他の助成事業収入	15	23	8
公演事業収入	2,705	2,359	△346
公演受託事業収入	1,240	1,436	196
計	34,139	28,080	△6,059
支 出			
一般管理費	2,881	1,520	1,361
うち人件費	1,046	1,059	△13
うち物件費	1,835	461	1,374
事業費	9,143	9,322	△179
うち人件費	2,249	2,256	△8
うち助成情報提供等事業費	142	158	△16
うち国立劇場事業費	1,816	1,971	△155
うち国立劇場おきなわ事業費	672	672	0
うち新国立劇場事業費	4,264	4,264	0
文化芸術振興費	16,696	6,931	9,765
うち人件費	0	4	△4
うち物件費	16,696	6,927	9,769
施設整備費	255	858	△603
コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費	—	92	△92
基金助成事業費	1,119	1,022	97
うち人件費	163	154	10
うち物件費	956	868	88
公演事業費	2,805	2,654	151
公演受託事業費	1,240	1,432	△192
計	34,139	23,831	10,307

《主な増減理由》

(1) 収入

- 文化芸術振興費補助金については、助成事業において令和5年度へ繰り越したこと等により10,120百万円の減となった一方、公演事業において令和3年度補正予算事業の日本博イノベーション型プロジェクト(723百万円)を令和4年度に繰り越して実施したほか、計画額に計上していない「コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業(25百万円)」及び「文化施設の活動継続・発展等支援事業(5百万円)」を令和4年度中に新たに獲得したことにより、全体では9,361百万円の減となった。
- 施設整備費補助金については、計画額には令和4年度補正予算事業の「国立劇場おきなわ音響設備整備(156百万円)」「国立文楽劇場空調設備衛生設備改修工事(56百万円)」「新国立劇場電話交換機設備改修工事(44百万円)」について計上したのに対し、実績額には、令和3年度補正予算事業の「国立劇場再整備事業(81百万円)」及び

「国立能楽堂防災設備改修工事(80百万円)」「国立文楽劇場舞台運営監視装置設備整備(63百万)」「国立劇場おきなわ冷却塔更新工事(58百万)」「新国立劇場舞台芸術グローバル拠点事業(576百万)」を計上したことにより、結果として603百万円の増となった。

- ・コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金については、獲得した補助金額(84百万円)を計上した。
- ・寄附金収入については、寄附金を財源として支出した基金助成事業費、公演事業費及び研修事業費と同額を収入実績額として計上したことにより、70百万円の減となった。
- ・公演事業収入については、新型コロナウイルス感染症の大規模な流行(第7波)の影響もあり、入場料の払い戻しを引き続き実施したこと等により、346百万円の減となった。
- ・公演受託事業収入については、計画額には令和4年度予算事業の「日本博運営委託費(1,240百万円)」について計上したのに対し、実績額には令和3年度補正予算事業の「日本博デジタルコンテンツ・プラットフォーム構築・運用・発信業務(195百万円)」を計上したこと等により、196百万円の増となった。

(2) 支出

- ・一般管理費のうち人件費については、退職手当が見込みより多かったこと等により、13百万円の増となった。また、物件費については、国立劇場再整備事業の繰り延べにより、1,374百万円の減となった。
- ・事業費のうち助成情報提供等事業費については、非常勤職員手当・業務委託費等が増加したこと、また国立劇場事業費については、水道光熱費が増加したこと等により、事業費全体で179百万円の増となった。
- ・文化芸術振興費については、助成事業において令和5年度への繰り越し(9,997百万円)、助成金の取下げや減額が発生したこと等により10,479百万円の減となり、公演事業においては、計画額に計上していない令和3年度補正予算事業「日本博イノベーションプロジェクト」を繰り越して実施したこと等により715百万円増となり、全体で9,765百万円の減となった。
- ・施設整備費については、計画額には令和4年度補正予算事業の「国立劇場おきなわ音響設備整備(156百万円)」「国立文楽劇場空調設備衛生設備改修工事(56百万円)」「新国立劇場電話交換機設備改修工事(44百万円)」について計上したのに対し、実績額には、令和3年度補正予算事業の「国立劇場再整備事業(81百万円)」及び「国立能楽堂防災設備改修工事(80百万円)」「国立文楽劇場舞台運営監視装置設備整備(63百万)」「国立劇場おきなわ冷却塔更新工事(58百万)」「新国立劇場舞台芸術グローバル拠点事業(576百万)」を計上したことにより、結果として603百万円の増となった。
- ・コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費については、実績額は令和4年度支出額(84百万円)と令和3年度事業精算額確定による雑損失9百万円を計上した。
- ・基金助成事業費の物件費については、業務委託費が減少したこと、また助成金の取下げや減額が発生したこと等により、88百万円の減となった。
- ・公演事業費については、公演費が減少したこと、また公演費の一部が令和4年度中に新たに獲得した「コンテンツ海外展開・促進基盤強化事業費補助金」や「文化芸術振興費補助金(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)」にて執行されたこと等により、151百万円の減となった。

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
国立劇場公演等事業費	8,610	11,509	2,899
新国立劇場公演等事業費	4,554	4,615	61
基金助成事業費	18,051	7,510	△10,541
一般管理費	2,555	1,394	△1,161
財務費用	7	15	8
雑損失	—	1	1
臨時損失	—	0	0
計	33,778	25,044	△8,734
収益の部			
運営費交付金収益	10,461	10,746	285
事業収入	3,515	3,046	△469
受託事業収入	1,240	3,131	1,891
財産利用収入	45	47	2
資産見返負債戻入	743	793	50

賞与引当金見返に係る収益	244	245	1
退職給付引当金見返に係る収益	△ 37	△ 37	0
文化芸術振興費補助金収益	16,696	6,931	△9,765
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金収益	0	84	84
施設整備費補助金収益	0	162	162
寄附金収益	300	230	△70
財務収益	87	170	83
雑益	485	524	39
臨時利益	—	2,863	2,863
計	33,778	28,935	△4,843
純利益	—	3,880	3,880
積立金取崩額	—	—	—
総利益	—	3,880	3,880

《主な増減理由》

(1) 費用の部

- ・国立劇場公演等事業費については、水道光熱費の増加等の要因により、2,899百万円の増となった。
- ・基金助成事業費については、助成事業の一部が次年度に繰り越された等の要因により、10,541百万円の減となった。
- ・一般管理費については、国立劇場再整備事業で繰り延べが発生したこと等の要因により、1,161百万円の減となった。

(2) 収益の部

- ・受託事業収入については、日本博事業において事業の繰越がなかったため、1,891百万円の増となった。
- ・文化芸術振興費補助金収益については、当該補助金による事業の一部が次年度に繰り越された等の要因により、9,765百万円の減となった。
- ・臨時利益については、有価証券の売却による売却益等を計上したため、2,863百万円の増となった。

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	115,668	145,652	29,984
業務活動による支出	42,348	27,271	△15,077
投資活動による支出	53,125	51,431	△1,694
財務活動による支出	166	50,321	50,155
翌年度への繰越金	20,029	16,629	△3,400
資金収入	115,668	145,652	29,984
業務活動による収入	42,484	77,386	34,902
運営費交付金による収入	11,516	11,516	0
補助金による収入	16,696	7,556	△9,140
公演事業による収入	2,705	2,323	△382
公演受託事業による収入	1,240	1,414	174
養成事業による収入	24	25	1
基金運用による収入	905	954	49
その他の収入	9,399	53,598	44,199
投資活動による収入	2,555	3,178	623
施設整備費補助金による収入	255	878	623
その他の収入	2,300	2,300	0
財務活動による収入	50,600	50,601	1
金銭出資の受入による収入	50,000	50,000	0
民間出えん金受入れによる収入	600	601	1
前年度よりの繰越金	20,029	14,487	△5,542

《主な増減理由》

(1) 資金支出

- ・財務活動による支出については、芸術文化振興基金で運用していた政府出資金の一部を国庫納付したこと等の要因により、50,155百万円の増となった。

(2) 資金収入

- ・その他の収入については、有価証券を売却したこと等の要因により、44,199百万円の増となった。

4 保有資産の処分

(1) 実物資産の保有状況等

施設名	数	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場(本館・演芸場)	1	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和4年度の稼働率の実績:P.108 参照
国立能楽堂	1	東京都渋谷区		
国立文楽劇場	1	大阪府大阪市中央区		
国立劇場おきなわ	1	沖縄県浦添市		
新国立劇場	1	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和4年度の稼働率の実績:P.108 参照
新国立劇場舞台美術センター	1	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパートリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎	5	東京地区(4) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があり、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。 保有宿舎全 39 戸(うち入居戸数 25 戸(入居予定含む)、廃止宿舎・廃止予定宿舎を除く)、入居率 64.1%。

(2) 金融資産の保有状況

ア 金融資産の名称と内容、規模

定期預金： 100百万円
有価証券： 1,400百万円
投資有価証券： 74,402百万円
長期性預金： 2,900百万円

イ 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。(運用状況はI-1-(3) 基金の管理運用 を参照)

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

ウ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

目黒職員宿舎を令和5年1月に国庫納付した。船橋第三職員宿舎・習志野職員宿舎については、財務省関東財務局千葉財務事務所立会いのもと、引き渡しに向けた現地確認まで完了しており、令和5年度中に国庫納付する予定。

芸術文化振興基金で運用していた政府出資金について、その一部(50,000百万円)を国庫へ納付した。

《参 考》

1. 剰余金

損益計算の結果、令和4事業年度の当期総利益は3,880百万円である。

《利益が生じた主な理由》

[収入支出決算]

- (1) 基金区分において、政府出資金 500 億円を国庫納付するために保有有価証券を売却した際に、有価証券売却収入 2,772 百万円が発生した。
- (2) 一般管理費が、年度計画予算に対し 1,361 百万円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 国立劇場再整備等事業の繰り延べによる減 1,401 百万円
- (3) 公演事業収入が、年度計画予算に対し 352 百万円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 劇場入場料収入の減 304 百万円
 - ・ 附帯事業収入の減 50 百万円
- (4) 事業費が、年度計画予算に対し 179 百万円増加した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 水道光熱費の増 198 百万円
- (5) 公演等事業費が、年度計画予算に対し 151 百万円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 出演費の減 137 百万円
 - ・ 舞台費の減 130 百万円
 - ・ 納付消費税の増 172 百万円
- (6) 基金助成事業費が、年度計画予算に対し 97 百万円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 業務委託費の減 65 百万円
 - ・ 助成費の減 11 百万円

[損益計算]

- ・ 有価証券の売却により発生した売却益により、2,772 百万円の収益の増となった。

2. 運営費交付金債務

令和5年3月31日現在における運営費交付金債務残高は0円である。

(単位：百万円)

期首残高 /当期交付額	当期振替額					引当金見返との 相殺額	期末残高
	運営費交付金 収益	運営費交付金 精算収益化額	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金		
11,600	10,746	84	241	2	0	526	0

3. 外部資金の獲得状況

区分	件数(件)	金額(千円)
文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入	3	36,649
助成調査研究への寄附	1	100,000
芸術文化振興基金に対する民間出せん金	31	601,204
文化芸術復興創造基金	55	1,343
国立劇場基金(くろごちゃんファンド)	889	11,700
養成研修事業クラウドファンディング	722	14,425
国庫財源以外による外部資金の獲得状況(小計)	1,701	765,321
コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金	3	83,661
文化芸術振興費補助金(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)	1	25,000
文化芸術振興費補助金(文化施設の活動継続・発展等支援事業)	6	4,511
国庫財源による外部資金の獲得状況(小計)	10	113,172
合計	1,711	878,493

- ・コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金
補助金を獲得し、公演の実施及び当該公演の海外向け動画の配信を行った。
- ・文化芸術振興費補助金(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)
補助金を獲得し、感染症対策を十分に実施したうえで、公演を実施した。
- ・文化芸術振興費補助金(文化施設の活動継続・発展支援事業)
補助金を獲得し、公演の実施に必要な感染症予防対策(消毒液・パーテーション・フェイスシールド・非接触体温計・サーモカメラ等の購入)を行った。
- ・クラウドファンディングによる伝承者養成事業への寄附募集活動「伝統芸能の明日をになう、国立劇場の研修生にご支援を！」を実施した。
◇ 募集期間：9/1～10/30
◇ 寄附実績：722件、14,425千円
◇ 第一目標であった3,000千円は9/3に達成し、その後設定したネクストゴール6,000千円についても9/11に達成した。

4. 目的積立金等の状況

(単位：百万円)

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
前期中期目標期間繰越積立金	570	570	570	570	570
目的積立金	0	0	0	0	0
積立金	0	0	0	0	0
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0	0	0	0	0
運営費交付金債務	5	104	84	84	0
当期の運営費交付金交付額 (a)	10,089	10,449	11,503	11,137	11,516
うち年度末残高 (b)	5	104	84	84	0
当期運営費交付金残存率 (b÷a)	0.05%	1.00%	0.73%	0.75%	0%

IVその他業務運営に関する重要事項

IVその他業務運営に関する重要事項	p.177
— 1 その他業務の運営に関する取組	p.181
— 2 施設及び設備に関する計画	p.183
— 3 人事に関する計画	p.186
— 4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項	p.188

IV その他業務運営に関する重要事項

《中期計画の概要》

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

1 内部統制

(1) 外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、振興会の目標等を踏まえ、組織、運営、事業などについて評価

振興会が行う自己点検評価、事業の実施結果に対する当該分野の外部専門家からの意見聴取等を踏まえ実施
評価結果の公表、評価結果の組織の改善・事業の見直し・事務の改善等への反映
業務運営の効率化・国民に対するサービスの向上等に努める

(2) 運営費交付金等を有効に活用、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、その結果を逐次
運営管理に反映させるなど内部統制の充実・強化

(3) 国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底
ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど、情報開示を推進

2 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ対策

「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」(令和3年12月24日デジタル大臣決定)にのっとり、情報システムの
適切な整備及び管理を行う

法令等に基づき適切に情報の開示を行う

政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進

3 施設及び設備に関する計画

施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上、バリアフリー化等のため、各劇場等施設
について長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について、「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づき、
振興会が実施主体となってPFI事業実施に向けた手続きを推進

事業推進にあたっては関係省庁の協力を得て事業実施に必要な体制の強化を図る

4 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、効果的な人事交流を実施

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る

① 職員に対する実務研修等の充実により、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行い、より効率的
な業務運営を図る

② 適切な労務管理の実施

③ 多様な働き方の検討

ウ 人材確保・育成方針を策定し、ア及びイの取組の向上を図る

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

(参考)

中期目標の期間中の人件費見込み 9,985百万円

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当及び超過勤務手当に相当する範囲の費用

5 中期目標の期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、振興会の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、
当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて実施

国立劇場再整備等事業

・事業費:事業契約後に記載

・事業期間:令和4年度～令和30年度(約26年間)

6 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、
その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次の必要な費用に充てる

- (1) やむを得ない事由により前中期目標期間中に完了しなかった業務
- (2) 芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務
- (3) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理
- (4) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

7 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

新国立劇場の管理運営については、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

なお、委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

《年度計画の概要》

IV その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 令和3年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を実施

自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を実施

評価結果は公表し、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る

法令遵守の周知徹底や役職員を対象としたコンプライアンス研修等を実施

ウ リスク管理委員会において、引き続き業務ごとに内在するリスクを把握するとともに、リスク顕在時における対応策を策定

エ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進
情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底

より効果的な情報発信に向けたホームページの改修について検討を進める

(2) 情報セキュリティ対策

ア 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、自己点検、システム監査を実施し、適切な情報セキュリティの確保を図る

イ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応

ウイルスや不正アクセス等の情報を収集、役職員に対して積極的に情報提供を行うとともに対応訓練や研修を実施、組織的対応能力の強化に取り組む

ウ 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群の改定に伴う、情報セキュリティポリシー及び実施手順等関係文書の改定等を実施

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止については、政府及び都道府県の要請等を踏まえ、必要に応じて専門家の意見を聴取することとし、観客、出演者・関係者及び役職員の安心・安全に配慮した適切な業務運営を実施

2 施設及び設備に関する計画

(1) 令和2年度に策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づき、施設・設備の状態を常に把握し、施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

施設・設備及び舞台設備の機能維持に必要なメンテナンスを実施

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備(以下「国立劇場等」という。)の再整備については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム(以下「PT」という。)により策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画」に沿い、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)に基づいて入札・契約手続きを進める

なお、国立劇場再整備に向けた検討については、PT、評議員会等の意見を踏まえながら、国立劇場再整備委員

会が中心となって実施

- (2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施

その際、国立劇場等については、今後の再整備計画との関連に留意

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る

- ① 各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る

- ② 適切な労務管理を実施するとともに、多様で柔軟な働き方を推進するための制度を検討・導入

ウ ア及びイの取組の向上を図るため、人材確保・育成方針を策定し、実施

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

自己評価	B
自己評価の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事長のリーダーシップの下に、新たな国立劇場が目指すもの、初代国立劇場・国立演芸場さよなら公演及び記念事業、再整備期間中の事業展開を「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」として策定し、今年度はさよなら公演とさよなら記念事業を実施した。 ・プロジェクトの推進に当たっては、新聞社との連携等により、国立劇場再整備等事業や初代国立劇場・国立演芸場の閉場を広く周知し、また、有料イベントや記念グッズの販売により自己収入の増加にも努めた。 ・コンプライアンス及び安全管理に関する取組の強化に努めた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	<p>1 その他業務の運営に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映した ・適切な情報セキュリティ対策を講じた。 ・ガイドライン・実施要領等に従って、新型コロナウイルス感染症に対する適切な対策を講じた上で、公演・展示等の各事業を実施した。 ・コンプライアンス及び安全管理に関する取組の強化に努めた。 <p>2 施設及び設備に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場再整備等事業について、入札者の辞退を受けて再度公告手続きを進めた。改めて「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（平成11年7月30日法律第117号）に基づき、特定事業の実施に関する方針の一部変更の見通しの公表、特定事業の実施に関する方針の一部変更、特定事業の選定及び客観的評価の結果の一部変更の公表を行い、令和5年2月3日に入札公告を実施した。 ・新たな国立劇場が目指すもの、初代国立劇場・国立演芸場さよなら公演及び記念事業、再整備期間中の事業展開を「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」として策定。今年度は初代国立劇場・国立演芸場さよなら記念事業を推進した。 ・プロジェクトの推進においては、新聞社との連携等により、国立劇場再整備等事業や初代国立劇場・国立演芸場の閉場を広く国民に周知した。 ・さよなら記念事業として、有料イベントである振興会では初めての「オープンシアター」の実施や記念グッズの販売などにより、自己収入の増加にも努めた。 ・再整備期間中の事業展開として、主催公演や養成研修等を継続して実施するために、地方公共団体や他の独立行政法人等との連携協定を締結し、代替施設の確保に努めた。 <p>3 人事に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な視点に立った職員人事全般に関する基本方針を策定した。 ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施。 ・法令遵守の徹底および職員の健康と安全を図るため、所属長による適切な労務管理のための研修を行った。 <p>4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営した。

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 自己点検評価、外部専門家等からの意見聴取

① 自己点検評価について

《3年度自己点検評価の経過》

4年2月～3月	各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
4年3月	各部において自己点検評価を実施
4年3月末～5月	財務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
4年5月11日	理事長により自己点検評価を決定
4年6月27日	評議員会において、3年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

② 外部専門家等からの意見聴取

名称	区分	日程	議題等
評議員会	第59回	6/27	令和3年度評価及び令和3年度決算についての審議、令和3年度評価結果についての報告、令和4年度計画実施状況の報告、第5期中期目標・計画についての審議、令和5年度計画についての審議、国立劇場再整備事業に係る審議等
	第60回	10/28	
	第61回	3/28	
評価委員会	令和3年度第2回	5/13	令和3年度評価の実施
	第3回	6/6	
	第4回	6/15	
	令和4年度第1回	10/5	令和4年度評価についての審議等
芸術文化振興基金 運営委員会	第60回	9/16	令和3年度評価の決定、令和5年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、令和5年度助成金の分野別配分予算案の決定、令和5年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等
	第61回	1/24	
	第62回	3/13	
公演専門委員会	歌舞伎公演専門委員会	7/11 ・3/22	令和4年度公演計画の説明・意見聴取等、令和4年度公演状況の報告、令和5年度公演計画の説明・意見聴取等
	文楽公演専門委員会(本館)	7/4 ・2/28	
	舞踊公演専門委員会	7/5 ・3/29	
	邦楽公演専門委員会	6/24 ・3/24	
	雅楽・声明公演専門委員会	7/6 ・3/17	
	民俗芸能公演専門委員会	7/4 ・3/30	
	大衆芸能公演専門委員会	6/20 ・3/29	
	能楽公演専門委員会	2/10・ 3月(書面)	
	文楽公演専門委員会(文楽劇場)	7月(書面) ・2/28	
	短期公演等専門委員会(文楽劇場)	7月(書面) ・3/3	
事業委員会	養成事業委員会	6/29 ・3/6	令和3年度評価結果の報告、令和4年度の事業実施状況、令和5年度事業計画についての意見聴取等
	調査事業委員会	7/11 ・3/9	
	養成事業委員会(おきなわ)	3/22	
	調査事業委員会(おきなわ)	3/29	
	公演事業委員会(おきなわ)	8/19 ・3/20	

イ 内部統制システムの充実、内部監査・監事監査に係る機能の充実・強化

① 内部統制システムの充実

(a) 役員会の開催

- ・役員会を毎月2回開催し、業務に係る重要事項を審議(開催回数：23回)
- ・中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告

(b) 情報伝達

- ・状況に応じた基本的な方針を理事長・理事による「理事懇談会」において随時協議し、①役員会、②担当役員から関係部署、③又は総務・人事労務担当課等からの連絡により、周知と意思疎通を図ってきた。
- ・全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を行った。
- ・部長会を開催し、各部相互における情報共有を行った(開催回数：9回)。
- ・事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。

(c) 内部統制委員会等の定期開催

- ・理事長、理事、内部統制推進総括責任者で構成する内部統制委員会を開催し、内部統制の整備に係る取組等を審議。(第1回：7/11～7/15(書面開催)、第2回：10/24～10/28(書面開催)、第3回：1/6～1/13(書面開催)、第4回：3/16)
 - ◇ 業務方法書第5章の規定に係る内部統制システムへの対応状況を確認。
 - ◇ 内部統制研修：常勤職員を対象に、書面による研修を実施(2/1～2/28)。

②監査

(a) 監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

《定期監査(令和3事業年度決算監査及び令和4事業年度業務監査)の経過》

4/4	令和4事業年度監査計画 理事長へ提出
6/14	監事と会計監査人とのディスカッション(令和3事業年度決算監査報告)
6/14	令和3事業年度監査報告 理事長へ提出 ※令和2年12月に国立劇場大劇場において発生した振興会職員の転落事故を教訓とし、今後も役職員一丸となって安全対策の徹底に取り組む必要がある旨を意見として記載した。
1/12	監事と会計監査人とのディスカッション(令和4事業年度監査計画説明)

(b) 内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

8/23	内部監査計画の作成及び監事への通知
9～2月	監査実施
2/6	監査報告書 理事長へ提出(2/6 監事にデータを送付) ※改善を要すると認められた点については、報告書に意見として記載した。 「就業、給与に係る規程と法令の整合等」について、優先的に対応措置が必要と認めた。 ※監査報告書を法人内に周知(2/16)

ウ リスク管理委員会

- ・リスク管理委員会を開催した(第1回：6/20～6/24(書面開催)、第2回：9/20～9/28(書面開催)、第3回：2/27～3/3(書面開催))。
 - ◇ 重点対応リスクに係る対応状況及び効果について自己評価を実施。
 - ◇ 業務フローを作成し、内在するリスクの洗い出し及び評価を実施。
 - ◇ リスク管理表を見直し。

エ 情報開示の推進

- ・公文書等の管理に関する法律(平成21年法律第66号)及び内規に基づいた適正な法人文書管理のため、各課における文書管理担当者の任命、標準文書保存期間基準の設定及び見直し、文書管理状況の点検を実施した。また、文書の廃棄や文書の保存期間の延長について、法律及び内規に則した適切かつ慎重な実施がなされるよう周知徹底を行った。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 適切な情報セキュリティの確保

- ・振興会 Web サイトへの攻撃を防ぐための Web アプリケーションファイアウォールについて設定を変更し、より広範囲の攻撃に対応できるようにした。
- ・ポリシーの理解増進及び意識向上を目的として、外部の e ラーニングシステムを活用した情報セキュリティ教育を全役職員(常勤及び非常勤)、アルバイト及び医師・看護師等利用者全員を対象に実施した。
- ・標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的に、訓練用の標的型攻撃メールの受信体験を通じて同攻撃への適切な対処を職員に身につけさせることを意図した「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施した。

- ・各職員(常勤及び非常勤)が情報セキュリティ対策を適切に実施しているかを確認するために自己点検を実施した。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター又は情報システム管理運用委託業者等から提供される脆弱性情報、ウイルス情報、不審メール情報等を振興会内電子掲示板に掲載し、重要性又は緊急性の高い情報については適宜全職員向けにメールで注意喚起を行った。また、年末年始等の長期休業期間における情報セキュリティ対策事項を適宜周知した。
- ・情報セキュリティポリシーに基づき、出演者管理システムを対象としてセキュリティ監査を行った。
- ・年末年始における情報セキュリティ対策事項を周知した(12/21)。

イ 脆弱性・ウイルス・不正アクセスへの対応

- ・振興会ホームページについて第三者機関によるセキュリティ診断を実施し、発見された脆弱性への対応を講じた。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター等から公表されるソフトウェアの脆弱性情報に対して、随時振興会内の全情報システムを調査し、必要な対策を行った。
- ・全職員に対しウイルス情報、不審メール情報等を電子掲示板やメール等で随時周知した。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

- ・ガイドライン・実施要領等に従って、公演・展示等の各事業を実施した。
- ・公演の実施に際しては、事前に出演者・スタッフ等にPCR検査を実施するなどの対策を講じた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインの改訂に伴い、感染症の拡大以降は販売を取り止めていた座席を販売したり、ロビーでの飲食を可能にしたりするなど、防止対策を緩和する一方、防止対策のため、各劇場・展示室等では引き続き、掲示・場内アナウンス等による注意喚起、消毒液の設置、職員等のマスク着用、換気の強化等の取組を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策への取組・お客様へのお願いについて、振興会ホームページに掲載し、周知を図った。ガイドラインの改訂後は内容の一部を変更し、周知を図った。
- ・新型コロナウイルスの感染症の拡大防止のため中止とした公演について、チケット代金の払戻しを行った。また、陽性者や濃厚接触者となるなど新型コロナウイルス感染症を理由として観劇を取り止めた購入者に対してチケット代金の払戻しを行った。

(4) コンプライアンス・安全管理に関する取組

- ・前年度から引き続き、コンプライアンス及び安全管理に関する取組の強化に努めた。
- ・法令遵守を前提とした業務の実施に資するため、4月に法務・コンプライアンス室を設置し、併せて各職域の担当者が個別に法務相談ができる、法律顧問による法務相談窓口を開設した。
- ・施設管理及び舞台技術関係職員を対象とする「安全衛生コンプライアンス研修」を開催した(12/15、参加者数71名)
- ・「労務コンプライアンス研修」を開催した。
 - ◇ 役員及び部長・副部長対象(8/10、参加者21名)
 - ◇ 課長及び勤務時間管理員対象(12/22、参加者数89名)
- ・令和4年12月を劇場安全強化月間に設定し、劇場施設の安全強化を目的とする各種取組を実施した。主な取組は以下のとおり。
 - ◇ 国立文楽劇場安全診断(3/22)
 - ◇ 国立能楽堂安全診断(11/7)
 - ◇ 国立演芸場及び国立劇場本館観客関係施設安全診断(11/29)
 - ◇ 国立劇場大劇場における自衛消防訓練(12/2)
 - ◇ 劇場安全強化月間ニュースを全役職員向けに配信(12/1・7・14・21・28・1/31)
 - ◇ 安全診断講評会(1/24・3/15)
- ・このほか、安全に関する外部研修の受講を推進し、職員の安全意識向上を図った。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 年度計画に沿った整備の推進、国立劇場等の再整備

ア 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づく整備

- ・本館等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、再整備までの期間、劇場運営において安全性を確保

するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。

《施設整備費補助金による施設・設備の整備等》

国立劇場再整備等事業に係るアドバイザー業務等	80,971 千円
国立能楽堂防災設備改修工事	79,860 千円
国立文楽劇場舞台運営監視装置設備整備	63,415 千円
国立劇場おきなわ冷却塔更新工事	57,750 千円
新国立劇場(オペラ劇場、中劇場)舞台照明設備(2Kwプロファイルスポット)部品交換工事(※右記の金額のうち6,624千円は運営費交付金財源)	48,400 千円
新国立劇場(中劇場)舞台機構設備整備工事	148,500 千円
新国立劇場(オペラ劇場)音響調整卓更新工事	79,750 千円
新国立劇場(小劇場)舞台機構設備整備工事	30,360 千円
新国立劇場(オペラ劇場)舞台機構設備整備工事	225,610 千円
新国立劇場(オペラ劇場)舞台照明操作卓整備工事	50,050 千円

イ 国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について

- 国立劇場再整備等事業のPFI事業手続きにおける入札公告、事業者選定、事業契約等を行うため、香山・山下PMC設計共同体に技術アドバイザー業務を委託した(4/8契約、履行期間はR5.3/31まで)。
- 国立劇場再整備等事業のPFI事業手続きにおける入札公告、事業者選定、事業契約等を行うため、PwCアドバイザー合同会社に総合的なアドバイザー業務を委託した(4/8契約、R5.3/31まで)。
- 「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)」に基づき、特定事業として選定した「国立劇場再整備等事業」を実施する民間事業者を募集するため、入札公告及び入札説明書等を公表した(4/12)。
- 国立劇場再整備等事業について、第一次審査資料の作成に関する質問への回答を公表した(5/16)。
- 国立劇場再整備等事業について、第一次審査結果を応募者に通知した(6/21)。
- 国立劇場再整備等事業について、第一次審査資料の作成以外に関する質問への回答を公表した(6/30)。
- 国立劇場再整備等事業について、事業提案書作成説明会を開催した(7/26・27)。
- 国立劇場再整備等事業について、第3回質問への回答(入札説明書及び第2回質問回答に関する質問に対する回答)を公表した(8/29)。
- 国立劇場再整備等事業について、実演家団体等へ進捗状況の説明を行った(8月)。
- 国立劇場再整備等事業におけるPFI事業者選定手続きに関して、4/12に入札公告を行い、事業者の公募を行っていたが、すべての応募者から本事業に対する辞退届の提出を受けたことから、事業者の選定に至らなかったこと、再度の入札公告に向けた検討を行うことについて振興会ホームページで公表した(11/15)。
- 国立劇場再整備等事業について、実施方針の一部変更の見通しを振興会ホームページで公表した(12/6)。
- 国立劇場再整備に関するプロジェクトチームにおいて「国立劇場の再整備に係る整備計画」が一部改定された(12/19)。
- 国立劇場再整備等事業について、実施方針の一部変更を振興会ホームページで公表した(12/20)。
- PFI法第7条の規定により特定事業「国立劇場再整備等事業」を選定していたが、事業内容を一部変更したため、同法第11条第1項の規定による客観的評価の結果を一部変更した(1/20)。
- 改めて、国立劇場再整備等事業の入札公告を実施した(2/3)。

(2) 未来へつなぐ国立劇場プロジェクトの推進

- 新たな国立劇場を目指すもの、初代国立劇場・国立演芸場さよなら公演及び記念事業、再整備期間中の事業展開を「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」として策定。記者会見を実施して、発表した(6/17。参加17社)。
- 未来へつなぐ国立劇場プロジェクト等に関して外部機関との連携協力による広報、集客に資する事業その他の事業について部署横断的な取り組みを行うため、企画広報連携チームが発足した(7/1)。

■初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら記念事業

- 「初代国立劇場さよなら公演」「初代国立演芸場さよなら公演」
 - ◇ 国立劇場・国立演芸場で9月から「さよなら公演」を実施した。

- ◇ 企画広報連携チームと読売新聞「紡ぐプロジェクト」との提携により、初代国立劇場さよなら公演関連として、毎月第1日曜日発行の「紡ぐプロジェクト」特集紙面の企画・取材に協力した。
 - 尾上菊五郎インタビュー特集記事・竹本葵太夫取材(10/2)
 - 井上八千代インタビュー特集記事・山村友五郎取材(11/6)
 - 中村時蔵取材(1/8)
 - 桐竹勘十郎取材(R5. 4/2)
- ・ 初代国立劇場・演芸場さよなら記念「あなたの＜思い出＞大募集」
 - ◇ お客様から初代国立劇場・演芸場の思い出を募集した(応募件数 エッセイ部門：54 件、写真部門：17 件)。
 - ◇ 「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」特設サイト内に「国立劇場の『記憶』」ページを作成し、お客様から寄せられたエッセイや写真の掲載を開始した(11/21)。
 - ◇ 大劇場ロビーに紹介パネルを設置し、お客様からのエッセイや写真の掲載を開始した(1/3)。
- ・ 「国立劇場オープンシアター」(大劇場で実施)
 - ◇ 第1回(12/11・12)
 - 「ロビー見学」：劇場で初めて導入した音声ガイドアプリによる施設の紹介(販売実績:1,191 枚)
 - 「ステージツアー」：舞台機構を体感(販売実績：238 枚)
 - 「平櫛田中＝作『鏡獅子』レクチャー&デモンストレーション」：1階ロビーに設置されている彫像「鏡獅子」の作者・平櫛田中の生誕150年にちなんだ講演(協力：小平市平櫛田中彫刻美術館、講師：平櫛弘子館長、藤井明学芸員)と長唄・囃子「春興鏡獅子」の演奏デモンストレーション(長唄：杵屋巳太郎社中、囃子：田中傳左衛門社中)を実施(販売実績：158 枚)
 - 平櫛田中の出身地・岡山県井原市のマスコットキャラクター「でんちゅうくん」が来場。国立劇場のマスコットキャラクター「くろごちゃん」も登場。
 - ◇ 第2回：「春のオープンシアター」3/28・31(次年度の4/3・18・19・20にも実施)
 - 「ロビー見学」：音声ガイドアプリを利用した施設の紹介・小学生以下は無料(販売実績：76 枚(3/28・31のみ))
- ・ 初代国立劇場さよなら記念グッズの販売(5年1月～10月)
 - ◇ 愛蔵版歌舞伎名ぜりふかるた、特別クラフトビール、チケットホルダー、ポストカード、まめぐい等
 - ◇ 銀座蔦屋書店において「初代国立劇場さよなら記念フェア」を開催し、記念グッズを販売。
 - ◇ 「初代国立劇場さよなら記念フェア」に関連してトークイベントを実施(全4回中4年度は1回実施)。
 - 第1回「歌舞伎俳優 坂東亀蔵と国立劇場」(1/18、リアル参加:40名、オンライン参加:33名)
- ・ 「未来へつなぐ浮世絵プロジェクト 初代国立劇場×山口晃」
 - ◇ 初代国立劇場をモチーフとした浮世絵(木版画)を新たに製作するプロジェクト

■ 地方公共団体、他の独立行政法人等との連携協定

- ・ 独立行政法人国立青少年教育振興機構(以下、青少年機構)
 - ◇ 国立劇場再整備期間中の伝統芸能伝承者養成事業の研修実施会場として国立オリンピック記念青少年総合センターを使用するため、相互連携協定を締結した(4/21 締結式実施)。
 - ◇ 青少年機構が主催する「春のキッズフェスタ」に参加した(5/28 実施)。
 - ◇ 青少年機構が文部科学省から委託されている「日独勤労青年交流事業」における施設訪問に協力した(11/24 実施)。
- ・ 足立区
 - ◇ 国立劇場再整備期間中の文楽公演の一部を区の施設である文化芸術劇場(シアター1010)において行うため、連携協力協定を締結した(6/25 締結式実施)。
- ・ 荒川区及び荒川区民会館指定管理者
 - ◇ 国立劇場再整備期間中の歌舞伎公演の一部を区の施設である荒川区民会館(サンパール荒川)において行うため、連携協力協定を締結した(10/19 締結)。
- ・ 渋谷区
 - ◇ 国立劇場再整備期間中の及び演芸公演の一部を区の施設である渋谷区文化総合センター大和田伝承ホール及びさくらホールにおいて行うため、連携協力に関する覚書を締結した(12/28 締結)。
- ・ 千代田区

- ◇ 国立劇場再整備期間中の演芸公演の一部を区の施設である千代田区立内幸町ホールにおいて行うため、連携協力協定を締結した(1/30 締結)。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施

- ・ 令和4年度は、新規採用の事務職員、非常勤嘱託からの採用試験を経た舞台技術職員、58歳以上を対象とした高齢者雇用制度による職員及び任期付きの職員を採用した。
- ・ 国の機関、国立大学法人及び地方自治体等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- ・ 国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

受入		派遣	
国の機関及び国立大学法人からの出向者	20人	国の機関への実務研修者	3人
独立行政法人国立文化財機構からの出向者	2人	国の機関への職員の出向	4人
公益財団法人さいたま市文化振興事業団からの出向者	1人	国立劇場おきなわ運営財団への職員派遣	1人
公益財団法人可児市文化芸術振興財団からの出向者	1人	新国立劇場運営財団への職員派遣	3人
北九州市からの実務研修者	1人		
一般財団法人建築コスト管理システム研究所	1人		

イ 事務能率の維持、増進

① 各種研修の実施、外部研修への職員の派遣

(a) 各種研修の実施

令和4年度の研修の実施にあたっては、主に階層別の研修について、令和3年度において各研修の内容と対象年次を中心に整理し見直しを行ったことを踏まえ、新型コロナウイルス感染拡大状況に注意を払いつつ、順次、着実に実施した。令和3年度の冬季に新規感染者数増加により中止又は延期とした参集型の研修についても、令和4年度において実施した。また、令和3年度以前からeラーニングにおいて実施し、成果が上がった研修については、引き続きeラーニングでの実施とした。

《研修実績》

研修名	実施日	参加者数
新入職員研修	4/1~4/7	5名
若手職員フォローアップ研修	5/24・31	20名
接遇研修	5/30	12名
管理職研修	6/14・20	23名
リーダーシップ研修	2/24、2/28	21名
部長業務研修(1年次職員)	10/11、10/19、11/2	5名
課長業務研修(1~3年次職員)	1/18・1/30・2/6・2/15・2/27	34名
公演業務研修(3年次職員)	10月~3月	14名
公演業務研修(2年次職員)	9月~3月	15名
公演業務研修(1年次職員)	6月~1月	5名
営業業務研修(1~3年次職員)	12月~3月	49名
パソコン研修(eラーニング講座)(1・2年次職員)	11月~1月	20名
経理関係業務研修	11/1~11/30	200名
ハラスメント防止研修	6/20~7/31	495名
ハラスメント相談員研修	6/15~7/31	14名
メンター制度の実施	6/21~3/31	15名
安全衛生コンプライアンス研修 ※	12/15	71名
労務コンプライアンス研修(役員及び部長・副部長)※	8/10	21名
労務コンプライアンス研修(課長及び勤務時間管理員)※	12/22	89名

※印の研修については、当日欠席者は後日オンライン受講

(b) 外部研修への職員の派遣

《外部研修実績》

研修名	実施日	参加者数
第 51 回会計事務職員契約管理研修	5/18～6/16	1 名
公文書管理研修 I (独法等向け第1回)	5/19	1 名
令和4年度「公募型」養成課程(第三級陸上特殊無線技士)	5/25	3 名
令和4年度(初級)知的財産権研修(第1回)	6/7～6/9	1 名
情報公開・個人情報保護・公文書管理制度の運用に関する研修会	7/11	1 名
給与実務研修会(諸手当関係)	7/26	1 名
PCB に汚染された電気機器等の調査方法及び適正処理に関する説明会	8/2	1 名
ドーナツ・プロジェクト連続講座	8/4・29・30、9/8	1 名
大学図書館員のための IT 総合研修	8/24～8/26	1 名
給与実務研修会(人事院勧告)	8/24、8/29	2 名
データ活用セミナー	8/29	1 名
勤務時間・休暇制度実務研修会	9/6	1 名
職場リーダー向けリスクアセスメント研修	9/9・10/14・12/13	7 名
非常勤職員制度実務研修会	9/9	1 名
令和 4 年度文部科学省文教団体共同職員研修会	9/15～9/16	4 名
第 60 回政府関係法人会計事務職員研修	10/4～11/17	2 名
助成実務セミナー	10/5・12・19・26	18 名
防火・防災管理講習	10/8～10/9	1 名
情報システム統一研修(令和 4 年度第 3 四半期)	10/12～12/23	1 名
足場の組立て等作業従事者特別教育	10/12	1 名
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	10/13	3 名
令和 4 年度文部科学省文教団体共同職員研修会	10/19～10/20	2 名
給与実務研修会(俸給決定及び支給関係)	10/21	1 名
苦情相談実務研修会	10/28	1 名
危険予知訓練(KYT)研修会	10/26・11/22・11/29・12/19・2/28	7 名
第 41 回政府出資法人等内部監査業務講習会	11/7～11/10	1 名
令和 4 年度図書館等職員著作権実務講習会	11 月～12 月	5 名
服務・懲戒・分限制度実務研修会	11/15	1 名
消費税中央セミナー	11/22	2 名
地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会	12/15	1 名
女性活躍推進セミナー	12/15～12/22	1 名
令和 4 年度 CSIRT 研修講義②	12/23	2 名
全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会	1/17～2/28	19 名
令和 4 年度 CSIRT 研修 講義③	1/30	2 名
育児休業制度等実務研修会	2/3	1 名
令和 4 年度関東地区評価・監査セミナー	2/13～2/28	1 名
給与実務実例研修会(諸手当関係)	2/28	1 名
劇場・音楽堂等における適正な契約に基づく事業実施のための研修会	3/1	3 名
観劇サポート講座(視覚障害者お迎え編)	3/7	1 名

② 適切な労務管理、多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入

(a) 適切な労務管理

(1) 労務コンプライアンス研修の実施

- ・ 法令遵守の徹底および職員の健康と安全を図るため、労務コンプライアンス研修を対象者を分けて 2 回実施した。
 - ◇ 役員及び部長・副部長対象(8/10、参加者 21 名)
 - ◇ 課長及び勤務時間管理員対象(12/22、参加者数 89 名)

- (2) 勤怠管理システムの非常勤職員への導入
- 平成 31 年 4 月 1 日より管理監督者も含め、全ての労働者の労働時間の状況を客観的な方法その他適切な方法で把握することが義務付けられた。令和 4 年 1 月から常勤職員を対象に運用を開始し、非常勤職員についても令和 5 年 1 月から本格運用を開始し、全職員のシステムによる勤怠管理を行っている。
- (3) ハラスメント防止への取組
- ハラスメント防止研修 6/20～7/31(参加者：495 名)
- (4) メンタル不全対策の実施
- 新卒採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した(6/21～3/31)。メンターである職員は、メンター研修により、メンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。
 - 産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、長時間労働者と産業医との面談等の相談業務を実施した。
 - 引き続き、メンタルヘルスに関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、連携を密にとりながら電話・メール・面談等により、プライバシーの保護に配慮しつつ、職員が気軽に相談できる環境を整えた。
 - ストレスチェックを実施した(10/14～10/28、368 名)。
 - 特定の年次の若手・中堅職員に対してメンタルヘルスカウンセリングを実施し、メンタルヘルスの維持・向上を図った(10/11・10/12・10/20・11/11・11/18、26 名)。
- (5) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う事業活動の継続の状況に応じ、勤務体制の特別措置として、在宅勤務の実施、時差出勤の奨励、平日が勤務日の職員を対象とした土日祝日への振替出勤の奨励、臨時休校の影響を受ける職員のための特例等を継続した。

(b) 多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入

- 前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための特別措置として、在宅勤務の実施、時差出勤の奨励、平日が勤務日の職員を対象とした土日祝日への振替出勤の奨励、臨時休校の影響を受ける職員のための特例等を実施した。
- 令和 4 年 10 月に改正された育児休業法に対応し、出生時育児休業の創設と育児休業の分割取得が可能となるよう令和 4 年 10 月に規程改正を行い、男性職員の育児休業の取得の促進を図った。

ウ 人材確保・育成方針の策定、実施

- 以下の取組の向上を図るため、人材確保・育成方針を策定した。
 - ◇ 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成すること。
 - ◇ 各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理実施すること。
 - ◇ 国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図ること、多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討すること。

(2) 人員に係る指標

- 引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(令和 3 年度ベース)。
- 人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

(1) 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

ア 委託契約の状況

4/11 付けで、4/1～3/31 の組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について 647,482 千円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、2/27 付けで 674,712 千円に変更した。委託費の確定額は 674,712 千円である。

イ 委託内容

①組踊等沖縄伝統芸能の公演

- ②組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③組踊等沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を組踊等沖縄伝統芸能の保存又は振興を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥前各号の業務に附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託に関係する規程の改正等を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的な提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

カ 効率化状況等

① 委託費の推移

(単位：千円)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
金額	664,059	690,828	679,753	676,604	674,712
前年度比	101.2%	104.0%	98.4%	99.5%	99.7%

② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

入場料収入については、公演回数や開演時間などを適切に設定し、計画に沿った収入の確保に努めている。また、劇場施設の利用について積極的な広報やサービス向上に努め、利用料の増収による収支構造の改善を図っている。

③ 効率化に関する取組

(a) 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

《使用量・処理量》

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	1,994,105 kwh	+8.4%
	ガス使用量	30,381 m ³	+31.5%
	水道使用量	2,089 m ³	+41.8%
廃棄物	一般廃棄物	790 kg	△ 39.2%
	産業廃棄物	1,661 kg	+98.7%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	567,431 枚	+10.1%
	用紙購入枚数	456,000 枚	△ 10.1%

※前年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止があったため、使用量が例年より少なくなっていたが、当年度は概ね計画どおりに公演を実施したため、前年度と比較すると増加した。廃棄物については、処理量の削減に努めた。

《電気・ガス料金》

区分	料金	対前年度増減額	対前年度増減率
電気料金	54,210 千円	+7,681 千円	+16.5%
ガス料金	4,762 千円	+1,415 千円	+42.3%
合計	58,972 千円	+9,096 千円	+18.2%

(c) 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

(2) 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

ア 委託契約の状況

4/20付けで4/1～3/31の現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について4,004,416千円を限度として締結。その後、3/2付けで業務委託契約の限度額を4,421,219千円に変更した。委託費の確定額は4,421,219千円である。

イ 委託内容

- ①現代舞台芸術の公演
- ②現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 給与水準の適正化等

- ・新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

カ 情報開示の推進

公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

キ 効率化状況等

① 委託費の推移

(単位：千円)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
金額	4,107,897	4,061,155	4,440,663	4,446,986	4,421,219
前年度比	97.1%	98.9%	109.3%	100.1%	99.4%

② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

公演事業にかかる支出は入場料収入、寄附金・協賛金収入等で賄っているところであり、それぞれ計画に沿った収入の確保に努めている。入場料収入については公演回数、曜日、開演時間などを適切に設定し、公演内容の

充実と効果的な広報宣伝のもと増収を図っている。また賛助会員や協賛企業の獲得に努め、オンライン寄附など多角的な資金獲得に力を入れている。

③ 効率化に関する取組

(a) 随意契約の見直し及び外部委託の推進

令和4年度の外部委託契約54件のうち、委託業務36件（うち複数年契約28件）、物品の製造販売工事等5件、売払い1件の合計42件について一般競争入札等を行っている。このうち、業務の効率化を目的として日本芸術文化振興会と共同で入札を行った契約が2件あり、各1件担当している。令和4年度に行った入札及び公募は19件（うち複数年契約9件）であり、このうち翌年度以降の契約のものが16件となっている。新規では、不要となった消耗品の売払いを1件随意契約事前確認公募にて行っている。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

《使用量・処理量》

事 項	区 分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	6,068,863 kwh	△ 2.1%
	ガス使用量	325 m ³	△ 12.4%
	水道使用量	11,168 m ³	+9.9%
廃棄物	一般廃棄物	26,594 kg	+10.2%
	再利用廃棄物	16,606 kg	+4.0%
	産業廃棄物	18,431 kg	+10.7%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	1,879,385 枚	△ 17.5%
	用紙購入枚数	1,844,500 枚	△ 21.4%

※電気使用量については各所の節電により前年度比2.1%の削減を行った。

※地球温暖化対策においても、省エネルギー対策を実施し、光熱水量については、大きなウェイトを占める地域冷熱(冷水、蒸気)を含め、使用量の節減に努めた。

《電気・ガス料金》

区 分	料 金	対前年度増減額	対前年度増減率
電気料金	184,705 千円	+82,465 千円	+80.7%
ガス料金	68 千円	+8 千円	+12.4%
合 計	184,774 千円	+82,472 千円	+80.6%

(c) 情報システムの活用

- ・電子承認のツールを導入し、紙ベースで運用していた一部の申請業務がデジタル化された。
- ・劇場外部における情報システム利用する場合の制約をなくすために、劇場内で使用している PC で劇場外部から各種情報システムに安全にリモートアクセスできる環境を整備し、在宅勤務、営業先、出張先等における業務の効率化に繋がっている。
- ・昨年度から引き続き、導入済みのクラウドサービスの利用促進により、財団内部における同時編集、ファイル共有、意見収集等の効率化を図った。共有したデータを会議資料としても活用するなど利用が進み、業務の効率化・紙使用量の縮減にも繋がっている。
- ・昨年度から引き続き、劇場関係者の体調管理や感染状況を迅速に把握するために、緊急時対応のメールツールの使用を、役職員だけでなく、出演者やスタッフに拡大して運用している。
- ・昨年度から引き続き、感染症対策を目的として、稽古映像の関係者への配信やラインアップ発表会のマスコミ向け配信を実施し、また理事会・評議員会等の会議をオンライン開催するなど、接触機会の低減を図りつつ関係者が必要な映像を視聴できる取組を行った。

令和4事業年度評価報告書

第20期（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

令和5年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

本報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項第 1 条及び評議員会規則第 1 条第 2 項に基づき、令和 5 年 6 月 28 日に開催された第 62 回評議員会に報告され、審議の結果、適切であると認められ、承認されたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会

独立行政法人日本芸術文化振興会
令和4事業年度評価報告書

令和5年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

はじめに

本評価委員会は、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則第 8 条の規定に基づき、振興会の業務の運営に関する評価を行うため設置されたものである。

このたび、理事長の諮問を受け、令和 4 事業年度の業務の実績に関して、厳正かつ客観的な評価を行った。

評価は、前年度に引き続き、振興会が実施した当該年度に係る自己点検評価報告書をもとに、まず各委員が評価意見書の提出を行い、次に振興会からの説明を聴取しながら、合議により最終的な評価を行った。

本評価委員会は、評価結果について、原則として年度計画に定められた項目ごとに取りまとめ、評価報告書として提出するものである。

評価においては、振興会の業務運営をより良いものとするための意見を付しており、次年度以降の各事業の充実及び発展に活用されることを期待する。

評価実施の経緯

第 1 回評価委員会	令和 4 年 10 月 5 日
第 2 回評価委員会	令和 5 年 5 月 12 日
第 3 回評価委員会	令和 5 年 6 月 12 日
第 4 回評価委員会	令和 5 年 6 月 19 日

令和 4 事業年度評価報告 (日本芸術文化振興会評価委員会)

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 概観

○新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の拡大の中で、会計調査、公演等調査及び応募相談の件数が数値目標を大きく上回り、全て達成率が120%を超えた。特に応募相談の件数については前年度の2倍以上になった。オンラインや電話などの利用を積極的に行ったことが相談者のニーズに合致したものと考えられる。採択団体との意見交換会は、今後の業務内容、手続きなどの改善に活かす機会ともなっており、公正な助成事業の継続に資する活動として評価する。

○芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成金交付事業に加えて、文化芸術復興創造基金への寄附金を原資とした助成事業を積極的に展開できた。

○次年度より文化庁から移管される助成事業について準備を進めるとともに、補正予算により交付されたアートキャラバン2について募集・採択を行った。

○寄附金や運営費交付金による調査研究を積極的に進め、なかでも「文化芸術活動に係る評価手法に関する実態調査」は文化芸術活動に対する援助を行う振興会にとって必要不可欠な調査で、この成果をホームページで公開したことは評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○文化庁管轄の助成事業が令和 5 年度から新たに振興会に移管されて助成事業が拡大しており、更なる事務作業の効率化が必要となるだろう。

○助成金交付希望者への応募相談に関して、感染症の位置付けが 5 類へと変わった中で、オンライン等の利用だけでなく対面での相談の再開を進められたい。

○寄附金については、寄附者が直接意義を感じられる仕組みを作り、柔軟に援助できる資金を確保してもらいたい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○会計調査、公演等調査及び応募相談の件数が数値目標を大きく上回るとともに、年度計画に定められた基金・補助金以外の外部資金による助成金交付の募集、

文化庁からの事業移管に向けた準備、助成成果に対する調査とその結果公開が進展しており、評定としてはAが適切と判断できる。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2-〈1〉 伝統芸能の公開

(1) 概観

《全般》

○初代国立劇場さよなら公演・初代国立演芸場さよなら公演と銘打ったシリーズ展開が効果的に行われ、初代国立劇場・初代国立演芸場を惜しみつつ新劇場への機運醸成が図られた。

○歌舞伎と落語、雅楽と琉球御座楽、絵解きと能楽、鉄道唱歌と邦楽など、異なる分野あるいは関連分野の伝統芸能を組み合わせた公演が多く実現された。単独の分野での公演とは異なる伝統芸能の魅力が引き出され、振興会ならではの取組が重ねられている。

○映像配信では、感染症の流行により来場が困難な方や海外の方を含め10万8千名を超える視聴があり、我が国の伝統芸能をより広く伝えることにつなげた。

《歌舞伎》

○感染症の制約のある中で、通し狂言の形態での上演や上演されることの稀な場面を取り上げるなど、国立劇場ならではの取組が持続できた。また、「“歌舞伎&落語 コラボ忠臣蔵”」のような新たな試みも実現できた。

○開演前の出演俳優によるナレーションと錦絵などの投影による作品紹介は、歌舞伎を見慣れない新たな観客の理解を助ける良い工夫であった。

《文楽》

○三部制公演が定着する中で多彩な上演形態の工夫が行われ、「競伊勢物語」のように上演機会の少ない作品の上演、「碁太平記白石噺」の通し上演、「本朝廿四孝」の半通しなど、振興会ならではの企画を継続することができた。また、若手・中堅が活躍できる場が増え、技芸の著しい成長を認めることができた。「切語り」に3名が同時に昇格し、大いに活躍したことも特筆すべきである。

《舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか》

○舞踊では流派を越えた当代一流の舞踊家の出演、邦楽では「日本音楽の流れⅤ」、時代別の「邦楽名曲選」Ⅰ～Ⅲ、雅楽公演の「宮廷の響き 雅楽と琉球御座楽」というように、伝統芸能の継承と発展という振興会の目的に即した企画が実現されている。感染症で公演が行いにくくなっていた民俗芸能や公演機会が少ない琉球歌劇の上演も、国立劇場ならではの取組である。

《大衆芸能》

○国立名人会や特別企画の「正蔵 正蔵を語る」「年の瀬に新作を聴く会」「圓朝に挑む！」など、特色ある企画で観客を楽しませ、定席では、人間国宝神田松鯉と弟子の神田伯山の共演などが話題となった。

《能楽》

○定例公演、普及公演、企画公演を着実に実施することができ、「月間特集千利休生誕 500 年」、企画公演「聖徳太子 1400 年遠忌によせて」、「能を再発見する」シリーズでの「賀茂物狂」の復曲など、高い企画力が評価できる。

《組踊等沖縄伝統芸能》

○多彩な沖縄伝統芸能の魅力発信と継承・向上が、今年度も着実に図られている。なかでも人間国宝として認定された二人の舞踊公演、創作舞踊大賞受賞作と新作組踊戯曲大賞受賞作の上演、沖縄県の本土復帰 50 周年・組踊の重要無形文化財指定 50 年を記念した「朝薫五番とからくり花火」などは、注目度が高かった公演で、国立劇場おきなわならではの企画である。また、研究公演による沖縄伝統芸能の拡充、歴史的理解や芸術性の向上などが図られている。

《演目の拡充》

○各分野で復曲や新作、上演機会の少ない場面など、演目のレパートリーを広げる取組が積極的に行われており、伝統芸能の多様性と可能性を模索し続けている。

《青少年等を対象とした公演》

○青少年や社会人・親子等を対象とした公演や外国人向け公演では、出演者による解説、観客層に即した上演演目や場面の選択、パンフレット配布などに加え、映像や小道具の説明を交えるといった工夫があり、長年の経験を基に、充実した企画となっている。また、公演に合わせたワークショップなどを実施し、企画意

図の理解向上も図られている。

《伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

○国、地方公共団体、芸術団体、教育機関、企業などとの連携協力を推進・強化した。また、国立劇場等の再整備期間中の上演場所を確保するために地方公共団体との連携協定の締結を進めた。

○外部資金を活用して、舞台映像の配信にも取り組み、伝統芸能の魅力を幅広く発信した。

《快適な観劇環境の形成》

○劇場での季節感の創出に加え、公演内容と結びついたグッズ・食品や初代国立劇場さよなら記念グッズの製作と販売など、観劇・鑑賞の楽しさを増す取組を進めた。また、国立能楽堂で行われた能「松虫」に因む専門家のトークイベント「能「松虫」と秋に鳴く虫」は、国立能楽堂ならではの企画である。

《広報・営業活動の充実》

○各劇場とも印刷物、インターネット、SNS など、多様なメディアを活用した広報に取り組んでいる。特にホームページへのアクセス件数は前年度に比べて振興会が 32 万件、国立劇場おきなわが 20 万件増加している。SNS を利用した広報の充実としては、公演内容を紹介するダイジェスト映像を公開するなど、国立の劇場を身近なものにしている。

○さよなら公演、さよなら記念事業の実施に当たっては、新聞社との連携などにより閉場を周知し、公演の広報につなげた。

○国立演芸場の Twitter アカウントが開設され、表示回数が 3 万 5 千回を超える投稿もあるなど、国立演芸場の公演を若年層を含めた演芸ファンへ広く発信できた。

○営業活動では、学校団体への積極的な働きかけが来場者数の増加につながっている。また、劇場周辺地域や演目に関連する諸団体への公演周知や割引措置などによる集客の工夫が図られている。

《劇場施設の使用効率の向上等》

○劇場舞台の使用率は前年度と同程度の約 78% である。国立劇場おきなわは大劇場・小劇場の稼働率が低くなっているが、稽古室の稼働率は 8 割弱となっており、施設の使用効率は高い。

○感染症による貸劇場利用者の自粛が続いたと思われるが、ダイレクトメールなどによって劇場施設の稼働率向上への取組が続いている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○アンケート調査は今後の事業改善に向けた貴重なデータとなるので、前年度に引き続き回収率を高められたい。ウェブアンケートは、手配りの場合より回収数が低い傾向にあり、工夫が必要である。

○感染症の影響で劇場から足が遠のいた観客も多く、更に再整備期間中は公演ごとに劇場が代わるなど、これまでとは状況が異なるので、公演の周知を含め、より強い情報発信が望まれる。過去の公演映像を公演宣伝用に活用するなど、ホームページや SNS による情報発信をより一層強化してほしい。

○再整備期間中の主催公演はもちろん、感染症の影響により疲弊している貸劇場利用者の活動状況にも注視してほしい。

○配信期間の再検討など有料コンテンツの再生回数を増やしていく方策の検討が必要と思われる。

(3) 自己点検評価に対する意見

○感染症の影響が残る中でも、伝統芸能の継承と振興は着実に図られていると判断できる。異なる分野あるいは関連する分野の伝統芸能を組み合わせた公演など、振興会ならではの取組が進んでおり、評定としては B が適切と判断できる。

2-〈2〉 現代舞台芸術の公演

(1) 概観

《全般》

○感染症の影響がある中でも愛好者のニーズと合致するなどし、全体として入場者数は数値目標を上回った。

○海外劇場との共同制作など、新国立劇場の企画力を示す公演が実現されている。また、ワークショップの実施など、劇場間の国際的な交流も進んでいる。

《オペラ》

○「オルフェオとエウリディーチェ」など4作品を新制作上演し、レパートリーの充実が図られている。また、「ペレアスとメリザンド」「ボリス・ゴドゥノフ」

など、海外との共同新制作が実現されている。

○新国立劇場オペラ部門が 2022 年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞 オペラ・オーケストラ部門を受賞したことは、優れた上演内容としての外部評価である。

《バレエ》

○ほぼ全ての公演で数値目標を超える入場者数を達成したことは、吉田都芸術監督の下、新国立劇場バレエ団の更なるレベルの向上によるものといえる。

○年末年始の「くるみ割り人形」が独立行政法人化以降のバレエ公演で最高の入場者数を達成したのは、企画が多く観客の要望と合致したと評価できる。

《現代舞踊》

○特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な作品を上演し、現代舞踊の振興普及を図ることができた。「DANCE to the Future」はダンサーの育成や固定的なファンの増加に向けた公演となっている。

《演劇》

○アニー・ベイカー、ケネス・ロナーガンら現代劇作家の新作を上演するなど、演劇界の振興に寄与した。

○フランスからの招聘公演「ガラスの動物園」の他にも、イギリスのロイヤルコート劇場との協力・共催による公演がロンドンで実現できたことで、現代演劇の国際化が進展したと評価できる。

《青少年等を対象とした公演》

○「こどものためのバレエ劇場 2022 『ペンギン・カフェ』」は、専門家による上演演目のテーマ（環境問題、動物の絶滅問題）に関する解説後に上演を行うなど、企画上の工夫を行い、子供たちの作品に対する興味や理解の促進につなげた。

《現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

○全国各地の文化施設等における公演や新国立劇場合唱団の外部出演公演など、地域との連携強化による現代舞台芸術の普及が進展したと評価できる。中国・台湾・韓国・イギリスなど海外劇場との交流も進んでいる。

○国際的なレピュテーションの確立を目指して、海外劇場との共同制作やアーティストの活動環境整備など、舞台芸術グローバル拠点事業を推進している。

《快適な観劇環境の形成》

○高齢者、障害者、外国人に向けた様々な取組がなされた。取組内容は音声同時解説、字幕表示、多言語化、公演内容についての事前説明の実施と、幅広くきめ細やかに対応している点を評価する。

○感染症の影響下にあって飲食エリアを設け、安全性と快適性を両立させた。

《広報・営業活動の充実》

○新国立劇場クラブ・ジ・アトレの会員が前年度から約 300 名増加した 1 万 2 千名弱となり、固定ファンの着実な増加が認められる。オペラ劇場で会員向けのイベントを開催するほか、各種サービスの充実が図られている。

《劇場施設の使用効率の向上等》

○各施設の利用を促進するために、ホームページ、パンフレット、ダイレクトメール、貸劇場利用希望者への説明・見学会などを実施し、貸劇場利用者にはアンケート調査なども積極的に行い、劇場使用効率の向上が図られている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○新国立劇場の広報・営業では、芸術監督が新聞やテレビなどのメディアに取り上げられ注目を集めているが、新国立劇場の特徴や魅力の発信を更に強化する戦略的な広報・営業の検討も必要である。

(3) 自己点検評価に対する意見

○入場者数は数値目標を全体として上回り、バレエ公演では独立行政法人化以後、最高の入場者数を達成した公演もあり、劇場の企画・公演内容が概ね的確で、評定としては B が適切と判断できる。

2-〈3〉 日本博の運営・実施

(1) 概観

○主催・共催型プロジェクト、イノベーション型プロジェクトの実施、参画プロジェクトの認証を推進し、戦略的にプロジェクトを展開・継承できた点を評価する。

○「日本博 2.0」への移行に伴い、スキームの抜本的な見直しを実施し、公募と採択などが行われた。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○「日本博」で得た知見やノウハウを活かし、「日本博 2.0」に向けて、従来の文化プログラムから文化資源の支援へと移行する中で、日本の伝統芸能・文化を国内外に発信する施策と方法を更に検討し、国民的理解を高めてほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○限定された期間に集中的に一定の成果を上げ、多様なプロジェクトを推進できたこと、諸機関、メディアと連携する運営方法を蓄積できたことなどから、評定としてはBが適切と判断できる。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

3-(1) 伝統芸能の伝承者の養成

(1) 概観

○伝統芸能の各分野の養成事業を横断的に所管する機関として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」の運用体制を整えたことは、将来の伝承者確保と技芸向上を期待できる点で高く評価できる。

○再整備期間中の養成研修の代替施設確保は必須事項であり、独立行政法人国立青少年教育振興機構との相互連携協定の締結は養成事業の理解拡大にも有効な成果である。

○当初の計画にはなかったクラウドファンディングが話題となり、目標額の4倍を超える寄附金を集めた。これは財源の確保だけでなく、養成事業についての周知がよりできたと判断できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」の設置を踏まえ、研修生募集等の再検証を行い、実効性を高めてほしい。中等・高等教育機関の部活動など伝統芸能の実技習得・実演を行う課外教育活動や、各地の民俗芸能としての子供歌舞伎などへの更なる積極的な広報、応募呼びかけが必要である。また、募集の広報だけでなく、長期的な施策として青少年機構との協定を活用した取組、学校教育教材に伝統芸能を入れるような取組も検討してほしい。

○養成所の説明会・見学会だけでなく、各地での名作上演など質の高い公演の呼

びかけを積極的に行うとともに、再整備期間中には地方でも青少年を対象とした公演や普及事業などの実施も検討してほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○養成研修や研修発表会が着実に行われているだけでなく、養成所の設置、寄附による外部資金獲得、再整備期間中の代替施設確保など、今後の伝承者養成に係る制度と体制の整備が大きく進展しているが、研修生を確保するための具体的な方策について長期的な展望が必要であり、評定としては B が適切と判断できる。

3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 概観

○オペラ研修、バレエ研修、演劇研修とも人気が高く、応募者も多い。修了後も新国立劇場以外にも多くの劇場で活躍している。

○オペラ研修とバレエ研修では ANA スカラシップによる海外研修が再開でき、演劇研修では ANA 協賛の国内研修事業の支援が進展し、研修の充実が図られている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○優れた人材の確保のためにはスカラシップのような研修制度の充実は必須である。寄附金なども含めた民間資金による研修支援の拡充やそれ以外の留学制度など、研修の拡大に向けた取組を期待したい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○研修と研修発表会はほぼ計画通り実行され、研修修了者の主催公演への出演も進んでいる。また、民間企業による研修支援も成果を上げており、評定としては B が適切と判断できる。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

4-(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

○地道な調査研究と資料収集、刊行、展示公開など、幅広く、しかも専門性の高い内容が維持でき、その成果を文化資源として公開・活用することが進展している。

○文化デジタルライブラリーの 139 万件に及ぶアクセス数は画期的であり、これは伝統芸能に関する知識と情報を得る国内で最大のウェブサイトとして評価できる。

○資料展示はテーマ選び、構成、パネル解説など、小規模ながらも適切な内容となっており、美術専門誌・ウェブサイトなどでも取り上げられた。また、「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」「柴田是真と能楽」などの図録はその内容が高く評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○再整備に当たり、伝統芸能情報館での展示事業の代替の一つとして、他の博物館などとの共催・協力による展示活動も進めてほしい。また、再整備期間中はウェブ上での広報・情報発信が重要となる。振興会ホームページが持つ伝統芸能情報のプラットフォーム機能の強化を図ってほしい。

○振興会の調査研究は長期的に見て重要である。再整備期間中も着実に取り組んでほしい。

○調査研究の成果は、書籍の刊行だけではなくウェブ公開も進んでいる。海外からのアクセスに対応するために、公開する資料タイトルの外国語表記など、国際化対応も進めてほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○伝統芸能の多様性と独自性を明らかにするために学術的、専門的な資料調査を行い、その成果を理解しやすい形で国民に公開できており、評定としてはAが適切と判断できる。

4-(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

○ギャラリープロジェクトは演劇制作の現場や舞台の周辺を様々な切り口で掘り下げた内容で、初心者に関心も引き、オンラインで自宅からでも気軽に参加できる機会を提供したといえる。視聴回数が 14 件で 3 万回を超えた点も評価する。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 上演記録の調査や資料収集の対象を海外にも広げて、グローバルな視点から現代舞台芸術の組織的な研究体制が構築されることを期待する。
- 感染症の制約の中でオンラインで講座を実施しているが、オンラインの利点を生かしつつ、今後は参加者が実際の劇場にも興味を持ち、足を運ぶようなオンラインとインリーチの循環を生む工夫をされたい。
- 初台アート・ロフトは、衣裳や舞台装置をパネルの解説や写真とともに展示しており、情報量は決して少なくないが、その情報を整理するなど、効果的な展示に向けた検討の余地がある。

(3) 自己点検評価に対する意見

- 感染症による規制がある中で事業が着実に遂行され、また、ギャラリープロジェクトによる現代舞台芸術に関する魅力発信は、観劇の補完を越えた役割を果たしていると判断でき、評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 概観

- 電気・ガス料金の高騰に対応した省エネルギー推進の取組、電子決裁の導入・在宅勤務の実施などによるコピー用紙使用枚数の削減、他法人との共同調達など、効率化が着実に遂行されている。
- クラウド PBX 及びスマートフォンの導入など、国立劇場再整備に伴う情報システムなどの整備が進んでいる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 劇場運営において観劇環境を充実させつつ業務負担を減らせるように、情報システムの更なる活用など DX 化を進め、全国の劇場が参考にできるような手本となってほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- 効率化に向けた取組は成果が出ており、また、情報システムの整備など再整備に向けた対応が着実に進んでいる。評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

(1) 概観

○感染症の断続的な影響により劇場入場料収入が年度計画予算に対して減少し、加えて水道光熱費の高騰など、予測不能な事象により支出が増加したが、寄附金や補助金など外部資金の積極的な獲得、公演費などの節減により収支差の改善が図られている。

○外部資金調達策として新たにクラウドファンディングによる伝承者養成事業への寄附募集を実施し、その目標を達成している。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○水道光熱費の高騰や再整備期間中の代替施設での主催公演に必要な会場使用料も考慮に入れ、観客のニーズも踏まえて入場料金を見直すなど、公演収支の改善を図ってほしい。

○寄附金など外部資金の積極的な導入により更なる収支の改善に努めてもらいたい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○感染症や水道光熱費の高騰など、外的な不安定要素がある中での工夫が認められ、評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅳ その他業務運営に関する重要事項

(1) 概観

○理事長のリーダーシップの下に策定された新たな国立劇場が目指す「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」は、新聞などのメディアでも取り上げられ注目された。また、さよなら公演と記念事業は国立劇場・国立演芸場等への関心を大きく高め、有料オープンシアターや記念グッズ販売で収益を上げている。

○前年度から引き続き、コンプライアンス及び安全管理に関する取組を強化した点も評価したい。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○国立劇場再整備等事業の入札は再度の公告になったが、提示した国立の劇場としてふさわしい姿を確認しつつ、それを失うことがない事業展開を期待した

い。

(3) 自己点検評価に対する意見

○国立劇場の未来像の策定、再整備期間中の公演、伝承者養成などについて安定的な事業運営を可能とする体制が整えられた点については高く評価できる。一方で、重要案件の国立劇場再整備等事業は様々な困難を解決するための取組がなされているが、本事業については評価報告書作成時において事業者選定に至っていないことも踏まえて、評定としてはBが適切と判断できる。

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会 委員名簿

(任期：令和4年7月1日～令和5年6月30日)

委員長 小川直之（國學院大學大学院客員教授・名誉教授）

委員長代理 山田和人（同志社大学名誉教授）

委員 大久保充代（八尾市文化会館（プリズムホール）館長）

委員 小玉祥子（演劇ライター）

委員 桜井多佳子（舞踊評論）

委員 氷川まりこ（伝統文化ジャーナリスト）

委員 古谷伸太郎（公認会計士）

独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則

平成15年10月31日

改正 平成21年 3月27日

評議員会決定

第1章 審議事項

第1条 評議員会は独立行政法人日本芸術文化振興会法第12条の規定に基づき理事長の諮問に応じ、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する重要事項を審議する。

2 前項の審議事項には、振興会の業務の運営に関する評価を含むものとする。

第2章 議事

第2条 評議員会に議長を置き、評議員の互選で定める。

第3条 議長は、会議の議事を整理する。

第4条 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した評議員が議長の職務を代理する。

第5条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第6条 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第7条 評議員会に出席することのできない評議員は、書面をもって票決をなし、又は他の評議員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第3章 評価委員会

第8条 第1条第2項に定める評価を行うため、評議員会に評価委員会を置く。

2 評価委員会の人数及び任期等は理事長が定める。

第4章 規則の改正

第9条 この規則を改正等しようとするときは、評議員会において評議員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第10条 評議員会の事務は、総務企画部総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成15年10月31日から施行する。

附 則（平成21年3月27日評議員会決定）

この規則は、平成21年3月27日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項

平成15年10月31日
改正 平成16年 4月 1日
改正 平成17年 3月16日
改正 平成20年 6月19日
改正 平成21年 4月 1日
改正 令和 4年 4月 1日

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定

第1条 評議員会に置かれる評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する評価を行い、その結果を評議員会に報告する。

第2条 評価委員会は、9人以内の評価委員（以下「委員」という。）で組織する。

第3条 委員は、振興会の業務の運営に関する評価に必要な学識経験を有する者のうちから、理事長が任命する。

第4条 委員の任期は、1年とし、7月1日に委嘱することを常例とする。ただし、欠員の補充による委員の任期は、現任者の残任期間とする。

2 委員は再任を妨げない。

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選で定める。

第6条 委員長は、会議の議事を整理する。

第7条 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が委員長の職務を代理する。

第8条 評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第9条 評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第10条 評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第11条 評価委員会の事務は、財務企画部計画課において処理する。

附 則

1 この要項は、平成15年10月31日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年9月30日までとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年3月31日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成17年3月31日から施行する。

附 則（平成20年6月21日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

1 この要項は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要項による改正後最初に再任される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年6月30日までとする。

附 則（平成21年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（令和4年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

独立行政法人日本芸術文化振興会

令和4事業年度 業務実績報告書

令和5年6月28日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：財務企画部 計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号

TEL：03-3265-7411（代表） / FAX：03-3265-8782

<https://www.ntj.jac.go.jp/>